

千葉東南部ニュータウン39

—千葉市太田法師遺跡1（旧石器時代）—

平成20年3月

独立行政法人 都市再生機構

財団法人 千葉県教育振興財団

千葉東南部ニュータウン39

—ちば　おおたほうし—
—千葉市太田法師遺跡1（旧石器時代）—



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第600集として、独立行政法人都市再生機構の千葉東南部地区土地区画整理事業に伴って実施した千葉市太田法師遺跡（旧石器時代）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器集中地点が21か所検出され、数多くの石器がまとまって出土し、この地域の旧石器時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行にあたり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成20年3月

財団法人 千葉県教育振興財団
理 事 長 福 島 義 弘

凡　　例

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社による千葉東南部地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録しているのは、千葉市緑区おゆみ野南6丁目12番地他（旧千葉市大金沢町545他）に所在する太田法師遺跡（遺跡コード 201-080）のうち、旧石器時代の資料である。縄文時代以降の資料については、『千葉東南部ニュータウン23』に収録している。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財團が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、第1章に記載した。
- 5 本書の執筆・編集は、主席研究員兼副所長 岡田誠造が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社、千葉市教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図（第2図）は、国土地理院発行 1:25,000 「蘇我」平成10年10月1日発行である。
- 8 本書で使用した周辺航空写真は、図版1が京葉測量株式会社が昭和42年に、図版2が国土地理院が平成18年に撮影したものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。座標系は、日本測地系を使用した。
- 10 本書の遺構及び遺物の縮尺は、以下を基準とするが、作図の都合で統一されなかったものもある。
　　旧石器時代ブロック 1/80 石器 2/3 石器写真 単体 1/2 接合個体 2/3
- 11 石材の母岩識別ができた石材については石材名の後に番号（例 黒曜石5）を付して説明したが、母岩識別ができないものについては石材名のみの表記とした。
- 12 石器の部位の名称については、楔形石器・二次加工剥片・微細剥離剥片・剥片については上部を基部、下部を端部とし、これらを除く石器（ナイフ形石器など）については上部を先端部、下部を基部とした。

本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 遺跡の位置と周辺の遺跡.....	2
1. 遺跡の位置.....	2
2. 周辺の遺跡.....	4
第3節 調査の方法と経過.....	6
第2章 旧石器時代.....	9
第1節 調査の概要.....	9
第2節 基本土層.....	10
第3節 石器群の分布と出土遺物.....	11
1. 第1文化層 第1ブロックから第7ブロック.....	11
2. 第2文化層 第8ブロックから第20ブロック.....	36
3. 第3文化層 第21ブロック.....	115
4. 上層出土石器.....	117
第3章 まとめ.....	118
報告書抄録.....	卷末

挿図目次

第1図 太田法師遺跡周辺の地形 (1/5,000)	3	第13図 第4ブロック器種別分布 (2)	18
第2図 千葉東南部地区の遺跡分布図 (1/25,000)	5	第14図 第4ブロック母岩別分布.....	19
第3図 太田法師遺跡年度別調査区及びグリッド配置図 (1/5,000)	6	第15図 第4ブロック出土石器 (1)	20
第4図 グリッド分割図.....	6	第16図 第4ブロック出土石器 (2)	21
第5図 太田法師遺跡調査概要図 (1/2,000)	9	第17図 第4ブロック出土石器 (3)	22
第6図 基本土層図.....	10	第18図 第4ブロック出土石器 (4)	23
第7図 第1ブロック遺物分布.....	12	第19図 第4ブロック出土石器 (5)	24
第8図 第1ブロック出土石器.....	13	第20図 第4ブロック出土石器 (6)	25
第9図 第2ブロック遺物分布・出土石器.....	14	第21図 第4ブロック出土石器 (7)	26
第10図 第3ブロック遺物分布.....	15	第22図 第4ブロック出土石器 (8)	27
第11図 第3ブロック出土石器.....	16	第23図 第4ブロック出土石器 (9)	28
第12図 第4ブロック器種別分布 (1)	17	第24図 第4ブロック出土石器 (10)	29
		第25図 第4ブロック出土石器 (11)	30
		第26図 第4ブロック出土石器 (12)	31

第27図	第5ブロック遺物分布	33	第62図	第11ブロック出土石器（2）	74
第28図	第5ブロック出土石器	34	第63図	第11ブロック出土石器（3）	75
第29図	第6ブロック遺物分布・出土石器	35	第64図	第12ブロック遺物分布	79
第30図	第7ブロック遺物分布・出土石器	36	第65図	第12ブロック出土石器（1）	80
第31図	第8ブロック遺物分布	37	第66図	第12ブロック出土石器（2）	81
第32図	第8ブロック器種別分布（1）	38	第67図	第12ブロック出土石器（3）	82
第33図	第8ブロック器種別分布（2）	39	第68図	第12ブロック出土石器（4）	83
第34図	第8ブロック母岩別分布（1）	40	第69図	第13ブロック遺物分布・出土石器	84
第35図	第8ブロック母岩別分布（2）	41	第70図	第14ブロック遺物分布	86
第36図	第8ブロック母岩別分布（3）	42	第71図	第14ブロック出土石器（1）	87
第37図	第8ブロック母岩別分布（4）	43	第72図	第14ブロック出土石器（2）	88
第38図	第8ブロック出土石器（1）	44	第73図	第14ブロック出土石器（3）	89
第39図	第8ブロック出土石器（2）	47	第74図	第14ブロック出土石器（4）	90
第40図	第8ブロック出土石器（3）	48	第75図	第15ブロック母岩別分布	91
第41図	第8ブロック出土石器（4）	49	第76図	第15ブロック器種別分布	92
第42図	第8ブロック出土石器（5）	50	第77図	第15ブロック出土石器（1）	94
第43図	第8ブロック出土石器（6）	51	第78図	第15ブロック出土石器（2）	95
第44図	第8ブロック出土石器（7）	52	第79図	第16ブロック遺物分布	98
第45図	第8ブロック出土石器（8）	53	第80図	第16ブロック出土石器（1）	99
第46図	第8ブロック出土石器（9）	54	第81図	第16ブロック出土石器（2）	100
第47図	第8ブロック出土石器（10）	55	第82図	第16ブロック出土石器（3）	101
第48図	第8ブロック出土石器（11）	56	第83図	第16ブロック出土石器（4）	102
第49図	第8ブロック出土石器（12）	57	第84図	第17ブロック出土石器	103
第50図	第8ブロック出土石器（13）	58	第85図	第17ブロック遺物分布	104
第51図	第8ブロック出土石器（14）	59	第86図	第18ブロック遺物分布	106
第52図	第8ブロック出土石器（15）	60	第87図	第19ブロック器種別分布	108
第53図	第8ブロック出土石器（16）	61	第88図	第19ブロック母岩別分布	109
第54図	第9ブロック器種別分布	66	第89図	第19ブロック出土石器（1）	110
第55図	第9ブロック母岩別分布	67	第90図	第19ブロック出土石器（2）	111
第56図	第9ブロック出土石器	68	第91図	第19ブロック出土石器（3）	112
第57図	第10ブロック遺物分布	69	第92図	第19ブロック出土石器（4）	114
第58図	第10ブロック出土石器	70	第93図	第20ブロック遺物分布・出土石器	115
第59図	第11ブロック器種別分布	71	第94図	第21ブロック遺物分布	116
第60図	第11ブロック母岩別分布	72	第95図	上層出土石器	117
第61図	第11ブロック出土石器（1）	73			

表 目 次

第1表 第1ブロック出土石器組成表	11	第12表 第12ブロック出土石器組成表	78
第2表 第2ブロック出土石器組成表	14	第13表 第13ブロック出土石器組成表	84
第3表 第3ブロック出土石器組成表	16	第14表 第14ブロック出土石器組成表	85
第4表 第4ブロック出土石器組成表	29	第15表 第15ブロック出土石器組成表	93
第5表 第5ブロック出土石器組成表	33	第16表 第16ブロック出土石器組成表	97
第6表 第6ブロック出土石器組成表	35	第17表 第17ブロック出土石器組成表	105
第7表 第7ブロック出土石器組成表	35	第18表 第18ブロック出土石器組成表	105
第8表 第8ブロック出土石器組成表	63	第19表 第19ブロック出土石器組成表	113
第9表 第9ブロック出土石器組成表	67	第20表 第20ブロック出土石器組成表	113
第10表 第10ブロック出土石器組成表	70	第21表 第21ブロック出土石器組成表	116
第11表 第11ブロック出土石器組成表	76	第22表 上層出土石器組成表	117

図 版 目 次

図版1 遺跡周辺航空写真（昭和42年撮影）	図版14 第8ブロック出土石器（3）
図版2 遺跡周辺航空写真（平成18年撮影）	図版15 第8ブロック出土石器（4）
図版3 第1～3ブロック	図版16 第8ブロック出土石器（5）
図版4 第4～6ブロック	図版17 第8ブロック出土石器（6）
図版5 第8～10ブロック	図版18 第9～11ブロック出土石器
図版6 第11～13ブロック	図版19 第12、13ブロック出土石器
図版7 第19、21ブロック	図版20 第9、11、12ブロック出土石器
図版8 第1～3、5～7ブロック出土石器	図版21 第14～16ブロック出土石器（1）
図版9 第4ブロック出土石器（1）	図版22 第14～16ブロック出土石器（2）
図版10 第4ブロック出土石器（2）	図版23 第14～16ブロック出土石器（3）
図版11 第4ブロック出土石器（3）	図版24 第19ブロック出土石器
図版12 第8ブロック出土石器（1）	図版25 第17、19、20ブロック出土石器
図版13 第8ブロック出土石器（2）	図版26 出土礫

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

独立行政法人都市再生機構は、首都圏の人口増加に対応するため、千葉東南部地区土地区画整理事業として大規模な宅地造成を計画した。このため、千葉県教育委員会では昭和46年に実施した事業地内の遺跡分布調査の結果に基づき、所在する埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議を重ねてきた。その結果、可能な限り公園や緑地として現状保存をはかる一方、やむを得ず現状保存が困難な遺跡については記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県教育振興財団が独立行政法人都市再生機構から委託を受け、発掘調査を実施してきた。

今回報告する太田法師遺跡（総面積37,000m²）は、記録保存の措置を講ずることで協議が整い、当財団が昭和63年度、平成元年・2年度の3次にわたって発掘調査を実施した遺跡である。調査の結果、旧石器時代の石器集中地点をはじめ、縄文時代の炉穴・陥穴、古墳時代の竪穴住居跡・方墳、奈良・平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡や製鉄関連遺構など多くの遺構・遺物を検出した。

発掘調査の終了後、平成3年度に水洗・注記の一部を行い、平成17年度からは本格的な整理作業を開始し、平成19年度をもって旧石器時代（下層）の報告書刊行の運びとなった。なお、縄文時代以降の資料については、すでに『千葉東南部ニュータウン23』として平成12年度に報告書を刊行している。旧石器時代（下層）の発掘調査及び整理作業の各年度の実施期間、組織及び作業内容は下記のとおりである。

発掘調査

昭和63年度

期 間 昭和63年12月5日から平成元年3月31日
組 織 調査部長 堀部昭夫
班 長 佐久間 豊 担当職員 主任調査研究員 鈴木康夫 調査研究員 大谷弘幸
内 容 下層対象面積6,800m² 確認調査 下層272m²

平成元年度

期 間 平成元年4月1日から平成2年3月30日
組 織 調査部長 堀部昭夫
班 長 大原正義 担当職員 主任技師 森本和男 萩原恭一 技師 出口雅人
内 容 下層対象面積20,200m² 確認調査 下層1,048m²、本調査 下層2,418m²

平成2年度

期 間 平成2年4月2日から平成2年9月12日
組 織 調査部長 堀部昭夫
班 長 三浦和信 担当職員 主任技師 森本和男 土屋潤一郎 技師 大石理子 福田明美
内 容 下層対象面積10,000m² 確認調査 下層304m²、本調査 下層0m²

整理作業

平成3年度

期 間 平成3年4月1日から平成4年3月31日

組 織	調査部長 天野 努
	班 長 三浦和信
内 容	水洗・注記
平成18年度	
期 間	平成18年10月2日から平成18年12月28日
組 織	調査研究部長 矢戸三男 中央調査事務所長 西川博孝 担当職員 主席研究員 関口達彦 上席研究員 西野雅人
内 容	実測からトレース
平成19年度	
期 間	平成19年11月1日から平成20年3月31日
組 織	調査研究部長 矢戸三男 中央調査事務所長 折原 繁 担当職員 主席研究員兼副所長 岡田誠造 上席研究員 西野雅人
内 容	挿図・図版作成から報告書刊行

第2節 遺跡の位置と周辺の遺跡

1. 遺跡の位置（第1図）

太田法師遺跡は、千葉市緑区おゆみ野南6丁目12番地他に所在する。

緑区は千葉市の東南部に位置し、南は村田川を境として市原市と接し、JR外房線や千葉東金道路、千葉外房有料道路などが通っている。本遺跡の所在する千葉東南部地区は、JR外房線鎌取駅の南側に広がり、現在も「おゆみ野」として新しい街づくりが展開されている地域である。

千葉市は千葉県の北東部に位置し、東京湾を西に臨み、内陸には房総半島の北部一帯を占める広大な下総台地が展開している。この台地は無数の小支谷によって開析され、東京湾岸には海岸平野、三角州などの沖積低地が形成されている。千葉東南部地区は、千葉市と市原市の境を流れ東京湾に流入する村田川の下流域右岸に位置し、台地はこの村田川に注ぎ込む支谷によって樹枝状に複雑に開析されている。

太田法師遺跡は、このような支谷の一つである大金沢支谷と、大金沢支谷から分岐して北へ深く浸入する坂崎谷津に開析された、大金沢支谷の最奥部に近い台地上に位置している。この台地の北東側は平坦な台地が広がり、広さは東西350m・南北400mである。台地の南西側では、西側の坂崎谷津から入り込む小規模な谷津と、南側の大金沢支谷から浸入した小支谷により、幅が15mと尾根状に急に狭くなっている箇所がある。この部分を境に遺跡は大きく東西に二分される。東側は南北に延び比較的平坦な台地も広がっているが、西側は大金沢支谷に張り出すような形で、平坦面が狭く起伏のある地形が形成されている。標高は、東側の平坦面で50mであるが、西側では37m～43mと次第に低くなっている。周辺の支谷との比高は、西側で約20m、東側では約29mである。大金沢支谷の最奥部の台地上には、大膳野北貝塚・南貝塚、バクチ穴遺跡が、坂崎谷津を挟んだ西側の台地上にはムコアラク遺跡が、それぞれ位置している。



第1図 太田法師遺跡周辺の地形 (1/5,000)

2. 周辺の遺跡（第2図）

千葉東南部地区内の遺跡の多くは、旧石器時代から中・近世までの遺構・遺物を複合的に伴っており、特定の時期に限られた単純な遺跡はきわめて少ない。なかでも、縄文時代の大型貝塚や古墳時代後期の集落跡や古墳群、奈良・平安時代の集落跡などが密集しているのが特徴的である。

旧石器時代の遺物は、地区内で調査されたほとんどの遺跡から出土例が見られる。

X層から出土したと断定できないが、高沢遺跡（3）ではIX層下部からX層上部で楔形石器、刃部磨製石斧に關係すると思われる剥片を利用した加工痕のある剥片、小型の剥片類による小規模なブロックが検出されている。石器に使用された石材は半数が良質の黒曜石（信州産か）で、このほか玉髓、凝灰岩、頁岩がある。白鳥台遺跡（34）では安山岩製の楔形石器、剥片類では軟質砂岩製の石斧用の砥石を伴っている。城ノ台遺跡（15）では安山岩製の楔形石器を中心とする石器群が出土している。鎌取遺跡（8）では安山岩による台形石器を主体とする環状ブロック群と考えられる石器群と、頁岩製の中規模の石刃石器群が地点を違えて出土している。また、小金沢貝塚（29）、馬ノ口遺跡（14）でも台形石器を含む石器群が出土している。有吉城跡（11）では石斧が数点出土しているが、頻繁な刃部再生の後に楔形石器や石核に転用されている。六通金山遺跡（32）でも刃部磨製石斧が出土している。神明社裏遺跡（27）では第2黒色帯下半部の上層を中心とした石器群を主体に6枚の文化層から37か所のブロックが検出され、刃部磨製石斧や刃部磨製石斧の調整剥片などが出土している。

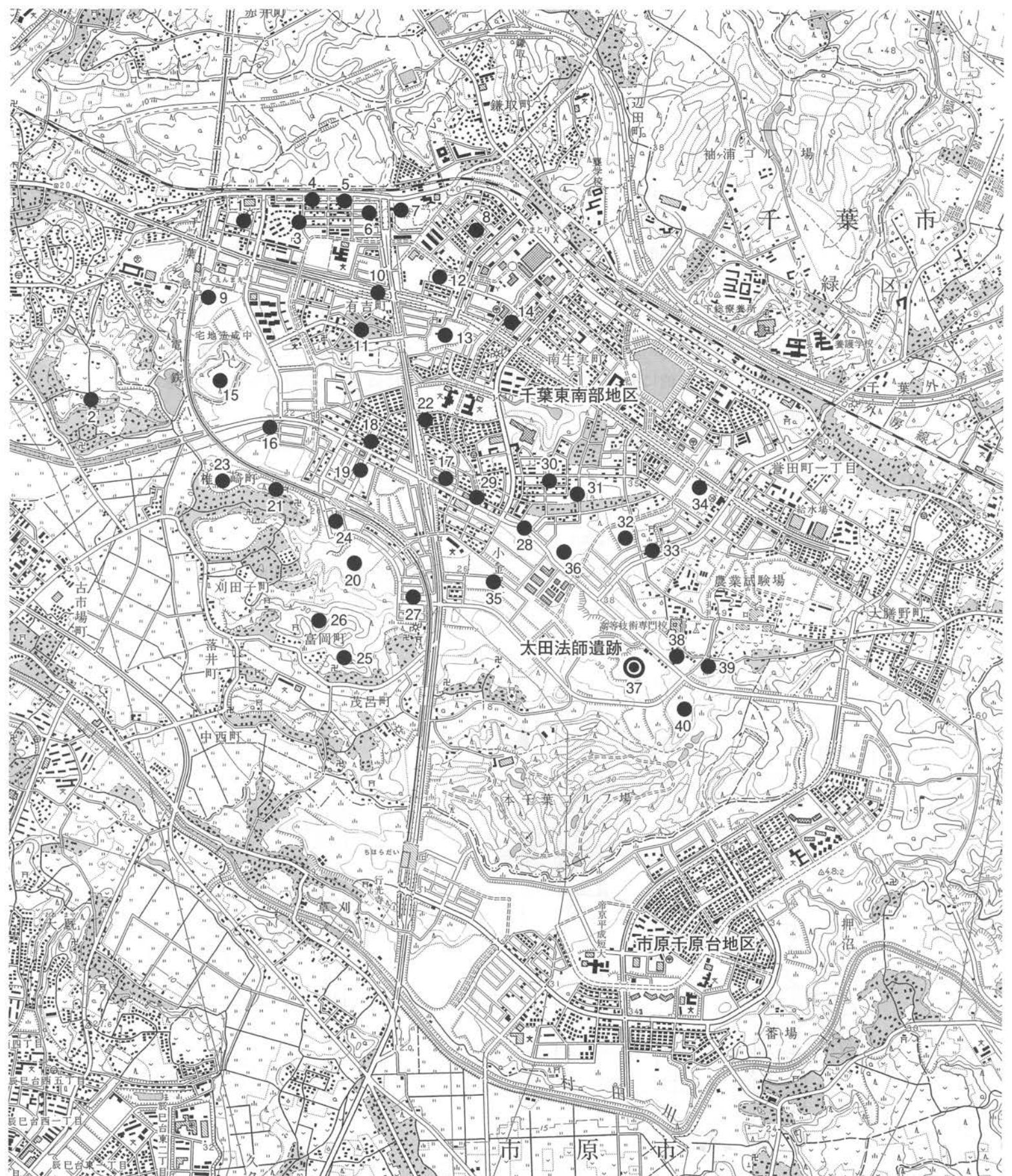
IV層からV層で出土した資料では、太田法師遺跡（37）とは大金沢支谷から分岐した谷を隔てて東側に隣接するバクチ穴遺跡（40）が挙げられる。バクチ穴遺跡では高原山産と考えられる黒曜石や珪質頁岩を中心とした切出形のナイフ形石器、角錐状石器、搔器などが出土した。そのような石器組成は鎌取遺跡（8）、小金沢古墳群（28）、有吉遺跡（1）などで出土している。小金沢古墳群（28）、鎌取場台遺跡（7）では礫群も見られた。

III層で出土した資料には、有吉遺跡（1）の第4次調査で旧石器時代終末期に帰属する細身の木葉形をした槍先形石器を伴うブロックがある。同時期の資料は小金沢古墳群（28）からも出土しており、槍先形石器を製作したブロックとして注目される。ムコアラク遺跡（36）では、樋状剥離をもつ槍先形石器が出土している。

細石刃石器群の出土例は乏しいが、春日作遺跡（26）からは嶺岡産珪質頁岩と信州産黒曜石による細石刃石器群がある。細石刃核は検出されていない。また、椎名崎古墳群B支群（19）では古墳の墳丘下から黒曜石による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。六通神社南遺跡（33）では土器出現期に帰属すると考えられる大型の槍先形石器がまとまって出土しており、石器石材の原産地の分析によると奈良県二上山のサヌカイトや岐阜県の下呂石が含まれている。

東南部地区の南東側には、ちはら台ニュータウン事業地区を中心に旧石器時代の石器群が確認されている。草刈遺跡、草刈六之台遺跡、ナキノ台遺跡などが挙げられる。

草刈遺跡では、武藏野ローム層XI層から立川ローム層のIII層にかけて7枚の文化層が確認された。草刈遺跡の武藏野ローム層XI層から立川ローム層X層最下部にかけて出土した石器は、県内最古の石器群である。X層から出土した石器群には、嶺岡産珪質頁岩の台形石器や楔形石器などに石斧が伴っている。VI層からVII層上部にかけて出土した石器群は、東北産頁岩による石刃石器群、東北産と推定される頁岩と信州産黒曜石による石刃石器群及び不定型な剥片石器群、房総半島南部産と推定される石材による不定型な剥



- 1 有吉遺跡 2 古城・小弓遺跡 3 高沢遺跡 4 高沢古墳群 5 生浜古墳群 6 南二重堀遺跡 7 鎌取台場遺跡
 8 鎌取遺跡 9 上赤塚遺跡 10 有吉南遺跡 11 有吉城遺跡 12 有吉北貝塚 13 有吉南貝塚 14 馬ノ口遺跡
 15 城ノ台遺跡 16 椎名崎遺跡 17 椎名崎古墳群A支群 18 狐塚群 19 椎名崎古墳群B支群 20 椎名崎古墳群C支群
 21 椎名神社遺跡 22 木戸作遺跡 23 伯父名台遺跡 24 今台遺跡 25 富岡古墳群 26 春日作遺跡 27 神明社裏遺跡
 28 小金沢古墳群 29 小金沢貝塚 30 六通遺跡 31 六通貝塚 32 六通金山遺跡 33 六通神社遺跡 34 白鳥台遺跡
 35 御塚台遺跡 36 ムコアラク遺跡 37 太田法師遺跡 38 大膳野北遺跡 39 大膳野南貝塚 40 パクチ穴遺跡

第2図 千葉東南部地区の遺跡分布図 (1/25,000)

片石器群からなるブロックが存在する。

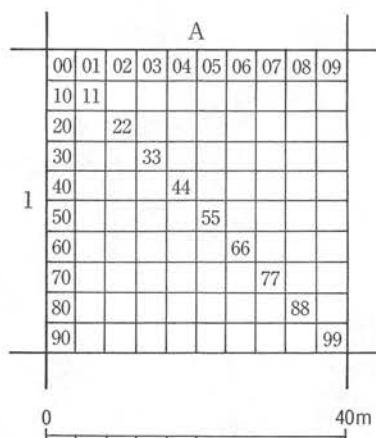
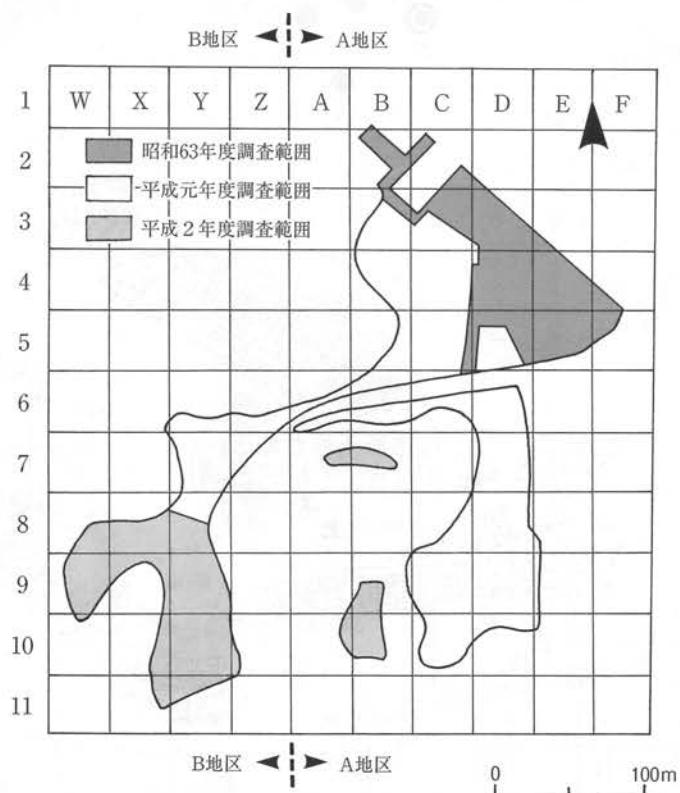
草刈六之台遺跡では、立川ローム層X層からⅢ層にかけて文化層が確認された。特にⅥ層以下の資料が充実しており、X層、IX層下部、IX層上部で確認された文化層からはそれぞれ刃部磨製石斧を含む石器群が出土している。IX層下部では神津島産黒曜石製の大型の台形石器が出土した。IX層上部では信州産黒曜石を主体とする石刃石器群に刃部磨製石斧と共に石斧用の砥石を伴って出土しており、草刈遺跡との関係が想定される。

ナキノ台遺跡では立川ローム層第2黑色帯（VII層～IX層）を中心に石斧を伴う石器群が出土し、立川ローム層ソフトローム層（Ⅲ層下部）からハードローム最上層（IV・V層）にかけて多量の焼礫を伴うIV層下部の石器群及びIV層から人為的に掘り込まれた遺構として積極的に扱うことには難点があると思われるが、住居跡の可能性もあると考えられている堅穴状遺構が検出されている。

上記した遺跡の他にも立川ローム層VII層とIV層下部の資料を中心とした中永谷遺跡や、ばあ山遺跡では石刃、槍先形石器などが出土している。

第3節 調査の方法と経過（第3・4図）

発掘調査に先行して、公共座標（第IX系）を基準に、調査対象範囲全域に40m×40mの方眼網を設定し基準点測量を行った。これを大グリッドとし、北西に起点を置いて、東西のY軸は西から順にX、Y、Z、



第4図 グリッド分割図

第3図 太田法師遺跡年度別調査区及びグリッド配置図 (1/5,000)

A、B…F、南北のX軸は北から順に2、3、…11と付した。この大グリッドを4m×4mの小グリッド100区画に分割し、北西隅を起点に00、01と順に付し南東隅を99とした。従って小グリッドの呼称は、例えば3C-50などとなる。

昭和63年度は、台地東側の範囲のうち北東側6,800m²を対象に、昭和63年12月5日から平成元年3月31日まで確認調査を行った。調査区全域に2m×2mのグリッドを設定し、立川ローム層下部まで人力で掘削して石器の有無を確認した。その結果、調査区南西端の台地縁辺部でⅢ層の1か所で石器が出土した。本調査については次年度に行うこととなった。

平成元年度は、台地東側の範囲のうち南側及び北西側と台地西側の一部にかけての範囲の計20,200m²を対象に、平成元年4月1日から平成2年3月30日まで昭和63年度と同様の方法で確認調査を行った。その結果、12か所の石器集中地点を含めた21地点から石器が出土した。石器の出土は、Ⅲ層で1か所、Ⅳ層～V層で13か所、VI層～VII層では7か所である。台地東側と西側の一部については、周辺を十分に拡張して石器の広がりを明らかにして本調査範囲を確定した。本調査は2,418m²を対象に平成2年3月30日まで行い、ナイフ形石器・削器・楔形石器・角錐状石器・石核・礫など、総数2,048点の石器が出土した。

平成2年度は、台地西側を中心とした範囲の10,000m²を対象に、平成2年4月2日から同年9月12日まで確認調査を行った。その結果、石器の出土がなかったため調査を終了した。

参考文献

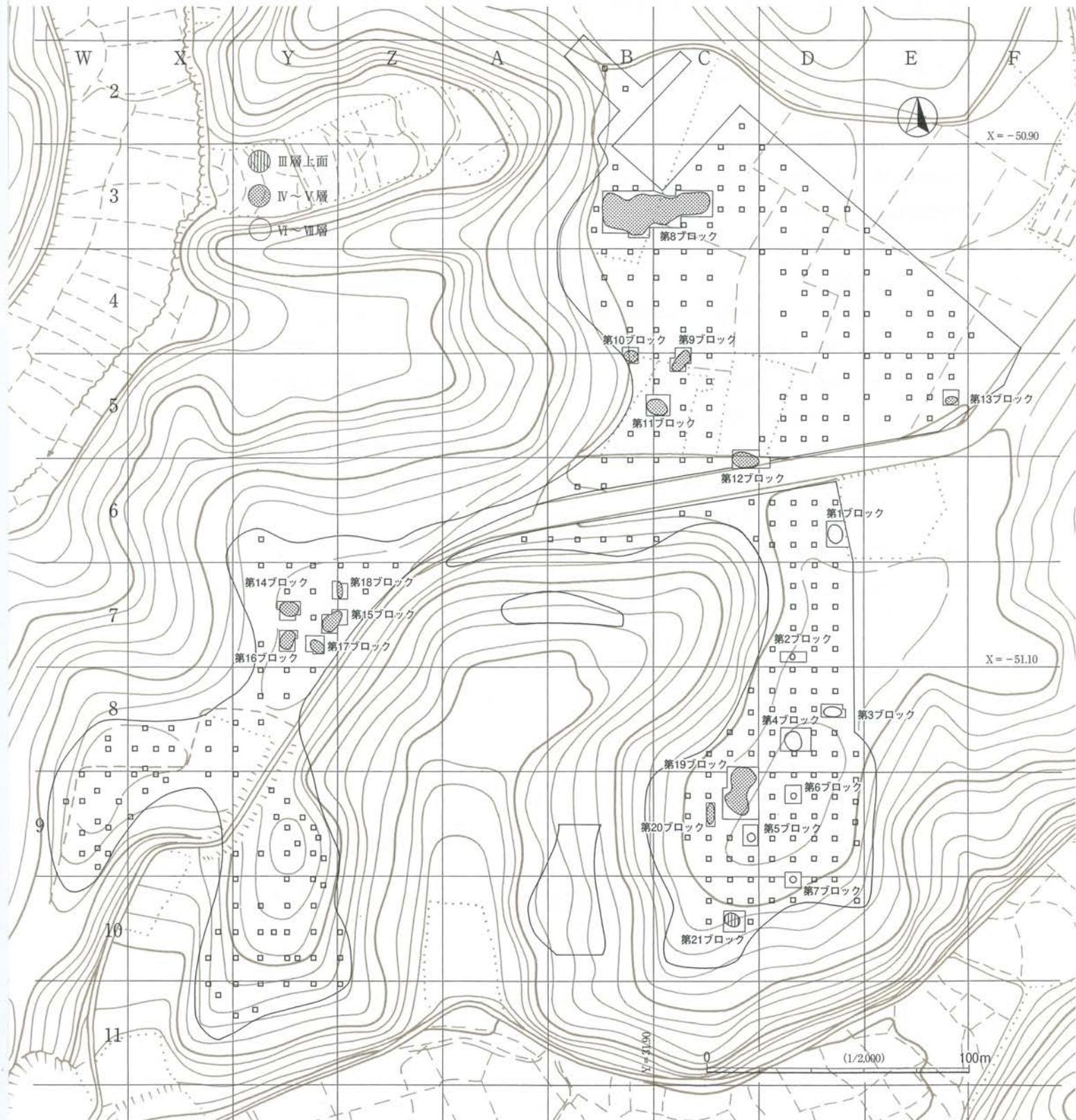
- (財) 千葉県文化財センター 1975『千葉東南部ニュータウン1－椎名崎古墳群（第1次）－』
- (財) 千葉県文化財センター 1975『千葉東南部ニュータウン2－木戸作遺跡（第1次）－』
- (財) 千葉県文化財センター 1975『千葉東南部ニュータウン3－有吉遺跡（第1次）－』
- (財) 千葉県文化財センター 1977『千葉東南部ニュータウン4－生浜古墳群－』
- (財) 千葉県文化財センター 1978『千葉東南部ニュータウン5－有吉遺跡（第2次）－』
- (財) 千葉県文化財センター 1979『千葉東南部ニュータウン6－椎名崎遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 1979『千葉東南部ニュータウン7－木戸作遺跡（第2次）－』
- (財) 千葉県文化財センター 1979『千葉東南部ニュータウン8－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－』
- (財) 千葉県文化財センター 1980『千葉東南部ニュータウン9－六通遺跡・御塚台遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 1982『千葉東南部ニュータウン10－小金沢貝塚－』
- (財) 千葉県文化財センター 1981『千葉東南部ニュータウン11－六通金山遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 1983『千葉東南部ニュータウン12－南二重掘遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 1982『千葉東南部ニュータウン13－上赤塚1号墳・狐塚古墳群－』
- (財) 千葉県文化財センター 1983『千葉東南部ニュータウン14－バクチ穴遺跡・有吉遺跡（第3次）・有吉南遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 1984『千葉東南部ニュータウン15－馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 1985『千葉東南部ニュータウン16－大膳野北遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 1990『千葉東南部ニュータウン17－高沢遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 1993『千葉東南部ニュータウン18－鎌取遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 1998『千葉東南部ニュータウン19－千葉市有吉北貝塚1－』
- (財) 千葉県文化財センター 1998『千葉東南部ニュータウン20－千葉市有吉北貝塚2－』

- (財) 千葉県文化財センター 1999『千葉東南部ニュータウン21－千葉市有吉遺跡（第4次）・高沢古墳群－』
- (財) 千葉県文化財センター 1999『千葉東南部ニュータウン22－鎌取場台遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 2001『千葉東南部ニュータウン23－千葉市太田法師遺跡2－』
- (財) 千葉県文化財センター 2002『千葉東南部ニュータウン24－千葉市富岡古墳群・富岡古墳群B支群－』
- (財) 千葉県文化財センター 2002『千葉東南部ニュータウン25－千葉市有吉城跡1－』
- (財) 千葉県文化財センター 2003『千葉東南部ニュータウン26－千葉市椎名神社遺跡古城小弓遺跡・六通神社南遺跡・御塚台遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 2003『千葉東南部ニュータウン27－千葉市春日作遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 2004『千葉東南部ニュータウン28－千葉市今台遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 2004『千葉東南部ニュータウン29－千葉市バクチ穴遺跡・大膳野南貝塚・有吉城跡2－』
- (財) 千葉県文化財センター 2004『千葉東南部ニュータウン30－千葉市伯父名台遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 2005『千葉東南部ニュータウン31－千葉市ムコアラク遺跡2・ムコアラク10号墳・上赤塚遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 2005『千葉東南部ニュータウン32－千葉市小金沢古墳群2－』
- (財) 千葉県文化財センター 2005『千葉東南部ニュータウン33－千葉市椎名崎古墳群C支群－』
- (財) 千葉県教育振興財団 2006『千葉東南部ニュータウン34－千葉市城ノ台遺跡－』
- (財) 千葉県教育振興財団 2006『千葉東南部ニュータウン35－千葉市椎名崎古墳群B支群－』
- (財) 千葉県教育振興財団 2006『千葉東南部ニュータウン36－千葉市神明社裏遺跡1－』
- (財) 千葉県教育振興財団 2007『千葉東南部ニュータウン37－千葉市六通貝塚－』
- (財) 千葉県教育振興財団 2008『千葉東南部ニュータウン38－千葉市神明社裏遺跡2－』
- (財) 千葉県文化財センター 1980『千原台ニュータウンI（野馬堀遺跡・ばあ山遺跡・他）』
- (財) 千葉県文化財センター 1986『千原台ニュータウンIII 草刈遺跡（B区）』
- (財) 千葉県文化財センター 1991『千原台ニュータウンIV 中永谷遺跡』
- (財) 千葉県文化財センター 1994『千原台ニュータウンVI－草刈六之台遺跡－』
- (財) 千葉県文化財センター 2004『千原台ニュータウンX－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』
- (財) 千葉県文化財センター 2005『千原台ニュータウンXIII－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－』
- (財) 千葉県教育振興財団 2007『千原台ニュータウンXVIII－市原市ナキノ台遺跡（下層）－』

第2章 旧石器時代

第1節 調査の概要（第5図）

太田法師遺跡の旧石器時代の調査は、昭和63年度・平成元年度・平成2年度に実施した。調査経緯については第1章に記載したが、調査概要は以下のとおりである。



第5図 太田法師遺跡調査概要図 (1/2,000)

昭和63年度は、6,800m²の調査範囲に対して、272m²の確認調査を実施した。その結果、Ⅲ層中で1か所、遺物が出土したので144m²の本調査区を設定した。

平成元年度は、20,200m²を対象に1,048m²の確認調査を実施した。その結果、Ⅲ層中から5か所、Ⅳ～V層から17か所で遺物が出土したため、2,418m²の本調査区を設定し調査を行った。

平成2年度は、10,000m²を対象に304m²の確認調査を実施したが遺物の出土がなかったため確認調査で終了した。

本遺跡で検出された石器群は、石器の形態・組成をその分類基準として3つの文化層に区分される。また、ブロックの中には層序の記録が部分的に欠落したものがあるが、これらについてはブロック中の石器の内容や出土したレベルから帰属する文化層を決めている。

第2節 基本土層（第6図）

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は、下総台地で広く観察される基本層序と共通する。以下、各層の概略について記す。

Ⅲ 層：黄褐色の軟質ローム層である。

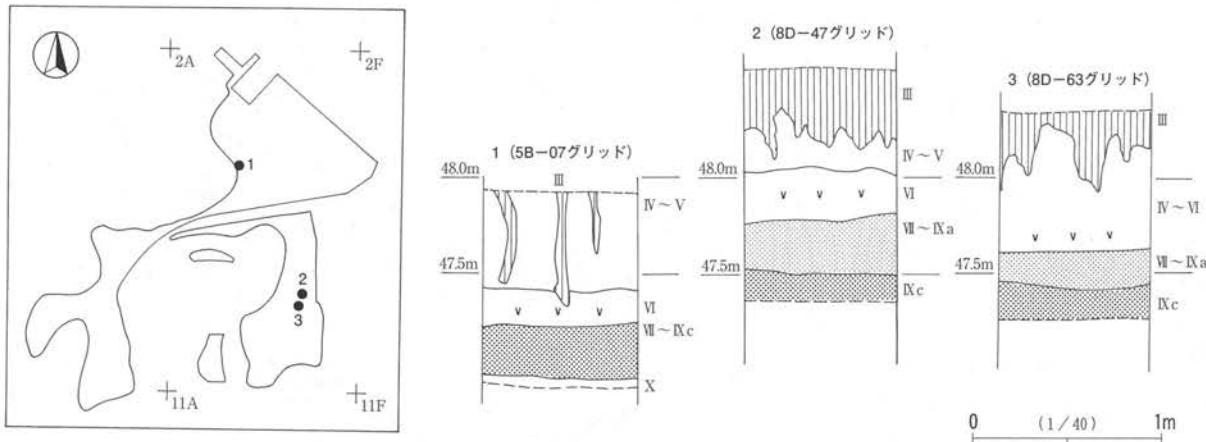
Ⅳ～V層：硬質ローム層である。武藏野台地のⅣ層上部に相当する層は、軟質化してⅢ層に取り込まれており、本層は、武藏野台地Ⅳ層下部に対応すると考えられる。層の下部は立川ローム層第1黒色帯に相当すると思われるがあまり暗い色調ではなく不明瞭である。

VI 層：硬質ローム層で、火山ガラスによって構成されるAT（姶良丹沢火山灰）を含む層である。厚さは20cm～25cmである。

VII～IXa層：上部は硬質ローム層で、第2黒色帶上半部に相当する。厚さは15cm～30cmである。下部は硬質ローム層で、第2黒色帶下半部の上層である。赤色、黒色のスコリアを含む。色調が混在しており明確な分層は不明瞭である。

IXc 層：硬質ローム層で、第2黒色帶下半部の下層にあたる。

X 層：硬質ローム層で、IX層に比べて軟質になる。



第6図 基本土層図

第3節 石器群の分布と出土遺物

本遺跡で21ブロックの旧石器出土地点が検出された。文化層は大きく3つに分けられる。

第1文化層はVI～VII層に相当し、7ブロックが検出された。第1文化層で出土したブロック群は6D～10Dグリッド及び9Cグリッドから検出された。これらのブロックは同一の舌状台地上に分布しており、南西へ延びる台地の中央部にほぼ南北に連なって検出された。

第2文化層はIV～V層を中心とする層で、13のブロックが検出された。第2文化層は大きく分けると3地点に分布が分かれる。1つは第1文化層と同じ台地上で2つのブロックが9Cグリッドで検出された。もう1つは北側調査区の3B・3Cグリッド、5B・5Cグリッド、5Eグリッドから検出された6つのブロックである。いずれのブロックも台地縁辺部に近い台地平坦部から検出されている。他の1つは7Yグリッドからまとまった分布を見せて検出された5つのブロックである。なお、第8ブロックと第14ブロック、第9ブロックと第10ブロックで、ブロック間接合が見られた。

第3文化層はIII層上面で検出された1ブロックが相当する。第1文化層のブロック群が検出された舌状台地の先端部の緩斜面にかかる10Cグリッドで検出された。

当遺跡においては、ブロックの数が示すように第2文化層における活動が最も著しい。また、ブロックの分布は、調査区の南東の大金沢支谷や西側の坂崎支谷に面する台地平坦部に集中する傾向が見られる。

1. 第1文化層

第1ブロック（第7・8図、第1表、図版3・8）

概要 第1ブロックは南西から入りこむ大金沢支谷から分枝した支谷に東西の両方から挟まれ南西に延びる、幅60mで長さが180mほどの舌状台地の基部の、西側の谷に寄った台地平坦部の6Dグリッドに位置する。石器群は5m×5mほどの範囲から出土した。出土層位はVI層とVII～IXa層の境界付近を中心に出土している。

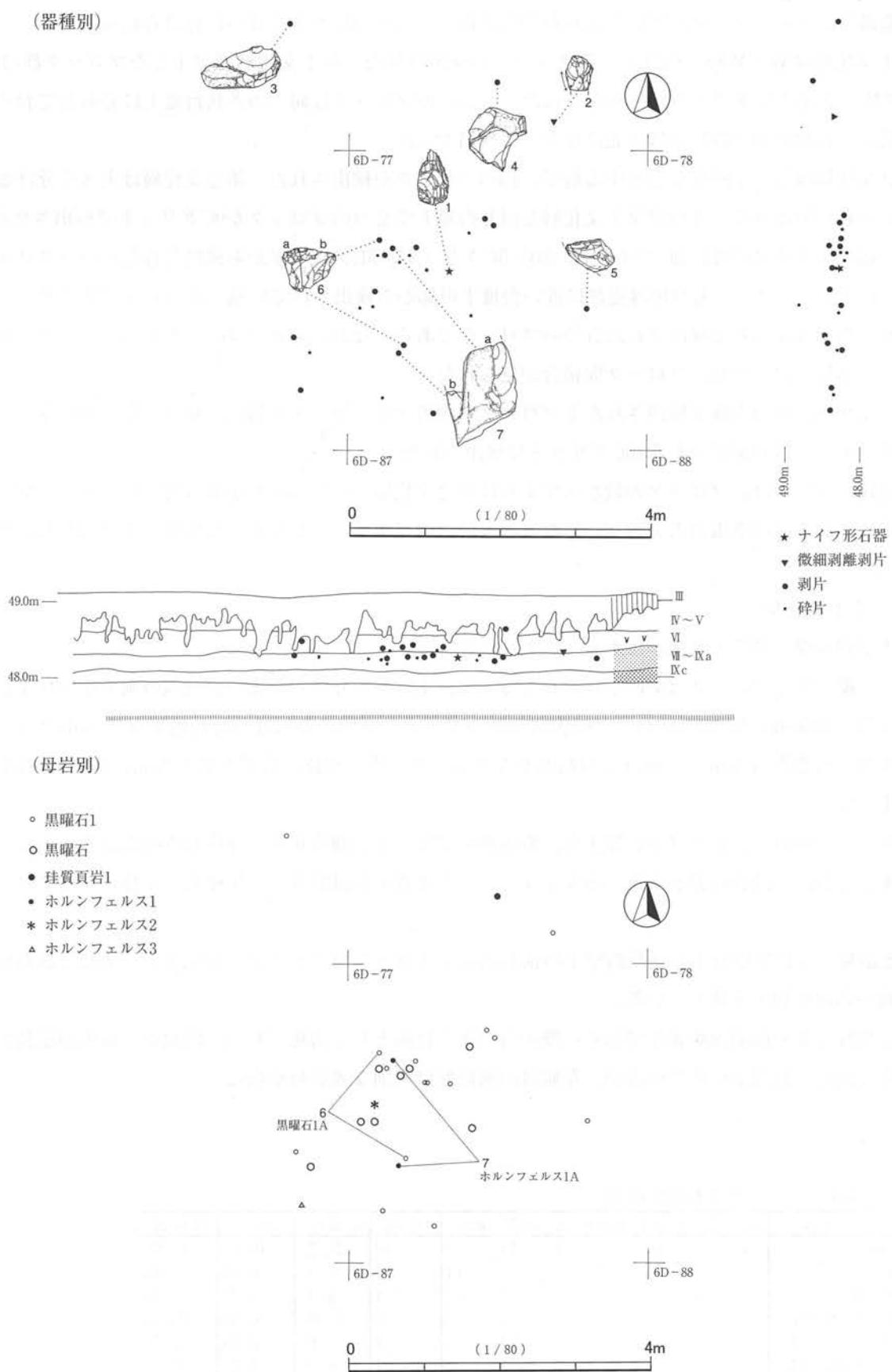
ブロックの内容は、ナイフ形石器1点、微細剥離剥片1点、剥片16点、碎片13点の計31点である。石材は黒曜石が26点、珪質頁岩が1点、ホルンフェルスが4点の総計31点で、黒曜石を主体とするブロックである。

出土遺物 1は黒曜石1の比較的厚手の横長剥片を素材としたナイフ形石器である。基部及び右側縁に裏面側から調整加工を施している。

2は黒曜石1の微細剥離剥片である。礫の自然面を打面として剥離された、断面が三角形の縦長で厚めの剥片である。端部が折れているが、左側縁の両面側に微細な剥離痕が残る。

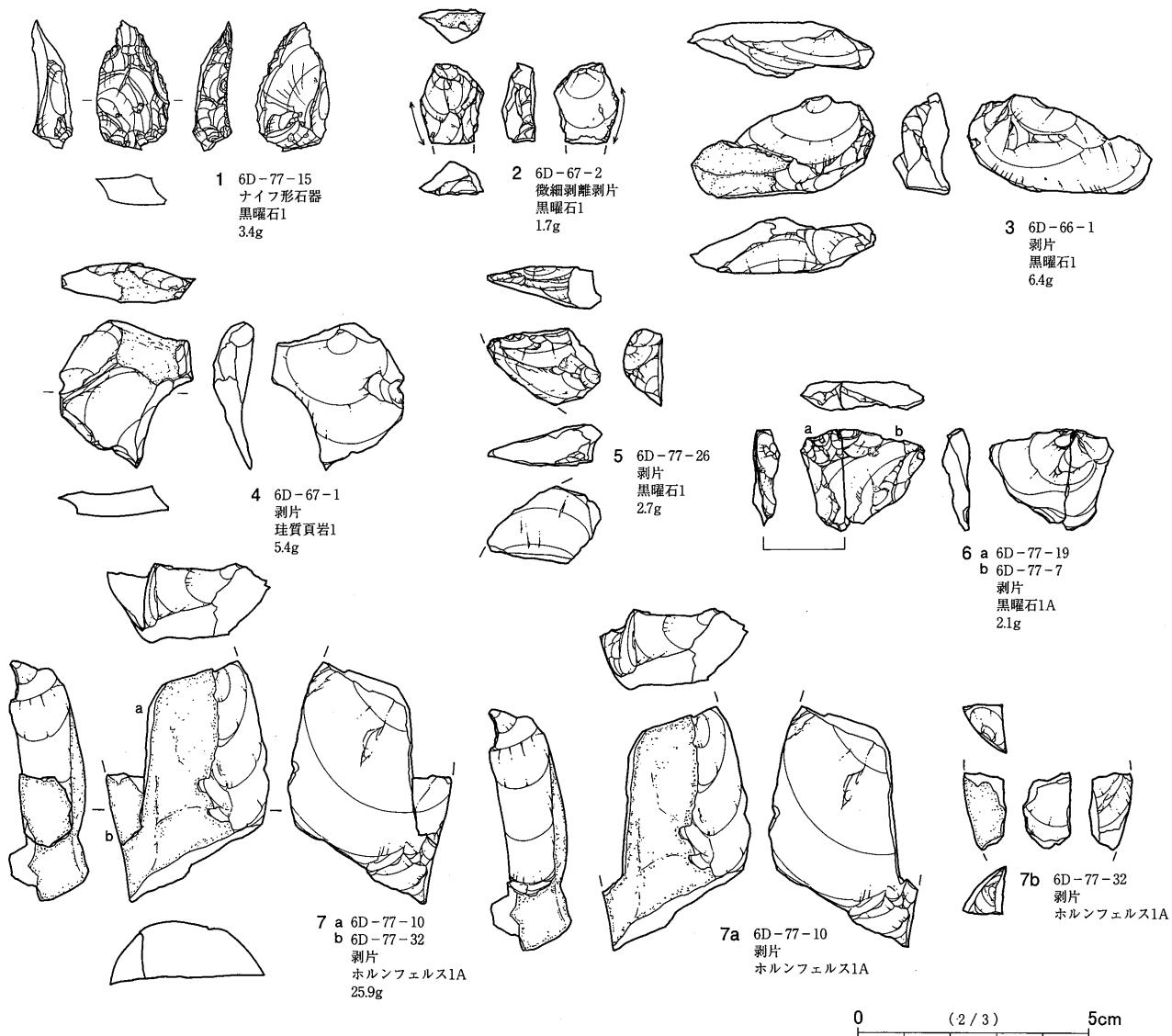
第1表 第1ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	ナイフ形石器	微細剥離剥片	剥片	碎片	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒曜石1	1	1	11	2	15	29.2	48.4%	44.6%
黒曜石				11	11	1.3	35.5%	2.0%
珪質頁岩1			1		1	5.4	3.2%	8.3%
ホルンフェルス1			2		2	25.9	6.5%	39.6%
ホルンフェルス2			1		1	3.1	3.2%	4.7%
ホルンフェルス3			1		1	0.5	3.2%	0.8%
合計	1	1	16	13	31	65.4	100.0%	100.0%



第7図 第1ブロック遺物分布

3～7a、bは剥片である。3は黒曜石1を素材とした横長で厚手の剥片である。表面の一部に礫の自然面が見られる。4は暗灰褐色を呈する珪質頁岩1で、自然面を打面に持つ剥片である。5、6は黒曜石1の剥片である。6は打面に調整痕が残る剥片で、打点付近から縦に2つに割れており、1.4m離れて出土した2片が接合した。1～3、5、6の色調は漆黒で透明感はなく、灰白色の夾雜物がわずかに入る。7はホルンフェルス1の円礫素材から剥がされた厚手で大型の剥片である。自然面が残り、打面を横方向から加撃して除去している。さらにその面から縦方向に打撃を加えている。7bはその際に剥離された剥片の一部と思われる。石材の色調は青灰色である。



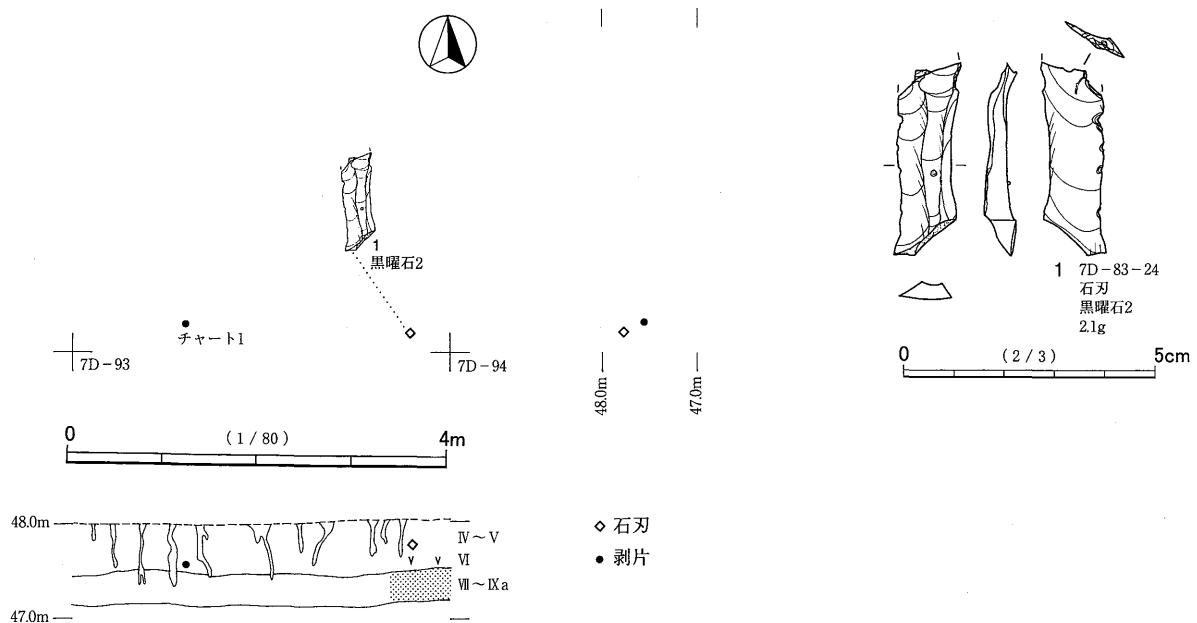
第8図 第1ブロック出土石器

第2ブロック（第9図、第2表、図版3・8）

概要 第1ブロックと同じ台地の、約50m離れた縁辺部の7Dグリッドに位置する。

ブロックの内容は、黒曜石の石刃1点、チャートの剥片1点の計2点である。

出土遺物 1点のみ図示した。1は黒曜石1の石刃である。縦長剥片で、端部には石材の自然面が残る。打面、打点を欠き、左側縁には表面側からの刃こぼれ状の細かな剥離痕がある。背稜が2条平行し、連続的に石刃が剥がされている痕跡を残す。



第9図 第2ブロック遺物分布・出土石器

第2表 第2ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	石刃	剥片	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒曜石2	1		1	2.1	50.0%	32.8%
チャート1		1	1	4.3	50.0%	67.2%
合計	1	1	2	6.4	100.0%	100.0%

第3ブロック（第10・11図、第3表、図版3・8）

概要 第1、2ブロックと同じ舌状台地の台地平坦部の中央付近で検出された。北西に隣接する第2ブロックからは約25m、南西に隣接する第4ブロックとは約15mほど離れた8Dグリッドに位置する。8D-37、46グリッドを中心として東西6m、南北約2mの範囲に分布する。

ブロックの内容は、二次加工剥片1点、微細剥離剥片1点、石刃4点、剥片2点の計8点である。石材は黒曜石が6点、黒色緻密質安山岩が2点の計8点で、黒曜石を主体とするブロックである。

出土遺物 1～3は黒曜石3の縦長剥片を素材とした石刃である。1は大型の石刃で、右側縁には基部から側縁の中程まで、左側縁には基部と中央の間の中央寄りに刃こぼれ状の微細な剥離痕が見られる。また、左側縁の中央部には裏面側からの刃潰し状の剥離痕がある。2の右側縁の両面には細かな刃こぼれ状

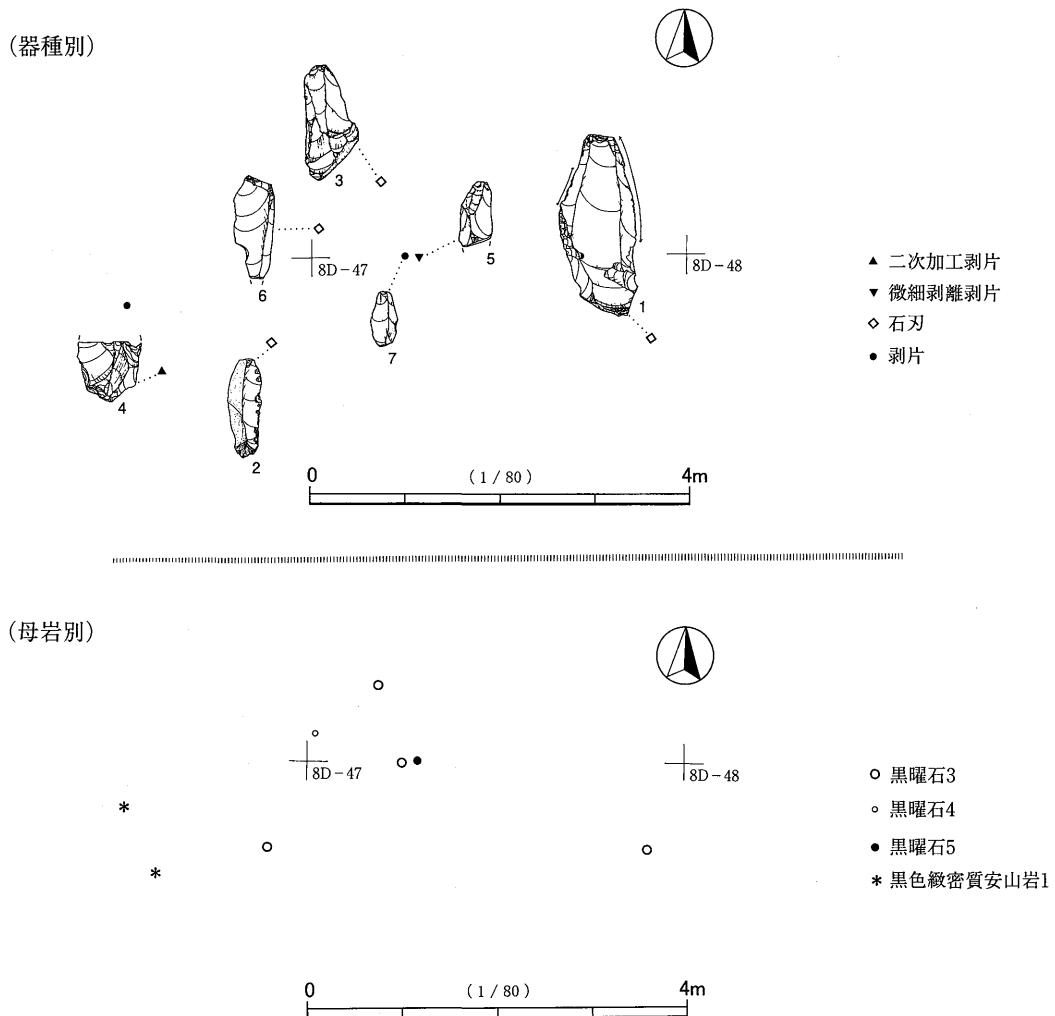
の剥離痕が残る。3は端部に礫の自然面を残す厚手の剥片で、右側縁の基部側の裏面に微細な剥離痕が見られる。

4は黒色緻密質安山岩1の二次加工剥片である。基部側が折れているが、側縁のほぼ全周に表裏両面に粗い剥離が加えられている。石材の色調は暗灰色を呈する。

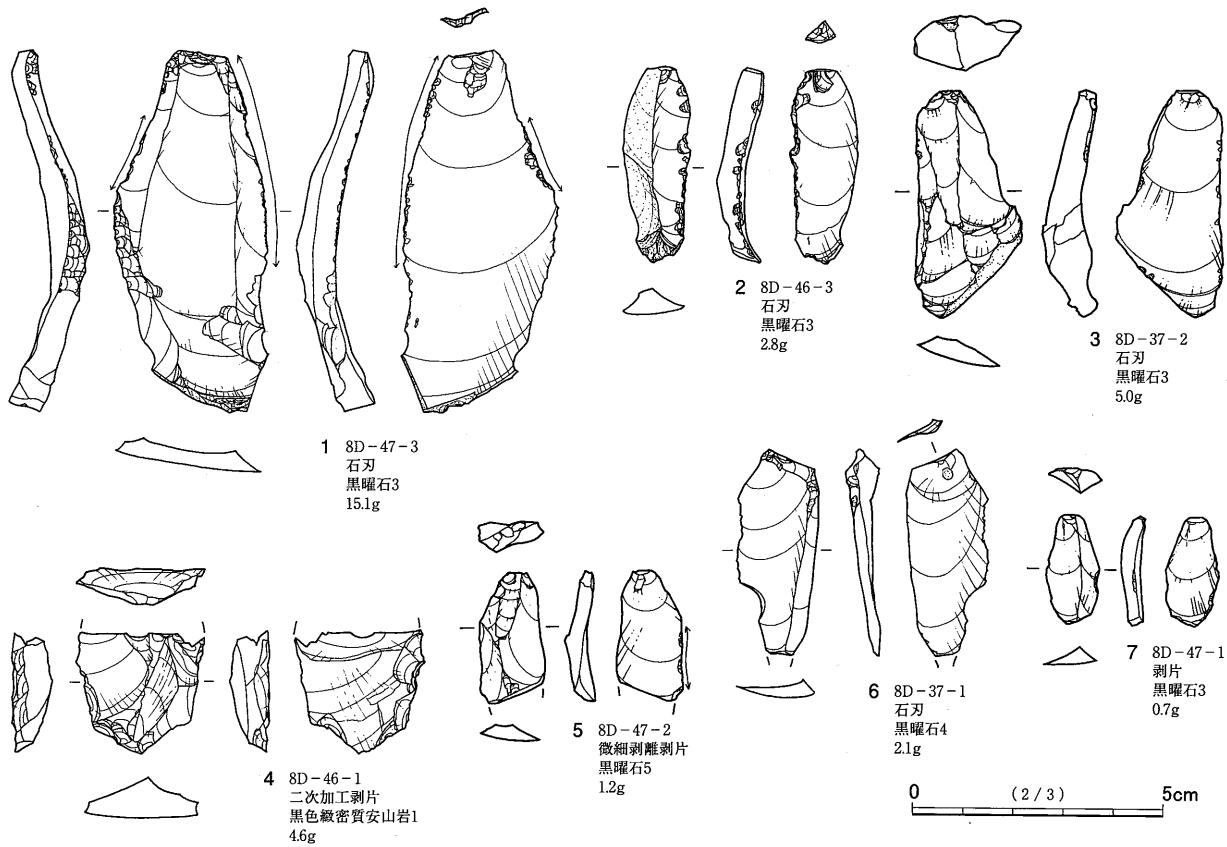
5は黒曜石5の微細剥離剥片である。縦長剥片を素材とし、端部は欠損するが右側縁の裏面側に微細な剥離痕が見られる。

6は黒曜石4の石刃、7は黒曜石3の縦長剥片である。

1～3、7は透明で夾雜物を含まず、わずかに褐灰色に濁った色調を呈する黒曜石3である。6は透明であるが、細く黒色鉱物の帯が平行に入り、灰白色の径3mm～4mmの鉱物が入る。



第10図 第3ブロック遺物分布



第11図 第3ブロック出土石器

第3表 第3ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	石刃	二次加工剥片	微細剥離剥片	剥片	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒色緻密質安山岩1		1		1	2	5.8	25.0%	17.7%
黒曜石3	3			1	4	23.6	50.0%	72.2%
黒曜石4	1				1	2.1	12.5%	6.4%
黒曜石5			1		1	1.2	12.5%	3.7%
合計	4	1	1	2	8	32.7	100.0%	100.0%

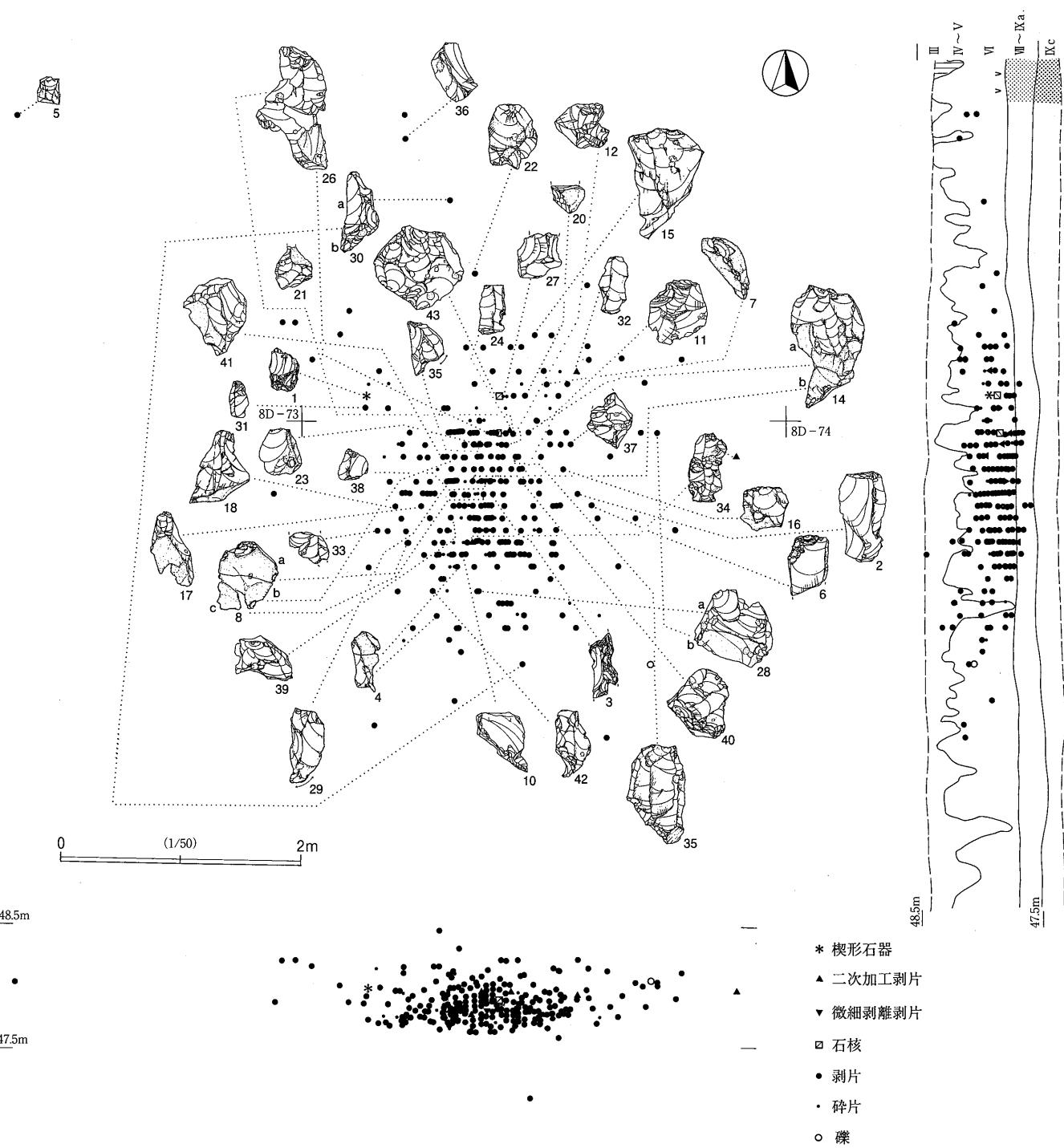
第4ブロック（第12～26図、第4表、図版4・9～11）

概要 第1～3ブロックと同じ舌状台地上の台地中央部に位置し、東西の台地平坦部の幅がわずかに狭くなる箇所の8Dグリッドで検出された。北東に位置する第3ブロックとは15mほどの距離である。ブロックは5 m × 4 mの範囲から集中して出土した。

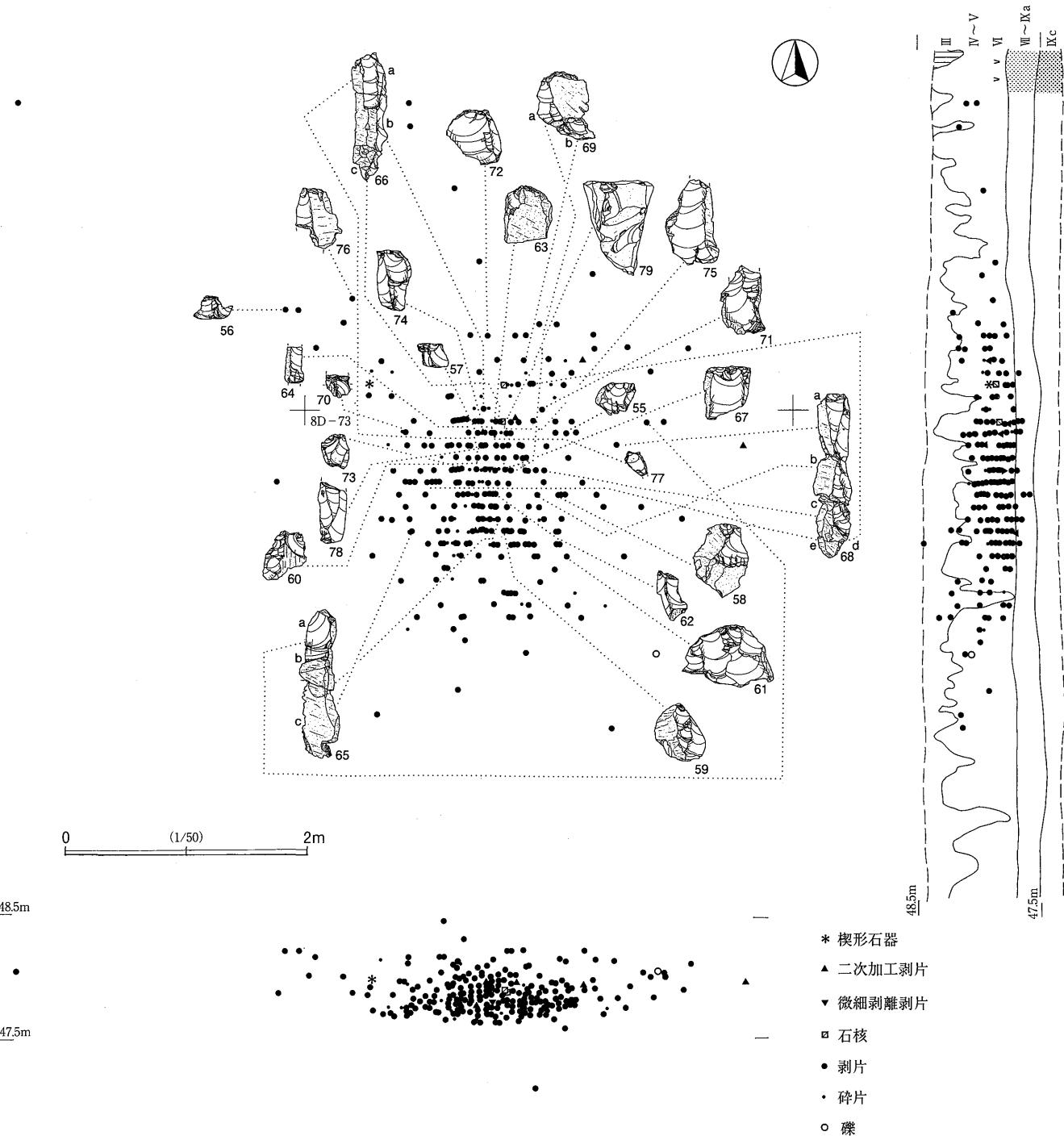
ブロックの内容は、楔形石器1点、二次加工剥片5点、微細剥離剥片2点、石核2点、剥片246点、碎片106点、礫1点の計363点である。石材は黒曜石355点、礫石材は砂岩が1点で黒曜石を主体とするブロックである。また、原石の大きさが推定可能な礫の自然面を残す接合資料や、礫の自然面を残す剥片等が検出される事からこのブロックでは、持ち込まれた原石からの剥片剥離作業が行われたことが想起される。

出土遺物 1は黒曜石7の楔形石器である。両端に表面からの急角度の剥離を加え、右側縁の端部にも細かな調整加工が見られる。

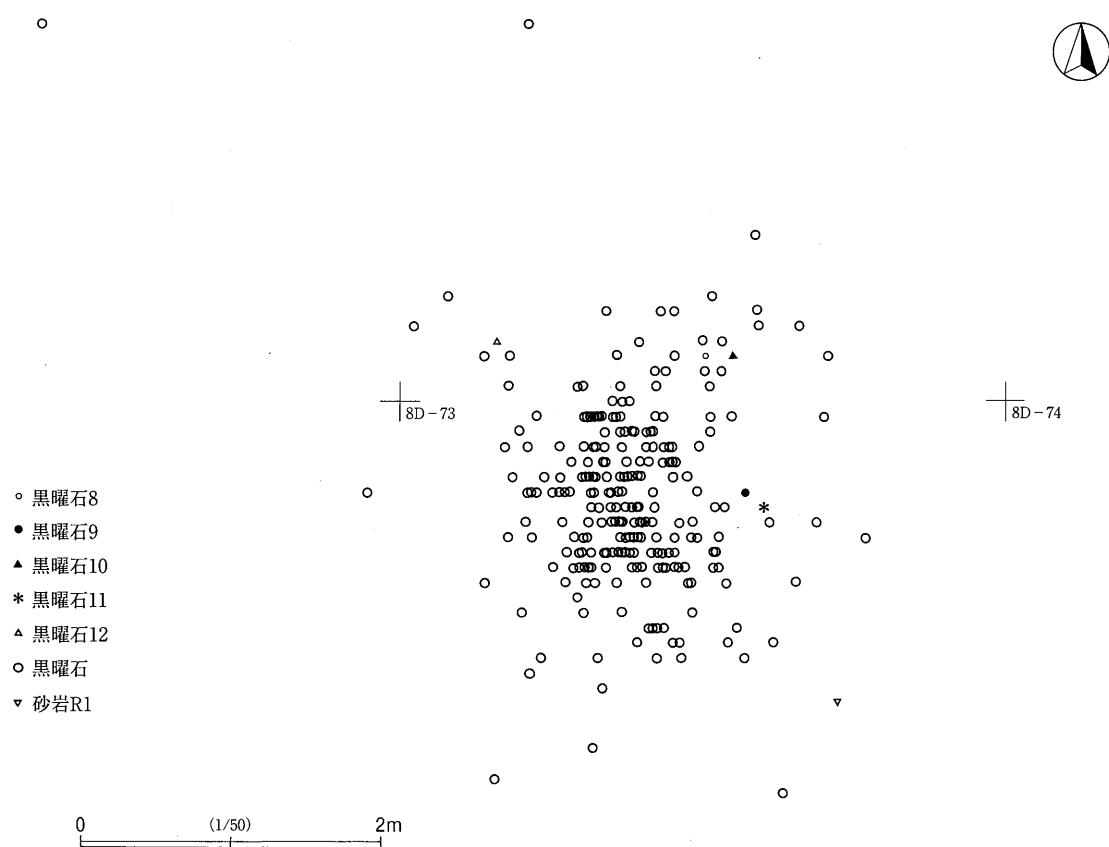
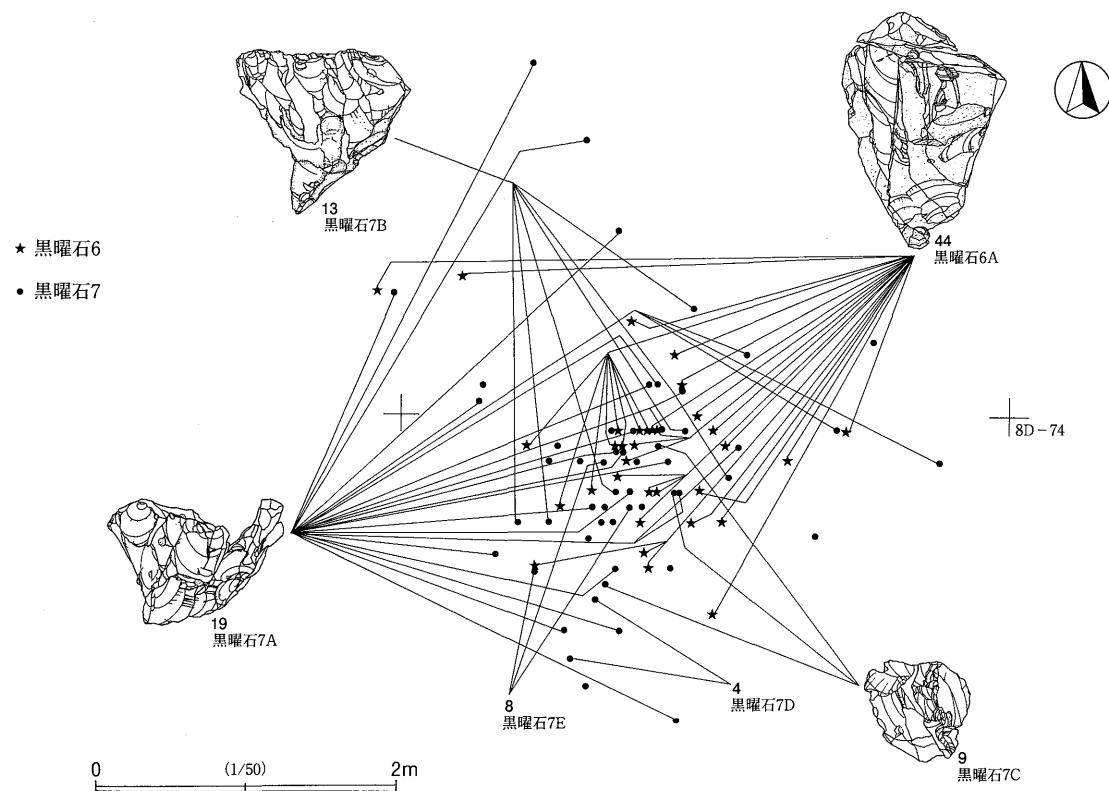
2は黒曜石9、3・4・7は黒曜石7、5は黒曜石、6は黒曜石11、7は黒曜石8の剥片である。2～



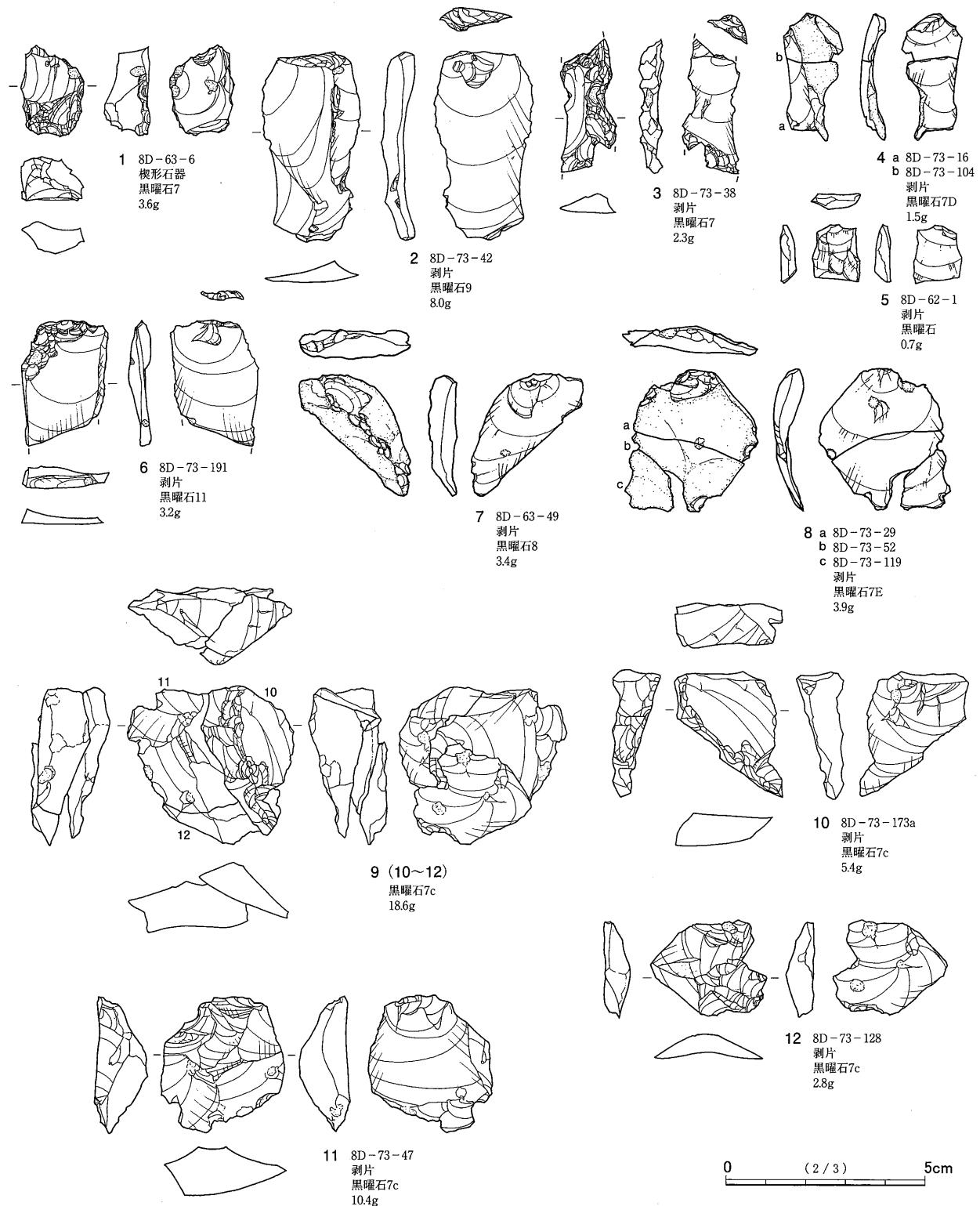
第12図 第4ブロック器種別分布（1）



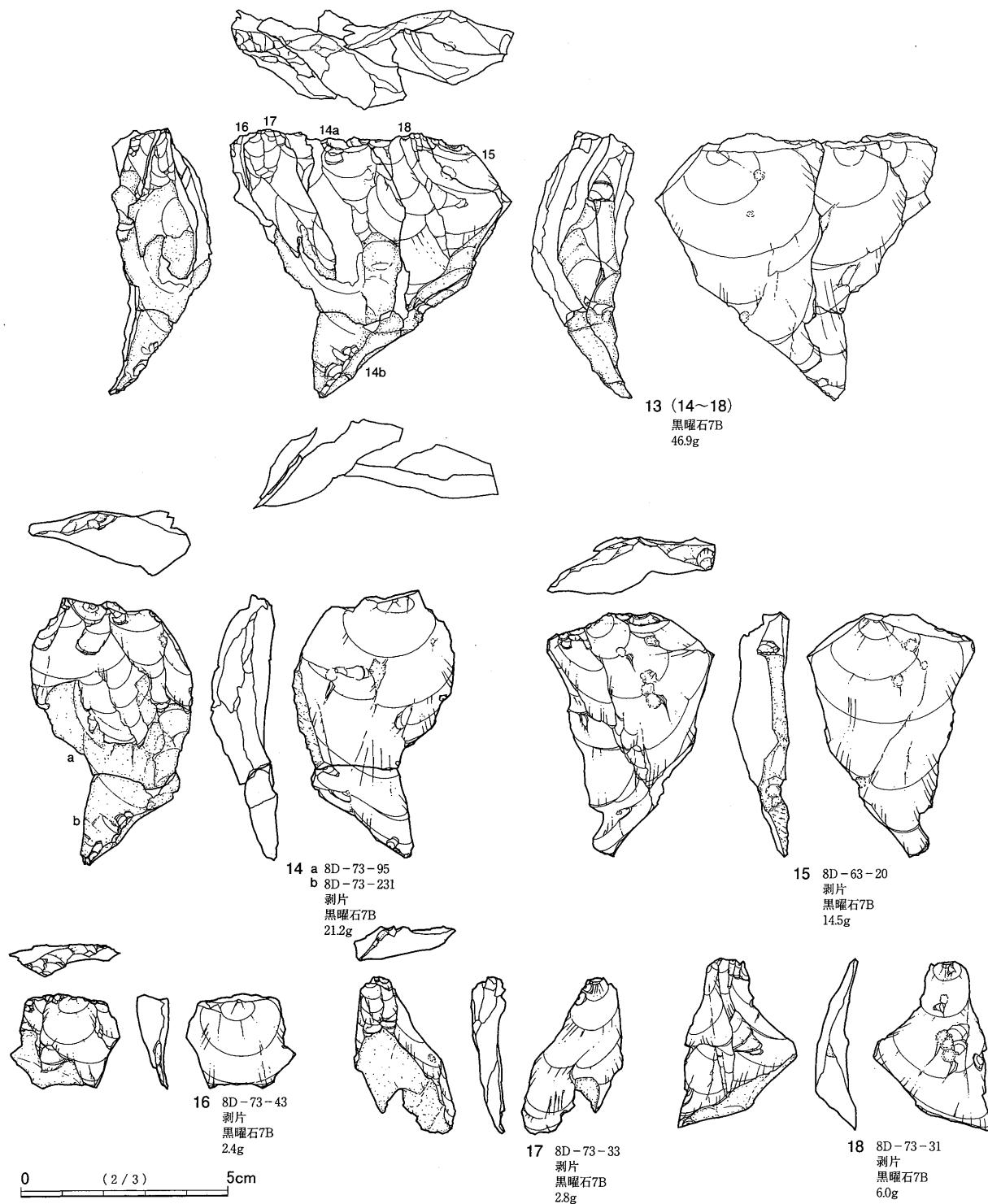
第13図 第4ブロック器種別分布（2）



第14図 第4ブロック母岩別分布

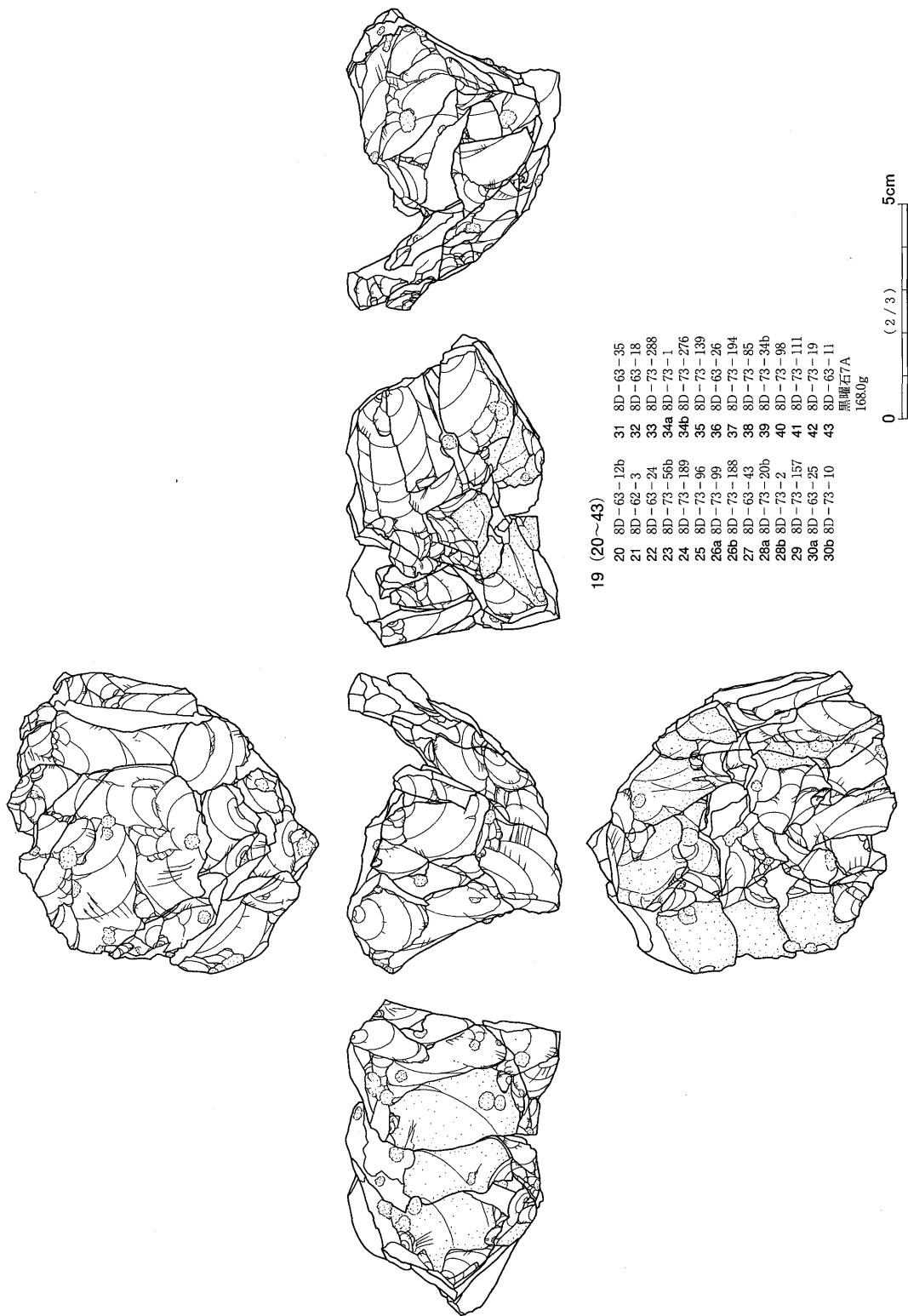


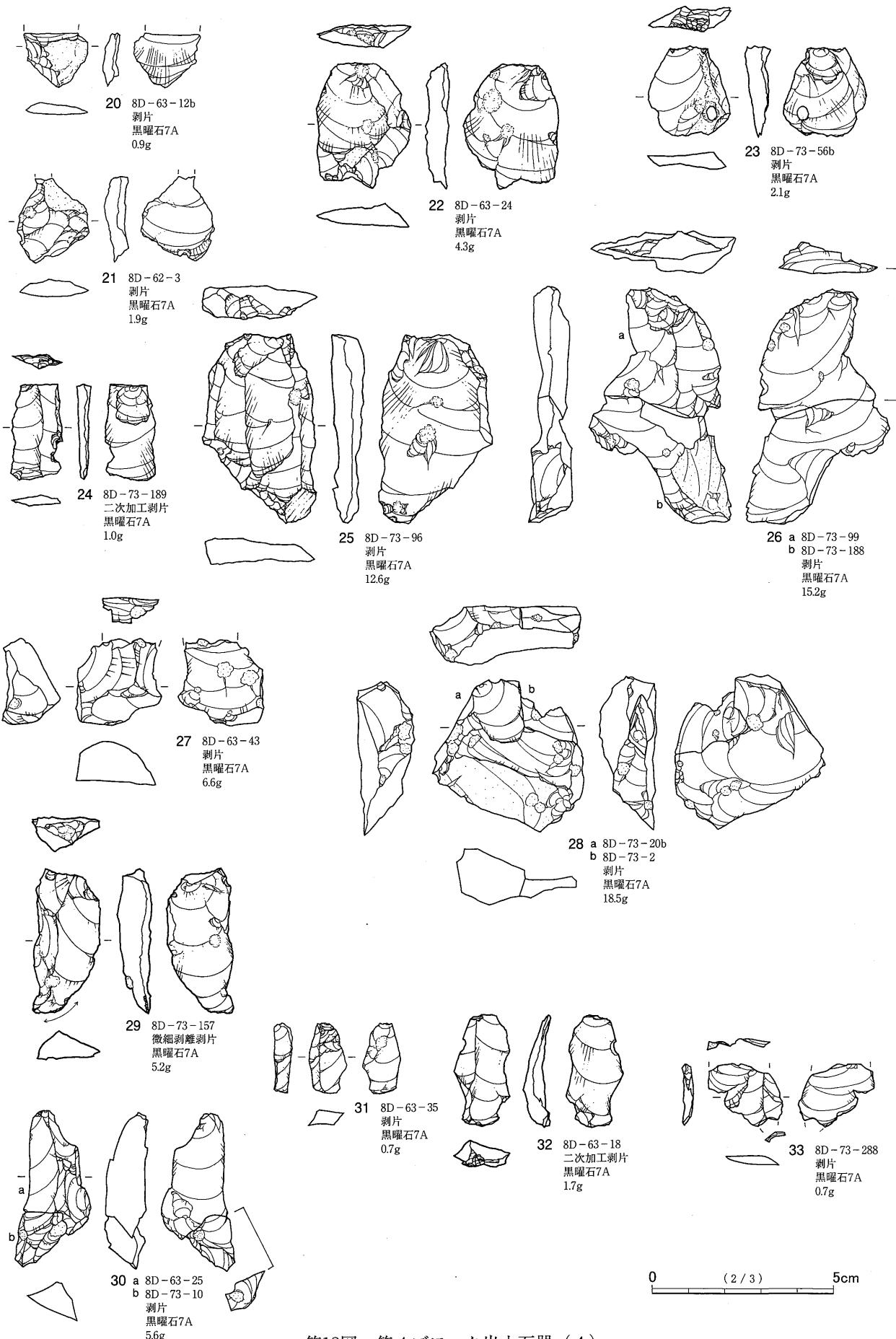
第15図 第4ブロック出土石器（1）



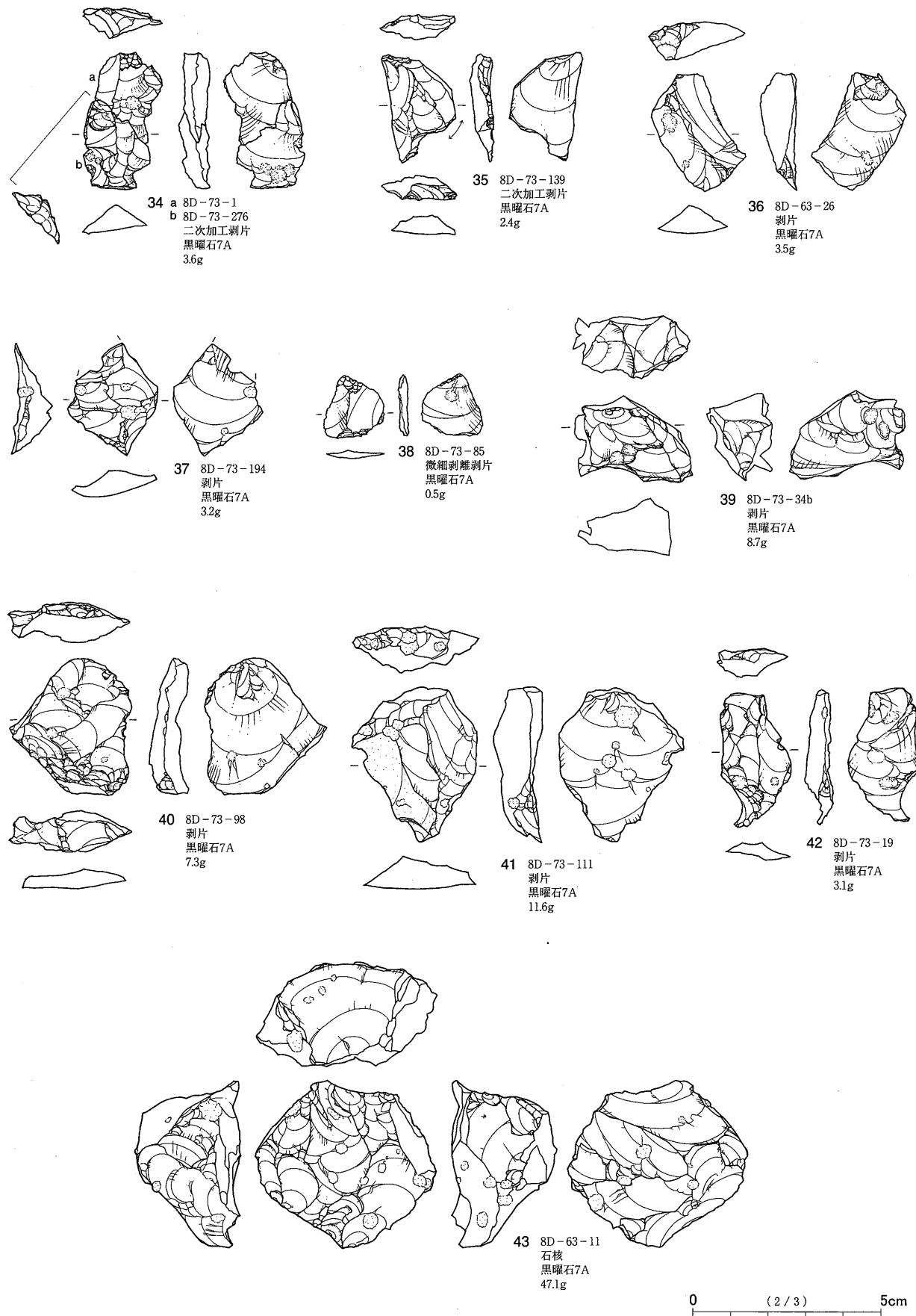
第16図 第4ブロック出土石器（2）

第17図 第4プロック出土石器（3）

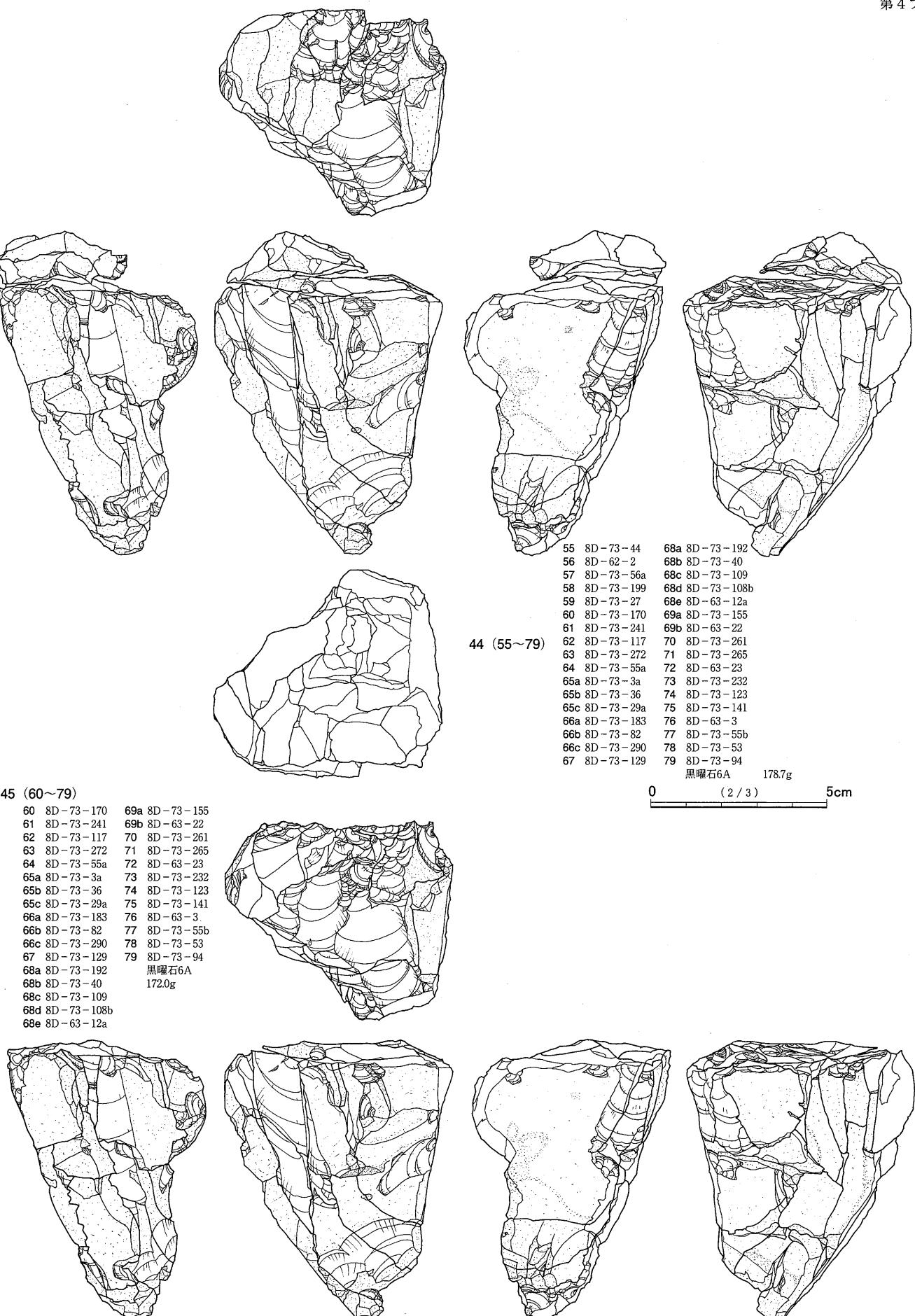




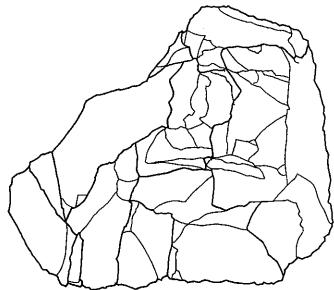
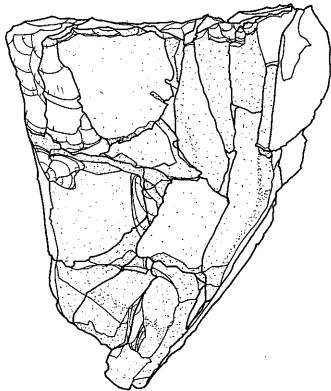
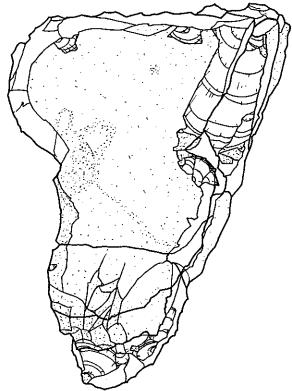
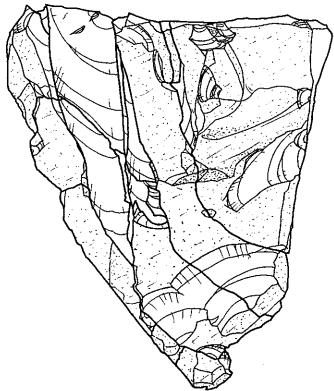
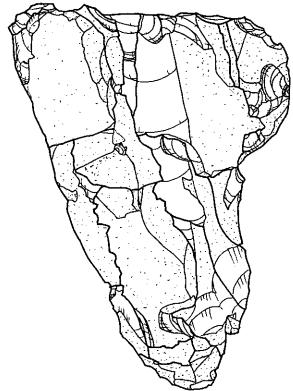
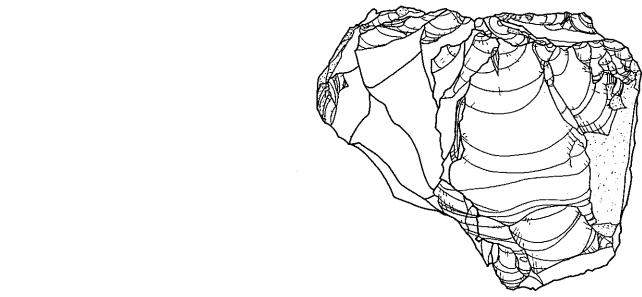
第18図 第4ブロック出土石器 (4)



第19図 第4ブロック出土石器（5）

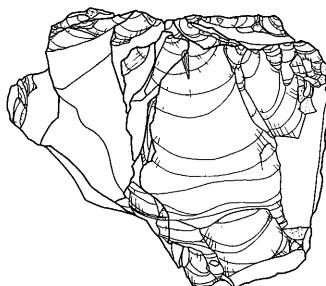
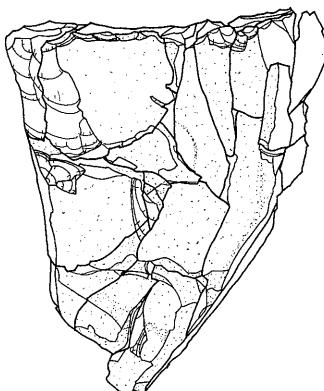
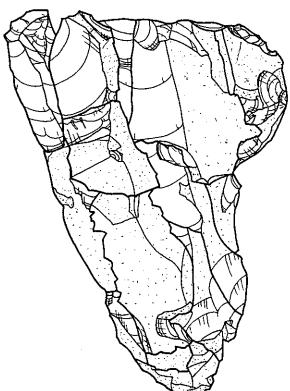


第20図 第4ブロック出土石器（6）



46 (63~79)

63	8D-73-272	69a	8D-73-155
64	8D-73-55a	69b	8D-63-22
65a	8D-73-3a	70	8D-73-261
65b	8D-73-36	71	8D-73-265
65c	8D-73-29a	72	8D-63-23
66a	8D-73-183	73	8D-73-232
66b	8D-73-82	74	8D-73-123
66c	8D-73-290	75	8D-73-141
67	8D-73-129	76	8D-63-3
68a	8D-73-192	77	8D-73-55b
68b	8D-73-40	78	8D-73-53
68c	8D-73-109	79	8D-73-94
68d	8D-73-108b		黒曜石6A
68e	8D-63-12a		160.3g

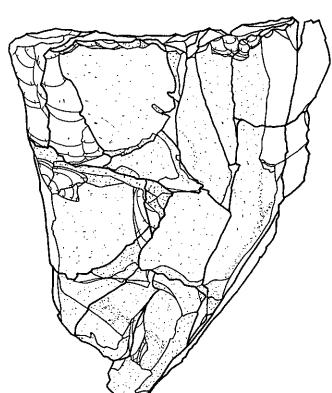
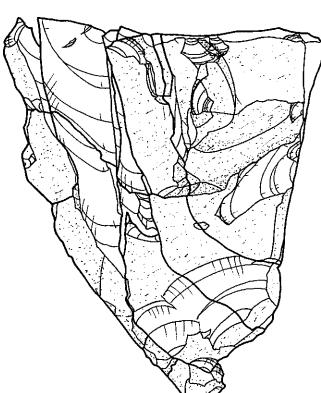
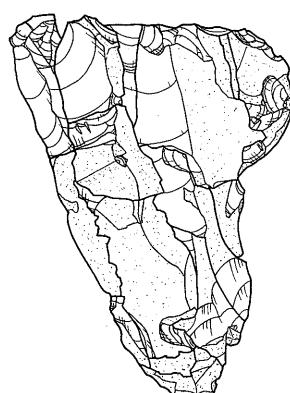


48 (65~79)

65a	8D-73-3a	69a	8D-73-155
65b	8D-73-36	69b	8D-63-22
65c	8D-73-29a	70	8D-73-261
66a	8D-73-183	71	8D-73-265
66b	8D-73-82	72	8D-63-23
66c	8D-73-290	73	8D-73-232
67	8D-73-129	74	8D-73-123
68a	8D-73-192	75	8D-73-141
68b	8D-73-40	76	8D-63-3
68c	8D-73-109	77	8D-73-55b
68d	8D-73-108b	78	8D-73-53
68e	8D-63-12a	79	8D-73-94 黒曜石6A 160.5g

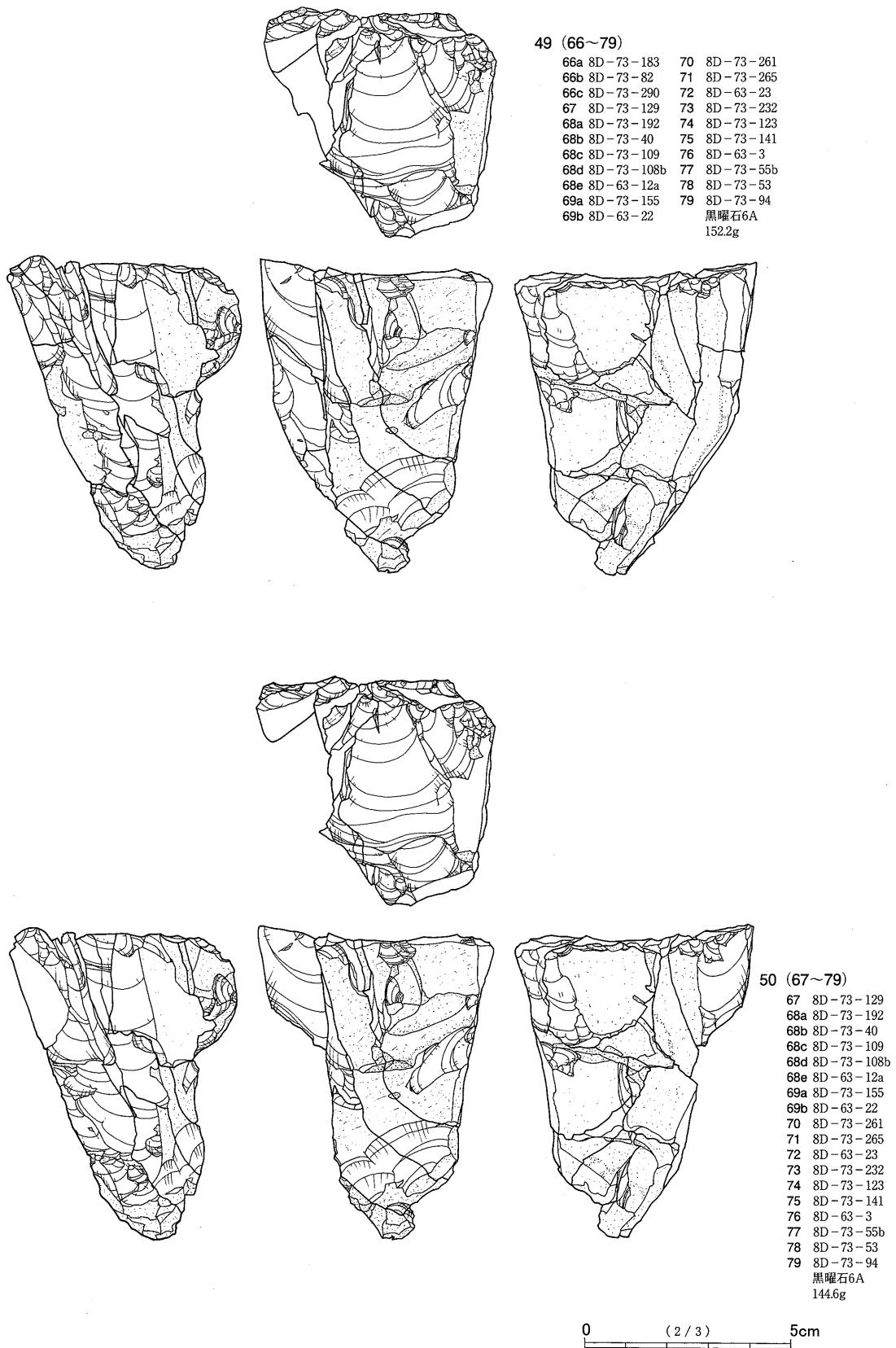
47 (64~79)

64	8D-73-55a	69a	8D-73-155
65a	8D-73-3a	69b	8D-63-22
65b	8D-73-36	70	8D-73-261
65c	8D-73-29a	71	8D-73-265
66a	8D-73-183	72	8D-63-23
66b	8D-73-82	73	8D-73-232
66c	8D-73-290	74	8D-73-123
67	8D-73-129	75	8D-73-141
68a	8D-73-192	76	8D-63-3
68b	8D-73-40	77	8D-73-55b
68c	8D-73-109	78	8D-73-53
68d	8D-73-108b	79	8D-73-94 黒曜石6A 160.9g

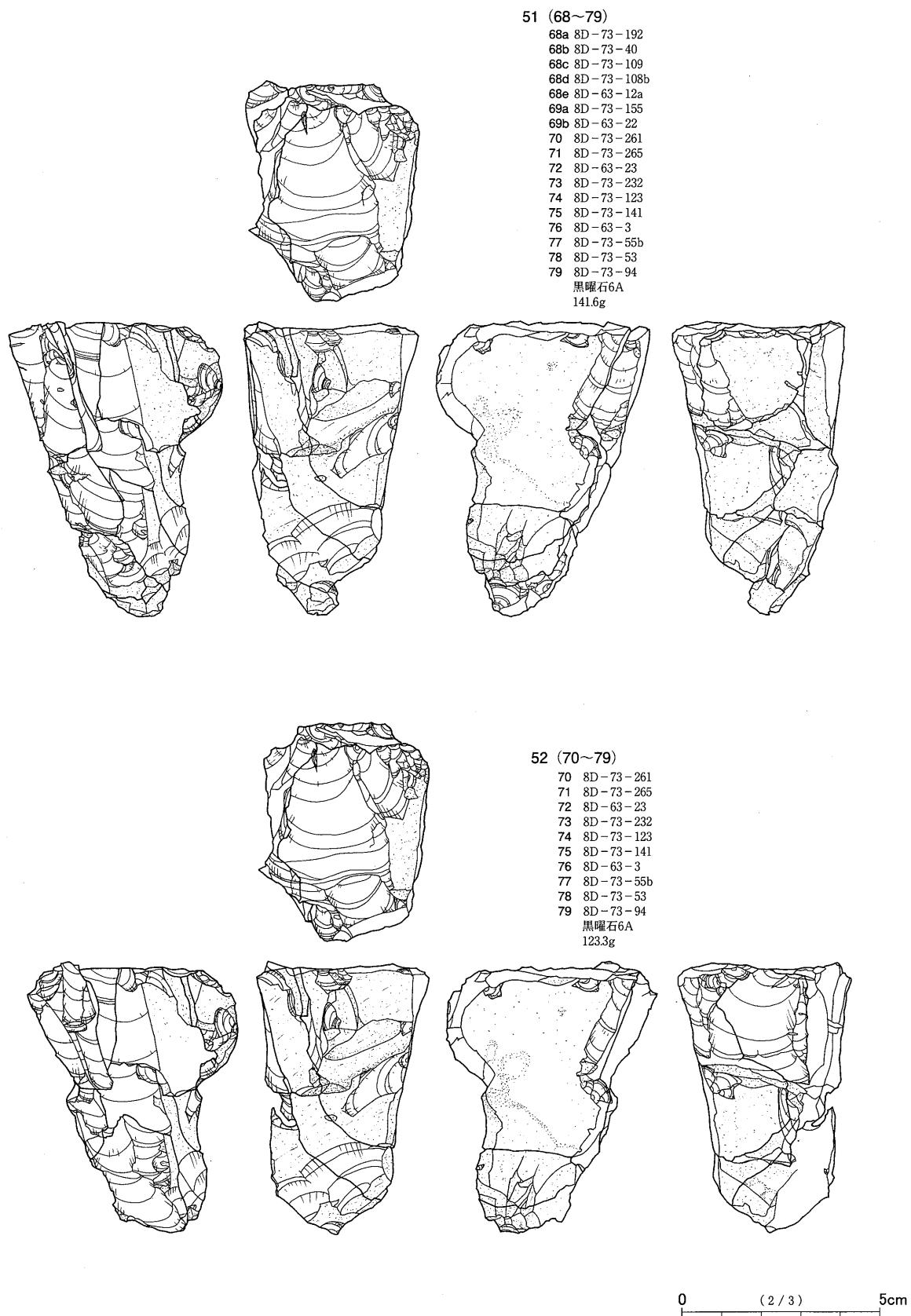


0 (2 / 3) 5cm

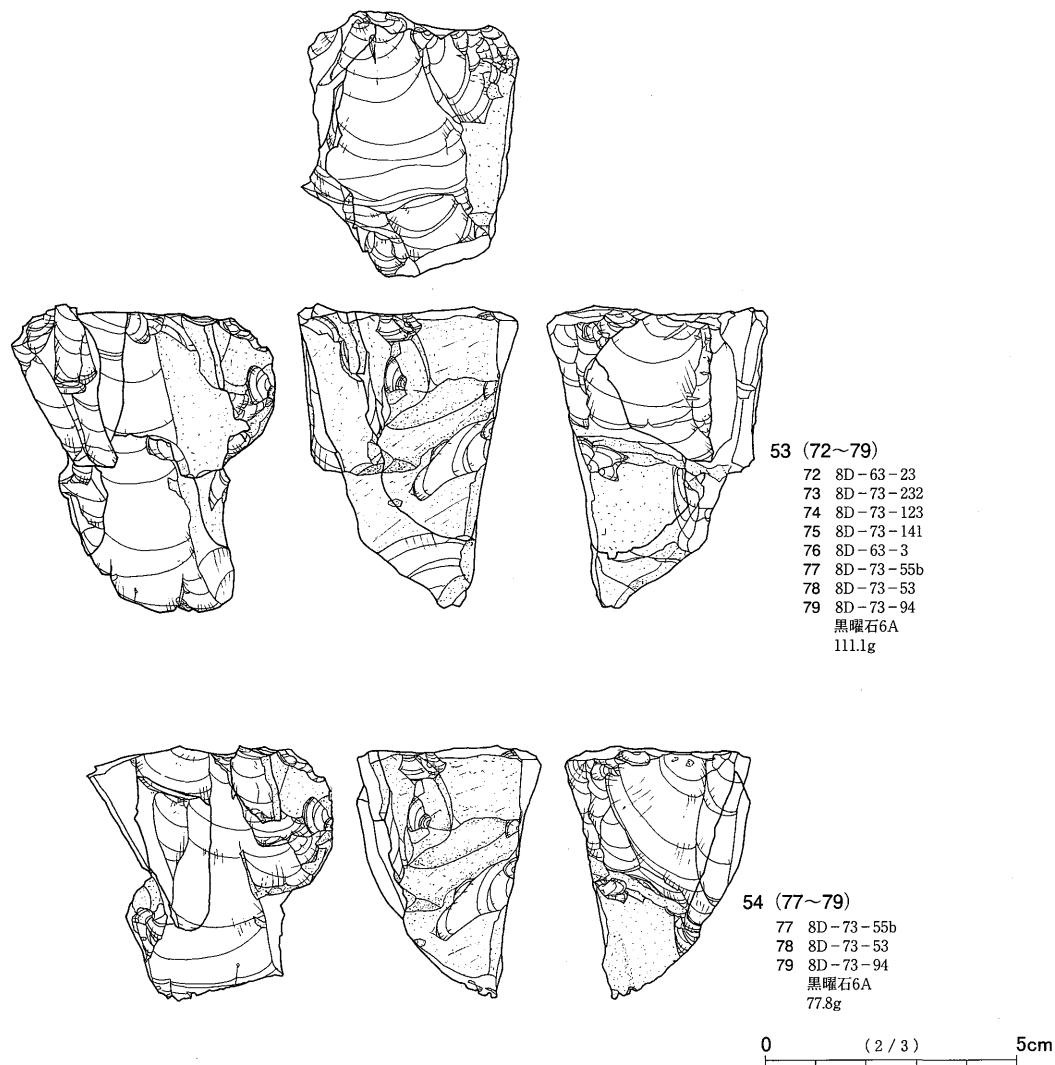
第21図 第4ブロック出土石器（7）



第22図 第4ブロック出土石器（8）



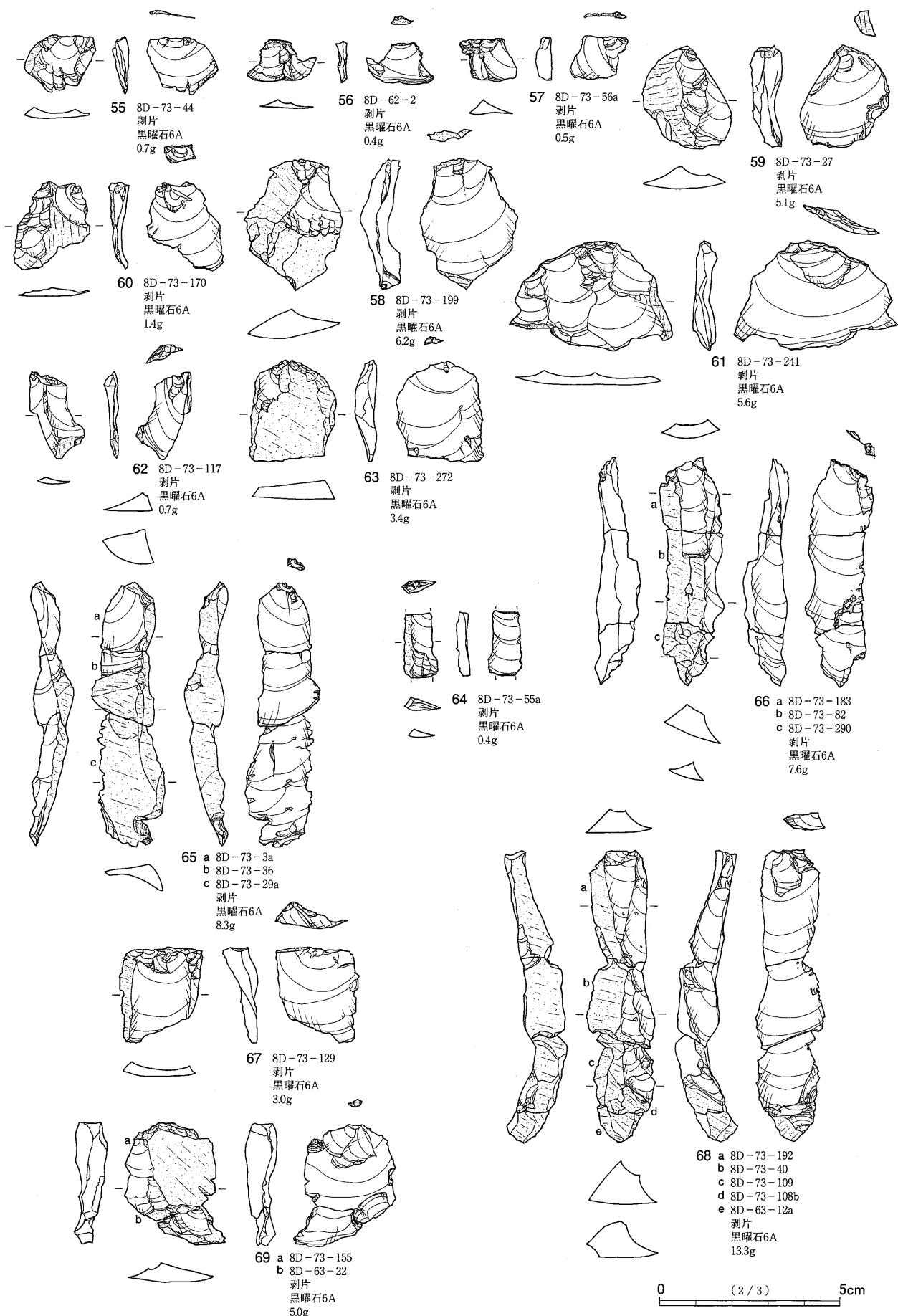
第23図 第4ブロック出土石器 (9)



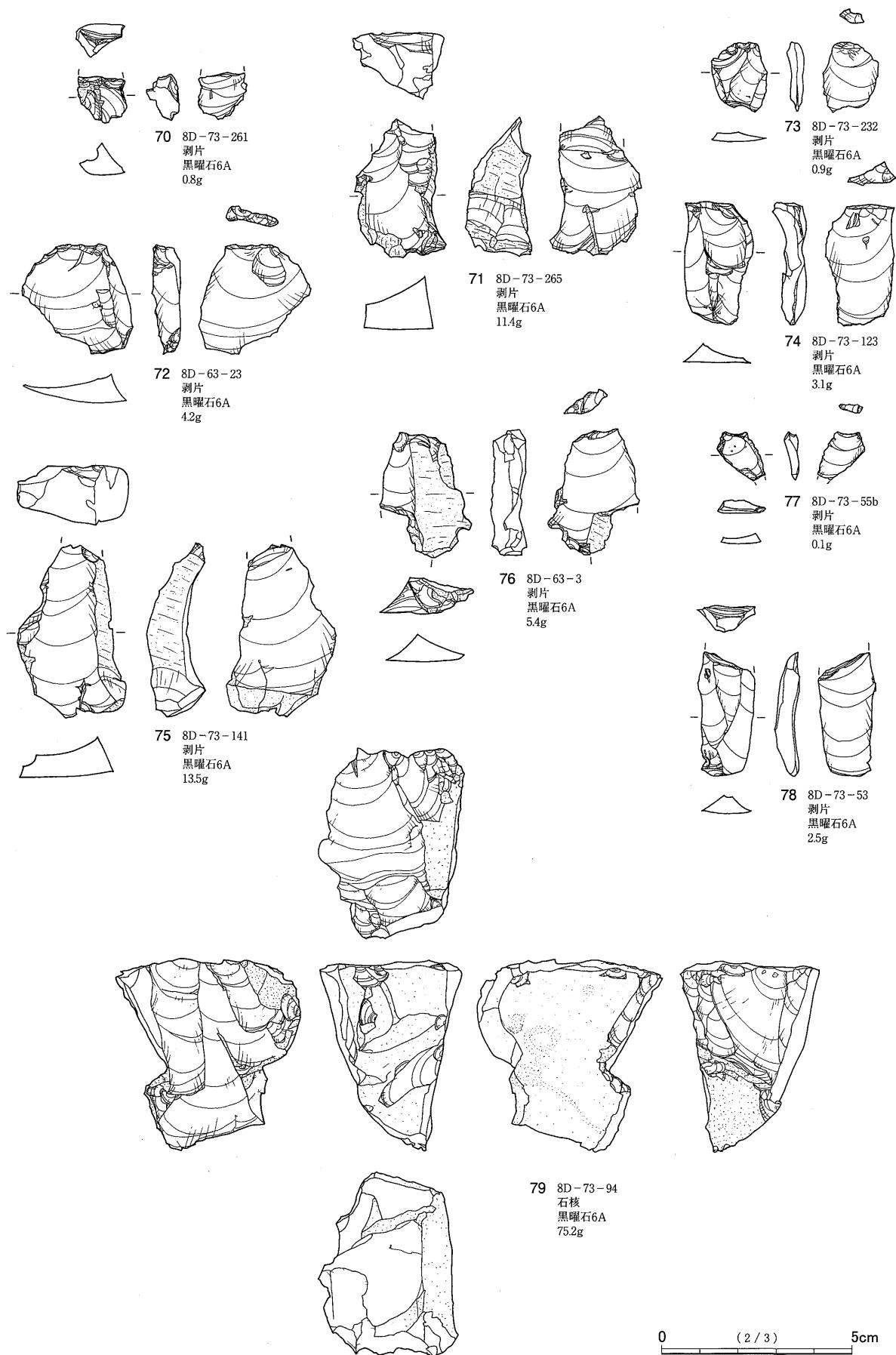
第24図 第4ブロック出土石器 (10)

第4表 第4ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	楔形石器	二次加工剥片	微細剥離剥片	石核	剥片	碎片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒曜石6				1	33	1		35	178.7	9.6%	25.0%
黒曜石7	1	5	2	1	47	1		57	251.0	15.7%	35.2%
黒曜石8					1			1	3.4	0.3%	0.5%
黒曜石9					1			1	8.0	0.3%	1.1%
黒曜石10					1			1	6.1	0.3%	0.9%
黒曜石11					1			1	3.2	0.3%	0.4%
黒曜石12					1			1	12.7	0.3%	1.8%
黒曜石				161	104			265	45.8	73.0%	6.4%
砂岩R1							1	1	204.7	0.3%	28.7%
合計	1	5	2	2	246	106	1	363	713.6	100.0%	100.0%



第25図 第4ブロック出土石器 (11)



第26図 第4ブロック出土石器 (12)

4a、bは縦長剥片である。3の右側縁は角礫の自然面である。4a、bは素材の自然面を残す縦長剥片で、2片に折れたものが接合した。5は小型の剥片である。6は黒曜石11の縦長剥片で、端部を欠く。表面の左側縁の基部側には打面調整痕と思われる剥離痕が残る。7は礫の自然面を大きく残す剥片で、自然面には打撃痕がこる。8は3片に折れた扁平な剥片で、一部を欠損するがほぼ剥離された時の状態に復元できた。表面に礫の自然面が大きく残る。

9(10~12)は黒曜石7の接合資料である。10~12は不定型の剥片である。

13(14~18)は黒曜石7の接合資料である。14~18は平坦な同一の打面から連続して剥離されている。剥離は17→16→14→18→15の順に、打面上を掲載図の左から右方向へ打点を移動させながら連続して剥片を剥離している。

19(20~43)は黒曜石7の接合資料で、28点が接合した。灰白色の径5mmほどの夾雜物が入る黒曜石を素材とする。19は打面・打点を90度変えて、縦方向や横方向から剥離作業を行っている。このようにして剥離された剥片には様々なものが含まれる。20~23は剥片である。20は基部を欠く。23には打面の調整痕が見られる。24は二次加工剥片である。縦長で扁平な剥片を素材として、右側縁に裏面から刃潰し状の加工を施す。25~28は剥片である。25は大型の縦長剥片である。26は不定型の剥片で、折れた2片(26a、b)が接合した。27、28は厚手の剥片である。29は微細剥離剥片である。断面三角形を呈する縦長の剥片で、右側縁の端部に微細な刃こぼれ状の剥離がある。30a、b、31、33は剥片である。30a、bは縦長剥片である。31は断面が菱形を呈する剥片である。左側縁側は縦に折り取られたような形状を呈する。32は黒曜石の二次加工剥片である。縦長剥片を素材とし、端部に裏面側から急角度の細かな調整加工を施す。33は線状の打面を持つ黒曜石の不定型の剥片である。34a、b、35は二次加工剥片である。34は断面三角形を呈する縦長剥片で、斜めに折れている。35は右側縁に細かな加工痕があり、右側縁の先端部から端部にかけては折れており、その部分にも細かな剥離痕が見られる。36、37、39~42は剥片である。38は微細剥離剥片である。基部と端部に細かな剥離痕がある。39は厚手の不定型な剥片である。40は表面には裏面と反対方向からの剥離痕が残る剥片である。43は石核である。剥片類を剥離した残核で、打面を周回させながら剥片を剥いた痕跡が残る。

第20図44(55~79)は黒曜石6の34点が接合した資料である。角張った礫の自然面が、五面の展開図の全面に見られることから、原石の一面には台形状の瘤があり、その反対側の面は角錐状に尖った、拳大の大きさであることがわかる。第20図~第24図は原石からの剥離の順序を追って図化したものである。剥離作業はまず瘤状の高まりを加撃して除去し、平坦な作業面を作出する。次に45(60~79)に見る平坦な面の打面調整が主に一方向から行われる。さらにその平坦面を主な作業面として原石の長軸方向への剥片剥離作業が行われる。この接合資料は、単設の作業面から剥片を剥離する作業が行われた資料である。55~78は上記した剥片剥離作業によって生産された剥片である。79は剥片剥離作業が行われた後の石核である。

第5ブロック(第27・28図、第5表、図版4・8)

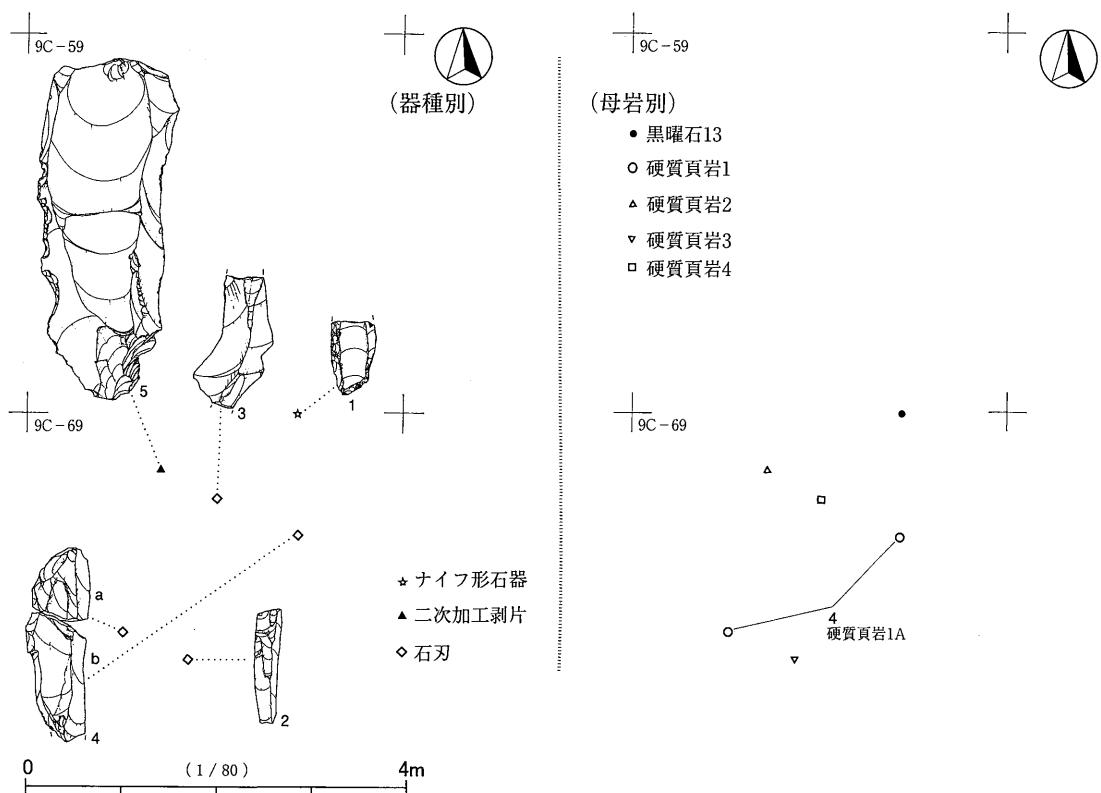
概要 第1~4ブロックと同じ舌状台地上の台地先端部に寄った9Cグリッドで検出された。ブロック内の石器は2m×3mの範囲に散漫に分布している。

ブロックの内容は、ナイフ形石器1点、二次加工剥片1点、石刃3点、剥片3点の計8点である。石材は黒曜石が1点、硬質頁岩が7点の計8点で、硬質頁岩を主体とするブロックである。

出土遺物 1は黒曜石13の縦長剥片を素材としたナイフ形石器である。先端部を中程から欠損する。打点部は横位からの打撃により除去されているかもしれない。右側縁の基部側と左側縁には裏面からの急角度の連続した調整加工を施す。夾雜物を含まない透明感のある石材である。

2～4は石刃である。2は明褐灰色を呈し、微細な暗赤褐色の夾雜物が入る硬質頁岩3の石刃で、微細な剥離痕が打面の一端に残る。3は基部と先端部の一部を欠く。裏面には表面から見て右側縁の基部寄りと左側縁の中央には表面からの刃こぼれ状の微細な剥離痕が残る。色調は暗褐色を呈する。4a、bは剥がされた石刃が基部から1/3ほどのところで折れたものが2.2m離れた地点から出土して接合した資料で、先端部も折れて欠損している。左側縁の端部には細かな刃こぼれ状の剥離痕がある。色調は暗赤褐色と暗褐色が縞状に見られる。

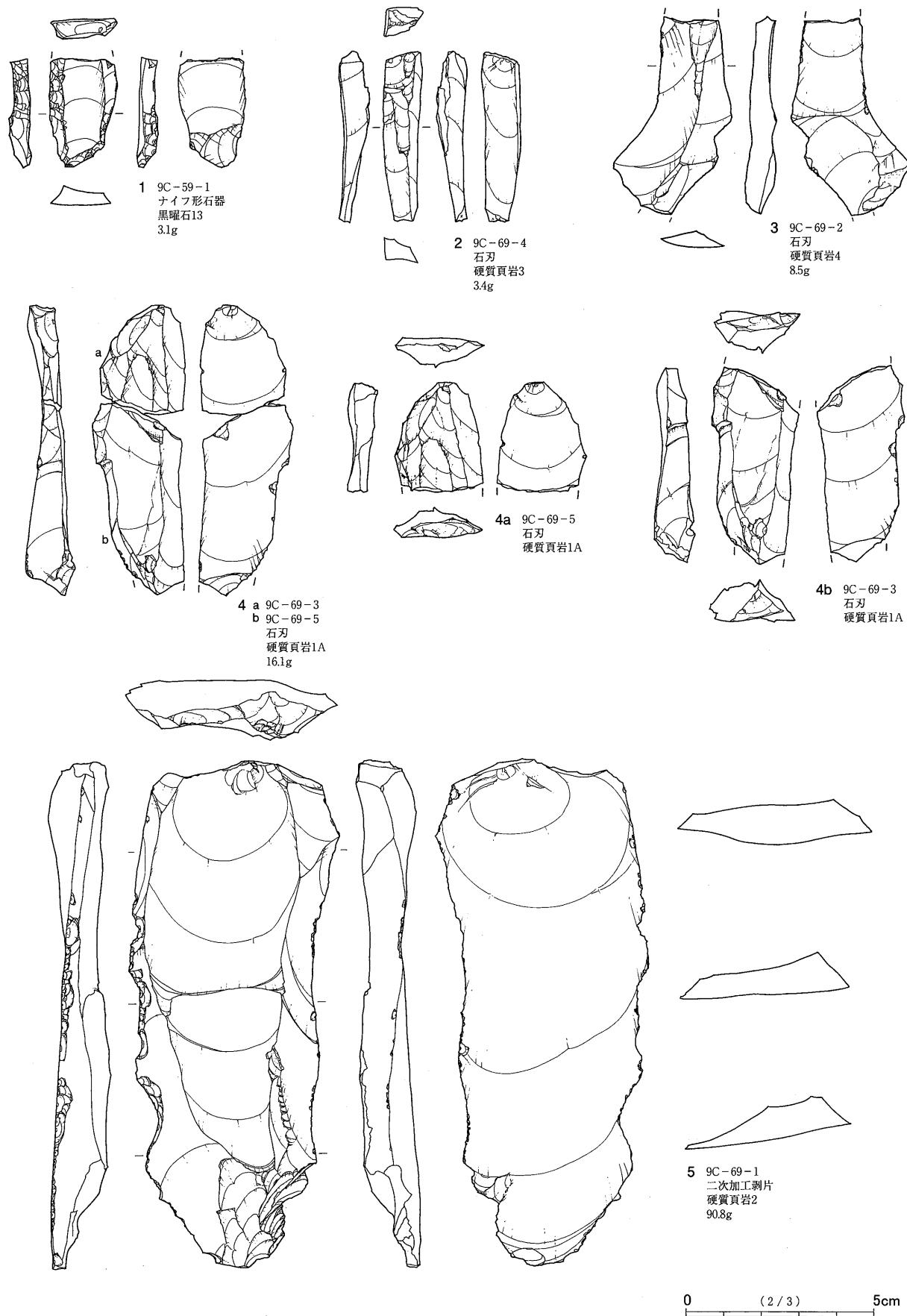
5は二次加工剥片である。硬質頁岩2を素材とした大型の剥片である。表面は右側縁に細かな刃こぼれ状の剥離痕が見られ、左側縁には刃潰し状の連続した剥離痕が鋸歯状に残る。石材の色調は褐灰色を呈し、暗褐灰色の粒状の夾雜物がまばらに入る。



第27図 第5ブロック遺物分布

第5表 第5ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	ナイフ形石器	石刃	二次加工剥片	剥片	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒曜石13	1				1	3.1	12.5%	2.5%
硬質頁岩1		1		1	2	16.1	25.0%	13.2%
硬質頁岩2			1		1	90.8	12.5%	74.5%
硬質頁岩3		1		1	2	3.4	25.0%	2.8%
硬質頁岩4		1		1	2	8.5	25.0%	7.0%
合計	1	3	1	3	8	121.9	100.0%	100.0%



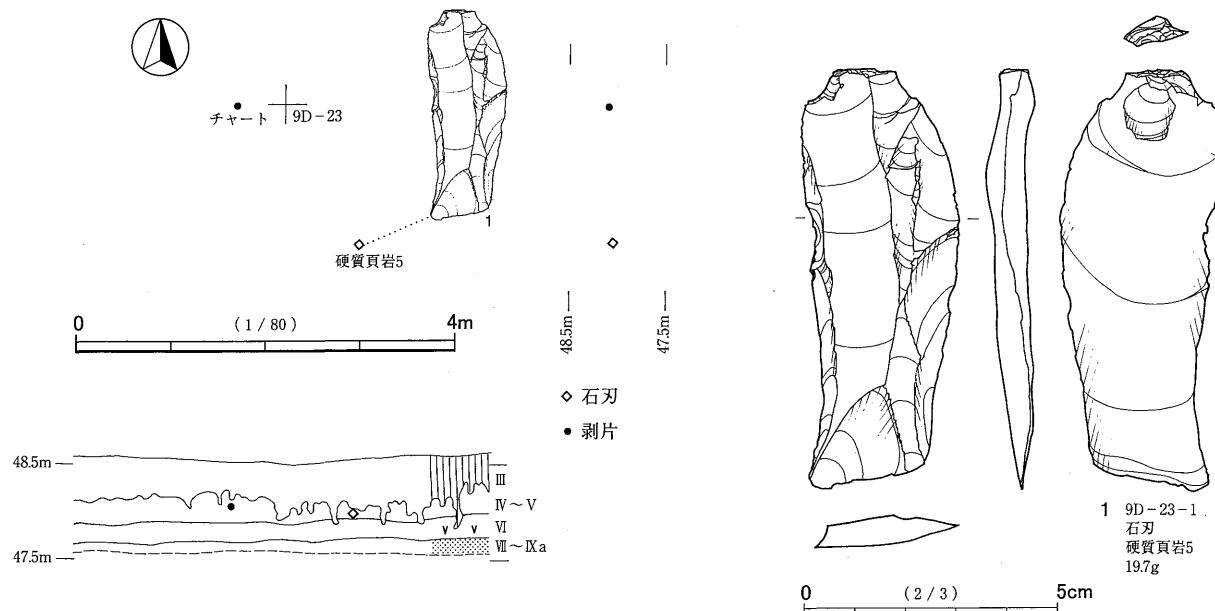
第28図 第5ブロック出土石器

第6ブロック（第29図、第6表、図版4・8）

概要 第1～5ブロックと同じ舌状台地上の第4ブロックと第5ブロックの中間の台地平坦部の9Cグリッドに位置する。

ブロックの内容は、石刃1点と剥片1点の計2点である。石材は硬質頁岩1点とチャート1点である。

出土遺物 1は硬質頁岩5を素材とした大型の石刃である。表面には基部側と端部側からの加撃による剥離痕が残る。石材の色調は褐灰色を呈する。



第29図 第6ブロック遺物分布・出土石器

第6表 第6ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	石刃	剥片	点数	重量(g)	点数比	重量比
硬質頁岩5	1	0	1	19.7	50.0%	91.6%
チャート	0	1	1	1.8	50.0%	8.4%
合計	1	1	2	21.5	100.0%	100.0%

第7ブロック（第30図、第7表、図版8）

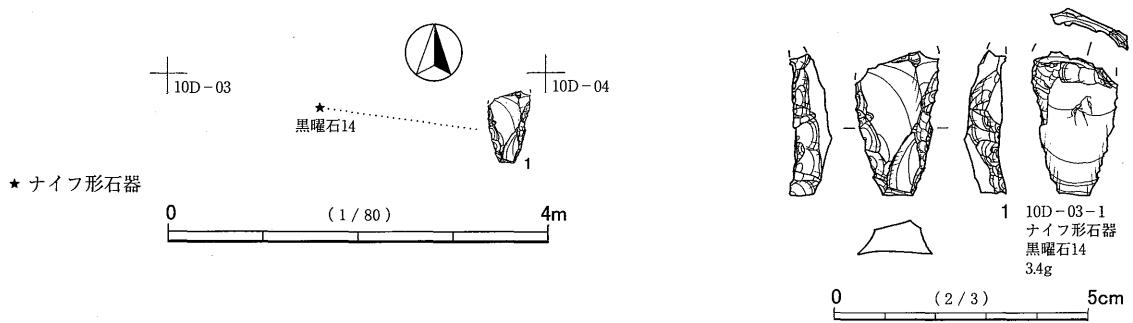
概要 第1～6ブロックと同じ舌状台地上の、台地の先端部に近い、南に大金沢支谷に臨む緩斜面部にかかる10Dグリッドに位置する。

ブロックの内容は、ナイフ形石器1点の単独出土である。石材は黒曜石である。

出土遺物 1は黒曜石14を用いたナイフ形石器である。先端部を欠損する。縦長剥片を素材とし、両側縁に裏面側から急角度の調整加工を施している。石材は透明感のある夾雜物を含まないので、にぶい赤褐色を呈する。

第7表 第7ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	ナイフ形石器	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒曜石14	1	1	3.4	100.0%	100.0%
合計	1	1	3.4	100.0%	100.0%



第30図 第7ブロック遺物分布・出土石器

2. 第2文化層

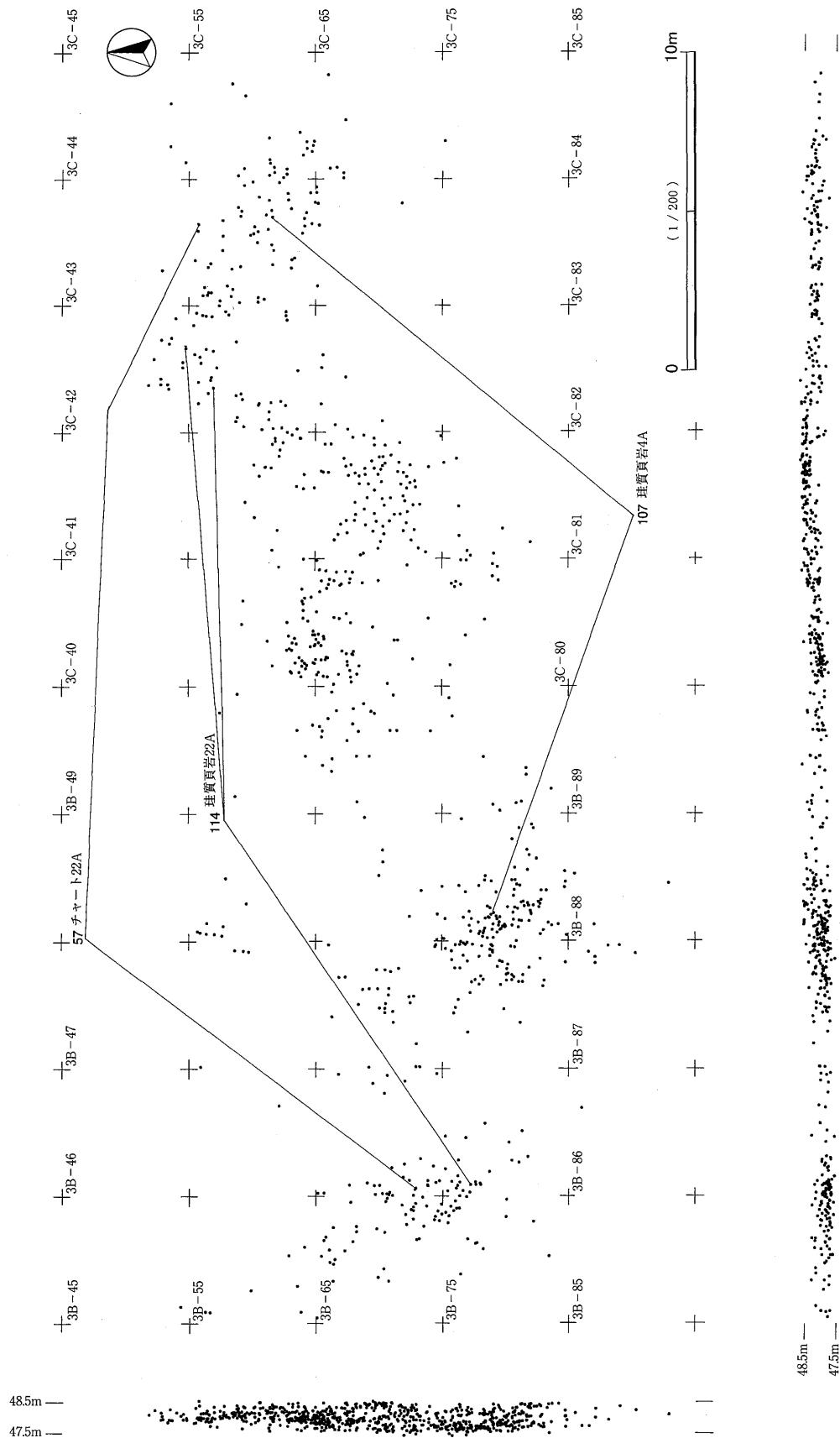
第8ブロック（第31～53図、第8表、図版5・12～17）

概要 第1文化層の石器群が検出された台地の北側の3B・Cグリッドに分布し、大金沢支谷から分岐して北へ延びる坂崎谷津に面し、坂崎谷津から台地を浸食して東へ延びる支谷に面した台地縁辺部に位置する。ブロックは東西40m、南北18mの範囲に拡がっている。ブロック内の石器の分布は大きく弧状を描くように分布するが、3B-49グリッドから3B-89グリッドで東西に分けて見ると、ブロック内の東側では弧を描くように途切れなく石器が分布している。ブロックの西側では3B-76グリッド、3B-77・78グリッドを中心とした2地点に石器が分布している。

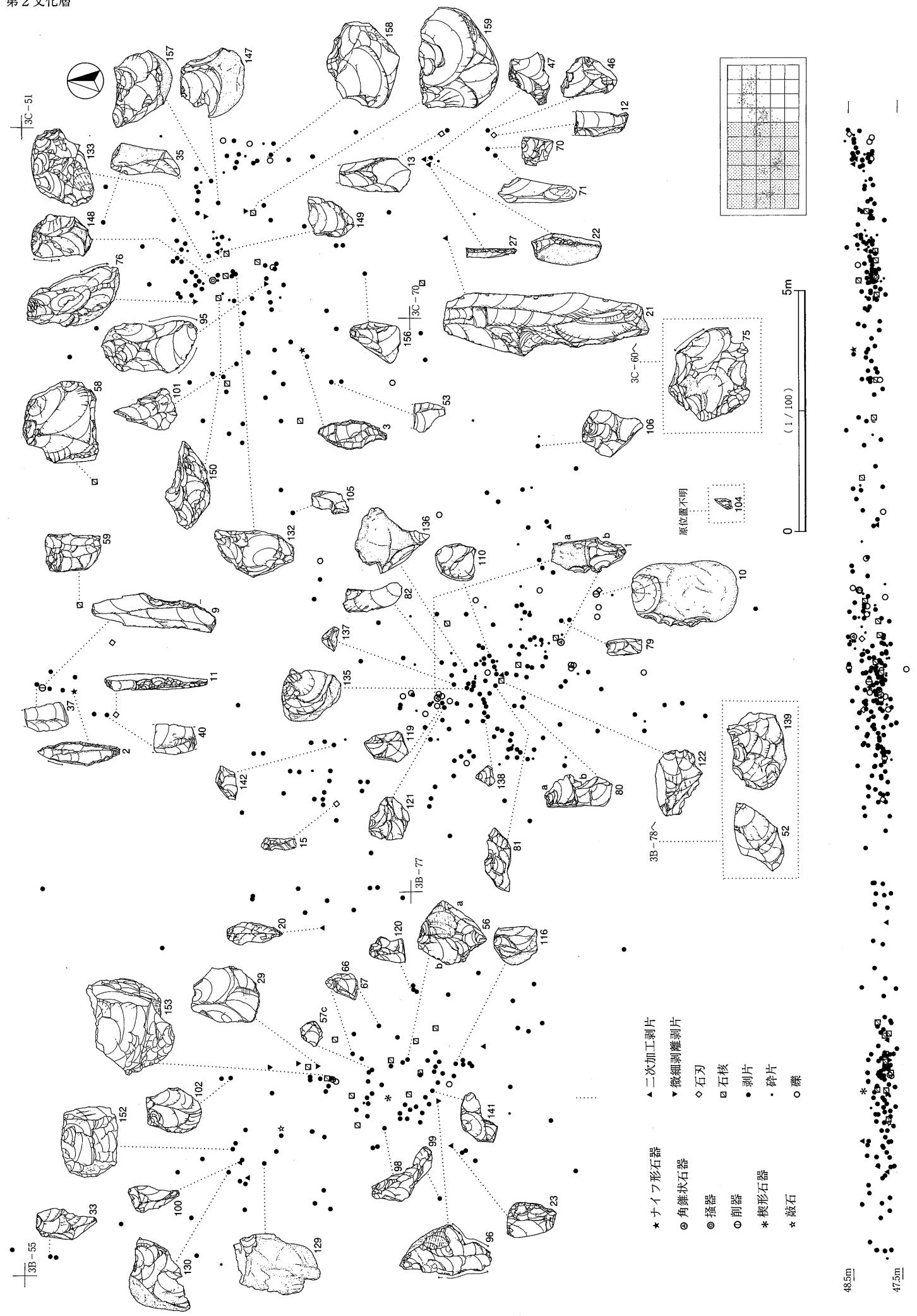
ブロックの内容は、ナイフ形石器8点、角錐状石器2点、削器2点、搔器1点、楔形石器2点、石刃10点、二次加工剥片23点、微細剥離剥片14点、敲石3点、石核40点、剥片632点、碎片166点、礫30点の計933点である。石材は黒色緻密質安山岩23点、トロトロ石28点、流紋岩22点、黒曜石176点、凝灰岩1点、砂岩2点、頁岩26点、硬質頁岩23点、珪質頁岩127点、嶺岡頁岩203点、黒色頁岩22点、粘板岩1点、ホルンフェルス25点、チャート197点、玉髓28点、礫石材は流紋岩2点、凝灰岩1点、砂岩17点、珪質頁岩1点、安山岩6点、ホルンフェルス1点、チャート1点が含まれる。なお、3C-61、70グリッドと210m離れた第14ブロックの間で接合した。

出土遺物 1は黒曜石30の角錐状石器である。中間から横に2つに折れている。厚手の剥片を素材とし、基部側に左右の側縁と表裏から調整加工を加えている。石材は透明感の乏しい黒曜石で、灰白色の夾雜物が入る。

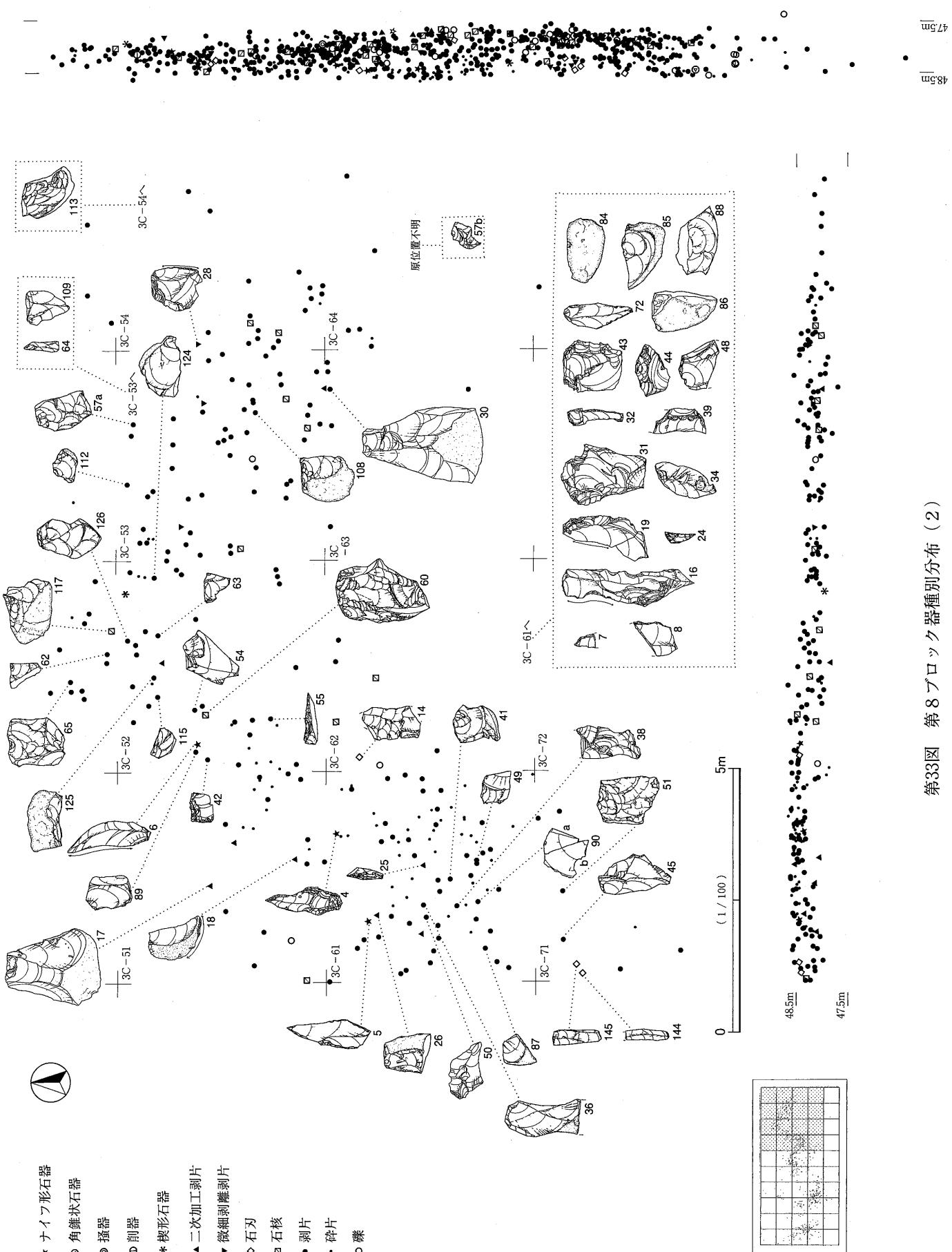
2、3、5、6、8は縦長剥片を素材とするナイフ形石器である。2は両側縁に主に裏面側から調整剥離を加える。右側縁には急角度の剥離を加える。石材は硬質頁岩17で、色調はにぶい灰褐色を呈する。3は弓なりに反った剥片を素材とし、剥片の両側縁に2と同様の調整剥離を加えている。石材は硬質頁岩18で、色調は灰褐色である。4は厚手の剥片を素材とし、両側縁の基部に調整加工を施す。石材は透明感のある灰色を呈する黒曜石25で、夾雜物をほとんど含まない。5は右側縁の基部側には細かな刃こぼれ状の剥離が、左側縁の基部側には裏面側から急角度の剥離を施す黒曜石16を素材とする。色調は透明に近く、灰色の縞が薄く入る。6は左側縁の基部に裏面側から細かな急角度の剥離を加えて調整し、左側縁には刃こぼれ状の細かな剥離痕が残る。右側縁の先端部にも細かな剥離痕が見られる。石材は硬質頁岩9で、色調は暗褐色を呈する。7は透明に近い黒曜石を素材とするナイフ形石器の先端部破片である。右側縁に急角度の調整剥離が施される。8は斜めに折れたナイフ形石器である。右側縁には裏面側からの急角度の調整剥



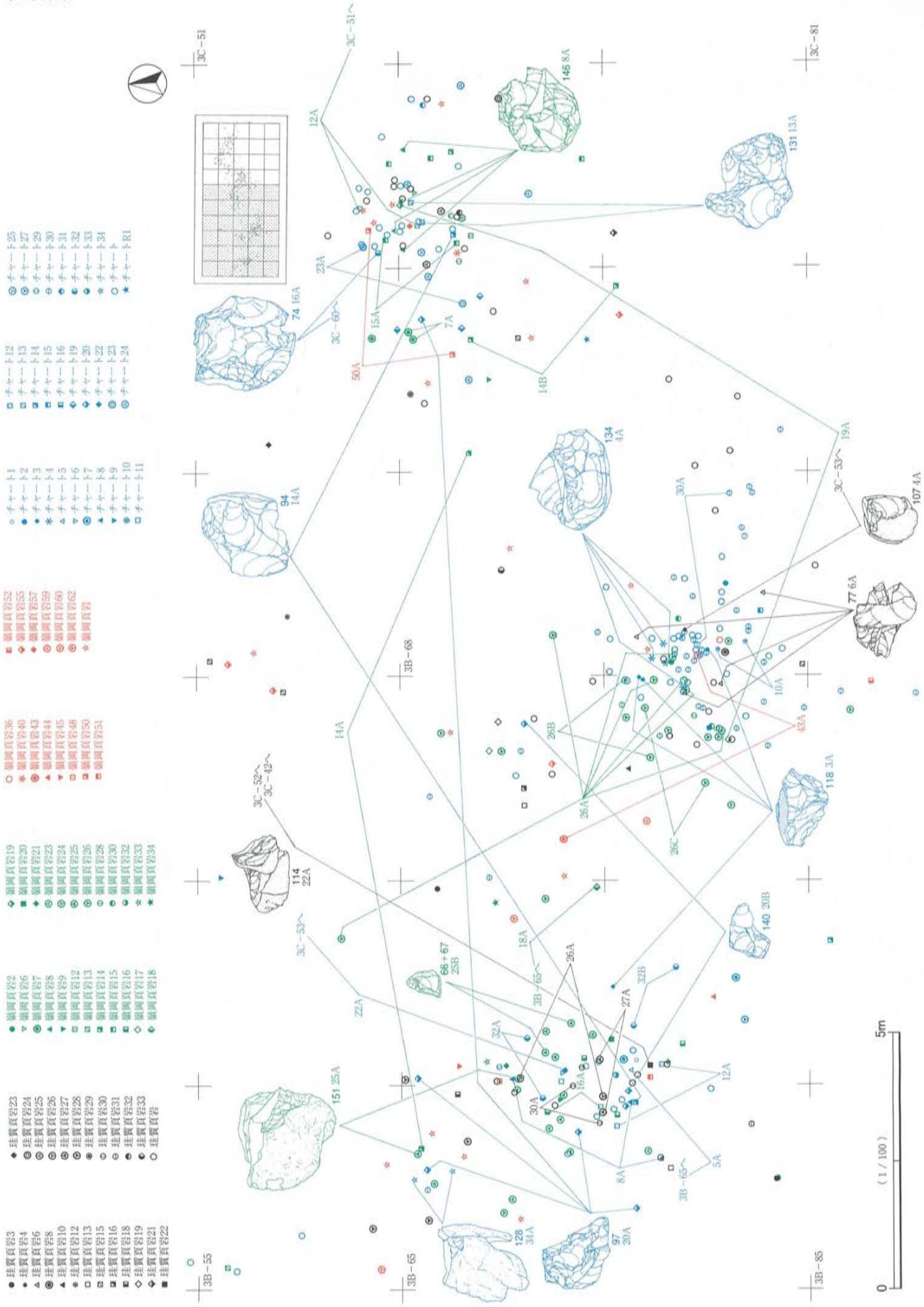
第31図 第8ブロック遺物分布



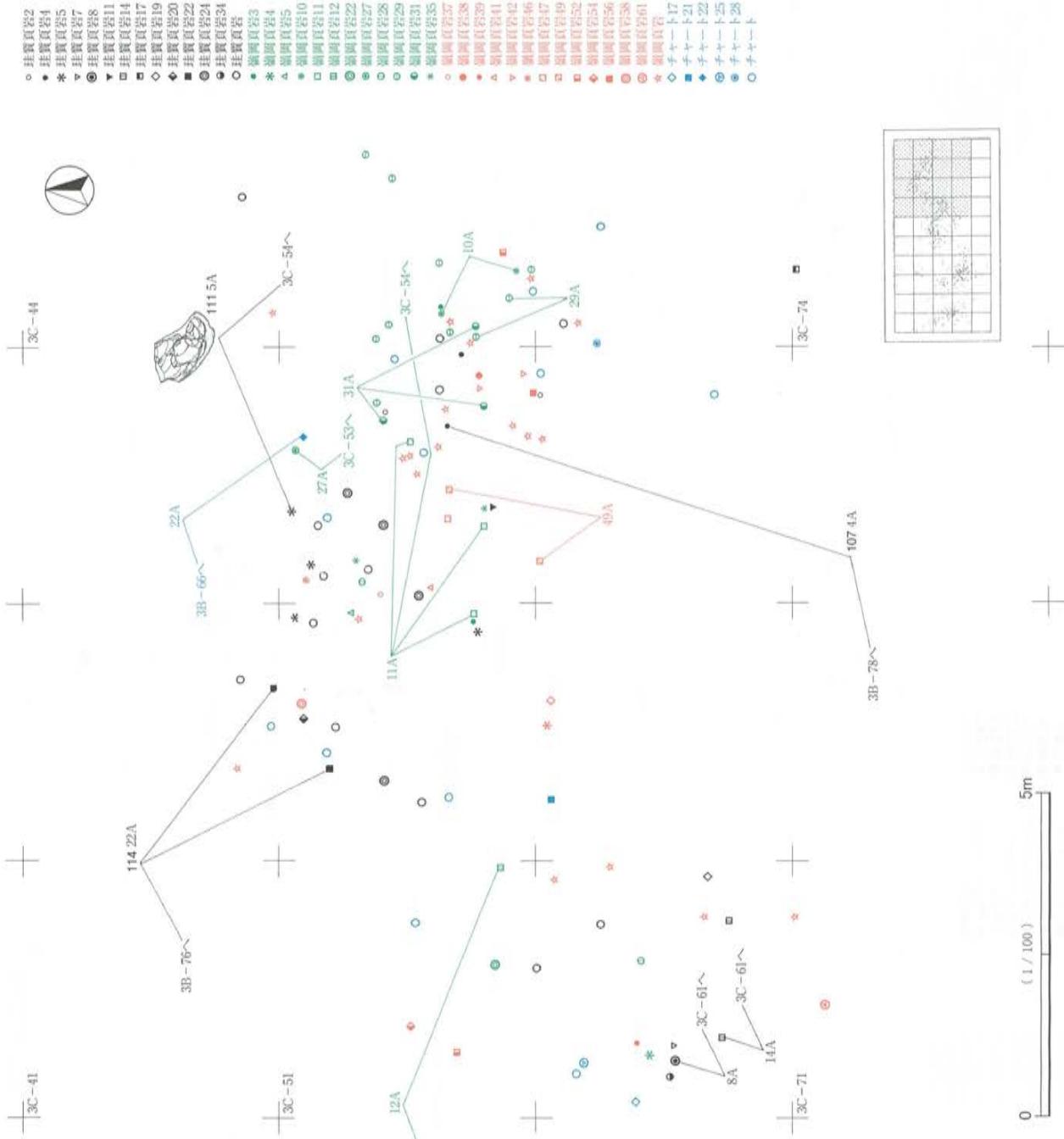
第32図 第8ブロック器種別分布（1）



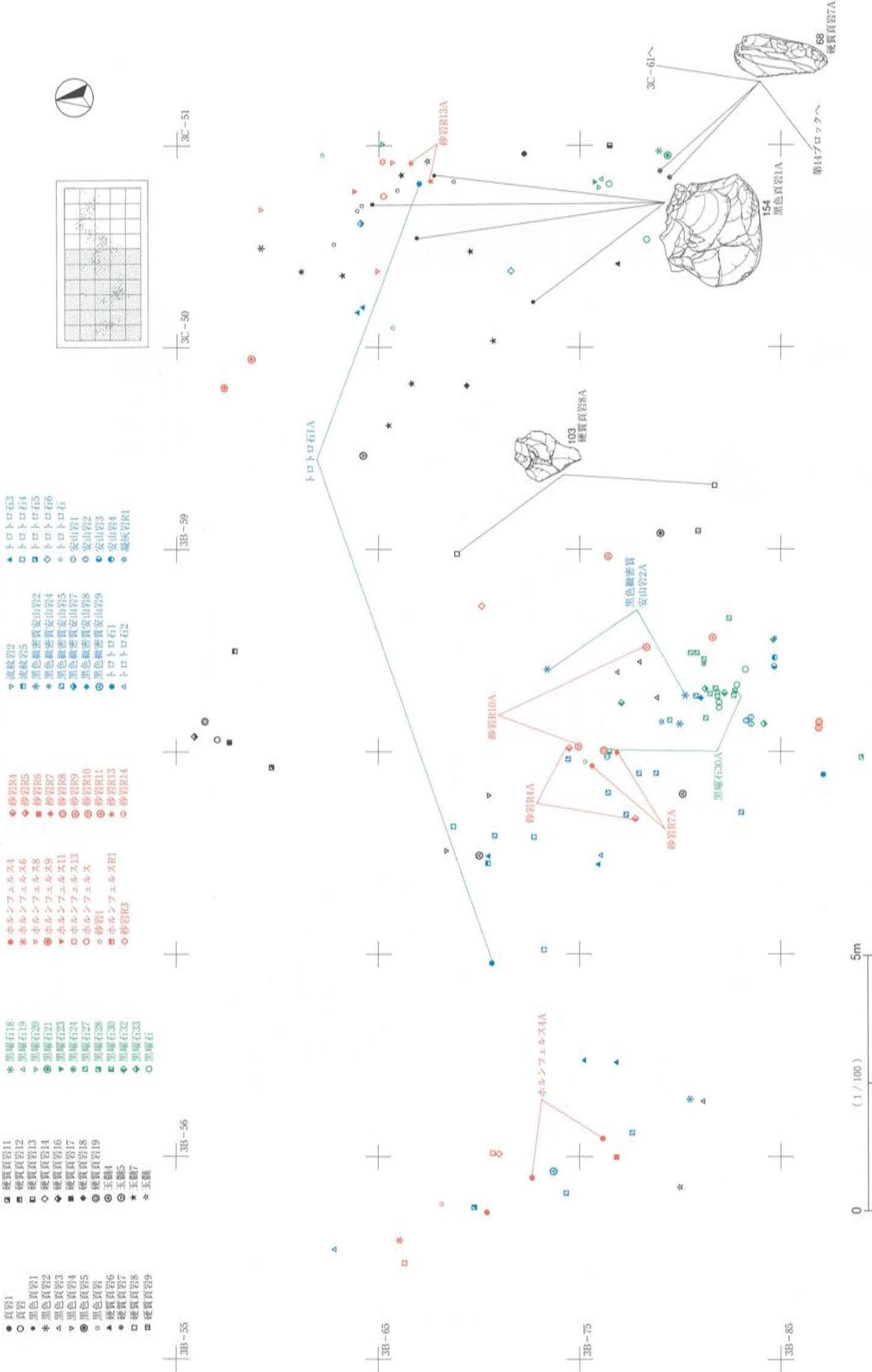
第33図 第8ブロック器種別分布 (2)



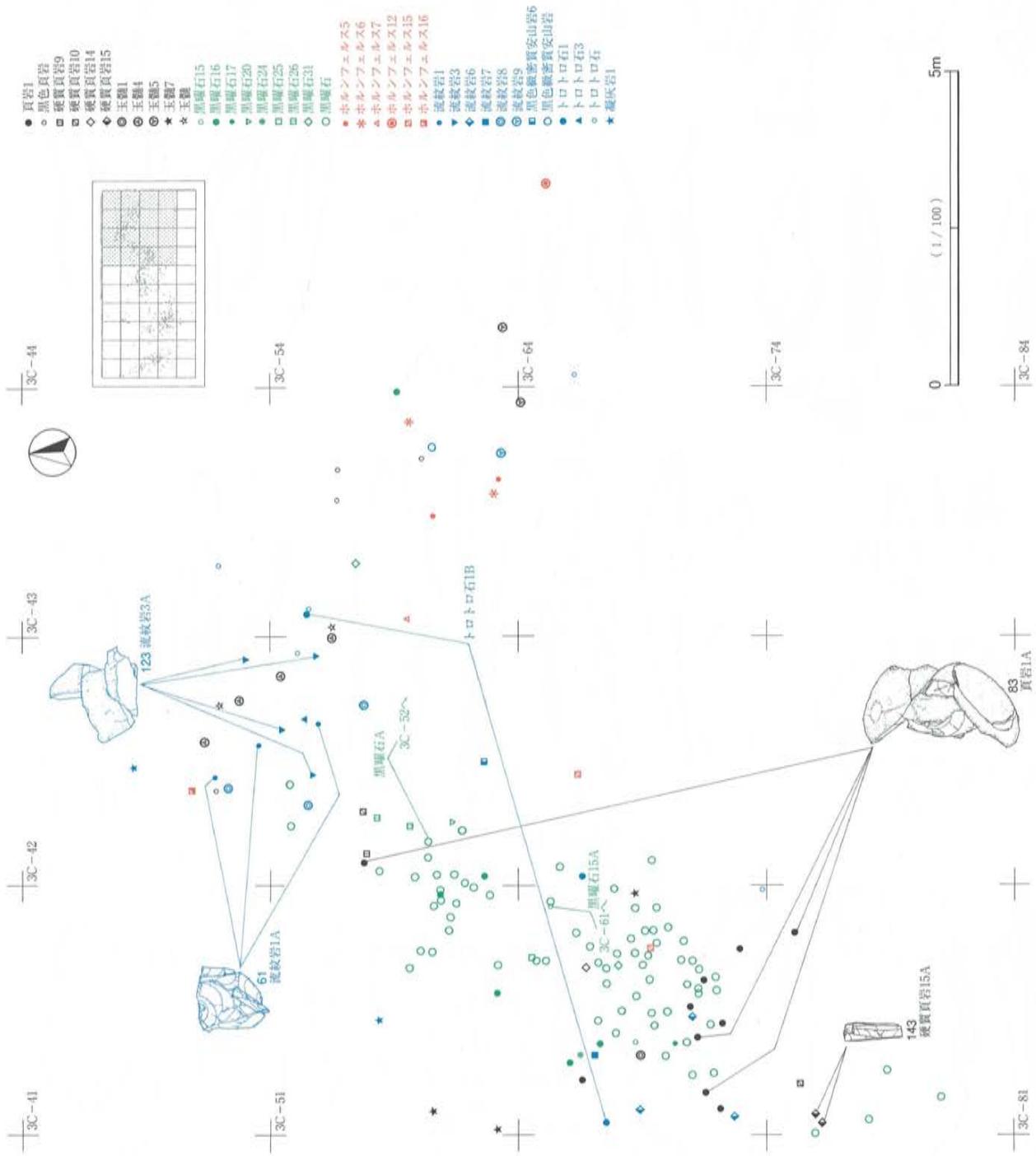
第34図 第8ブロック母岩別分布（1）



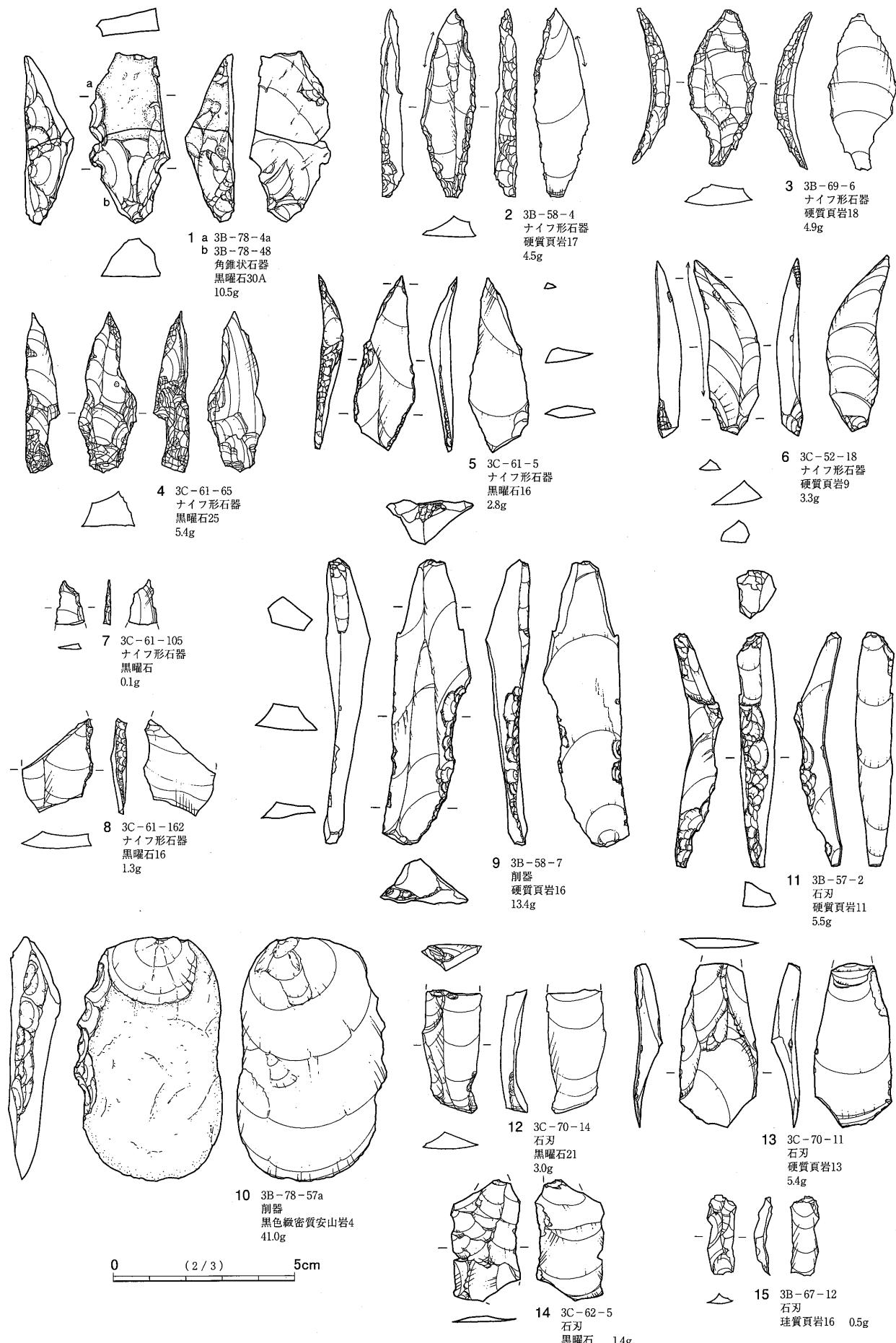
第35図 第8ブロック母岩別分布 (2)



第36図 第8ブロック母岩別分布（3）



第37図 第8ブロック母岩別分布 (4)



第38図 第8ブロック出土石器（1）

離を加えている。石材は黒曜石16である。

9、10は削器である。9は断面が三角形を呈する硬質頁岩の厚手の縦長剥片を素材とし、右側縁の中央から基部にかけて調整加工を加える。また、両端部にも急角度の調整加工が施されていることから彫器のような使用もされたものか。石材は硬質頁岩16で、色調は褐灰色で明褐灰色の斑紋が入る。10は表面に暗灰色を呈する黒色緻密質安山岩4の礫の自然面を残す剥片を素材とし、左側縁に裏面側から剥離を行って、鋸歯状の刃部を作出している。

11～15は石刃である。11は厚手で幅の狭い縦長剥片を素材とした灰褐色を呈し黒褐色の斑紋が入った硬質頁岩11の石刃である。裏面が大きく湾曲している。12、15は断面が三角形を呈する石刃である。12は薄く灰色に濁ったような黒曜石21で、基部が折れている。端部の右側縁部には細かな剥離痕が見られ、擦ったような微細剥離痕も観察される。13、14は断面が扁平を呈する石刃である。13は灰褐色を呈する硬質頁岩13で、左側縁基部の裏面側に剥離痕が見られ、細かな刃こぼれが見られる。14は透明に近い黒曜石である。15は褐灰色を呈する珪質頁岩16の石刃である。

16～27は二次加工剥片である。16は褐灰色を呈する硬質頁岩11の縦長剥片を素材とし、左側縁の基部側に細かい剥離を加える。右側縁には鋸歯状の剥離を加える。17は緑灰色を呈する凝灰岩1の二次加工剥片で、端部に自然面を残し、左側縁の裏面側に剥離を加えている。18は暗褐灰色を呈する嶺岡頁岩22で、左側縁に裏面側から剥離を加え、端部には細かな剥離痕が見られる。19は透明に近く、薄く褐灰色の縞が入る黒曜石16の縦長剥片を素材とする。やや内湾した左側縁の基部側には刃こぼれ状の微細な剥離痕、右側縁の基部には裏面側からの剥離痕が見られる。20は嶺岡頁岩62で、右側縁の先端部に裏面から細かな剥離を加え尖らせている。石材の色調は黄灰色から淡黄色を呈する。21は暗赤褐色を呈する大型の硬質頁岩6の石刃で、両側縁の表裏に細かな剥離痕が見られる。22は表面に礫面を残す黒曜石23の厚手の縦長剥片を素材として、左側縁の裏面側に細かな剥離痕が見られる。23は暗灰色を呈する嶺岡頁岩23を素材とし、右側縁に細かい調整剥離を加える。24、25は透明感のある黒曜石の剥片で、24は右側縁の表裏面側に、25は左側縁の表面に細かな剥離痕が見られる。26は透明感のある黒曜石24の剥片で、左右両側縁の裏面側に細かな刃こぼれ状の加工を施す。27は断面が台形状を呈する黒曜石20の縦長剥片である。右側縁に急角度の細かな加工を施し、左側縁の裏面側には微細な剥離痕が見られる。色調はくすんだ透明感のある薄い灰色を呈する。

28、29は微細剥離剥片である。28は褐灰色の地に黄褐色が混じる嶺岡頁岩29の剥片を素材とし、右側縁の表面側に微細な剥離痕が見られる。29は暗褐灰色を呈する嶺岡頁岩21の剥片を素材とし、端部から左側縁にかけての表面側に細かな剥離痕がみえ、その剥離痕には使用によると思われる光沢を有する。

30～57は剥片である。30は厚手の珪質頁岩2の剥片で、端部に礫の自然面が残り、表面には主に上方からの剥離痕が残る。石材の色調は表皮はにぶい黄褐色、内面は淡黄褐色を呈する。31は暗褐色を呈する硬質頁岩10の剥片である。32は透明感のある黒曜石16の縦長剥片で、右側縁には急角度の微細剥離痕が連続する。37と40は暗緑灰色を呈する珪質頁岩15の剥片である。37の左側縁の裏面側には微細な剥離痕があり基部を欠く。39は断面が三角形を呈する透明感のある黒曜石16の剥片である。中央の稜から左側縁に向かって細かな剥離が加えられている。41～43はくすんだ透明感のある黒曜石の剥片である。41は端部に礫の自然面を残し、打面には細かな剥離痕が見られる。42は表面側に打面調整痕と思われる剥離痕を残す剥片である。43は左側縁の裏面側をガジリとして図示したが、急角度の細かい剥離の可能性がある。44は透明

感のある黒曜石22を素材とする剥片で、表面に打面調整痕が残る。45は暗褐色を呈する硬質頁岩10の剥片である。右側縁の中央部に微細な剥離痕が残り、左側縁には微細な刃こぼれが観察できる。46～49はくすんだ透明感のある黒曜石の不定型な剥片である。46は黒曜石18、47は黒曜石19、48は黒曜石16、黒曜石その他のである。50は淡黄褐色を呈する玉髓1の剥片である。51は黄灰色と暗黄灰色が混じる嶺岡頁岩61の剥片である。52はチャート30の剥片である。石材の色調は暗青灰色を呈し、黒灰色の縞が入る。右側縁は節理面で割れている。54は暗赤褐色を呈する硬質頁岩10の不定型な剥片である。55は断面が三角形の細長い黒曜石20の剥片で、一方の稜には連続して細かな剥離痕が残る。56a、bは2片に斜めに割れて出土した灰色を呈する珪質頁岩27の剥片である。鉱物の組成が不均一で、節理面のある素材である。57a、b、cはチャート22の剥片である。

58～60は石核である。58は暗赤褐灰色を呈する珪質頁岩23の石核で、打点を周回させながら不定型の剥片を生産している。59は暗赤褐色を呈する硬質頁岩12の石核である。図の上下の面を打面として縦長剥片を生産している。60は均一に薄墨を流したような、僅かに透明感を残し径5mm～7mmの灰色の夾雜物が入る黒曜石26の石核である。図の上下の面を打面として59と同様に剥片の剥離を行っている。

61(62～65)は灰色を呈する流紋岩1の接合資料である。62～64は61に接合した不定型の剥片である。65は厚手の剥片である。表面には上下方向からの剥離痕が見られる。

66+67は嶺岡頁岩25、剥片2点の接合資料である。

68(70～73)は暗赤褐色を呈する硬質頁岩7の同一の打面から連続して縦長剥片を剥離している接合資料である。69(70+71)は基部が折れた剥片である。72は両側縁の端部側の下半の表裏に微細な剥離のある剥片である。73は二次加工剥片で、右側縁の基部側の裏面側に側縁から細かな剥離を加えている。この1点は210mほど離れた7Y-45グリッドの第14ブロックから出土した。

74(75+76)は暗灰色を呈するチャート16の接合資料である。75、76は厚手で大型の不定型な剥片で、75は右側縁の基部側の表裏に、76は右側縁の端部にそれぞれ微細な剥離痕が観察できる微細剥離剥片である。

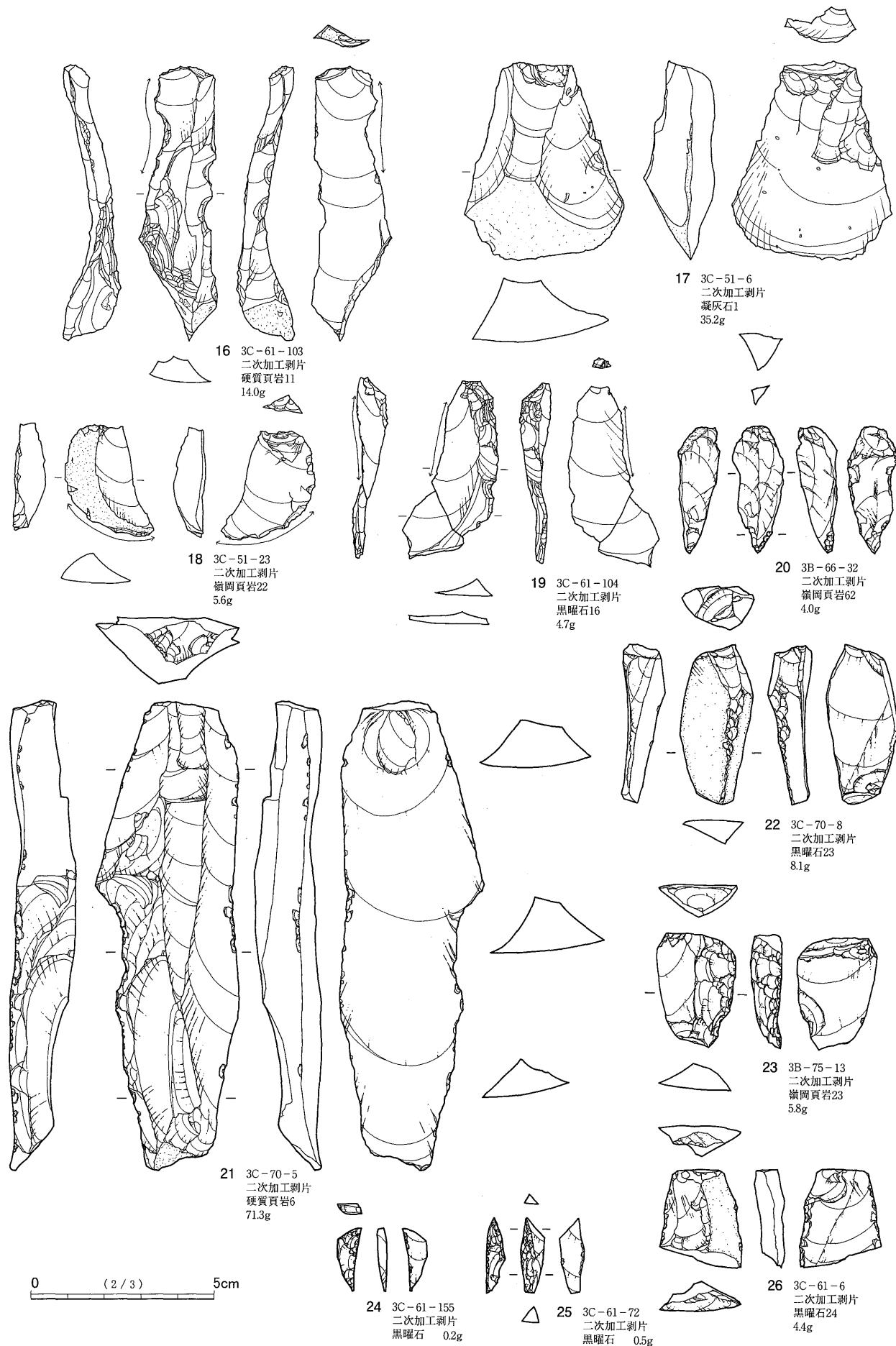
77(79～82)、78(79～81)は黄褐色を呈する珪質頁岩6の接合資料である。77は4片の接合、78は77から82を分離した図である。79、80a、b、82は縦長剥片である。80は横に二つに折れている。81は不定型な横長剥片である。82の表面には裏面とは逆方向からの剥離痕が見られる。79、80は横方向からの加撃によって、81、82は上方向からの加撃によって剥離されている。

83(84～91)は表面が黒褐色で内面が灰黄色で暗黄灰色の縞が入る頁岩1の接合資料である。原石は拳大の円礫と思われ、表面には礫の自然面が大きく残り、不定型な剥片が生産されている。84は表面が自然面の剥片である。85は二次加工剥片で、右側縁から端部にかけて裏面に細かな調整加工を施す。86～90は剥片である。92(84+85+87)は3片の接合資料である。93(88+89)は2片の接合資料である。

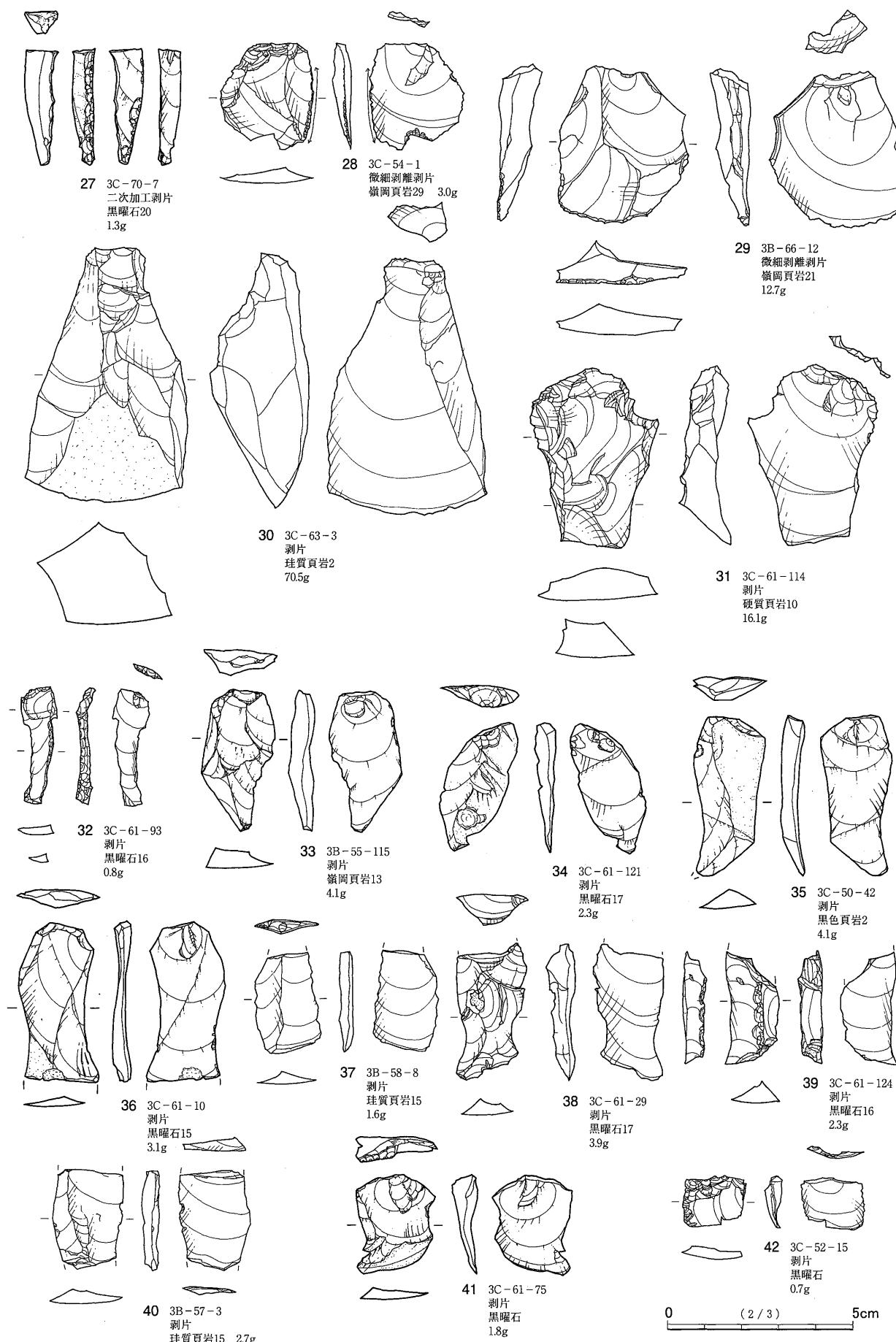
94(95+96)は暗灰色を呈するチャート14の接合資料である。95は断面が三角形を呈する厚手で大型の縦長剥片である。礫の自然面を打面として剥離している。端部の両側縁には刃こぼれ状の微細な剥離がある。96は95と同一の打面から剥離された縦長剥片である。両側縁の端部に微細な剥離痕が見られる。

97(98～102)は暗灰色を呈するチャート20の接合資料で、5片が接合した。上端の自然面をわずかに残す平坦な面を打面として打点を少しづつ移動しながら剥離を行っている。100は縦長の不定型な剥片で、左側縁の裏面側に細かな二次加工を施す。102がこの接合資料中では最後に剥離された剥片である。

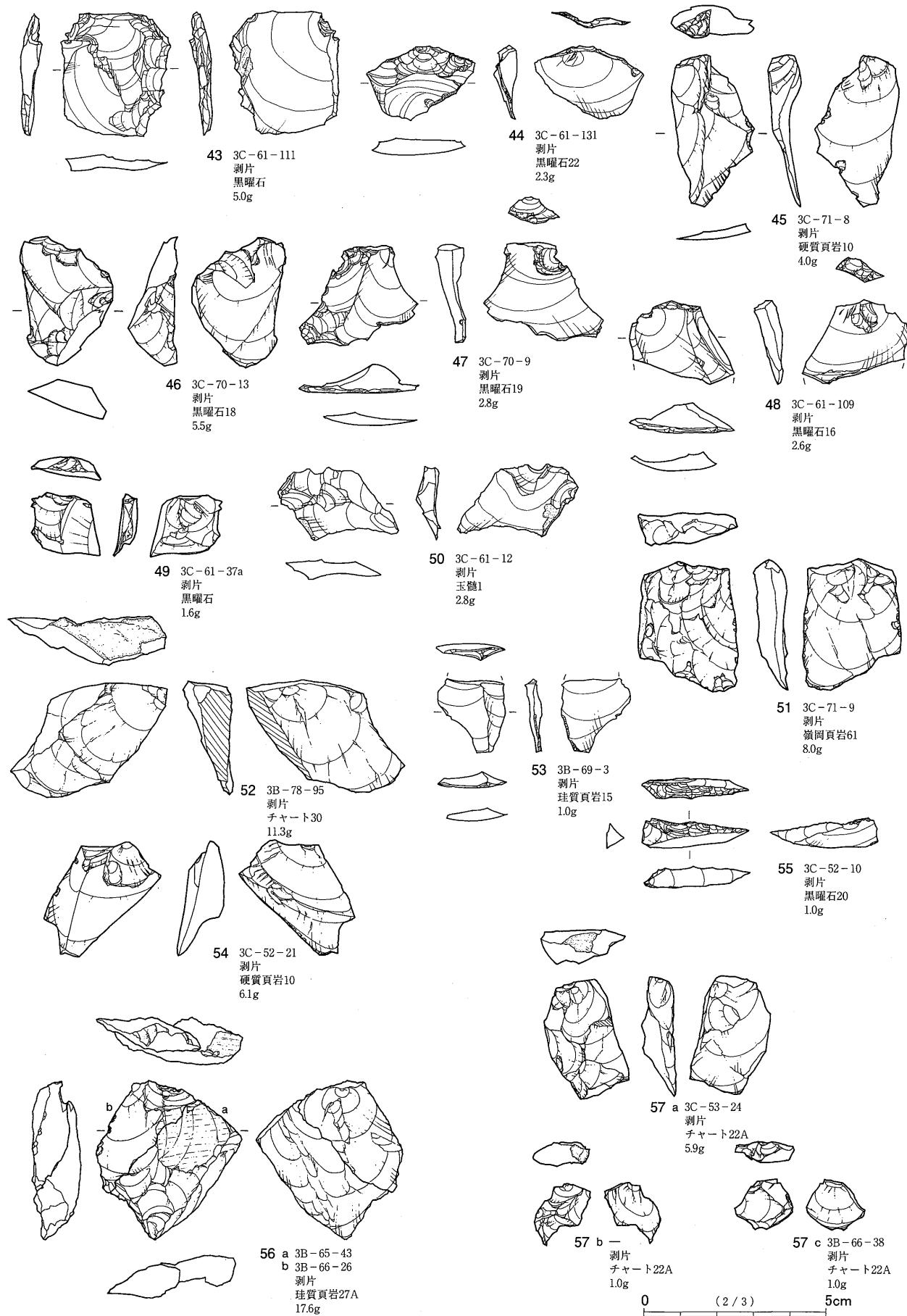
103(104～106)は暗赤褐色を呈する硬質頁岩8の剥片である。3片が接合した。



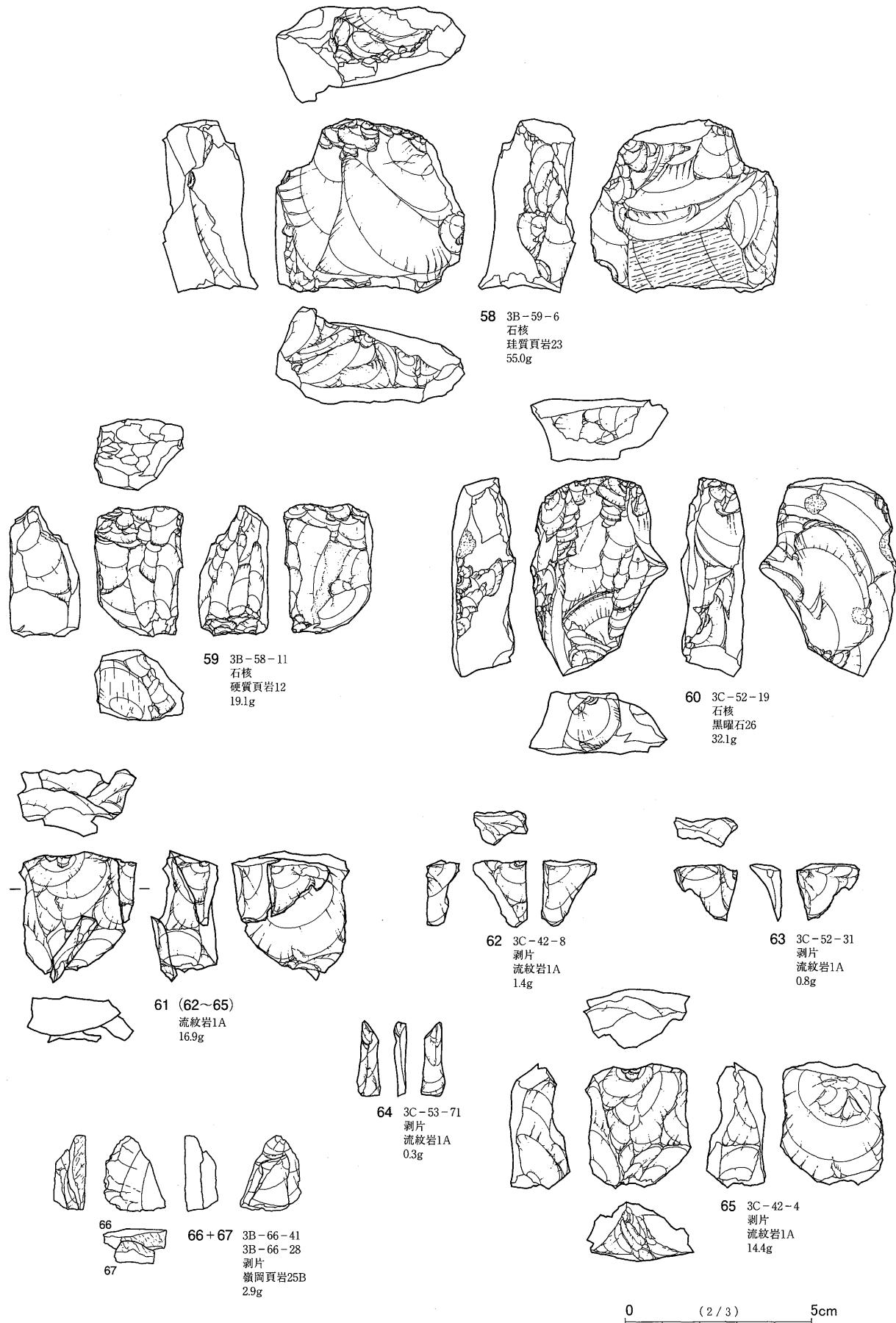
第39図 第8ブロック出土石器 (2)



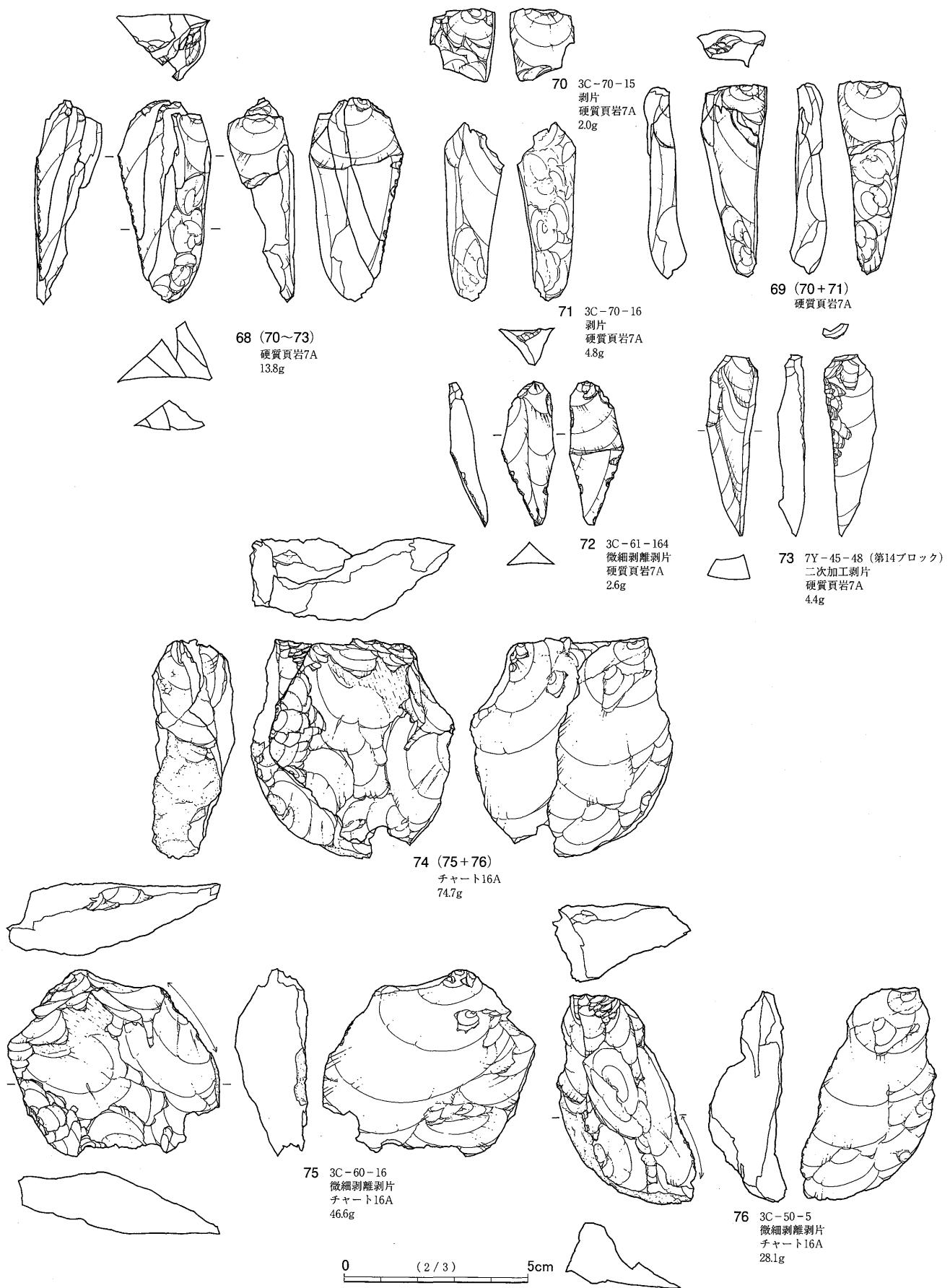
第40図 第8ブロック出土石器 (3)



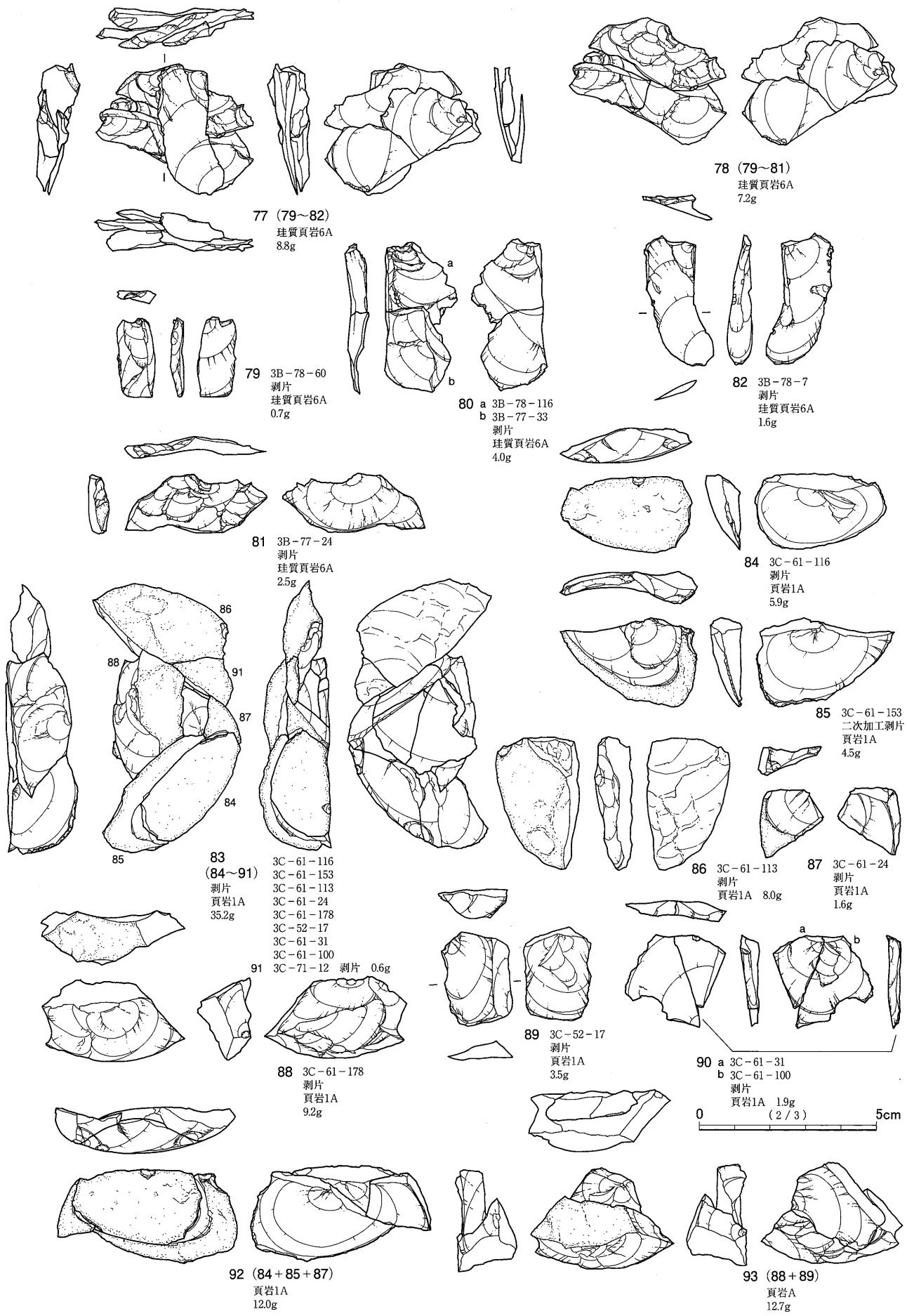
第41図 第8ブロック出土石器(4)



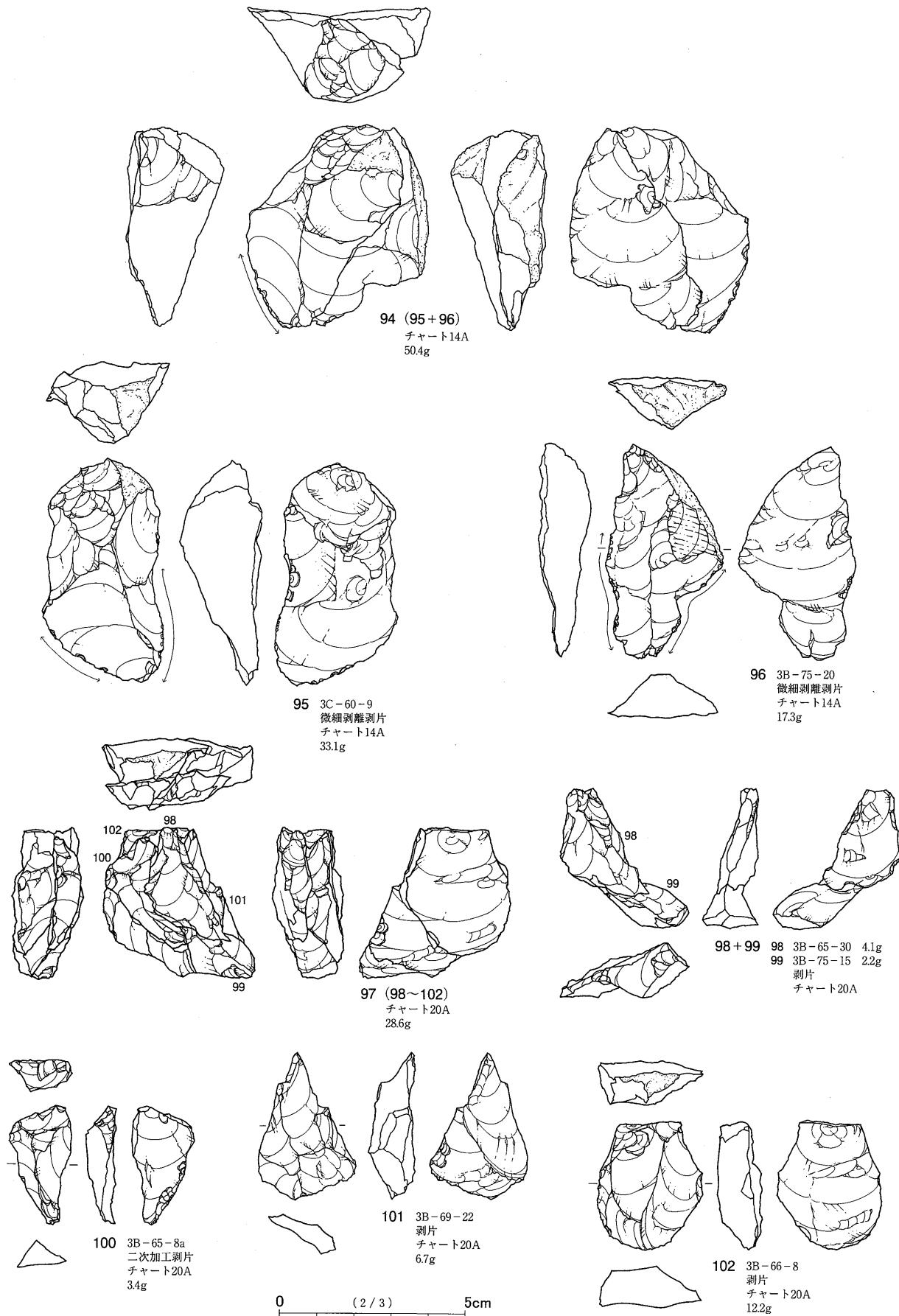
第42図 第8ブロック出土石器（5）



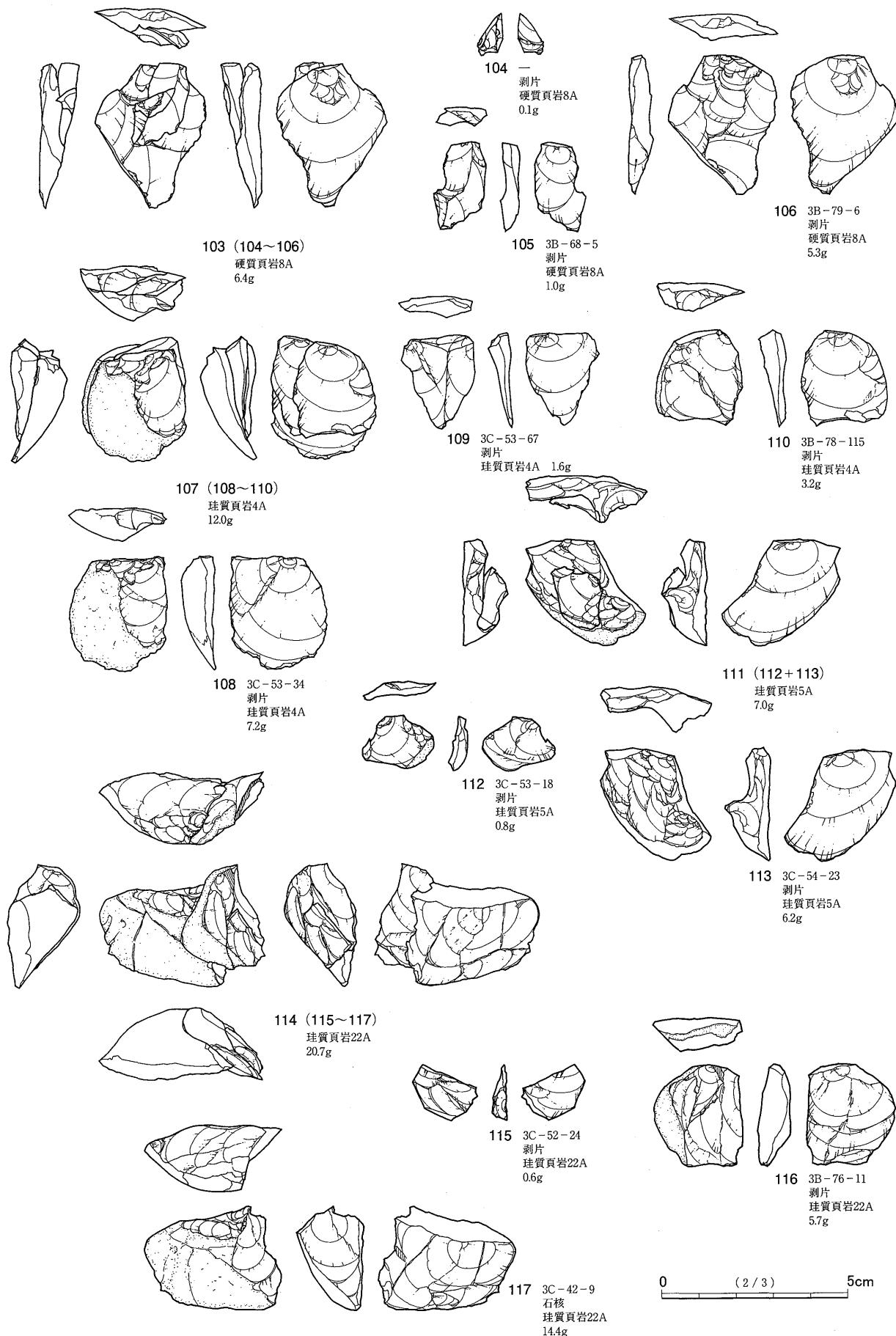
第43図 第8ブロック出土石器（6）



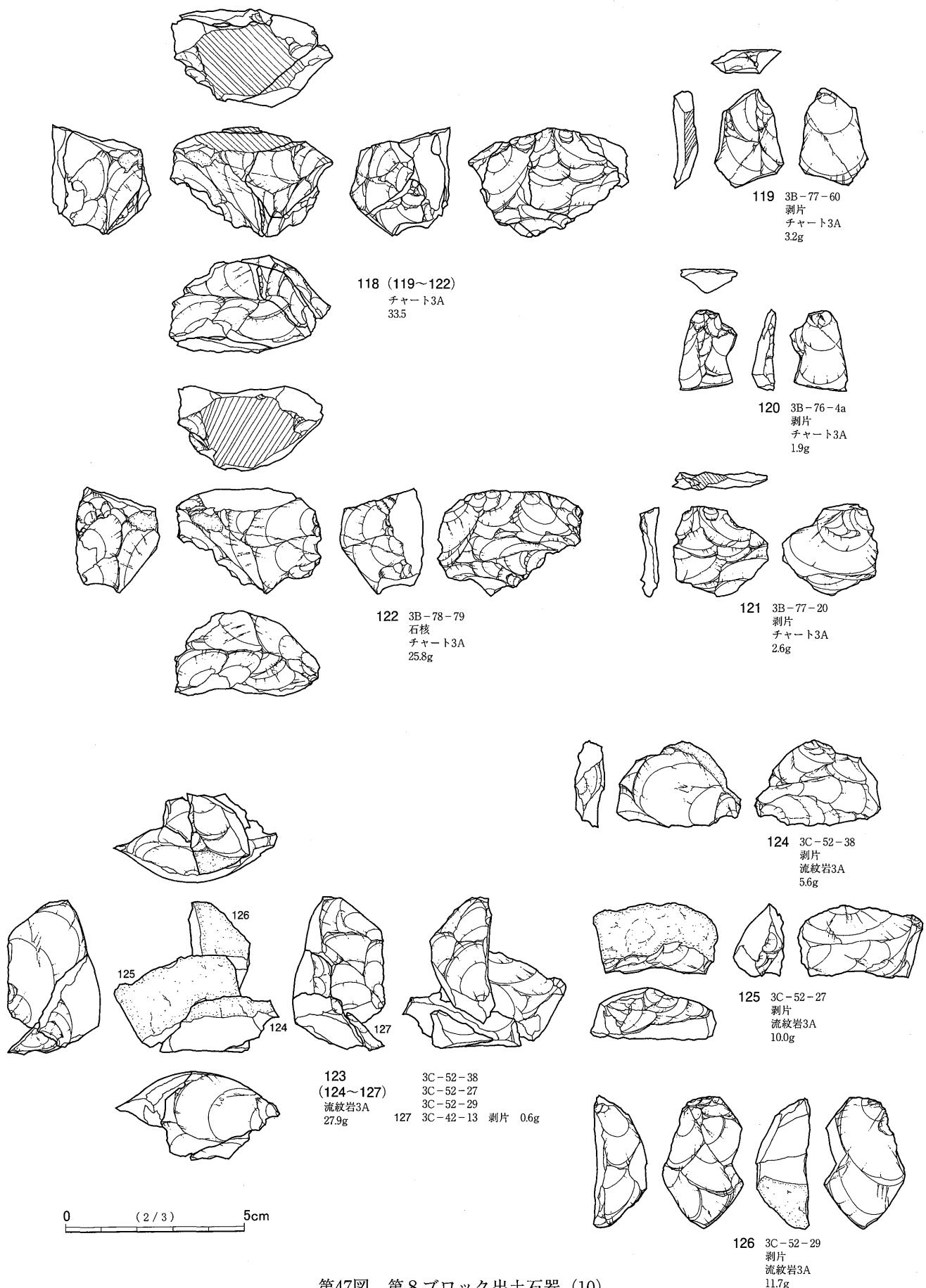
第44図 第8ブロック出土石器 (7)



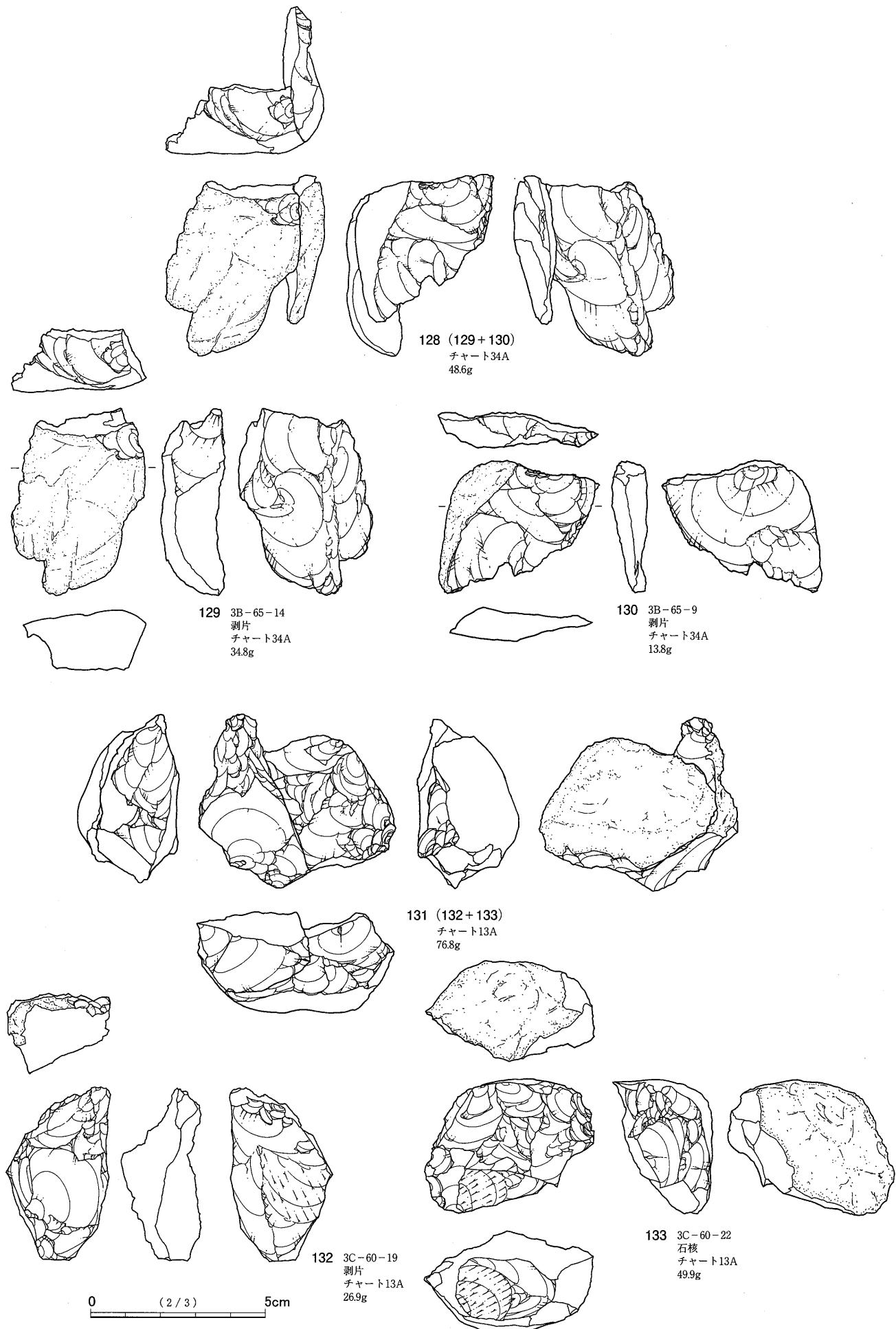
第45図 第8ブロック出土石器(8)



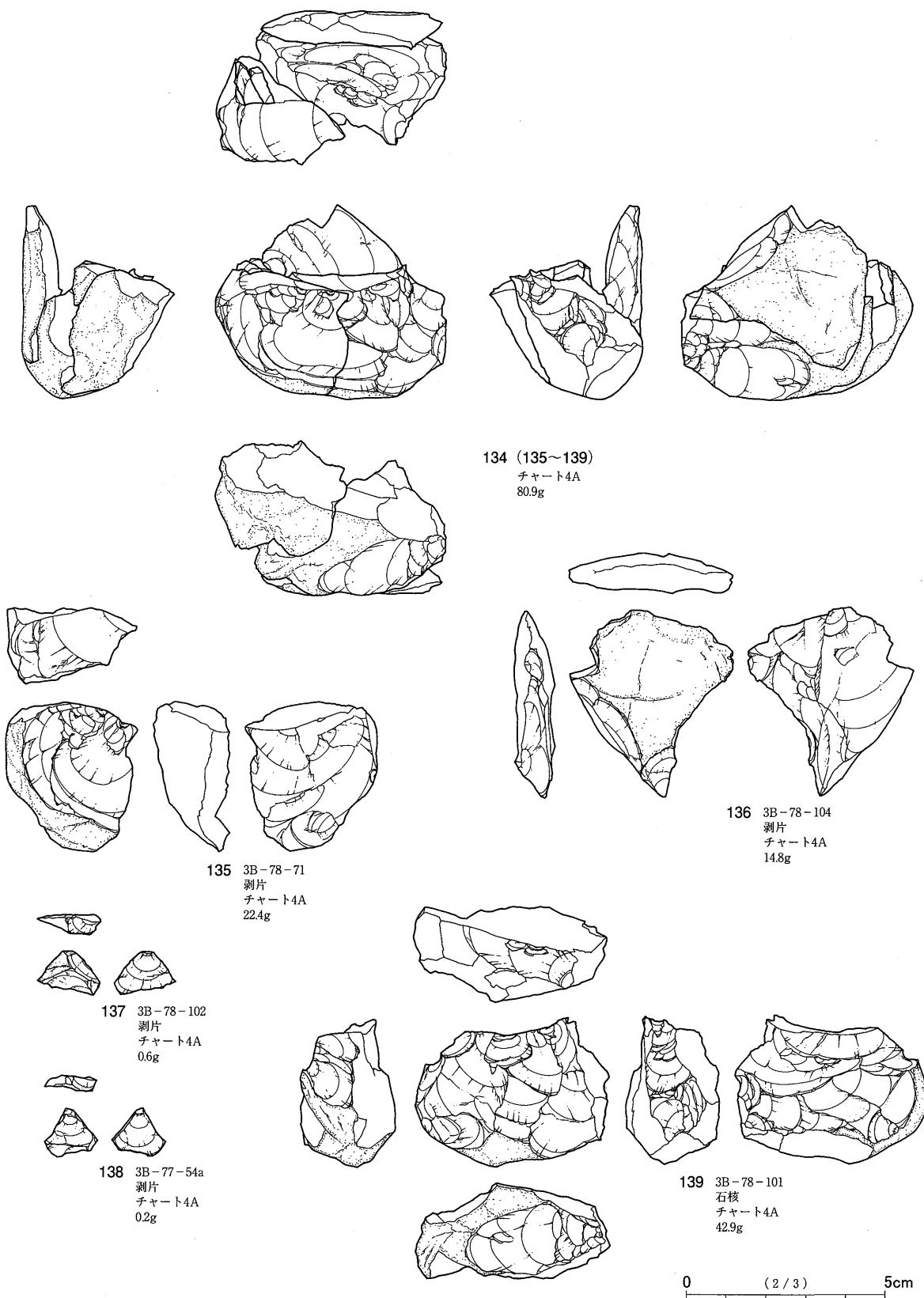
第46図 第8ブロック出土石器（9）



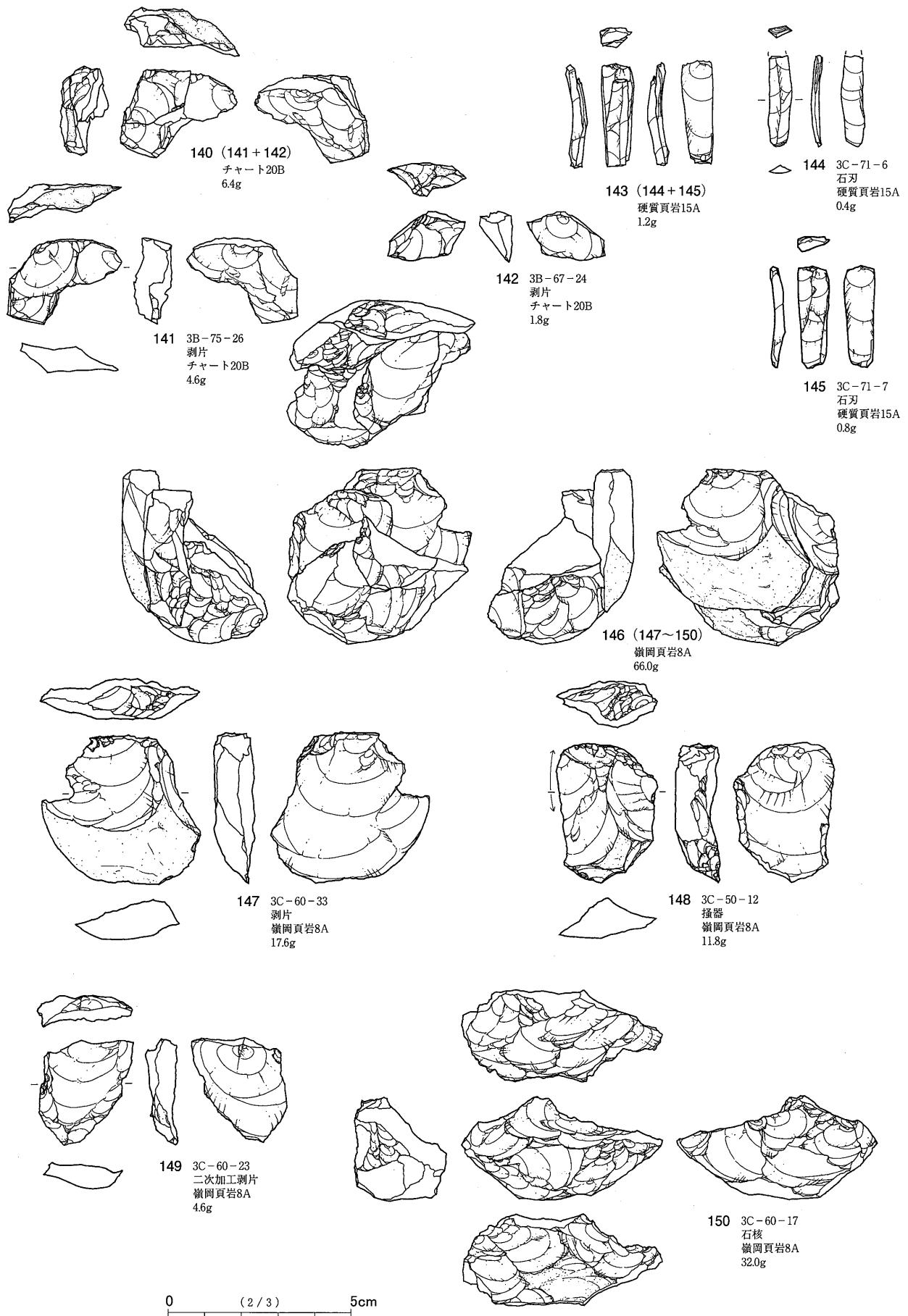
第47図 第8ブロック出土石器 (10)



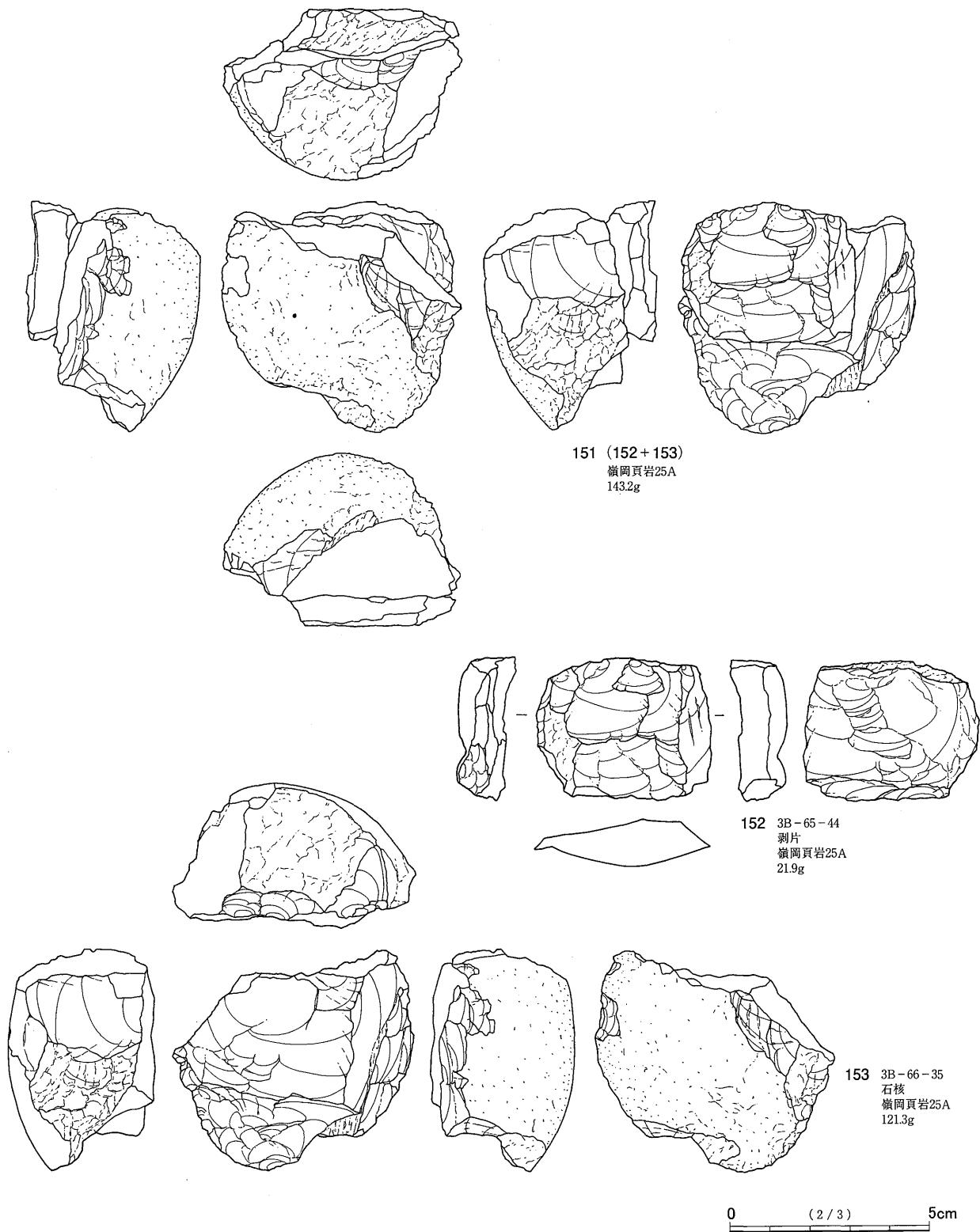
第48図 第8ブロック出土石器 (11)



第49図 第8ブロック出土石器 (12)

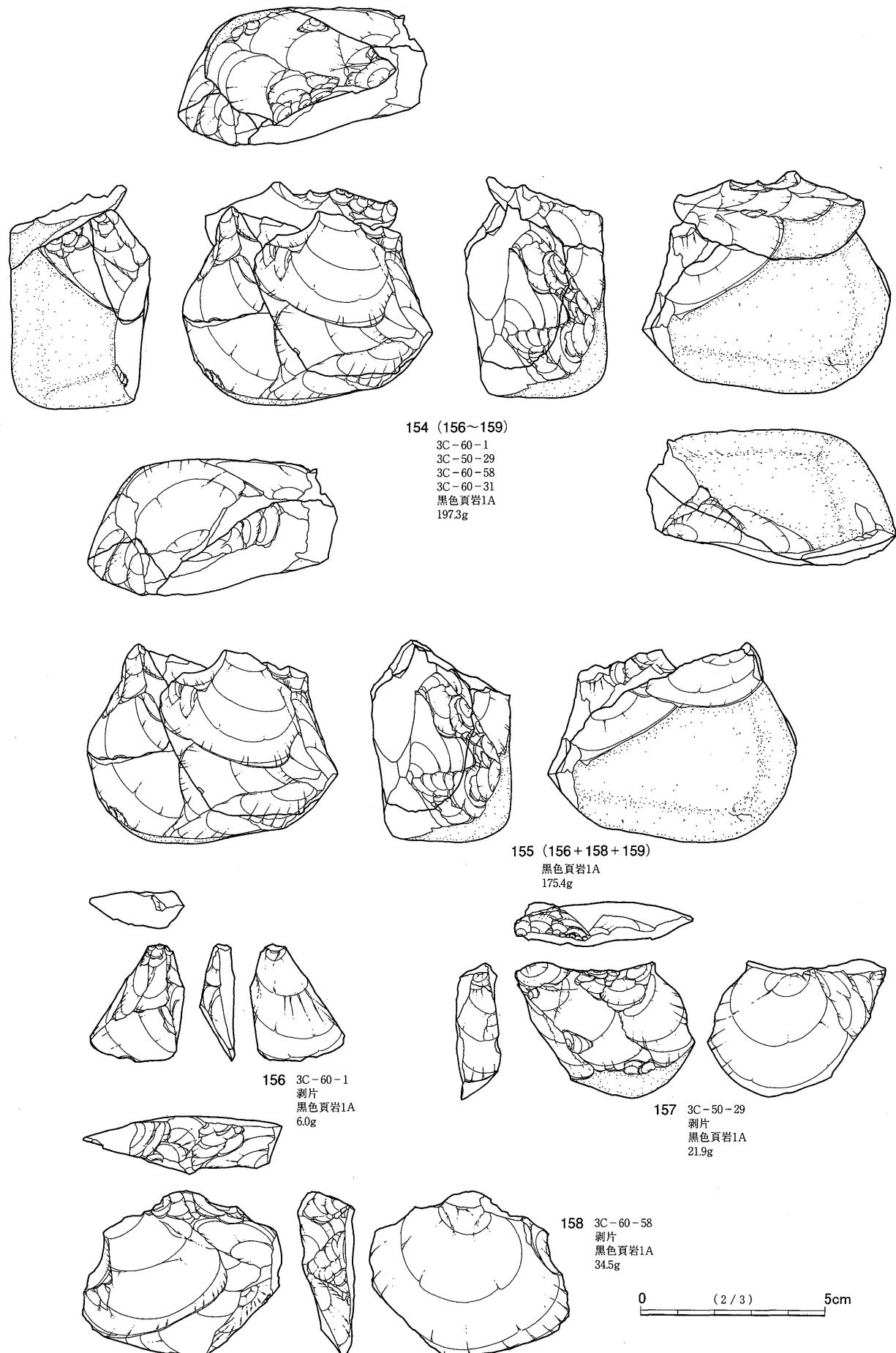


第50図 第8ブロック出土石器 (13)

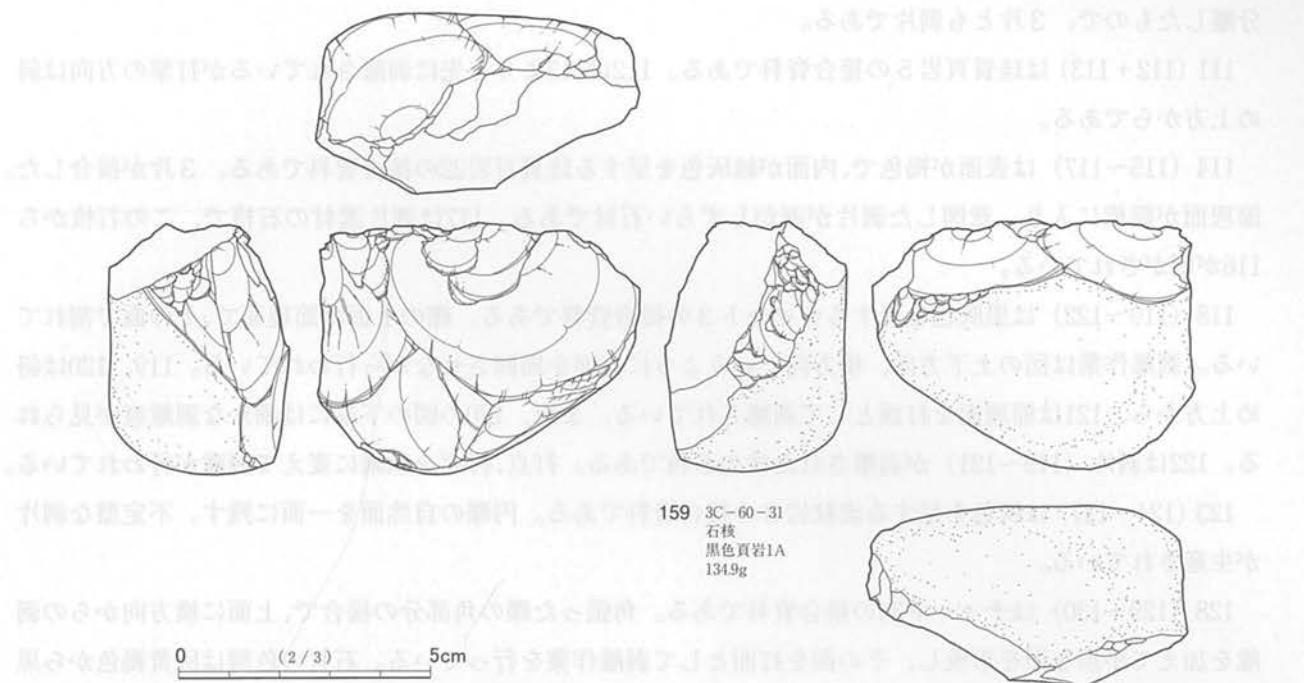


第51図 第8ブロック出土石器 (14)

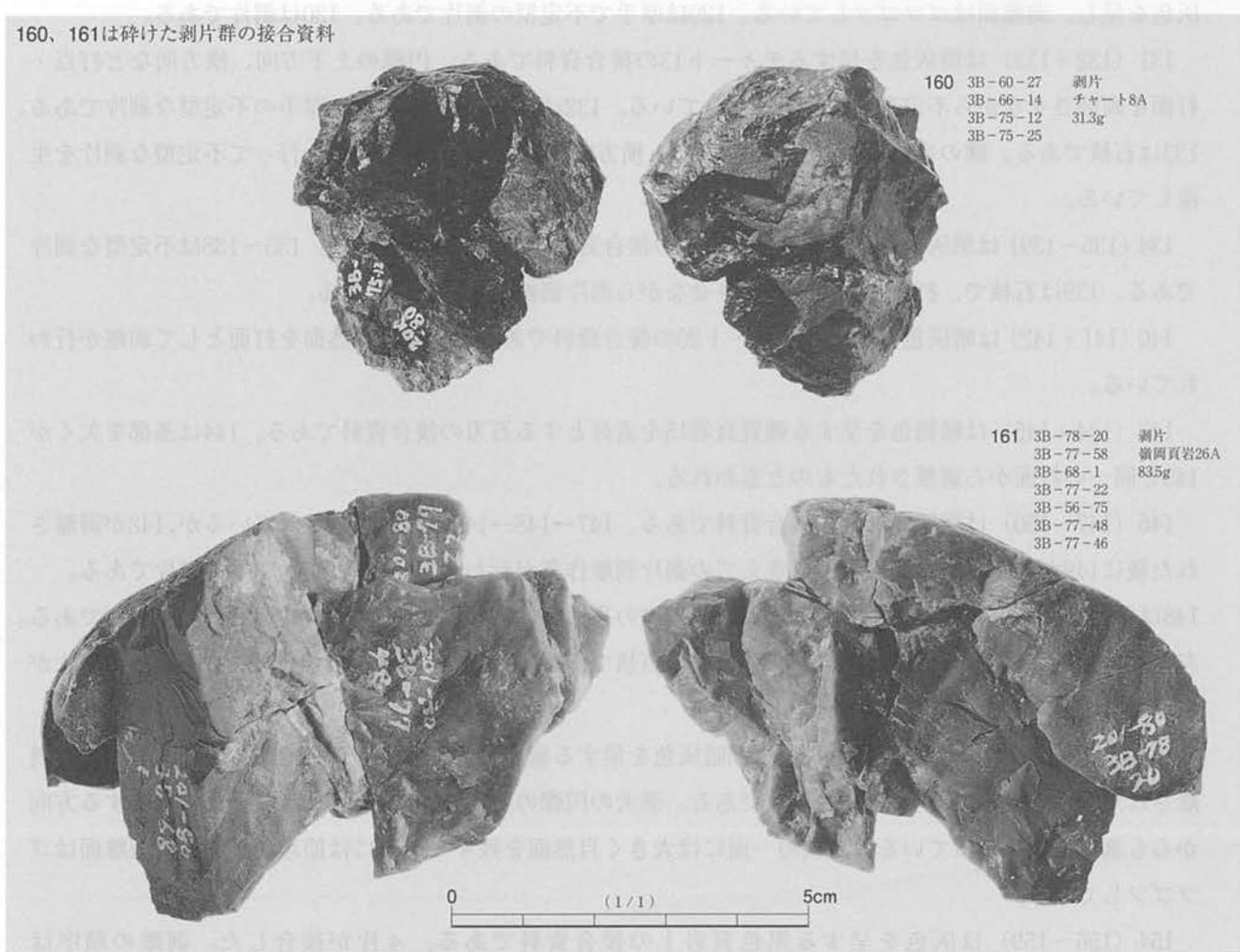
107 (108~110) は黄褐色を呈する珪質頁岩 4 の接合資料である。小円盤の一端に横位からの打撃を加えて平坦な打面を作出し、その打面を作業面として連続して剥離作業を行っている。108~110は107を单体に



第52図 第8ブロック出土石器 (15)



160、161は碎けた剥片群の接合資料



第53図 第8ブロック出土石器（16）

分離したもので、3片とも剥片である。

111 (112+113) は珪質頁岩5の接合資料である。112は113よりも先に剥離されているが打撃の方向は斜め上方からである。

114 (115~117) は表面が褐色で、内面が緑灰色を呈する珪質頁岩22の接合資料である。3片が接合した。節理面が縦横に入り、意図した剥片が剥がしづらい石材である。117は剥片素材の石核で、この石核から116が剥がされている。

118 (119~122) は黒灰色を呈するチャート3の接合資料である。礫の上面は節理面で、その面で割れている。剥離作業は図の上下方向、横方向というように打面を周回させながら行われている。119、120は斜め上方から、121は節理面を打面として剥離されている。また、120の図の下端には細かな剥離痕が見られる。122は剥片 (119~121) が剥離された後の石核である。打点、打面を頻繁に変えて剥離が行われている。

123 (124~127) は灰色を呈する流紋岩3の接合資料である。円礫の自然面を一面に残す。不定型な剥片が生産されている。

128 (129+130) はチャート34の接合資料である。角張った礫の角部分の接合で、上面に横方向からの剥離を加えて平坦な面を形成し、その面を打面として剥離作業を行っている。石材の色調は灰黄褐色から黒灰色を呈し、剥離面はゴツゴツしている。129は厚手で不定型の剥片である。130は剥片である。

131 (132+133) は暗灰色を呈するチャート13の接合資料である。円礫の上下方向、横方向など打点・打面を周回させながら不定型の剥片を剥離している。132は133から剥離された厚手の不定型な剥片である。133は石核である。礫の自然面を一面に多く残し、横方向、縦方向から剥離作業を行って不定型な剥片を生産している。

134 (135~139) は黒灰色を呈するチャート4の接合資料で、5片が接合した。135~138は不定型な剥片である。139は石核で、打面・打点を周回させながら剥片剥離作業を行っている。

140 (141+142) は暗灰色を呈するチャート20の接合資料である。円礫の自然面を打面として剥離が行われている。

143 (144+145) は暗褐色を呈する硬質頁岩15を素材とする石刃の接合資料である。144は基部を欠くが145と同一の打面から剥離されたものと思われる。

146 (147~150) は嶺岡頁岩8の接合資料である。147→148→149の順に剥離されているが、148が剥離された後に149が剥離される間に打面を変えての剥片剥離作業が行われている。147は厚手の剥片である。148は搔器である。厚手の剥片を素材とし、両側縁の裏面側に調整加工を施す。149は二次加工剥片である。左側縁の中ほどに粗い調整加工を加える。150は石核である。打点・打面を周回させながら不定型の剥片が生産されている。

151 (152+153) は表面は灰褐色で内面が暗灰色を呈する嶺岡頁岩25の接合資料である。152は153から剥離された厚手の剥片である。153は石核である。拳大の円礫の上下両面に打面を設け、それに直交する方向からも剥離作業を行っている。石核の一面には大きく自然面を残す。原石には節理面があり、剥離面はゴツゴツしている。

154 (156~159) は灰色を呈する黒色頁岩1の接合資料である。4片が接合した。剥離の順序は157→158→156の順で、157を剥離した後にその剥離面を打面として158と156を剥離している。159は石核である。角の張った円礫で、片面に自然面を大きく残す。掲載図上面の表裏から交互に剥片を剥いでいる。

第8表 第8ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	ナイフ形石器	角錐状石器	削器	搔器	楔形石器	石刃	二次加工剥片	微細剥離剥片	敲石	石核	剥片	碎片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比		
黒色緻密質安山岩 2											5			5	13.0	0.5%	0.2%		
黒色緻密質安山岩 3											1			1	1.9	0.1%	0.0%		
黒色緻密質安山岩 4														1	41.0	0.1%	0.5%		
黒色緻密質安山岩 5											7	3		10	12.8	1.1%	0.2%		
黒色緻密質安山岩 6											1			1	2.1	0.1%	0.0%		
黒色緻密質安山岩 7											1			1	4.6	0.1%	0.1%		
黒色緻密質安山岩 8											1	1		2	0.7	0.2%	0.0%		
黒色緻密質安山岩 9														1	5.4	0.1%	0.1%		
黒色緻密質安山岩 10													1	1	0.4	0.1%	0.0%		
トロトロ石1													4	4	72.2	0.4%	0.9%		
トロトロ石2											2			2	16.6	0.2%	0.2%		
トロトロ石3											9			9	55.0	1.0%	0.7%		
トロトロ石4											3			3	8.1	0.3%	0.1%		
トロトロ石5											1			1	14.0	0.1%	0.2%		
トロトロ石6											1			1	1.6	0.1%	0.0%		
トロトロ石													8	8	1.4	0.9%	0.0%		
流紋岩1													4	4	16.9	0.4%	0.2%		
流紋岩2											1			1	4.1	0.1%	0.1%		
流紋岩3													4	4	27.9	0.4%	0.3%		
流紋岩4											3			3	56.5	0.3%	0.7%		
流紋岩5											1			1	88.4	0.1%	1.1%		
流紋岩6											3	1		4	4.5	0.4%	0.1%		
流紋岩7											1			1	2.0	0.1%	0.0%		
流紋岩8											3			3	7.4	0.3%	0.1%		
流紋岩9											1			1	11.5	0.1%	0.1%		
黒曜石15											3			3	8.7	0.3%	0.1%		
黒曜石16	2						1				9	3		15	18.0	1.6%	0.2%		
黒曜石17											2			2	6.2	0.2%	0.1%		
黒曜石18											1			1	5.5	0.1%	0.1%		
黒曜石19											1			1	2.8	0.1%	0.0%		
黒曜石20							1				1			2	2.3	0.2%	0.0%		
黒曜石21							1						1	3.0	0.1%	0.0%			
黒曜石22											1			1	2.3	0.1%	0.0%		
黒曜石23											1			1	8.1	0.1%	0.1%		
黒曜石24											1			1	0.4	0.1%	0.0%		
黒曜石25	1													1	5.4	0.1%	0.1%		
黒曜石26											1	1		2	33.9	0.2%	0.4%		
黒曜石27							1					7	4	12	18.0	1.3%	0.2%		
黒曜石28												4		4	13.4	0.4%	0.2%		
黒曜石29											1			1	0.6	0.1%	0.0%		
黒曜石30	2													2	10.5	0.2%	0.1%		
黒曜石31											3			3	3.0	0.3%	0.0%		
黒曜石32							1					2		2	2.0	0.3%	0.0%		
黒曜石33												2		2	4.8	0.2%	0.1%		
黒曜石	2						1	3			39	73		118	46.7	12.6%	0.6%		
凝灰岩1								1						1	35.2	0.1%	0.4%		
砂岩1											1			1	857.7	0.1%	10.6%		
砂岩2											1			1	274.5	0.1%	3.4%		
頁岩1								1						18	3	22	56.2	2.4%	0.7%
頁岩											1	3		4	0.6	0.4%	0.0%		
硬質頁岩6								1						1	71.3	0.1%	0.9%		
硬質頁岩7											1			3	9.4	0.3%	0.1%		
硬質頁岩8											3			3	6.4	0.3%	0.1%		
硬質頁岩9	1										1			2	5.7	0.2%	0.1%		
硬質頁岩10											3			3	26.2	0.3%	0.3%		
硬質頁岩11							1	1						2	19.5	0.2%	0.2%		
硬質頁岩12												1		1	19.1	0.1%	0.2%		
硬質頁岩13								1						1	5.4	0.1%	0.1%		
硬質頁岩14												1		1	0.3	0.1%	0.0%		
硬質頁岩15								2						2	1.2	0.2%	0.0%		
硬質頁岩16							1							1	13.4	0.1%	0.2%		
硬質頁岩17	1													1	4.5	0.1%	0.1%		
硬質頁岩18	1													1	4.9	0.1%	0.1%		
硬質頁岩19												1		1	1.7	0.1%	0.0%		
珪質頁岩2											1			2	101.5	0.2%	1.3%		
珪質頁岩3											2			2	16.2	0.2%	0.2%		
珪質頁岩4											4			4	13.1	0.4%	0.2%		
珪質頁岩5											5			5	13.9	0.5%	0.2%		
珪質頁岩6											5			5	8.8	0.5%	0.1%		
珪質頁岩7											1			1	2.8	0.1%	0.0%		
珪質頁岩8											3			3	5.0	0.3%	0.1%		
珪質頁岩10											1			1	2.4	0.1%	0.0%		
珪質頁岩11												2		2	12.0	0.2%	0.1%		
珪質頁岩12							1							1	5.6	0.1%	0.1%		
珪質頁岩13												2		2	5.3	0.2%	0.1%		
珪質頁岩14											3			3	7.1	0.3%	0.1%		
珪質頁岩15												4		4	5.6	0.4%	0.1%		
珪質頁岩16							1							1	0.5	0.1%	0.0%		
珪質頁岩17												1		1	3.5	0.1%	0.0%		
珪質頁岩18												1		1	2.0	0.1%	0.0%		
珪質頁岩19												2	3	5	4.8	0.5%	0.1%		
珪質頁岩20											1	1		2	8.3	0.2%	0.1%		
珪質頁岩21												1		1	13.0	0.1%	0.2%		
珪質頁岩22												1	2		3	20.7	0.3%	0.3%	

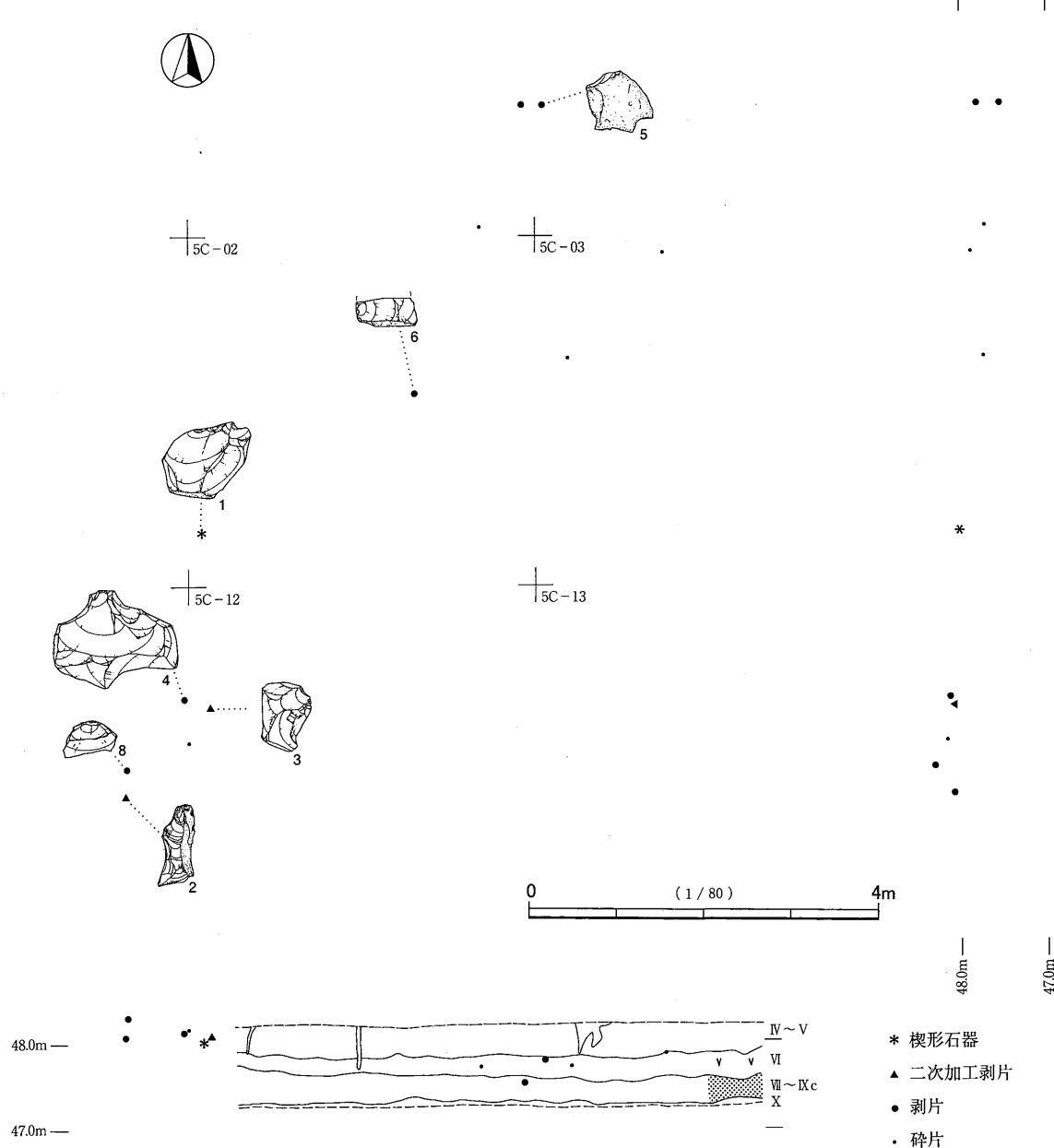
母岩名/器種	ナイフ形石器	角錐状石器	削器	搔器	楔形石器	石刃	二次加工剥片	微細剥離剥片	敲石	石核	剥片	碎片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比
珪質頁岩23									1					1	55.0	0.1%	0.7%
珪質頁岩24										6				6	59.8	0.6%	0.7%
珪質頁岩25										1	1			2	70.1	0.2%	0.9%
珪質頁岩26										1	2			3	44.1	0.3%	0.5%
珪質頁岩27											2			2	17.6	0.2%	0.2%
珪質頁岩28											4			4	26.6	0.4%	0.3%
珪質頁岩29											1			1	1.4	0.1%	0.0%
珪質頁岩30											2			2	9.9	0.2%	0.1%
珪質頁岩31											1			1	7.0	0.1%	0.1%
珪質頁岩32											1			1	5.6	0.1%	0.1%
珪質頁岩33											1			1	1.7	0.1%	0.0%
珪質頁岩34											2			2	10.5	0.2%	0.1%
珪質頁岩									1		26	25		52	32.8	5.6%	0.4%
嶺岡頁岩1											1			1	12.0	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩2											1			1	21.8	0.1%	0.3%
嶺岡頁岩3											2			2	21.3	0.2%	0.3%
嶺岡頁岩4									1					1	18.1	0.1%	0.2%
嶺岡頁岩5											1			1	20.9	0.1%	0.3%
嶺岡頁岩6											1			1	5.8	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩7											1	2		3	50.7	0.3%	0.6%
嶺岡頁岩8									1		1			4	66.0	0.4%	0.8%
嶺岡頁岩9											1	2		3	37.8	0.3%	0.5%
嶺岡頁岩10											1	1		2	91.5	0.2%	1.1%
嶺岡頁岩11											4			4	28.6	0.4%	0.4%
嶺岡頁岩12											4			4	14.8	0.4%	0.2%
嶺岡頁岩13											1			1	4.1	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩14											5			5	51.5	0.5%	0.6%
嶺岡頁岩15										2		3		5	33.9	0.5%	0.4%
嶺岡頁岩16									1		1	3		5	25.0	0.5%	0.3%
嶺岡頁岩17											1			1	7.7	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩18											2			2	9.0	0.2%	0.1%
嶺岡頁岩19											2			2	8.9	0.2%	0.1%
嶺岡頁岩20											1			1	21.4	0.1%	0.3%
嶺岡頁岩21									1		1			2	22.1	0.2%	0.3%
嶺岡頁岩22									1					1	5.6	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩23									1					1	5.8	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩24											1			1	7.9	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩25									1		2	12		15	215.6	1.6%	2.7%
嶺岡頁岩26											23			23	123.9	2.5%	1.5%
嶺岡頁岩27											2			2	21.6	0.2%	0.3%
嶺岡頁岩28											5	1		6	11.3	0.6%	0.1%
嶺岡頁岩29										1		10		11	43.0	1.2%	0.5%
嶺岡頁岩30											3			3	13.9	0.3%	0.2%
嶺岡頁岩31											2	1		3	34.5	0.3%	0.4%
嶺岡頁岩32											2			2	21.2	0.2%	0.3%
嶺岡頁岩33										1				1	58.9	0.1%	0.7%
嶺岡頁岩34											1			1	25.9	0.1%	0.3%
嶺岡頁岩35										1		1		2	7.5	0.2%	0.1%
嶺岡頁岩36											1			1	15.4	0.1%	0.2%
嶺岡頁岩37											1			1	20.1	0.1%	0.2%
嶺岡頁岩38											2			2	3.8	0.2%	0.0%
嶺岡頁岩39											1			1	2.1	0.1%	0.0%
嶺岡頁岩40											2			2	6.4	0.2%	0.1%
嶺岡頁岩41										1				1	26.2	0.1%	0.3%
嶺岡頁岩42											2			2	5.8	0.2%	0.1%
嶺岡頁岩43											2			2	13.1	0.2%	0.2%
嶺岡頁岩44											1			1	8.4	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩45									1					1	28.9	0.1%	0.4%
嶺岡頁岩46											1			1	8.8	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩47											1			1	6.2	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩48											1			1	4.5	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩49											2			2	5.2	0.2%	0.1%
嶺岡頁岩50											2			2	8.5	0.2%	0.1%
嶺岡頁岩51											1			1	15.5	0.1%	0.2%
嶺岡頁岩52											3			3	12.7	0.3%	0.2%
嶺岡頁岩53											1			1	17.4	0.1%	0.2%
嶺岡頁岩54											1			1	5.3	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩55											4			4	2.3	0.4%	0.0%
嶺岡頁岩56									1					1	13.9	0.1%	0.2%
嶺岡頁岩57											1			1	39.5	0.1%	0.5%
嶺岡頁岩58											1			1	4.9	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩59											1			1	3.7	0.1%	0.0%
嶺岡頁岩60											1			1	3.8	0.1%	0.0%
嶺岡頁岩61											1			1	8.0	0.1%	0.1%
嶺岡頁岩62									1					1	4.0	0.1%	0.0%
嶺岡頁岩											39	3		42	47.2	4.5%	0.6%
黒色頁岩1										1	3		4	197.3	0.4%	2.4%	
黒色頁岩2											1			1	4.1	0.1%	0.1%
黒色頁岩3											1	3		4	35.0	0.4%	0.4%
黒色頁岩4											2			2	5.1	0.2%	0.1%
黒色頁岩5											1			1	3.9	0.1%	0.0%
黒色頁岩6											1			1	3.7	0.1%	0.0%
黒色頁岩7											3			3	15.0	0.3%	0.2%
黒色頁岩											5	1		6	2.0	0.6%	0.0%

母岩名/器種	ナイフ形石器	角錐状石器	削器	搔器	楔形石器	石刃	二次加工剥片	微細剥離剥片	敲石	石核	剥片	碎片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比	
粘板岩								1						1	3.8	0.1%	0.0%	
ホルンフェルス4										3				3	13.1	0.3%	0.2%	
ホルンフェルス5									1		2			2	27.8	0.2%	0.3%	
ホルンフェルス6										3				3	7.0	0.3%	0.1%	
ホルンフェルス7										2				2	12.3	0.2%	0.2%	
ホルンフェルス8										3				3	4.1	0.3%	0.1%	
ホルンフェルス9										2				2	2.4	0.2%	0.0%	
ホルンフェルス10										1				1	7.5	0.1%	0.1%	
ホルンフェルス11										1				1	17.6	0.1%	0.2%	
ホルンフェルス12										1				1	6.9	0.1%	0.1%	
ホルンフェルス13										1				1	1.9	0.1%	0.0%	
ホルンフェルス14										1				1	2.6	0.1%	0.0%	
ホルンフェルス15										1	1			2	20.6	0.2%	0.3%	
ホルンフェルス16										1				1	4.1	0.1%	0.1%	
ホルンフェルス											2			2	0.2	0.2%	10.0%	
チャート1										1				1	2.7	0.1%	0.0%	
チャート2										2				2	21.3	0.2%	0.3%	
チャート3										1	3			4	33.5	0.4%	0.4%	
チャート4										1	4			5	80.9	0.5%	1.0%	
チャート5										2				2	12.7	0.2%	0.2%	
チャート6										1				1	12.4	0.1%	0.2%	
チャート7										2				2	28.9	0.2%	0.4%	
チャート8										4				4	31.3	0.4%	0.4%	
チャート9										1				1	18.4	0.1%	0.2%	
チャート10										2				2	2.7	0.2%	0.0%	
チャート11										1				1	2.7	0.1%	0.0%	
チャート12										2				2	1.7	0.2%	0.0%	
チャート13										1	1			2	76.8	0.2%	1.0%	
チャート14									2		1			3	67.2	0.3%	0.8%	
チャート15										1				1	87.7	0.1%	1.1%	
チャート16									2					2	74.7	0.2%	0.9%	
チャート17										1				1	7.0	0.1%	0.1%	
チャート18										1				1	14.2	0.1%	0.2%	
チャート19										3				3	16.8	0.3%	0.2%	
チャート20							1			1	7			9	48.9	1.0%	0.6%	
チャート21										1				1	15.8	0.1%	0.2%	
チャート22										3				3	7.9	0.3%	0.1%	
チャート23										2				2	5.2	0.2%	0.1%	
チャート24										5				5	25.8	0.5%	0.3%	
チャート25										2				2	15.5	0.2%	0.2%	
チャート26										1				1	20.0	0.1%	0.2%	
チャート27										1				1	4.4	0.1%	0.1%	
チャート28										1				1	7.4	0.1%	0.1%	
チャート29										1				1	49.2	0.1%	0.6%	
チャート30							2			1	41	2		46	480.1	4.9%	5.9%	
チャート31										1				1	12.0	0.1%	0.1%	
チャート32										3	1			4	96.8	0.4%	1.2%	
チャート33										1				1	38.8	0.1%	0.5%	
チャート34										2				2	48.6	0.2%	0.6%	
チャート35										1				1	7.4	0.1%	0.1%	
チャート45									1					1	119.5	0.1%	1.5%	
チャート										53	22			75	67.7	8.0%	0.8%	
玉髓1										1				1	2.8	0.1%	0.0%	
玉髓2										1				1	52.9	0.1%	0.7%	
玉髓3										1				1	71.1	0.1%	0.9%	
玉髓4			1							5				6	18.8	0.6%	0.2%	
玉髓5										1				1	7.1	0.1%	0.1%	
玉髓6										2	1			3	2.0	0.3%	0.0%	
玉髓7										1	10			11	37.4	1.2%	0.5%	
玉髓										1	3			4	2.2	0.4%	0.0%	
流紋岩R1											1	1			1	152.1	0.1%	1.9%
流紋岩R2											1	1			1	62.9	0.1%	0.8%
凝灰岩R1											1	1			1	76.3	0.1%	0.9%
砂岩R2											1	1			1	196.4	0.1%	2.4%
砂岩R3											1	1			1	82.5	0.1%	4.0%
砂岩R4											2	2			2	45.1	0.2%	0.6%
砂岩R5											1	1			1	2.1	0.1%	0.0%
砂岩R6											1	1			1	65.8	0.1%	0.8%
砂岩R7											2	2			2	59.1	0.2%	0.7%
砂岩R8											2	2			2	1.6	0.2%	0.0%
砂岩R9											1	1			1	63.6	0.1%	0.8%
砂岩R10											2	2			2	11.5	0.2%	0.1%
砂岩R11											1	1			1	5.0	0.1%	0.1%
砂岩R12											1	1			1	0.8	0.1%	0.0%
砂岩R13											1	1			1	133.1	0.1%	1.6%
砂岩R14											1	1			1	106.2	0.1%	1.3%
珪質頁岩R1											1	1			1	1.3	0.1%	0.0%
安山岩 R1											1	1			1	14.6	0.1%	0.2%
安山岩 R2											3	3			3	323.0	0.3%	4.0%
安山岩 R3											1	1			1	107.0	0.1%	1.3%
安山岩 R4											1	1			1	95.3	0.1%	1.2%
ホルンフェルスR1											1	1			1	28.6	0.1%	0.4%
チャートR1											1	1			1	1.1	0.1%	0.0%
合計	8	2	2	1	2	10	23	14	3	40	632	166	30	933	8076.0	100.0%	100.0%	

第9ブロック (第54~56図、第9表、図版5・18・20)

概要 第1文化層の石器群が検出された台地の北側、大金沢支谷から分岐して北へ延びる坂崎谷津に面した台地の谷頭に近い台地平坦部の5Cグリッドに位置する。ブロックは北東から南西へ等高線に沿うように、9 m × 2 mの範囲に細長く散漫に分布する。

ブロックの内容は、二次加工剥片2点、楔形石器1点、剥片6点、碎片4点の計13点である。石材は黒色緻密質安山岩7点、黒曜石1点、流紋岩2点、珪質頁岩1点、黑色頁岩2点である。



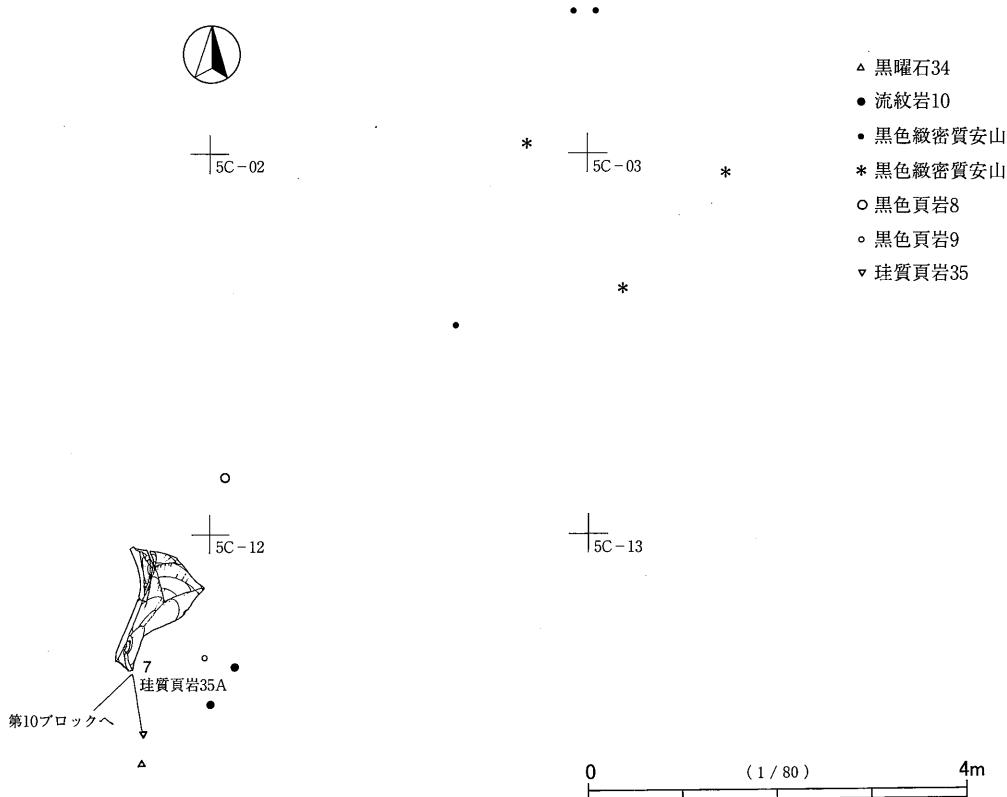
第54図 第9ブロック器種別分布

出土遺物 1は灰白色を呈する黒色頁岩8の楔形石器である。端部に礫の自然面を残し、打面に表裏から加擊を加えて刃部としている。

2は黒曜石34の二次加工剥片である。断面が三角形を呈する縦長剥片を素材とし、左右の側縁の基部と左側縁の端部に微細な剥離を加えている。一部に礫の自然面を残す。石材は透明感があり夾雜物をほとんど含まない、薄い暗赤褐色を呈する。3も二次加工剥片である。右側縁の裏面側と端部に微細な剥離を加えている。石材は灰白色を呈し、黒色やガラス質の鉱物が粒子状に入る流紋岩10である。

4～9は剥片である。4は灰色を呈する黒色頁岩9の大型の剥片である。5と6は暗灰色を呈する黒色緻密質安山岩11の剥片で、自然面を残す。6は基部側が折れている。

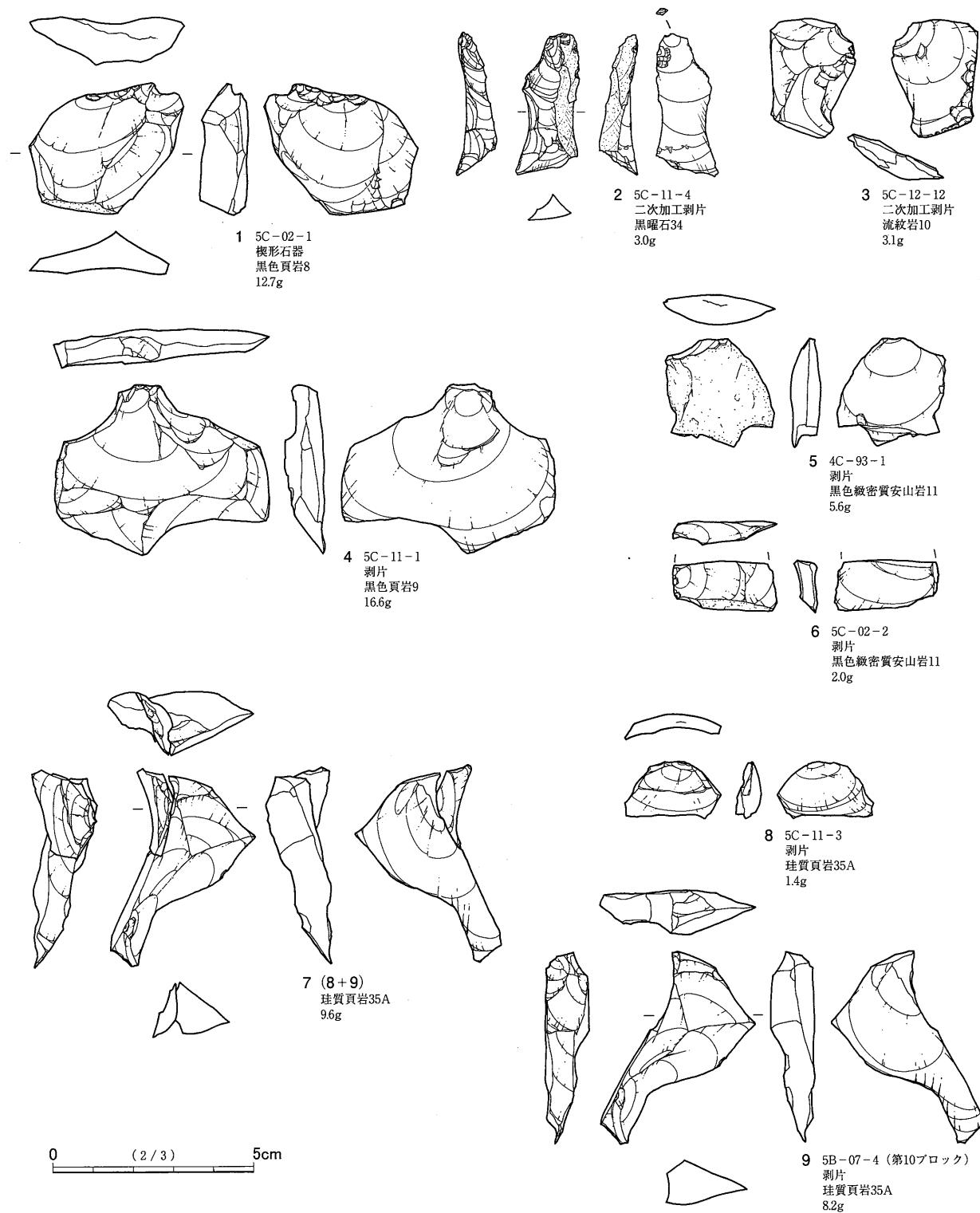
7（8+9）は灰色を呈する珪質頁岩35の厚手の剥片の接合資料である。8は横長剥片で、第9ブロックから出土した。9は西へ約15m離れた第10ブロックから出土した剥片で、ブロック間で接合した資料である。



第55図 第9ブロック母岩別分布

第9表 第9ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	二次加工剥片	楔形石器	剥片	碎片	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒色緻密質安山岩11			4		4	8.9	30.8%	19.0%
黒色緻密質安山岩12				3	3	0.8	23.1%	1.7%
黒曜石34	1				1	3.0	7.7%	6.4%
流紋岩10	1			1	2	3.4	15.4%	7.3%
珪質頁岩35			1		1	1.4	7.7%	3.0%
黒色頁岩8		1			1	12.7	7.7%	27.1%
黒色頁岩9			1		1	16.6	7.7%	35.5%
合計	2	1	6	4	13	46.8	100.0%	100.0%

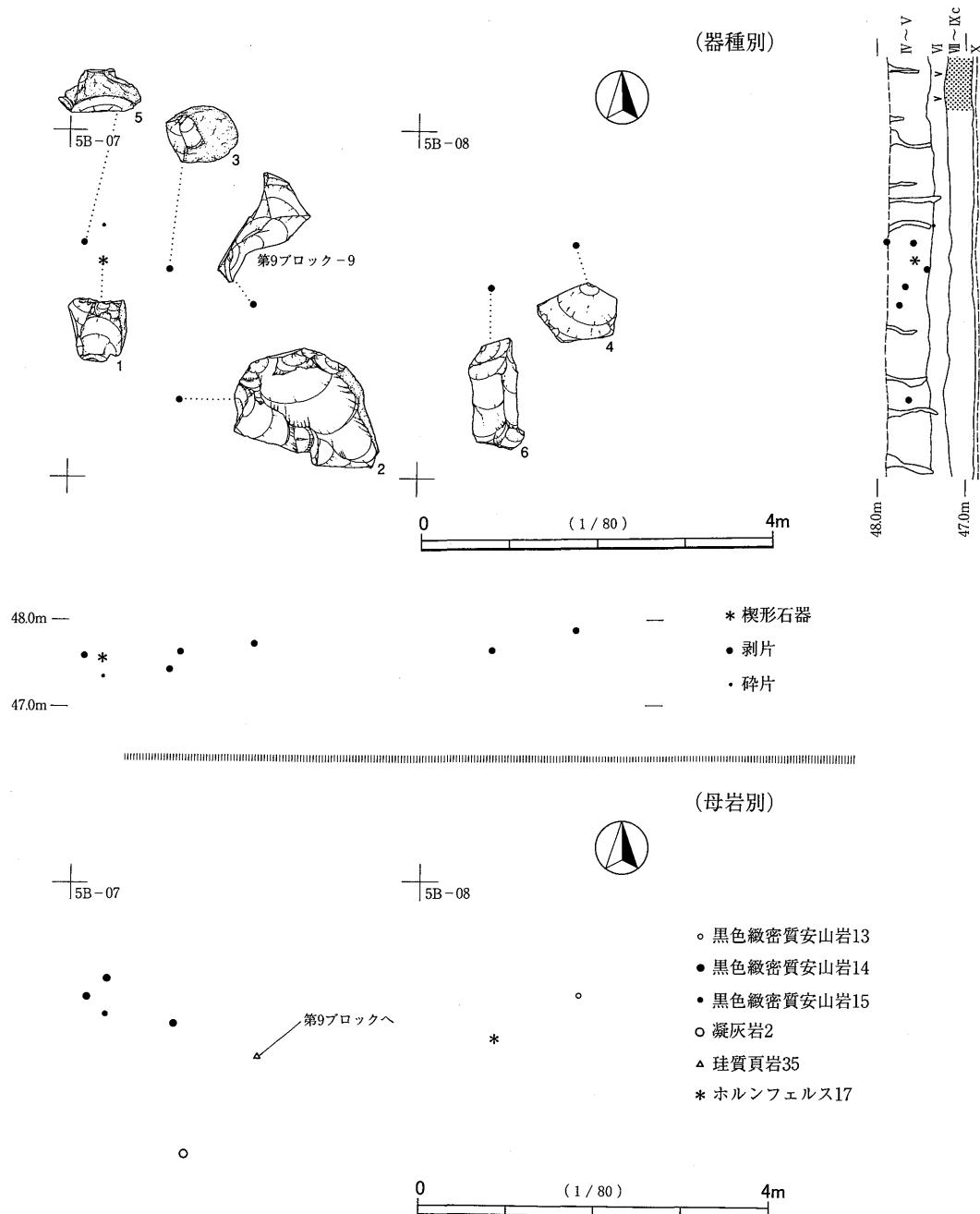


第56図 第9ブロック出土石器

第10ブロック (第57・58図、第10表、図版5・18)

概要 第1文化層の石器群が検出された台地の北側、大金沢支谷から分岐して北へ延びる坂崎谷津に面した台地の谷頭に近い、台地の緩傾斜部にかかる5Bグリッドから検出された。ブロックは、6m×2mの範囲に東西方向に細長く分布する。

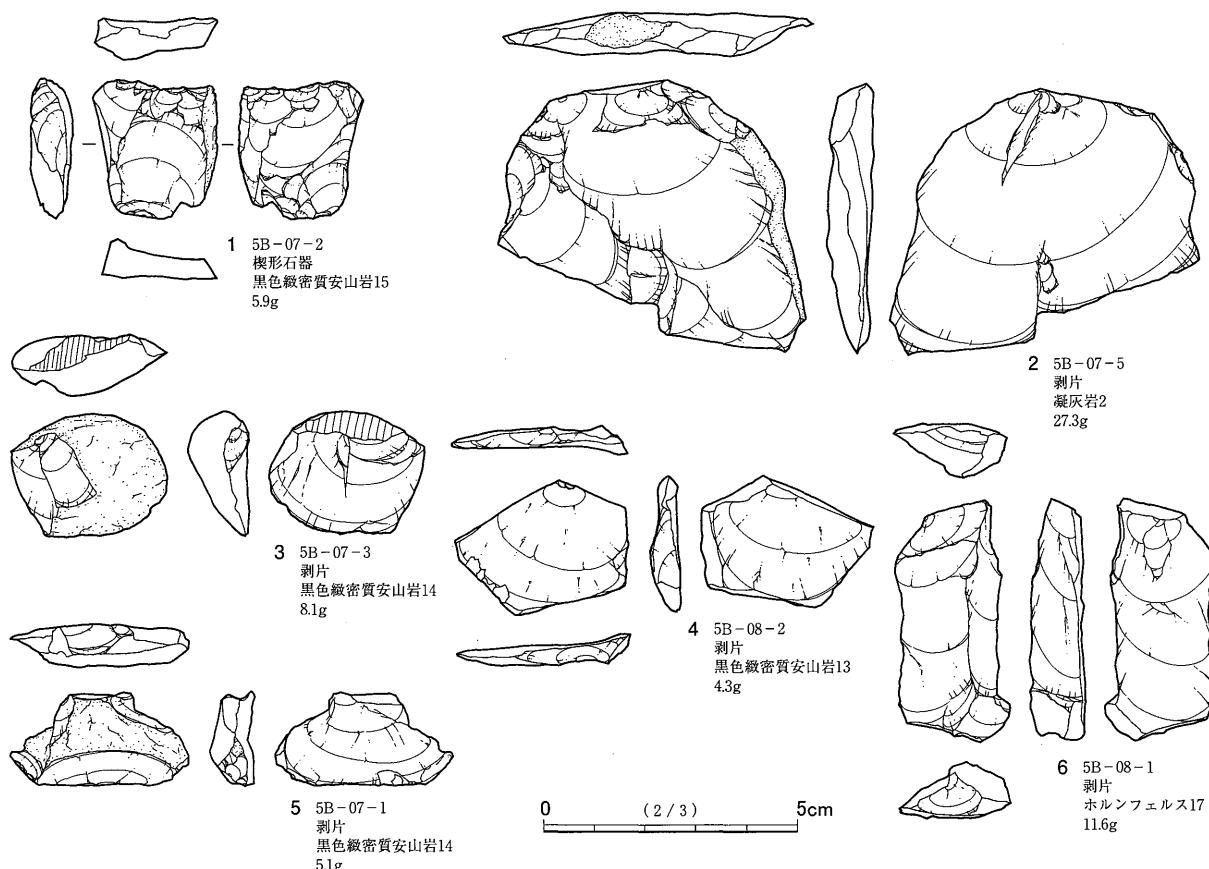
ブロックの内容は、楔形石器1点、剥片6点、碎片1点の計8点である。石材は黒色緻密質安山岩5点、凝灰岩1点、珪質頁岩1点、ホルンフェルス1点である。



第57図 第10ブロック 遺物分布

出土遺物 1は暗灰色を呈する黒色緻密質安山岩15の楔形石器である。側縁に素材の礫の自然面を残し、上下両端からの打撃による剥離が表裏両面に残り、表面の下端部が破損している。

2～6は剥片である。2は暗緑灰色を呈する凝灰岩2の大型で扁平な剥片である。礫の自然面を打面とし、連続して剥離された剥片である。側縁の一部にも礫面が残り、端部は蝶番状を呈する。3は暗灰色を呈する黒色緻密質安山岩14の小円礫の剥片である。4は暗灰色を呈する黒色緻密質安山岩13の剥片である。表裏両面にポジティブ面が残る扁平な剥片である。5は暗灰色を呈する黒色緻密質安山岩14の礫の自然面を残す剥片で、端部には打面と逆方向からの剥離痕が見られる。6は暗灰色を呈するホルンフェルス17の剥片である。厚手で断面が三角形を呈する縦長剥片である。



第58図 第10ブロック出土石器

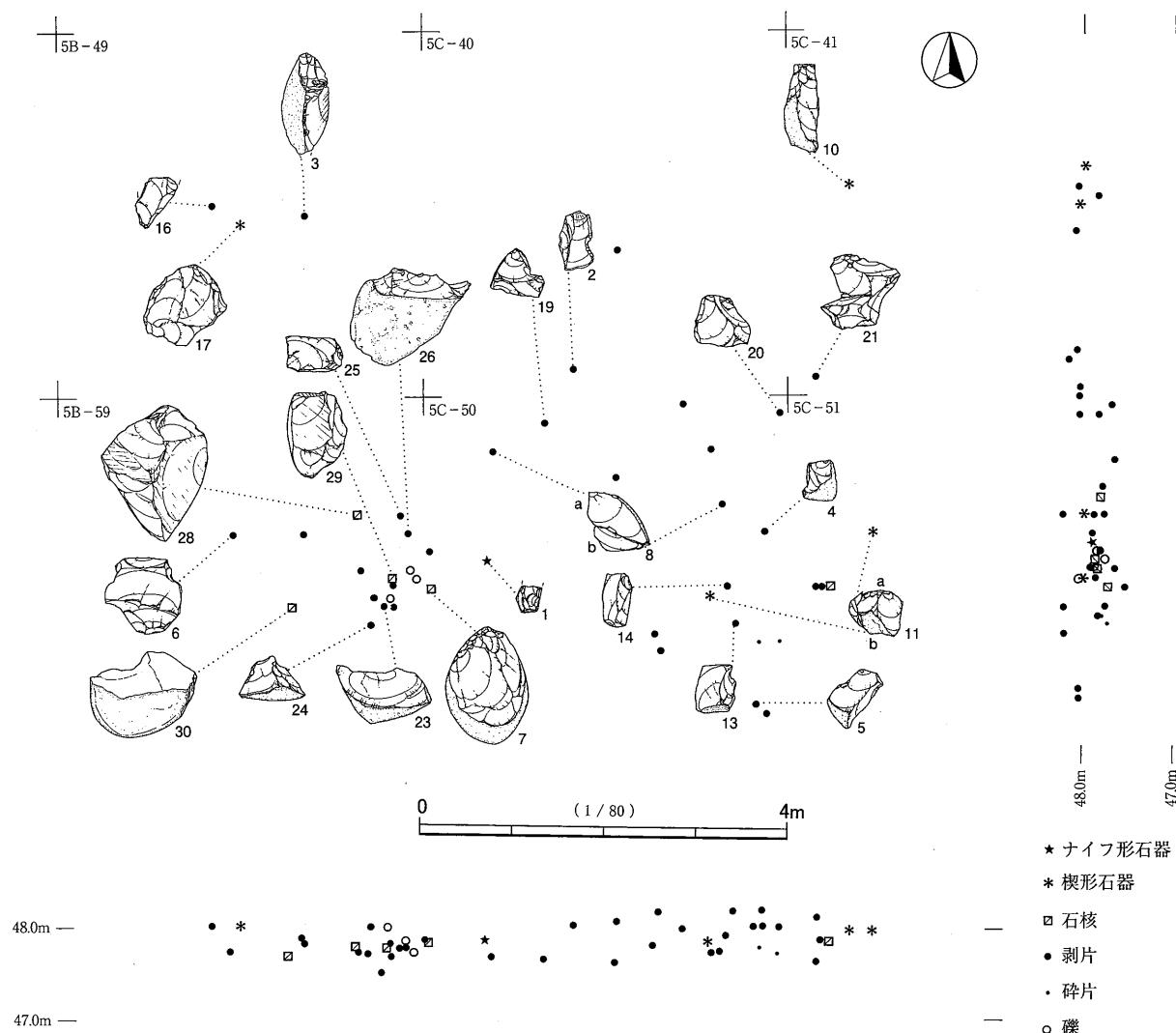
第10表 第10ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	楔形石器	剥片	碎片	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒色緻密質安山岩13		1		1	4.3	12.50%	6.07%
黒色緻密質安山岩14		2	1	3	13.5	37.50%	19.07%
黒色緻密質安山岩15	1			1	5.9	12.50%	8.33%
凝灰岩2		1		1	27.3	12.50%	38.56%
珪質頁岩35		1		1	8.2	12.50%	11.58%
ホルンフェルス17		1		1	11.6	12.50%	16.38%
合計	1	6	1	8	70.8	100.00%	100.00%

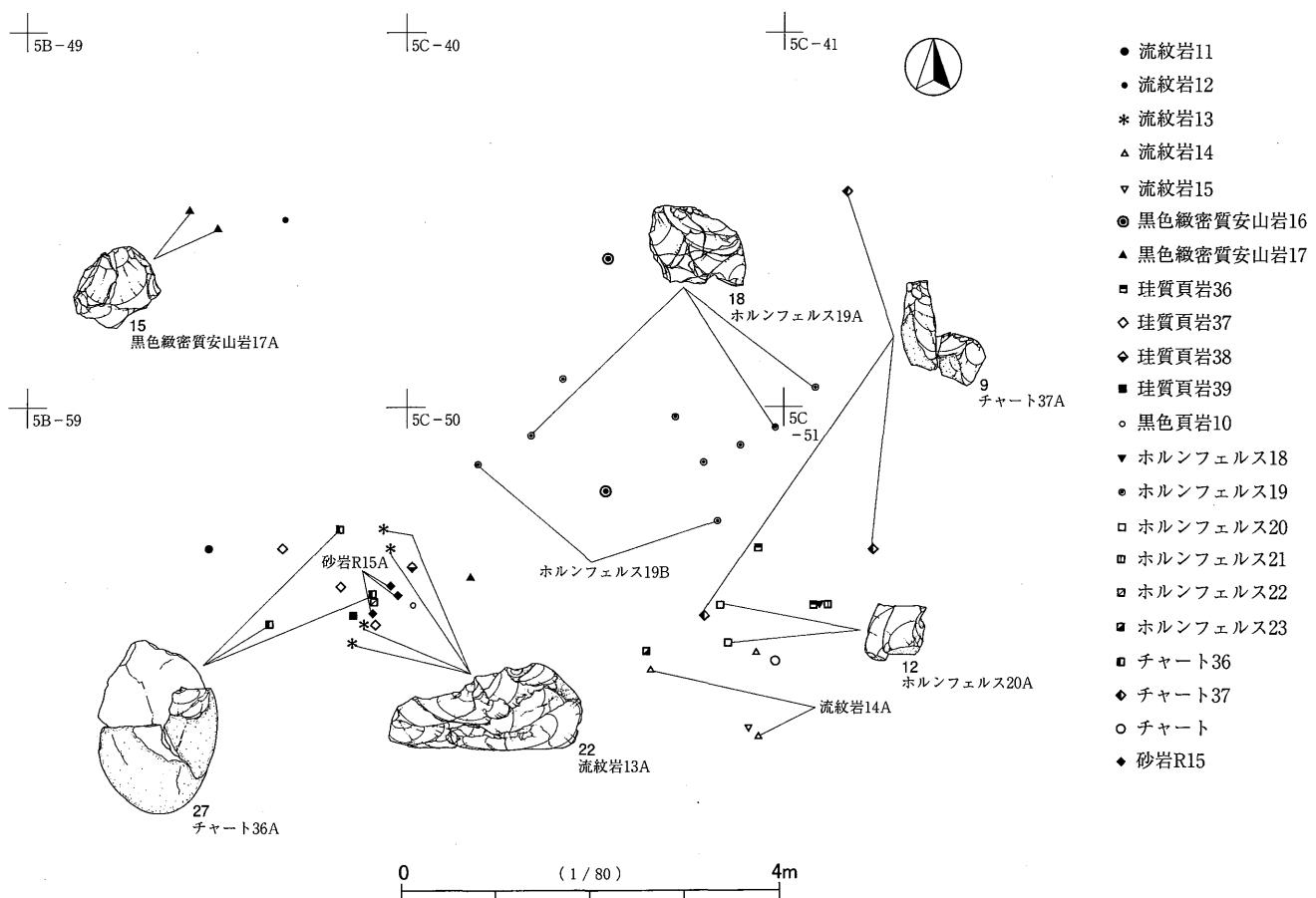
第11ブロック (第59~63図、第11表、図版6・18・20)

概要 第1文化層の石器群が検出された台地の北側、大金沢支谷から分岐して北へ延びる坂崎谷津に面した台地の谷頭に近い台地平坦部の5B・Cグリッドに位置する。北側に位置する第9・第10ブロックとは各20mほどの距離にある。この3ブロックは坂崎谷津から浸入する支谷の谷頭を取り巻くように分布している。第11ブロックは8m×6mほどの範囲に分布する。

ブロックの内容は、ナイフ形石器1点、楔形石器4点（接合1点を含む）、石核5点、剥片33点、碎片2点、礫3点の計48点である。石材は流紋岩10点、黒色緻密質安山岩5点、珪質頁岩7点、黒色頁岩1点、ホルンフェルス15点、チャート7点、礫石材は砂岩3点である。ブロック中には接合資料が11点あり、石核が5点含まれることや円礫からの素材石材の自然面が残る剥片が比較的多い点が指摘できる。



第59図 第11ブロック器種別分布



第60図 第11ブロック母岩別分布

出土遺物 1は暗灰色を呈する黒色緻密質安山岩17のナイフ形石器の基部である。右側縁に調整加工痕が残る。下端部についてはガジリとしたが、調整加工の可能性がある。

2～6は剥片である。2は暗灰色を呈するホルンフェルス19の縦長剥片で、右側縁にはU字状に欠損した箇所が見えるがこれは調査時のガジリである。3は自然面は灰褐色、内面は灰色を呈する流紋岩12の断面三角形を呈する縦長剥片で、一部に礫の自然面が残る。先端部の一部をわずかに欠損する。4、5も素材の自然面を残す剥片である。石材は4が珪質頁岩36、5が流紋岩15で、ともに灰色がかった色調を呈する。6は灰白色を呈し、ガラス質の鉱物が入る流紋岩11の剥片である。

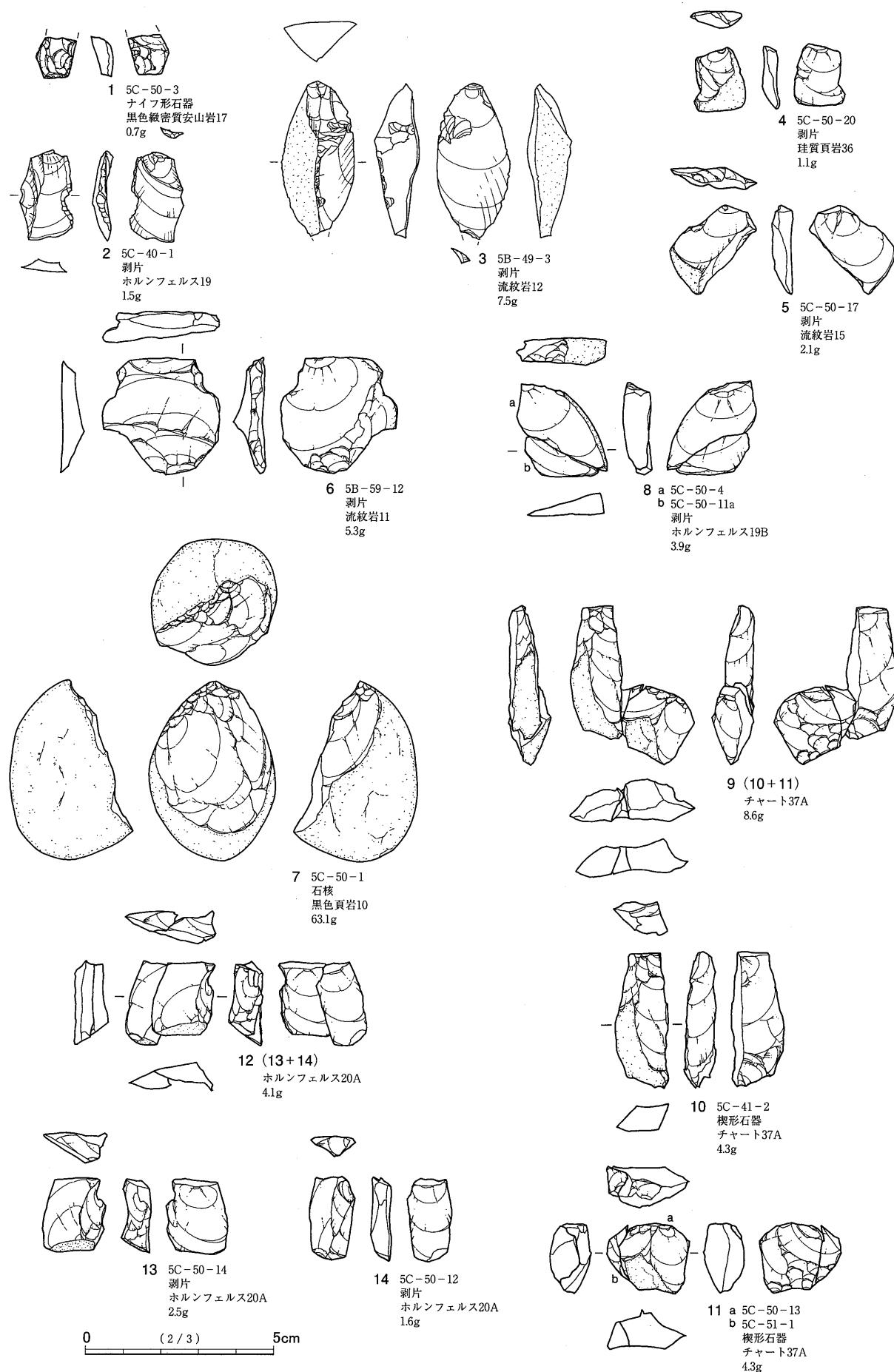
7は灰色から暗灰色が混在する黒色頁岩10の石核である。卵大の円礫の長軸方向の一端に打撃を加え、小型の剥片を生産している。

8a、b、9、12は接合資料である。8a、bは側縁に自然面を残す暗灰色を呈するホルンフェルス19の剥片で、ブロック内の2.6m離れた箇所から出土した2片が接合した。

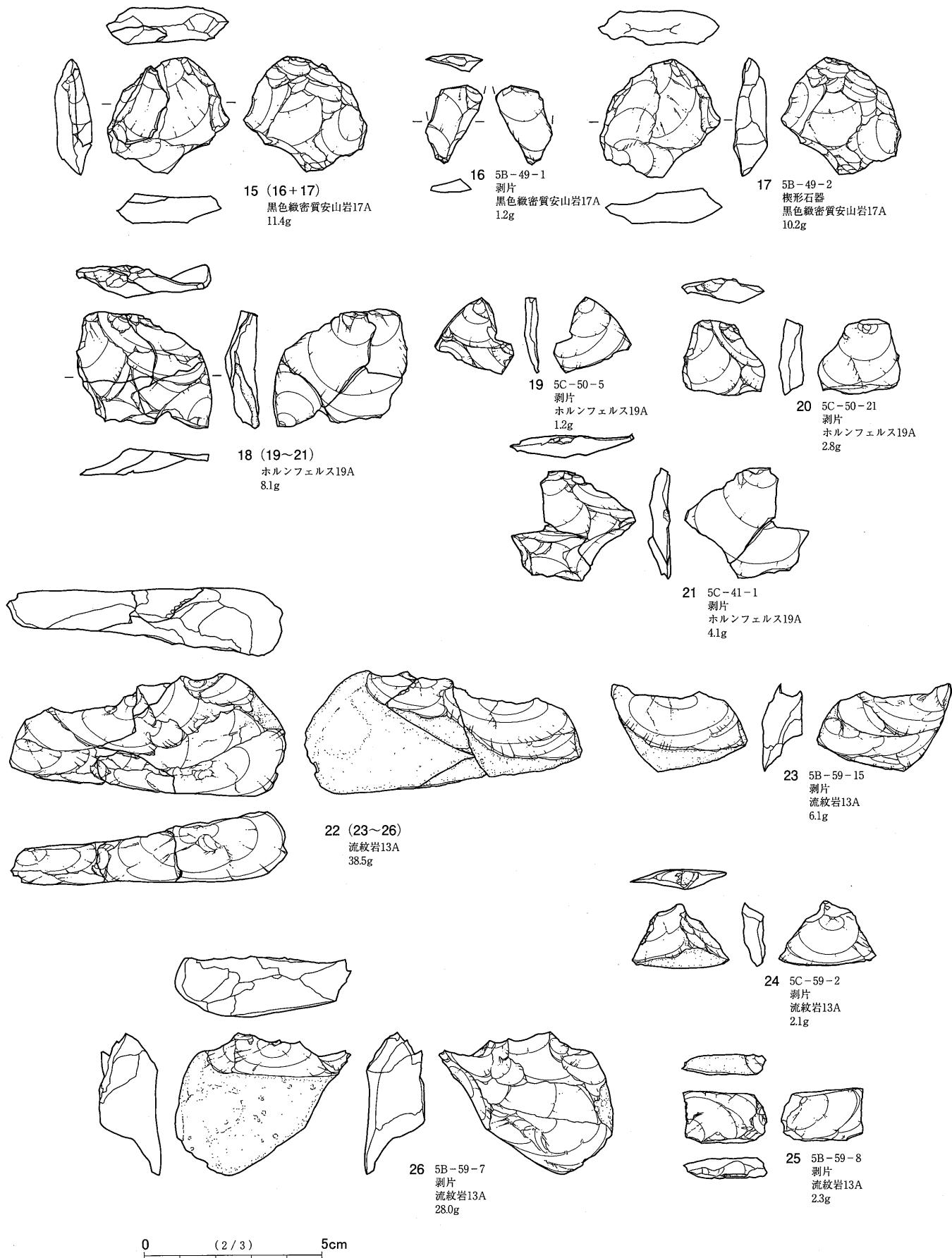
9は青灰色を呈するチャート37の接合資料で10、11a、bの3片が接合した。10は縦長剥片を利用した楔形石器で、一部に自然面を残し断面が菱形を呈する。11は厚手の素材を用いた楔形石器である。縦に2片に割れたものがブロック内で接合した。使用による破損か。

12(13+14)は暗灰色を呈するホルンフェルス20の剥片の接合資料で、同一の打面から剥離されている。

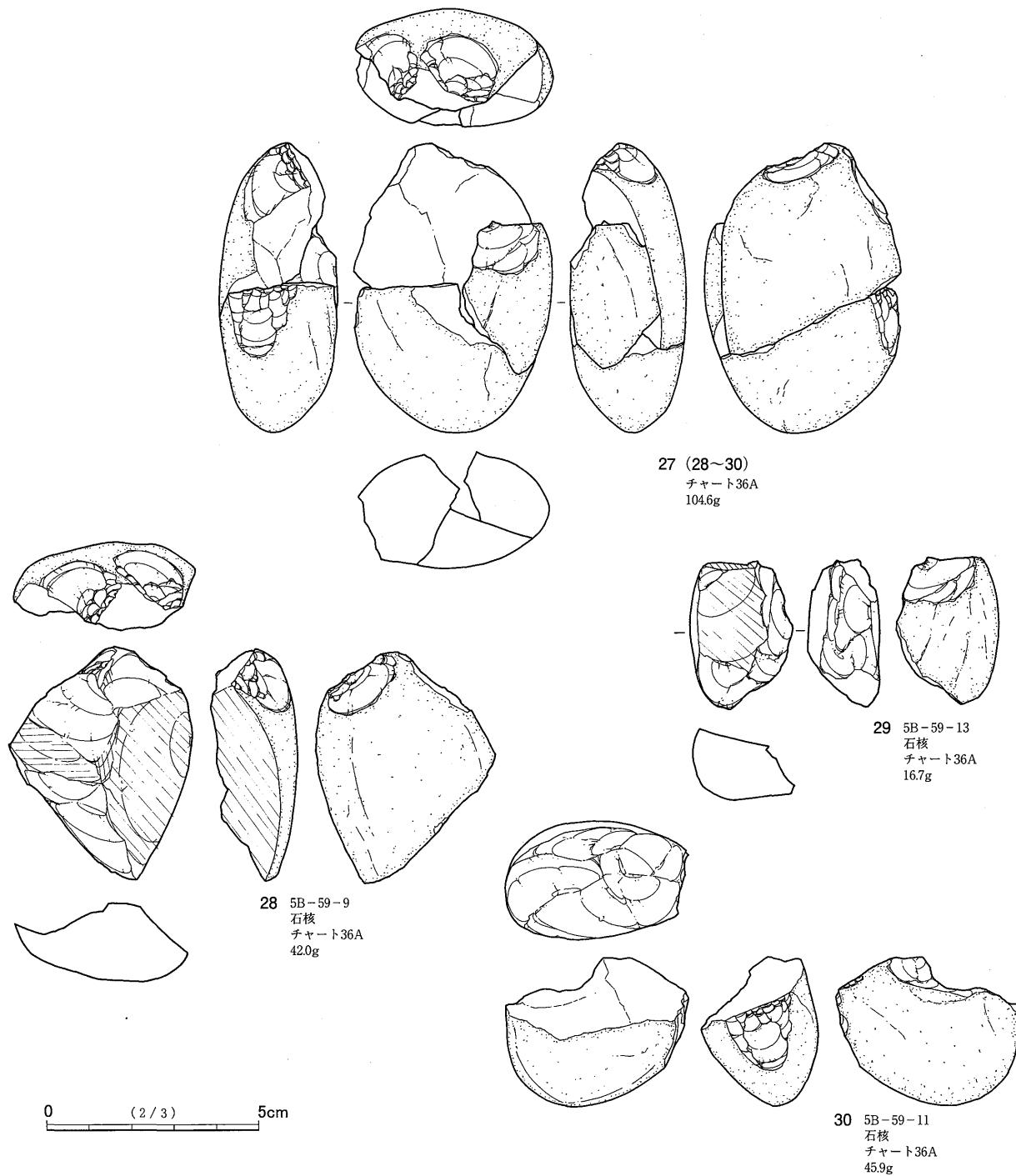
15(16+17)は暗灰色を呈する黒色緻密質安山岩17で、ブロック内の北西端で出土した2片が接合した。



第61図 第11ブロック出土石器（1）



第62図 第11ブロック出土石器（2）



第63図 第11ブロック出土石器（3）

16は15の接合図面の下端部側からの加撃によって剥離した剥片である。17は楔形石器である。下端部が折れて欠損しており、16は使用時の破損に伴うものか。

18（19～21）は暗灰色を呈するホルンフェルス19で、剥片3片が接合した。

22（23～26）は表面が褐色で内面が灰褐色を呈する流紋岩13の接合資料で、4片が接合した。素材の礫は板状の円礫と思われ、自然面が各剥片に残る。本来は礫の一端に表裏両面から打撃を加えて剥片を剥離する石核であったが、何らかのトラブルで破損したものであろう。

27（28～30）は暗灰色を呈するチャート36の円礫で、3片が接合した。27は節理が発達しており、主にその面で割れている。28～30は石核である。礫が分割された後にそれぞれを石核として剥片が剥がされている。28は礫面の2か所に自然面を剥ぎ取った痕が見られる。29は礫面側と剥離面から剥片が剥がされている。30は割れた礫面を打面として礫の自然面へ打撃を加えて小剥片が剥がされている。

第11表 第11ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	ナイフ形石器	楔形石器	石核	剥片	碎片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒色緻密質安山岩16				2			2	9.2	4.2%	1.9%
黒色緻密質安山岩17	1	1		1			3	12.1	6.3%	2.5%
流紋岩11				1			1	5.3	2.1%	1.1%
流紋岩12				1			1	7.5	2.1%	1.6%
流紋岩13				4			4	38.5	8.3%	8.0%
流紋岩14				2	1		3	2.8	6.3%	0.6%
流紋岩15				1			1	2.1	2.1%	0.4%
珪質頁岩36				2			2	2.6	4.2%	0.5%
珪質頁岩37				3			3	3.6	6.3%	0.7%
珪質頁岩38				1			1	5.0	2.1%	1.0%
珪質頁岩39				1			1	1.0	2.1%	0.2%
黒色頁岩10			1				1	63.1	2.1%	13.1%
ホルンフェルス18				1			1	40.6	2.1%	8.5%
ホルンフェルス19				9			9	16.6	18.8%	3.5%
ホルンフェルス20				2			2	4.1	4.2%	0.9%
ホルンフェルス21			1				1	127.3	2.1%	26.5%
ホルンフェルス22				1			1	2.1	2.1%	0.4%
ホルンフェルス23				1			1	23.3	2.1%	4.9%
チャート36			3				3	104.6	6.3%	21.8%
チャート37			3				3	8.6	6.3%	1.8%
チャート					1		1	0.1	2.1%	0.0%
砂岩R15						3	3	23.8	6.3%	5.0%
合計	1	4	5	33	2	3	48	480.1	100.0%	100.0%

第12ブロック（第64～68図、第12表、図版6・19・20）

概要 第1文化層の石器群が検出された台地の北側にあたり、大金沢支谷から分岐して南から東へゆるく折れながら浸入する谷と、大金沢支谷から大きく分岐して北へ延びる坂崎谷津によって開析された、南西へ尾根状に延びる台地の基部付近の6Cグリッドに位置する。隣接して北西に位置する第11ブロックとは約40mの距離がある。ブロック中の石器は8m×6mの範囲に集中して出土した。

ブロックの内容は、ナイフ形石器1点、搔器4点、二次加工剥片2点、微細剥離剥片4点、石核7点、剥片79点、碎片47点、礫6点の総計149点である。石材は黒曜石93点、安山岩2点、嶺岡頁岩2点、チャート22点、玉髓27点、礫石材は安山岩礫1点、ホルンフェルス礫1点、流紋岩礫1点、砂岩礫1点である。ブロック内での接合資料は10点にのぼる。

出土遺物 1は暗灰色を呈するチャート38のナイフ形石器である。横長剥片を素材とし、両側縁の基部の表面側に細かい調整加工が施されている。

2～4は黒曜石の搔器である。3点とも漆黒で透明度がなく灰白色の夾雜物が入る黒曜石35を素材としている。2は厚手の剥片を素材とし、基部の右側縁裏面側から細かな調整加工が施されている。3も厚手の剥片を素材とし、基部に細かな調整加工を施す。また、左側縁に微細な剥離痕が見られる。4は基部の表面側に細かな調整剥離を加えている。また、裏面の先端部にも剥離を加えている。

5、6は二次加工剥片である。ともに黒曜石35である。5は端部を欠損するが右側縁に細かな加工痕が見られる。6は打面と表面に礫の自然面を残す不定型な縦長剥片を素材とし、両側縁部に裏面からの細かな調整加工痕が見られる。

7～10は微細剥離剥片である。7は右側縁の基部側に微細な剥離痕が見られる。8は緩く内湾した右側縁中央の表裏両面に微細な剥離痕が見られる。7、8は黒曜石35である。9は左側縁の裏面側に微細な剥離痕が見られる。10は左側縁の表面側の基部に微細な剥離が見られる。右側縁側が折れている。9はチャート、10は灰色を呈するチャート38である。

11～16は剥片である。11は断面が三角形で、中央の稜を挟んだ両側に礫の自然面を残す縦長の剥片である。11は黒曜石35である。12は基部側が欠損しており、図示しなかったが、側縁には急角度の剥離痕が見られる可能性がある。表面が褐色で内面が灰色を呈するチャートである。13、14は横長剥片である。13はチャート39、14はチャートである。15、16は玉髓製の剥片である。ともに側縁部にわずかに刃こぼれ状の欠損が見られる。石材は15はにぶい橙色を呈する透明度の低い玉髓11で、16は淡赤褐色を呈する玉髓10である。

17、18は石核である。17は打点を周回させながら不定型な剥片を剥ぎ取り、一面に横方向からの打撃を加えて平坦な面を作出している。18は角ばった礫を素材とし、縦横に打点を変えながら不定型な小型の剥片を剥離している。17、18は黒曜石35である。

19は褐灰色を呈し黒褐色の縞のある嶺岡頁岩63の剥片である。表面には横方向からの剥離痕が残る。横に折れた2片が接合した。

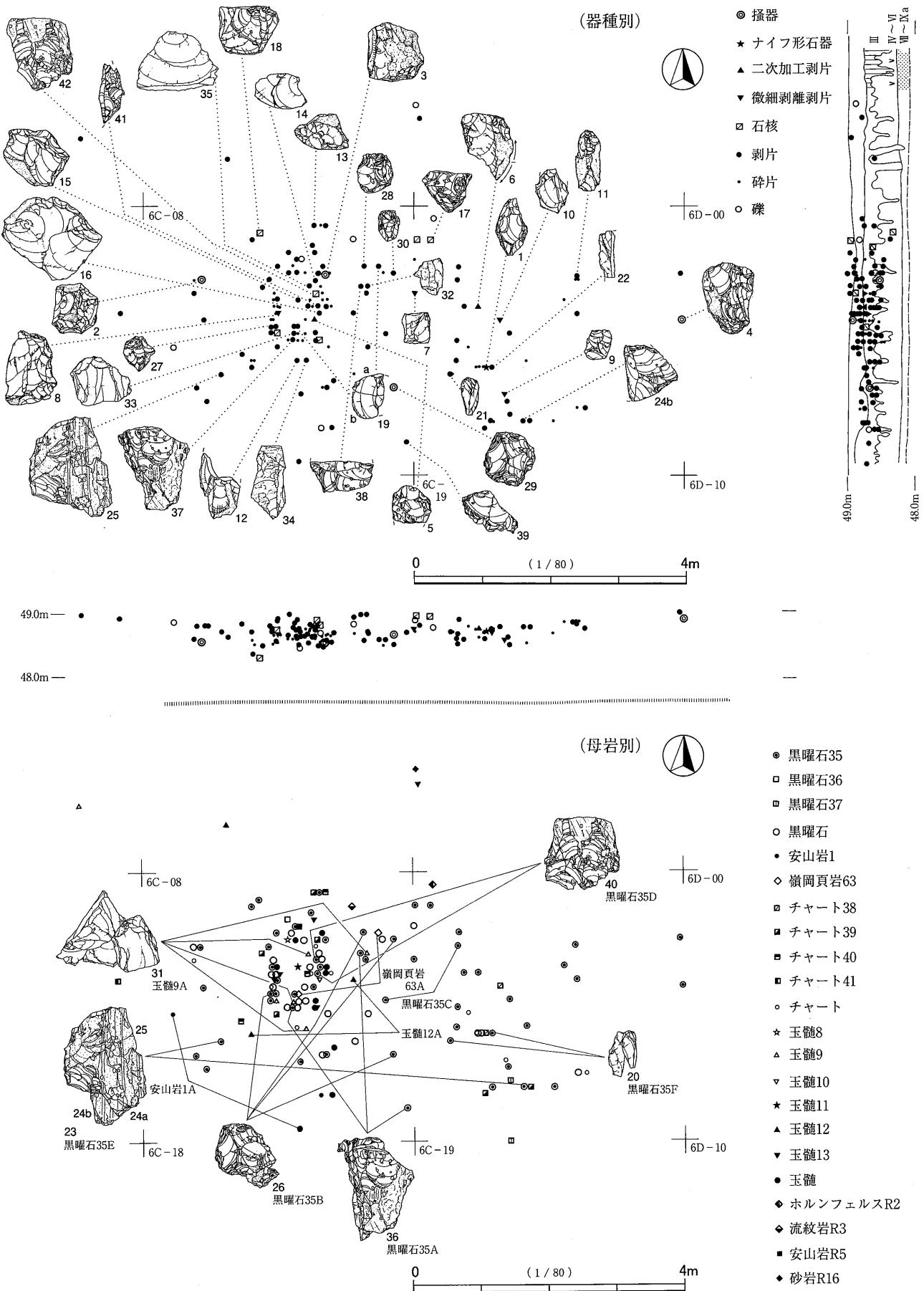
20(21+22)は縦長剥片の接合資料である。21→22の順に剥離されている。23(24a、24b+25)は剥片3片が接合した資料である。24は少なくとも3片に折れている。26(27～30)は4片が接合した。27、28、30は剥片である。29は搔器である。裏面が比較的平坦であり、その面を底面として剥片の端部に急角度の細かな調整加工を施し刃部としている。20～30は黒曜石35である。

31（32～35）は明褐灰色と褐色が混在し、一部に灰色の夾雜物が入る玉髓9の接合資料である。やや不定型な縦長剥片が生産されている。

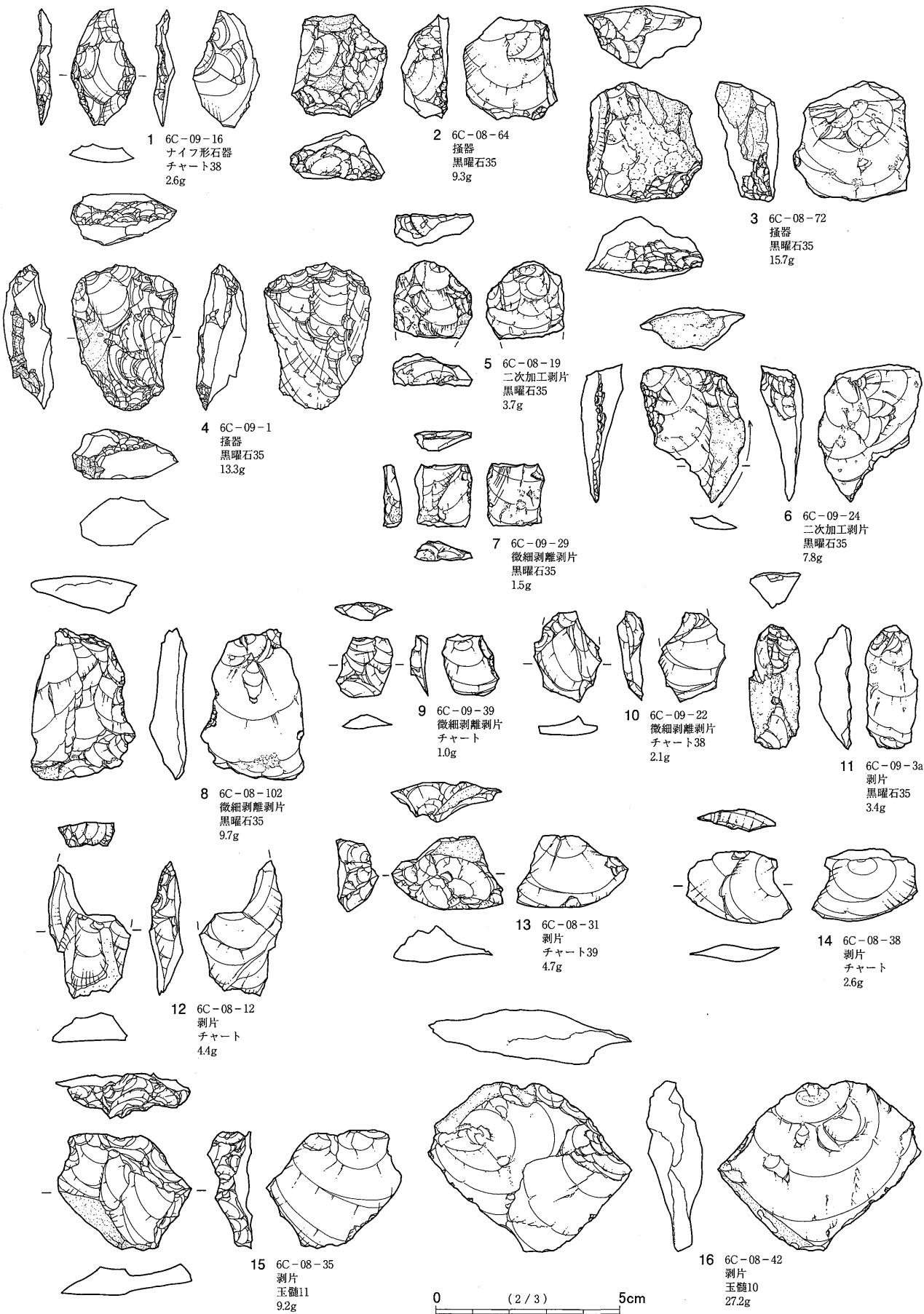
36（37～39）は3片が接合した。37は厚手の剥片で、一面に素材礫の自然面を残す。38、39は37に接合した剥片である。39は表裏に同一の打面から同一方向へ加擊を加えている。40（41+42）は2片が接合した。41は剥片、42は石核である。上面の平らな自然面と下面に打面を設けて剥片剥離作業を行っているが夾雜物を多く含み、石材には不適であったと思われる。36、40は黒曜石35である。

第12表 第12ブロック出土石器組成表

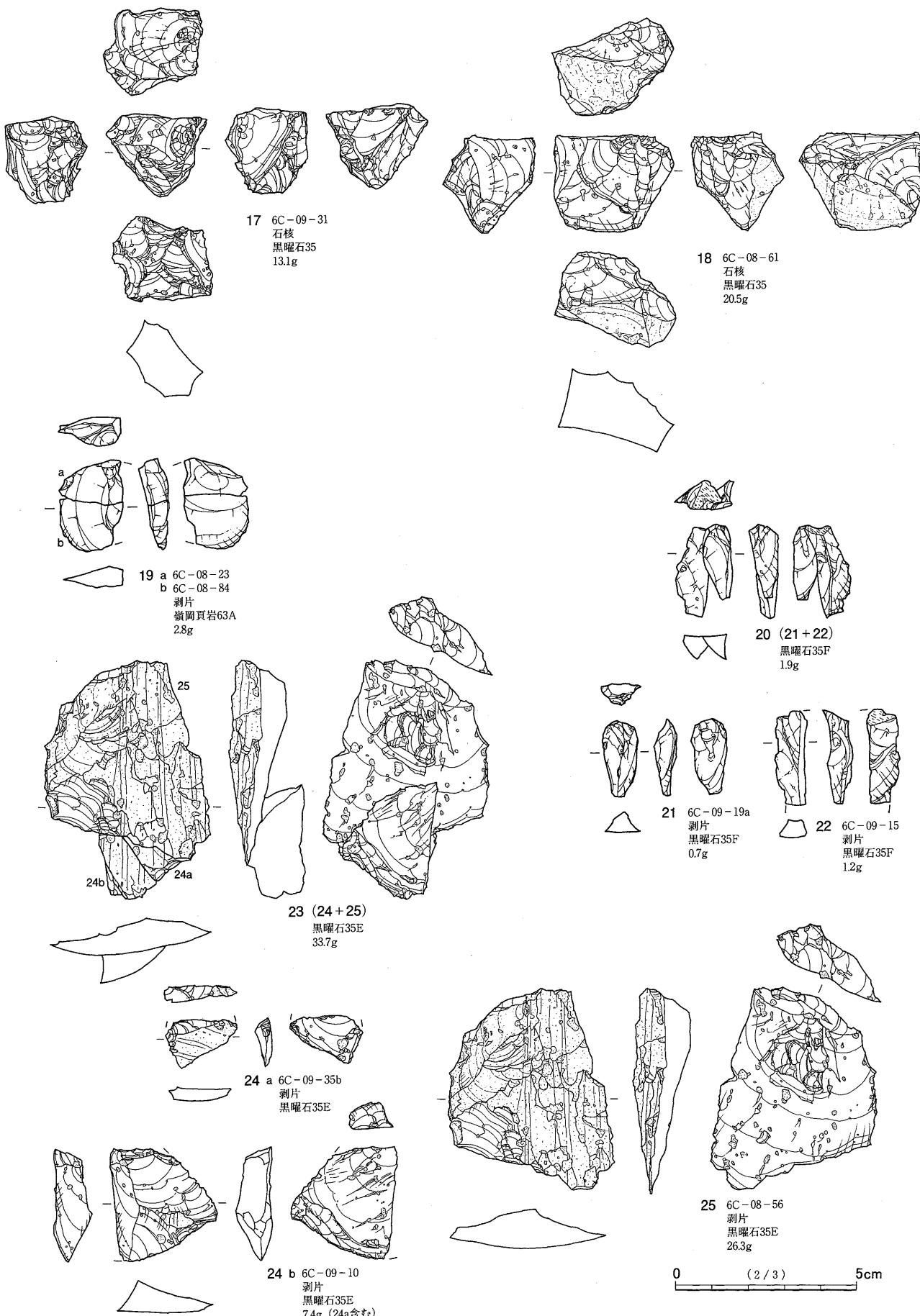
母岩名/器種	ナイフ形石器	搔器	二次加工剥片	微細剥離剥片	石核	剥片	碎片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比
安山岩1								2	2	2.9	1.3%	0.6%
黒曜石35		4	2	2	4	38	11		61	274.8	40.7%	57.4%
黒曜石36					1	1			2	9.9	1.3%	2.1%
黒曜石37						1			1	1.7	0.7%	0.4%
黒曜石						1	28		29	5.0	19.3%	1.0%
嶺岡頁岩63						2			2	2.8	1.3%	0.6%
チャート38	1			1					2	4.7	1.3%	1.0%
チャート39						6			6	23.6	4.0%	4.9%
チャート40						3			3	3.4	2.0%	0.7%
チャート41						1			1	17.1	0.7%	3.6%
チャート			1		4		5		10	2.2	6.7%	0.5%
玉髓8						1			1	1.8	0.7%	0.4%
玉髓9					1	5			6	57.7	4.0%	12.1%
玉髓10						1			1	27.2	0.7%	5.7%
玉髓11						1			1	9.2	0.7%	1.9%
玉髓12						3			3	9.3	2.0%	1.9%
玉髓13					1	3	1		5	17.9	3.3%	3.7%
玉髓						8	2		10	7.6	6.7%	1.6%
安山岩R5								1	1	3.7	0.7%	0.8%
流紋岩R3								1	1	4.6	0.7%	1.0%
砂岩R16								1	1	30.7	0.7%	6.4%
ホルンフェルスR2								1	1	28.6	0.7%	6.0%
合計	1	4	2	4	7	79	47	6	150	478.8	100.0%	100.0%



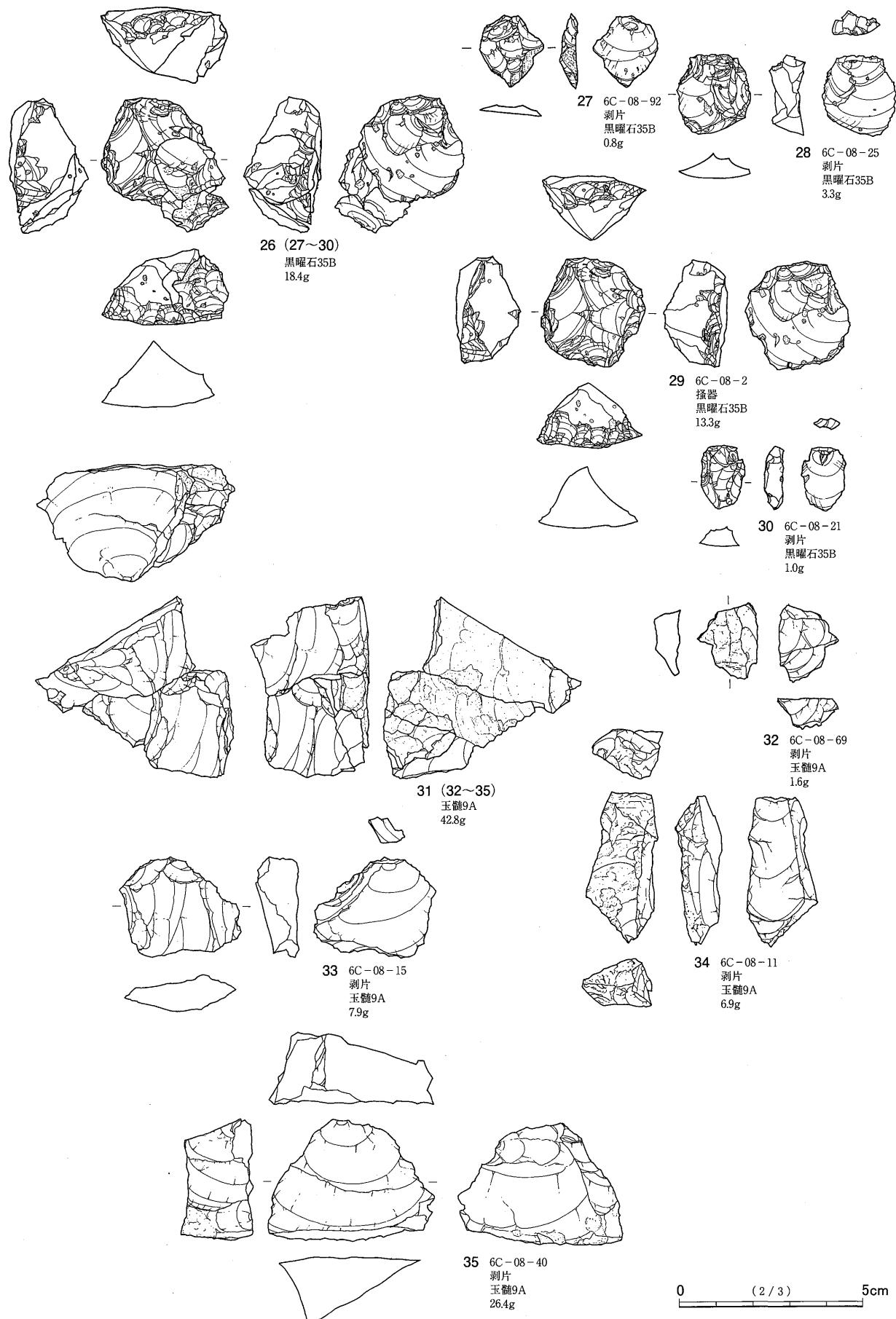
第64図 第12ブロック遺物分布



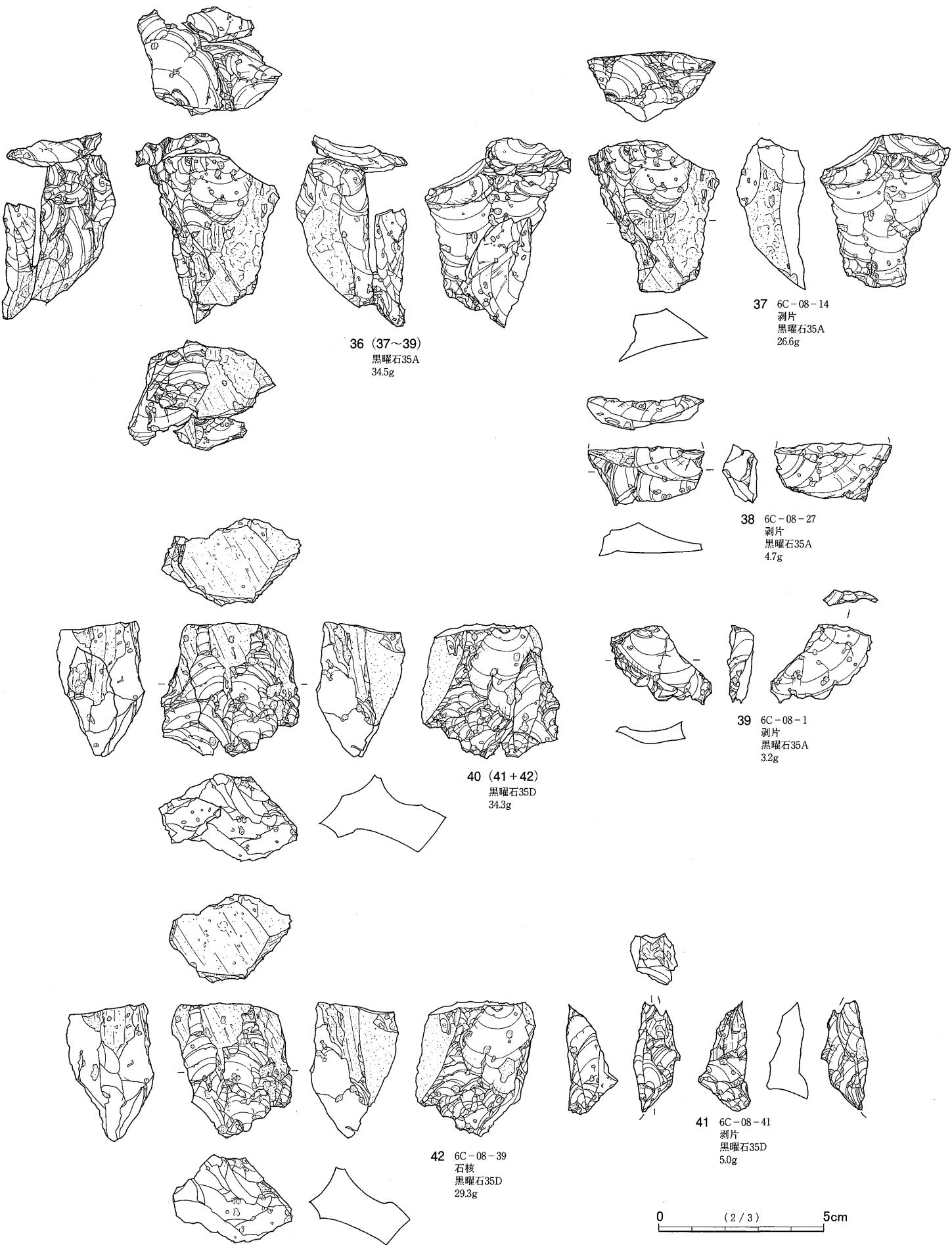
第65図 第12ブロック出土石器（1）



第66図 第12ブロック出土石器（2）



第67図 第12ブロック出土石器（3）



第68図 第12ブロック出土石器（4）

第13ブロック (第69図、第13表、図版6・19)

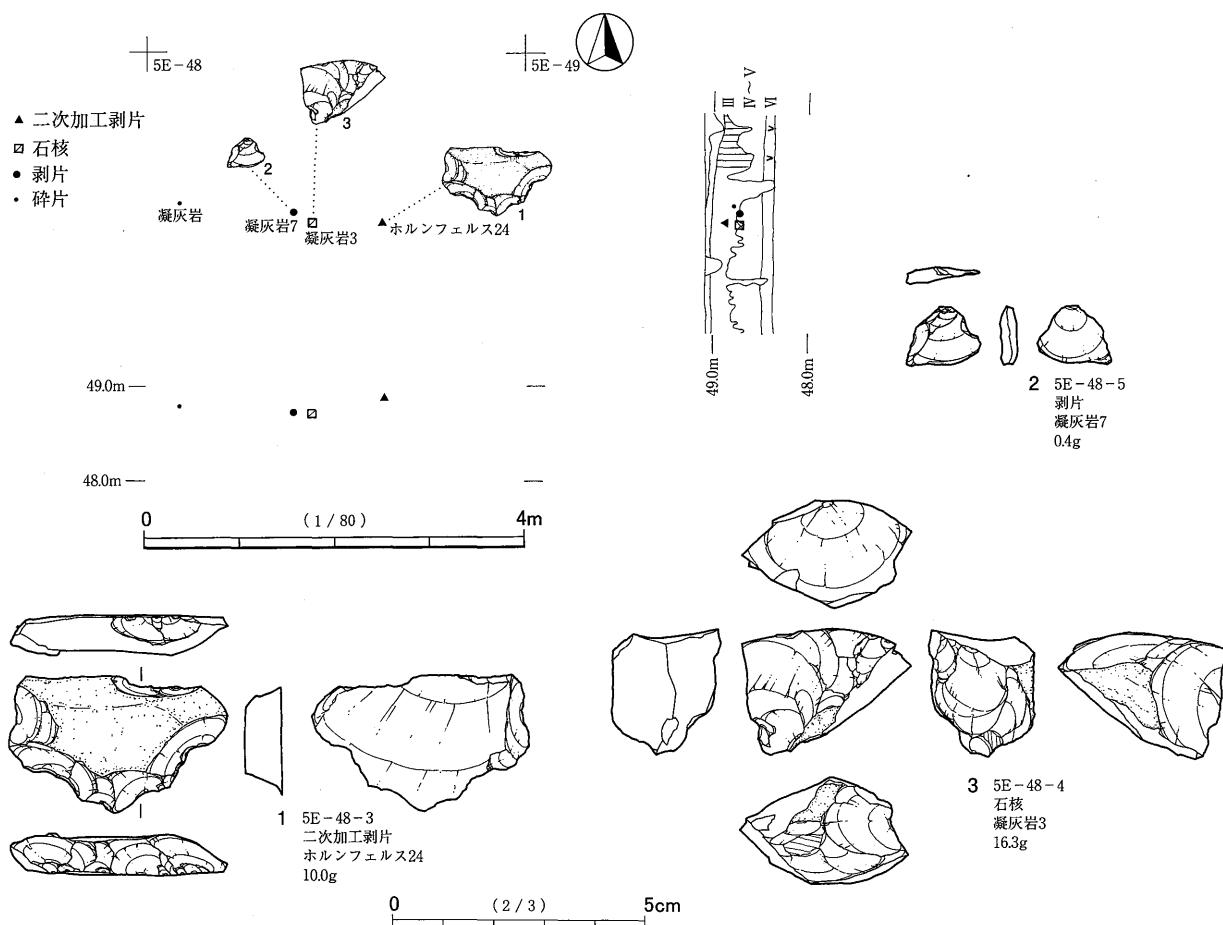
概要 第1文化層の石器群が検出された台地の北側で、東に大金沢支谷の最奥側の谷を見下ろす台地縁辺部の5Eグリッドに位置する。ブロック中の石器は、東西にはほぼ直線的に並んでIV～V層から検出された。

ブロックの内容は、二次加工剥片1点、石核1点、剥片1点、碎片1点の計4点である。石材は凝灰岩3点、ホルンフェルス1点である。

出土遺物 1は暗灰色を呈するホルンフェルス24の二次加工剥片である。自然面を残す横長剥片を素材とし、端部に鋸歯状の刃部に調整するような打撃を加えている。

2は緑灰色を呈する凝灰岩7の小型の剥片で、表裏両面に同一方向からの剥離痕が残る。

3は緑灰色を呈する凝灰岩3の石核である。一部に僅かに素材の自然面を残す。礫を横に分割して打面を作出し、剥片を剥がしている。



第69図 第13ブロック遺物分布・出土石器

第13表 第13ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	二次加工剥片	石核	剥片	碎片	点数	重量(g)	点数比	重量比
凝灰岩3		1		1	2	16.5	50.0%	61.3%
凝灰岩7			1		1	0.4	25.0%	1.5%
ホルンフェルス24	1				1	10.0	25.0%	37.2%
合計	1	1	1	1	4	26.9	100.0%	100.0%

第14ブロック（第70～74図、第14表、図版21～23）

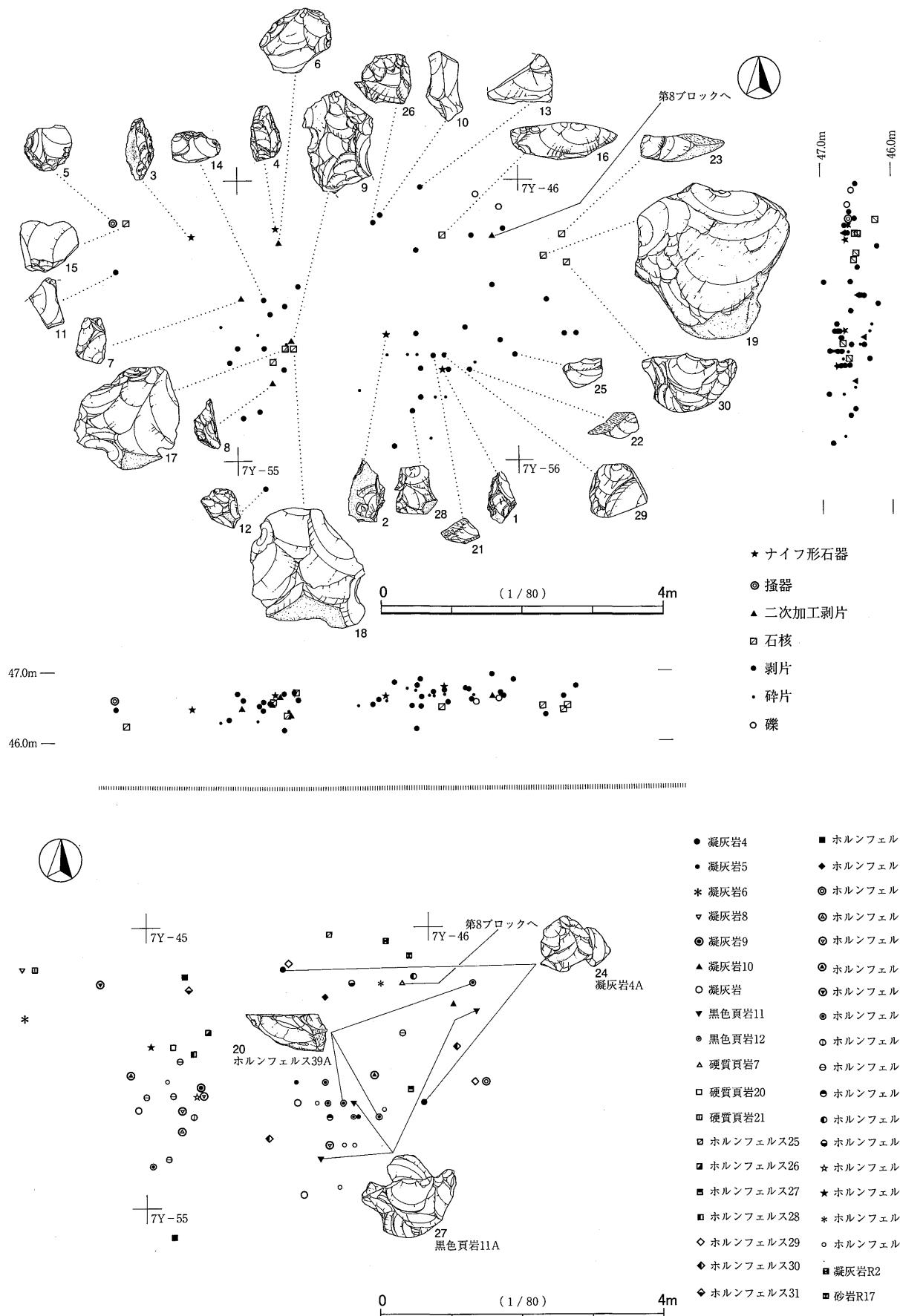
概要 大金沢支谷から分枝して浸入する谷を挟んだ西側の台地上で、大金沢支谷と大金沢支谷から分岐して北へ延びる坂崎谷津に挟まれた、南西へ向かって延びる幅10m～60mの尾根状の台地の7Yグリッドに位置する。この台地上にはIV～V層中から石器が検出された5つのブロックが台地平坦部に橢円形を描くように所在している。ブロック内の石器は、7m×4mの範囲に分布しており、石核はブロック内の北東と南西の2か所から7点が出土している。

ブロックの内容は、ナイフ形石器4点、二次加工剥片5点、搔器1点、石核7点、剥片37点、碎片11点、礫2点の総計67点である。石材は凝灰岩11点、硬質頁岩3点、黒色頁岩4点、ホルンフェルス47点、礫石材は凝灰岩1点、砂岩1点が含まれる。

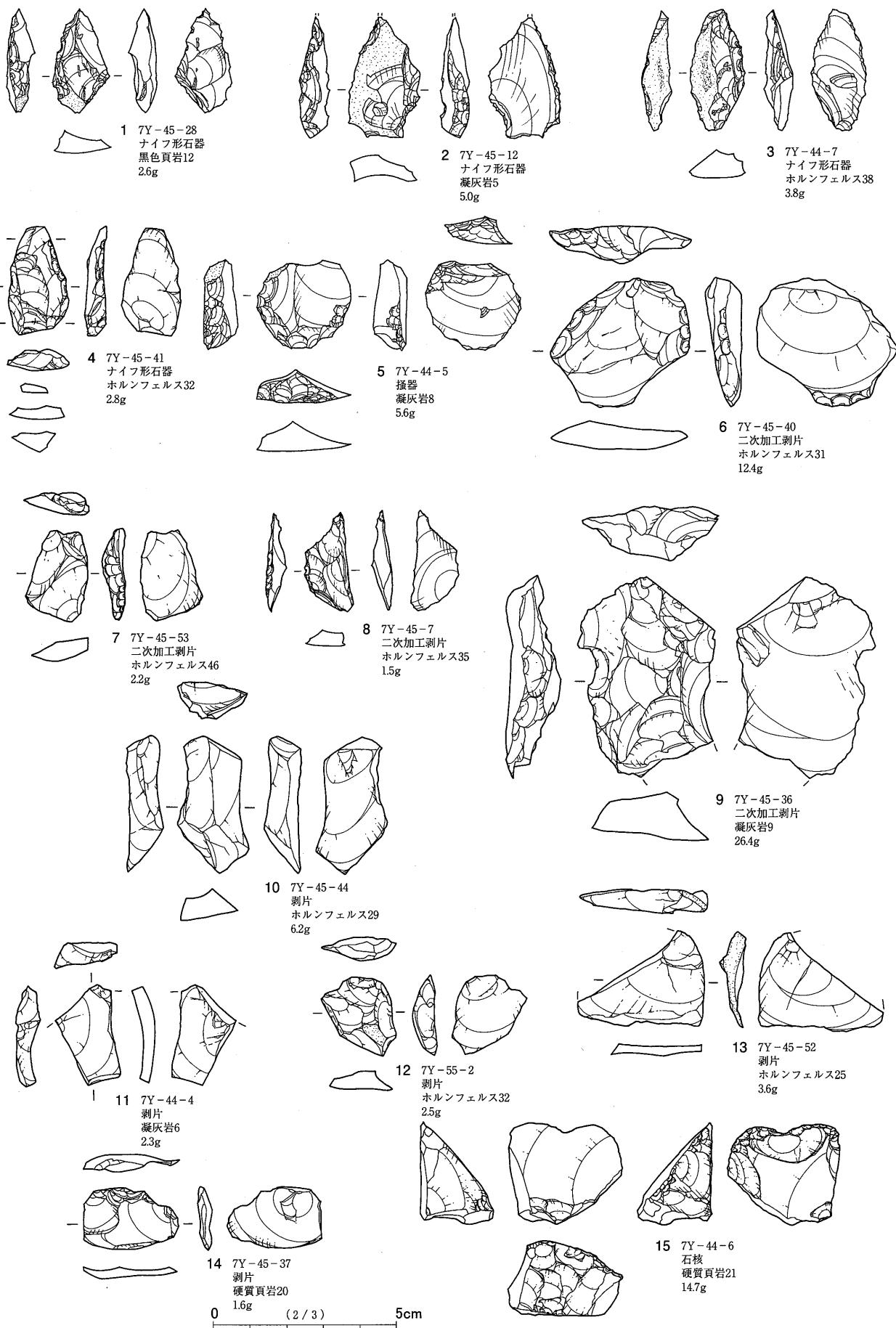
第14表 第14ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	ナイフ形石器	二次加工剥片	搔器	石核	剥片	碎片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比
凝灰岩4					2			2	6.7	3.0%	0.8%
凝灰岩5	1				1			2	6.9	3.0%	0.8%
凝灰岩6					1			1	2.3	1.5%	0.3%
凝灰岩7					2	1		3	5.6	4.5%	0.7%
凝灰岩8		1						1	26.4	1.5%	3.1%
凝灰岩9		1						1	471.7	1.5%	55.1%
凝灰岩10			1					1	1.8	1.5%	0.2%
硬質頁岩7		1						1	4.4	1.5%	0.5%
硬質頁岩20					1			1	1.6	1.5%	0.2%
硬質頁岩21				1				1	14.7	1.5%	1.7%
黒色頁岩11				1	2			3	59.6	4.5%	7.0%
黒色頁岩12	1							1	2.6	1.5%	0.3%
ホルンフェルス25					1			1	3.6	1.5%	0.4%
ホルンフェルス26					1			1	6.9	1.5%	0.8%
ホルンフェルス27					1			1	3.3	1.5%	0.4%
ホルンフェルス28					1			1	6.7	1.5%	0.8%
ホルンフェルス29					2			2	7.8	3.0%	0.9%
ホルンフェルス30					1	1		2	19.4	3.0%	2.3%
ホルンフェルス31		1			2			3	17.3	4.5%	2.0%
ホルンフェルス32	1				1			2	5.3	3.0%	0.6%
ホルンフェルス33					1			1	1.5	1.5%	0.2%
ホルンフェルス34					1			1	1.0	1.5%	0.1%
ホルンフェルス35		1						1	1.5	1.5%	0.2%
ホルンフェルス36					1	1		2	69.3	3.0%	8.1%
ホルンフェルス37					1	1		2	1.1	3.0%	0.1%
ホルンフェルス38	1							1	3.8	1.5%	0.4%
ホルンフェルス39					1	4	1	6	15.9	9.0%	1.9%
ホルンフェルス40					1			1	5.0	1.5%	0.6%
ホルンフェルス41					6			6	14.0	9.0%	1.6%
ホルンフェルス42					1			1	1.7	1.5%	0.2%
ホルンフェルス43					1			1	2.4	1.5%	0.3%
ホルンフェルス44					1			1	20.5	1.5%	2.4%
ホルンフェルス45					1			1	38.2	1.5%	4.5%
ホルンフェルス46		1						1	2.2	1.5%	0.3%
ホルンフェルス47					1			1	1.7	1.5%	0.2%
ホルンフェルス						7		7	1.0	10.4%	0.1%
凝灰岩R2							1	1	442.1	1.5%	51.7%
砂岩R17							1	1	243.5	1.5%	28.5%
合計	4	5	1	7	37	11	2	67	855.4	100.0%	100.0%

出土遺物 1～4はナイフ形石器である。1は暗灰色を呈する黒色頁岩12の横長剥片を素材とし、左側縁に急角度の調整加工痕が残る。基部には礫の自然面がわずかに残り、右側縁の先端部には微細な刃こぼれが見られる。2は青灰色を呈する凝灰岩5のナイフ形石器である。自然面を残す横長剥片を素材とする。先端部をわずかに欠損し、左側縁と右側縁の基部には裏面側からの急角度の調整剥離痕が見られる。また、



第70図 第14ブロック 遺物分布

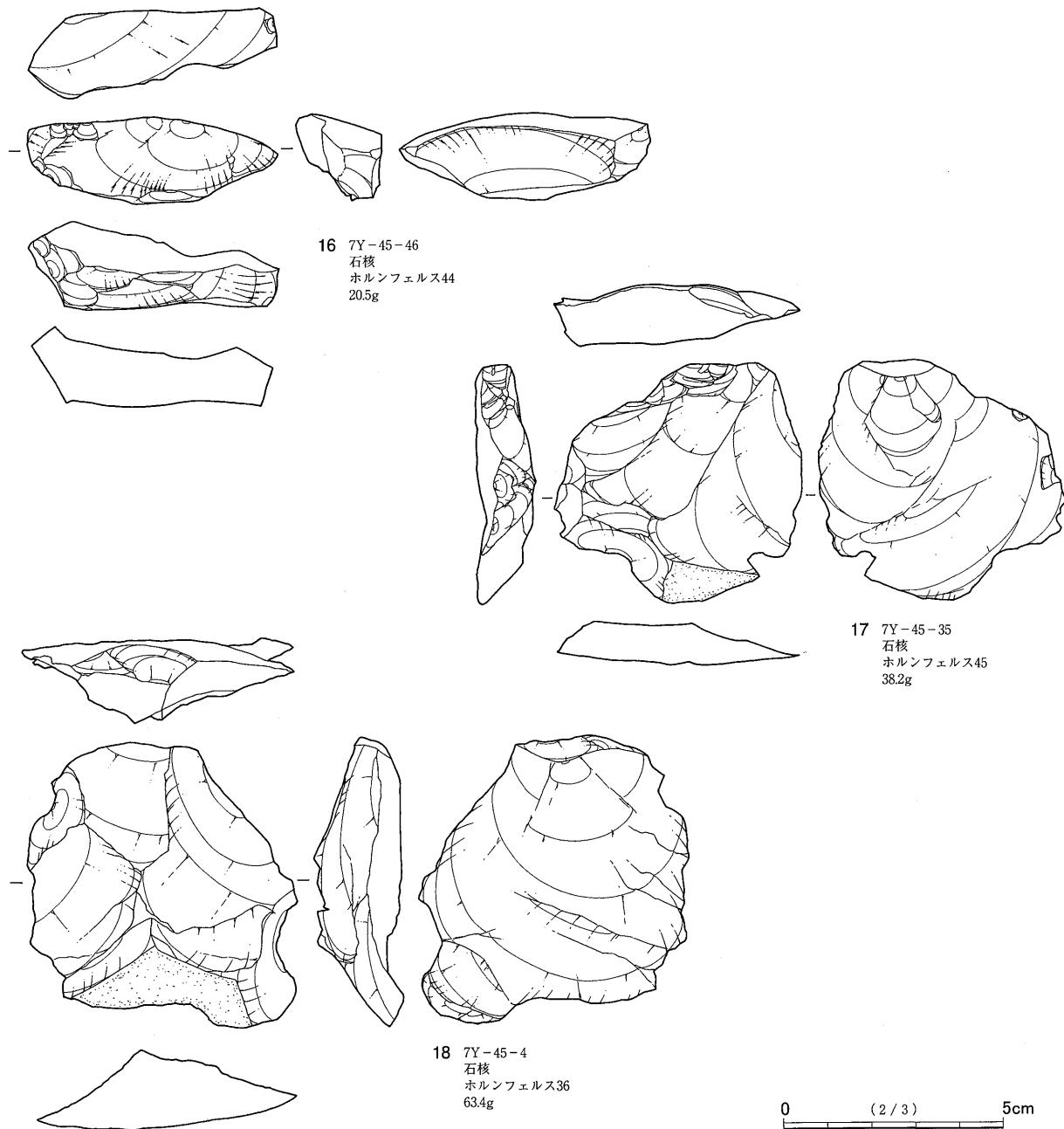


第71図 第14ブロック出土石器（1）

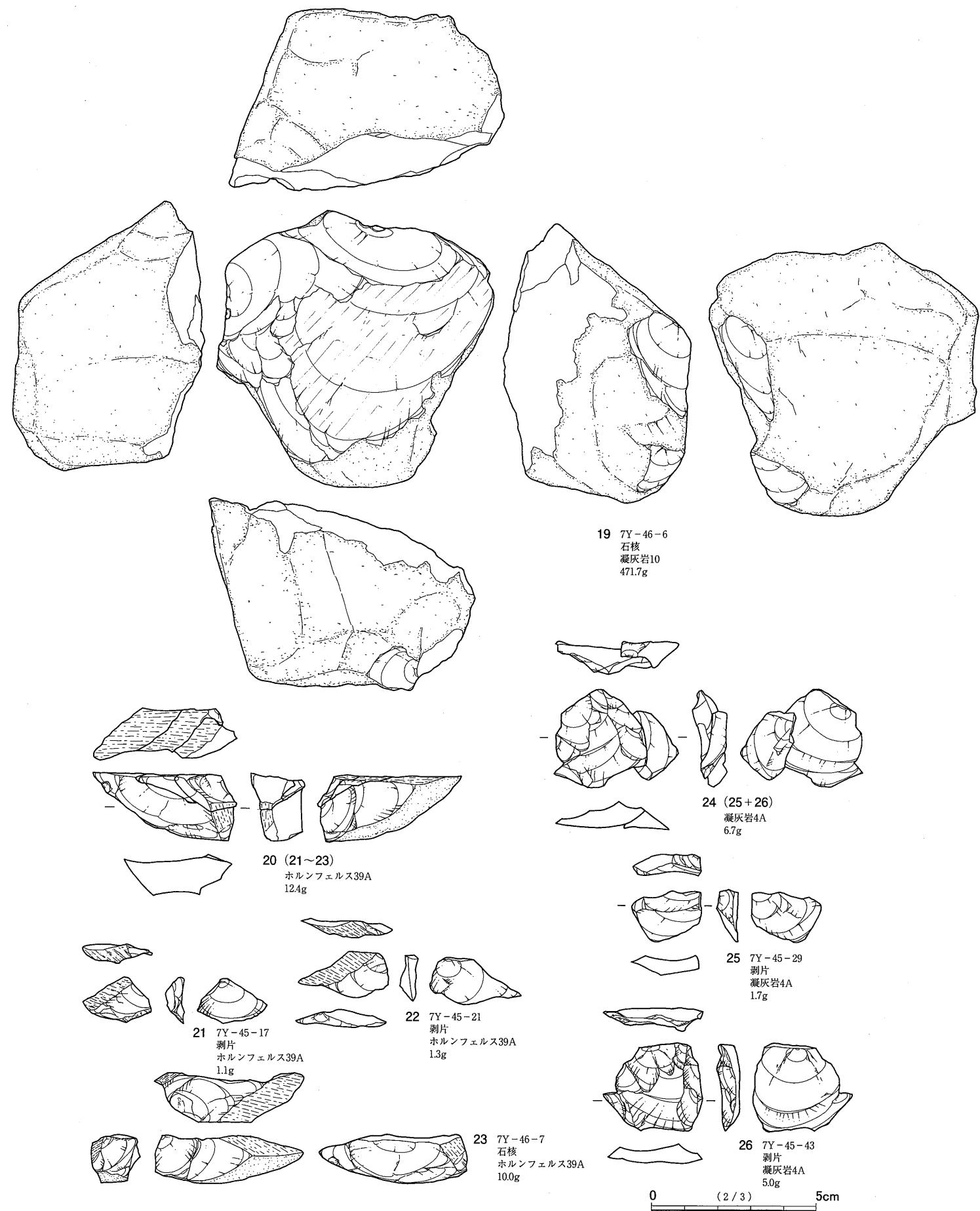
裏面が湾曲している。3、4は縦長剥片を素材とした青灰色を呈するホルンフェルスのナイフ形石器である。3は自然面を残し、右側縁には微細な調整加工痕が残る。右側縁基部の剥離痕は破損したものか。4は風化が進んでいるが、右側縁に裏面側からの調整加工痕が見られる。3はホルンフェルス38、4はホルンフェルス32である。

5は灰白色を呈する凝灰岩8の搔器である。厚手の剥片を素材として周縁部に急角度の加工を加え、右側縁の裏面側には表面からの細かな剥離痕が見られる。

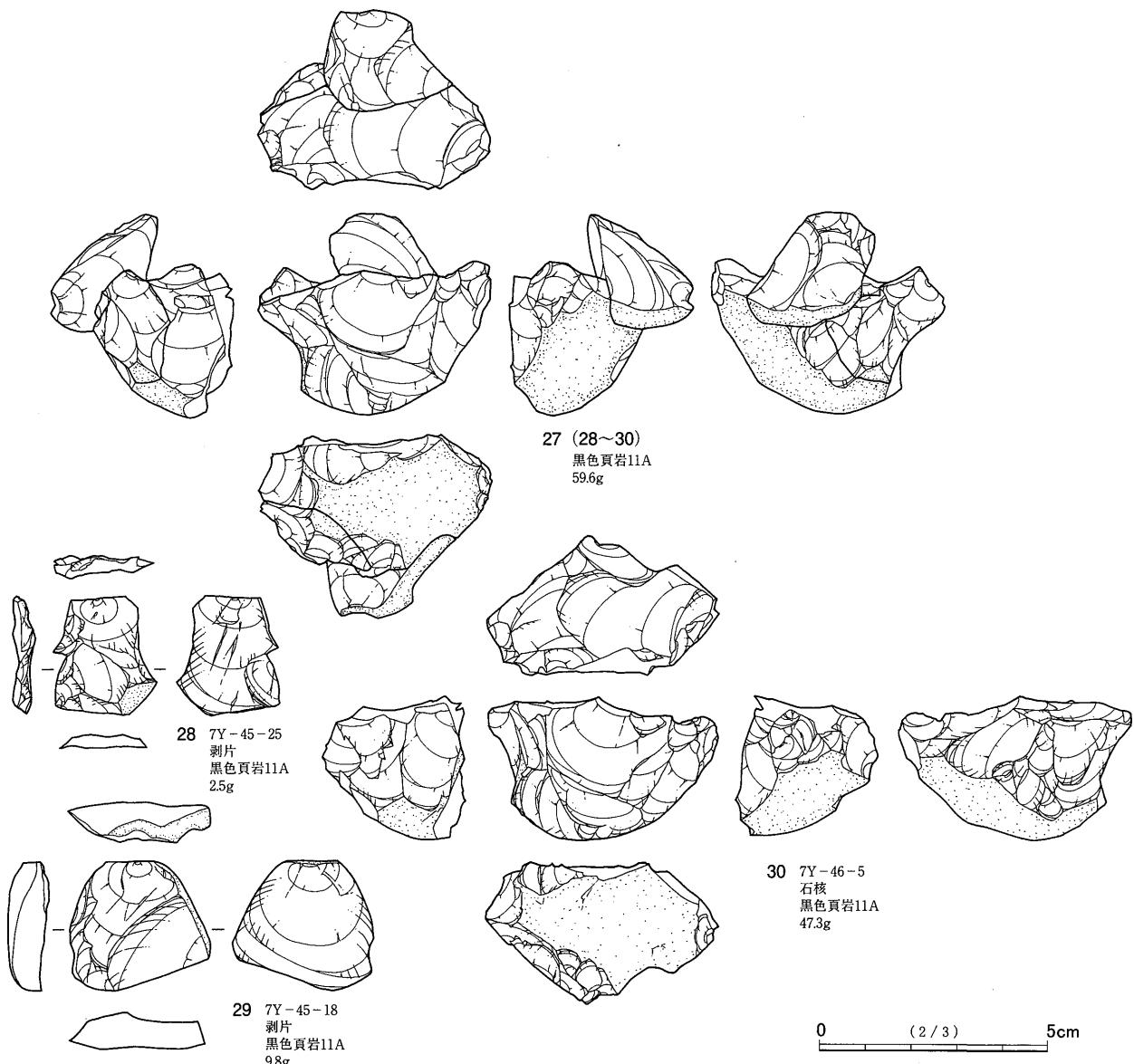
6～9は二次加工剥片である。6は左右の側縁部には裏面から、端部には表面から剥離を加えている。



第72図 第14ブロック出土石器（2）



第73図 第14ブロック出土石器 (3)



第74図 第14ブロック出土石器（4）

7は右側縁に裏面側から、8は左側縁に裏面からの急角度の剥離を加えている。6は灰色を呈するホルンフェルス31、7はホルンフェルス46、8はホルンフェルス35である。9は灰色を呈する凝灰岩9の厚手で大型の縦長剥片である。端部を欠く。左側縁に裏面側から加工を加えている。

10～14は剥片である。11、13には表裏両面に同一方向から加撃された剥離痕が残る。打面と加撃の方向を変えずに、打点を前進させながら連続的に剥離されている。11、13とも2～3片に折れている。12は表面に四方向からの剥離痕が残る。一部に礫の自然面が残る。10は灰色を呈するホルンフェルス29、12はホルンフェルス32、13はホルンフェルス25である。11は青灰色を呈する凝灰岩6、14は暗褐色を呈する硬質頁岩20である。

15～19は石核である。15は暗褐色を呈し黒灰色の微少夾雜物が入る硬質頁岩21で、両面の平坦な剥離面を打面として、不定型の小型の剥片を剥いでいる。また、側縁には細かな剥離痕が見られる。打面調整と

もとれるが搔器としても使用されたものか。16は暗灰色を呈するホルンフェルス44の石核である。17は下端に礫の自然面を残す暗灰色を呈するホルンフェルス45の大型の剥片素材の石核である。左側縁に剥離が加えられている。18は青灰色を呈するホルンフェルス36の石核である。左側縁に剥離が加えられている。19は表面が褐色、内面が青灰色を呈する凝灰岩10の石核である。角張った礫を素材とし、礫を大きく分割した後にその剥離面の縁辺から中央に向かって剥片を剥いでいる。

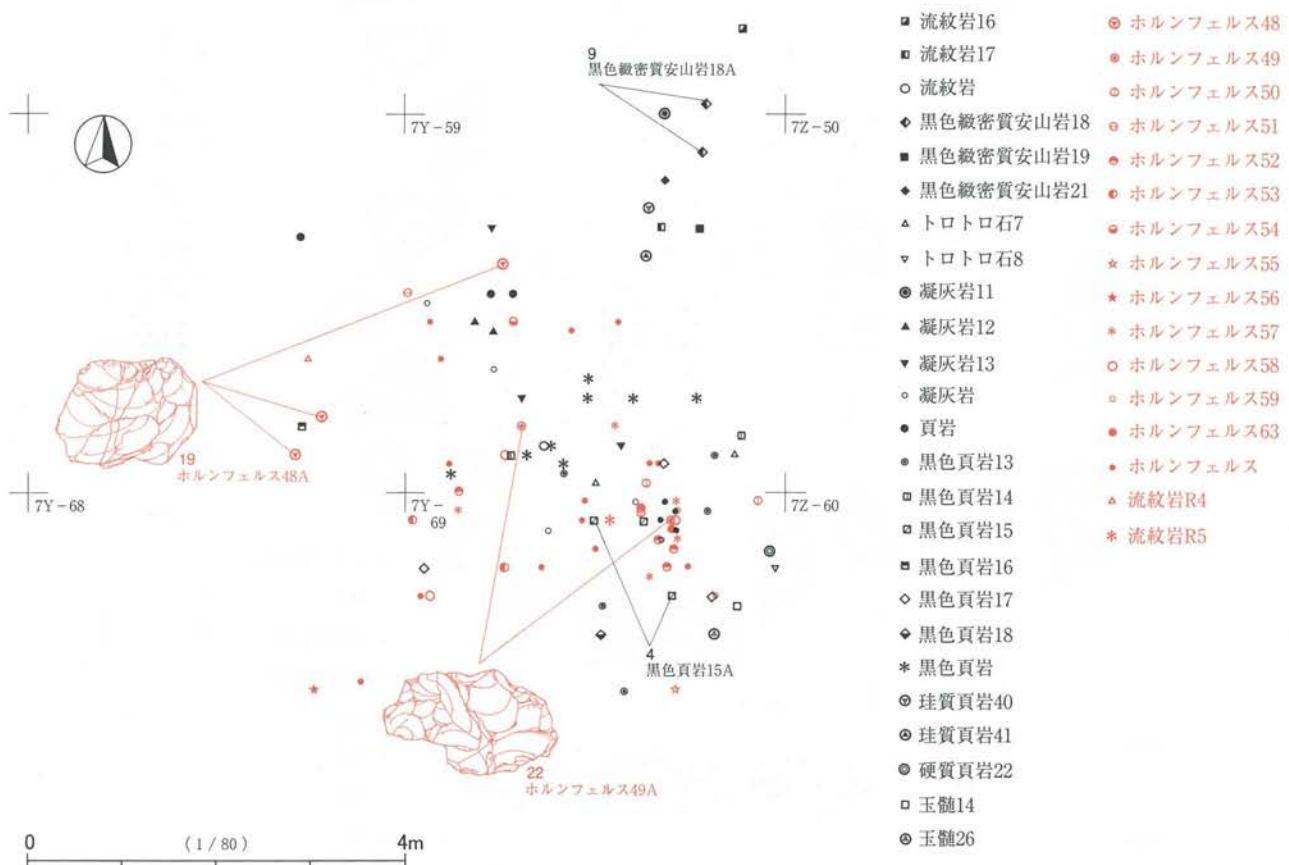
20（21～23）は暗灰色を呈するホルンフェルス39の接合資料である。節理面で割れた剥片の節理面を打面として不定型の剥片を生産している。

24（25+26）は灰色を呈する凝灰岩4の不定型な剥片の接合資料である。

27（28～30）は青灰色を呈する黒色頁岩11の接合資料である。28、29は剥片である。29の端部は蝶番状を呈する。30は礫の自然面を残す石核である。打面を周回させながら剥離作業を行っている。

第15ブロック（第75～78図、第15表、図版21～23）

概要 大金沢支谷から分岐して浸入する谷を挟んだ西側の台地上で、大金沢支谷と大金沢支谷から分岐して北へ延びる坂崎谷津に挟まれた、南西へ向かって延びる尾根状の台地上の7Yグリッドに位置す

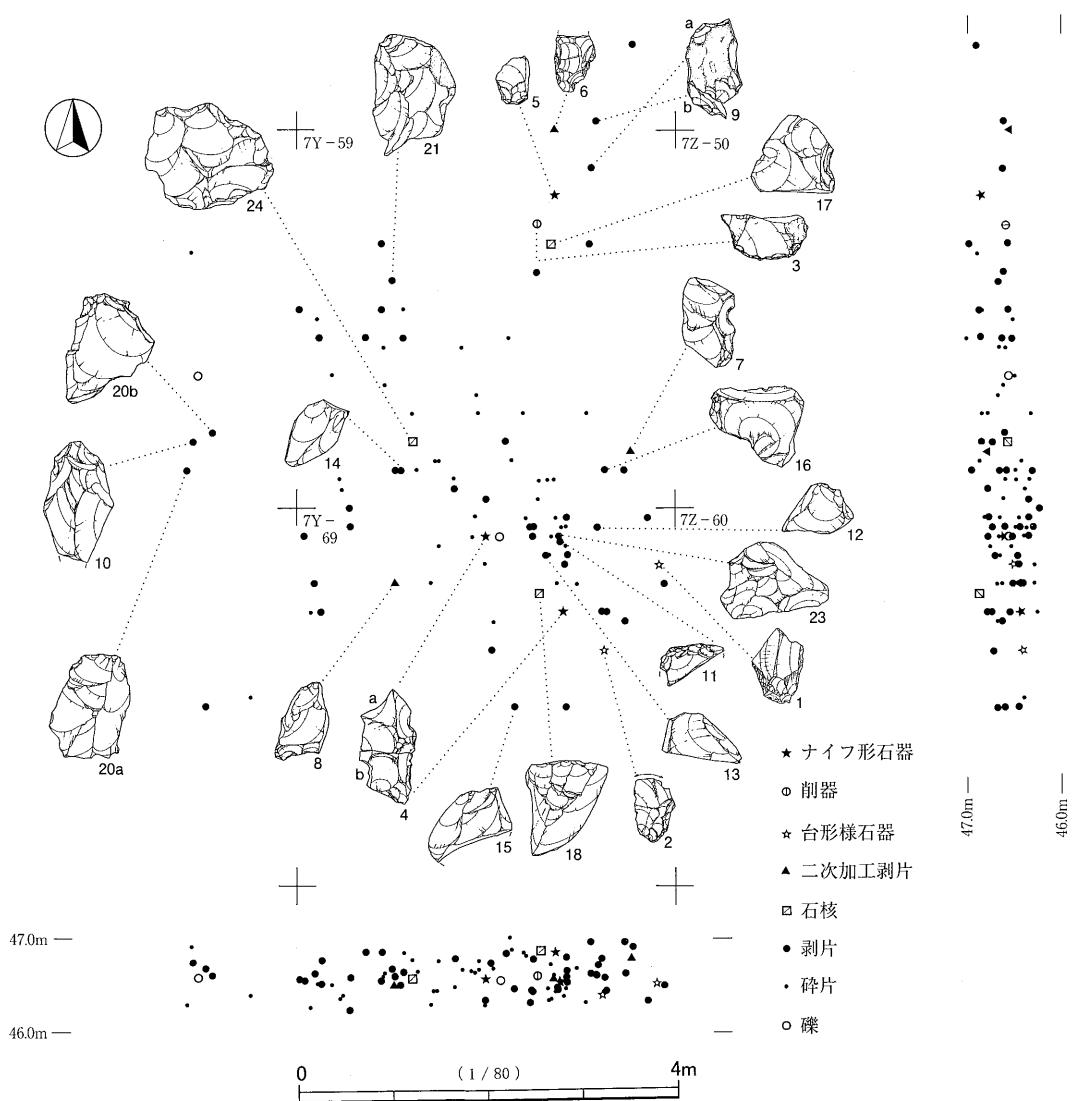


第75図 第15ブロック母岩別分布

る。この台地上には5つのブロックが台地平坦部に橢円形を描くように検出され、第15ブロックは大金沢支谷側の南から北上しながら東へ湾入する支谷に面した台地上に位置する。石器は7m×6mほどの範囲から出土した。

ブロックの内容は、ナイフ形石器3点、台形様石器2点、削器1点、二次加工剥片3点、石核3点、剥片47点、碎片43点、礫2点の総計104点である。石材は黒色緻密質安山岩4点、トロトロ石3点、流紋岩4点、凝灰岩11点、頁岩3点、珪質頁岩2点、硬質頁岩1点、黒色頁岩23点、ホルンフェルス49点、玉髓2点、礫石材は流紋岩2点である。

出土遺物 1、2は台形様石器である。1は褐灰色を呈する硬質頁岩22の不定型な剥片を素材として、剥片の基部側の両側縁に細かな調整加工を施す。2は玉隨26の縦長剥片を素材とし、基部側の両側縁に細かな調整加工痕がある。また端部に細かな刃こぼれ状の剥離痕がある。石材の色調は透明度の低い褐灰色で、灰白色の夾雜物が入る。



第76図 第15ブロック器種別分布

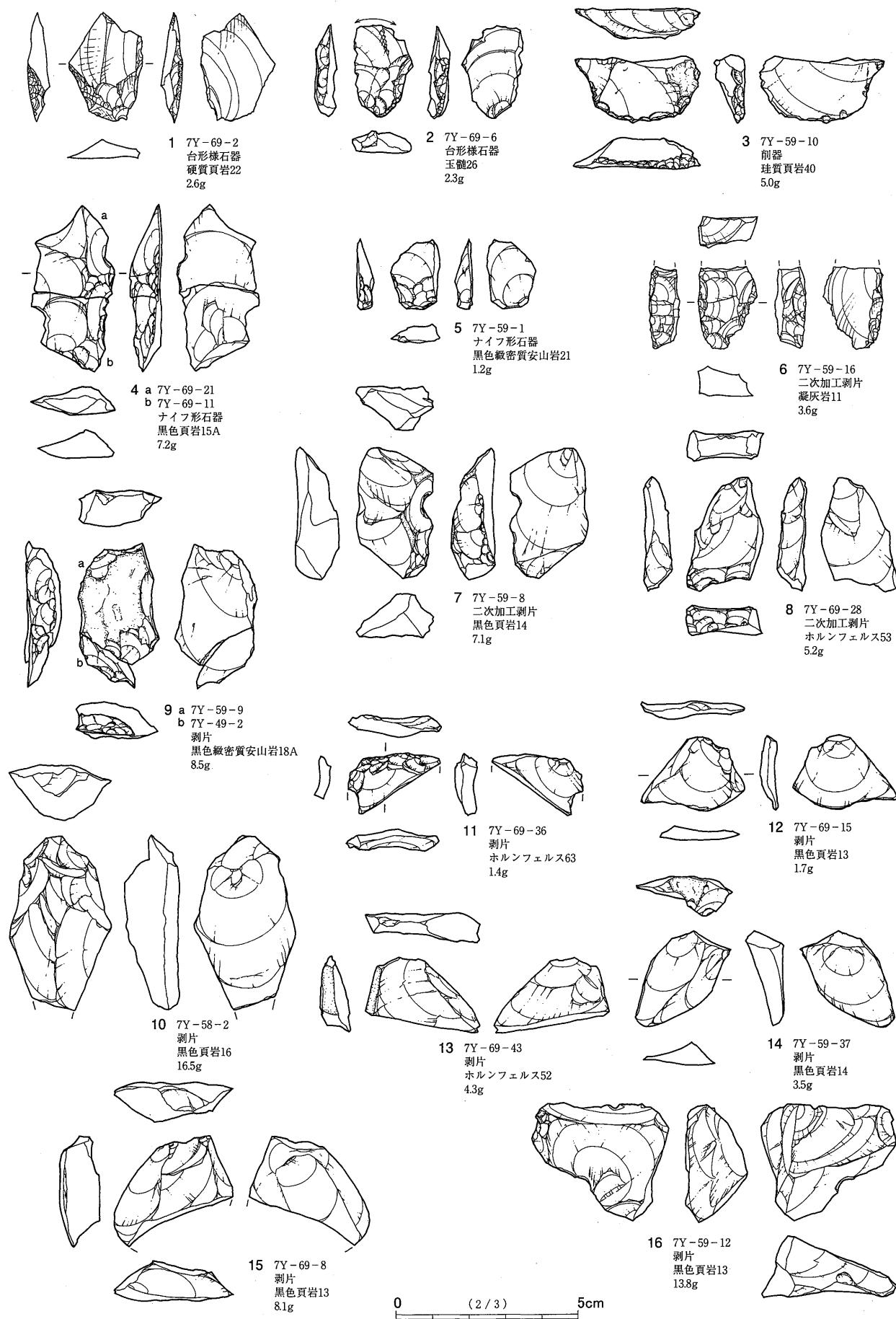
3は表面が灰褐色で内面が暗褐色を呈する珪質頁岩40の削器である。剥片を横に分割し、基部から左側縁にかけて裏面側から細かな調整剥離を加えて刃部としている。石材の色調は表皮部分は灰褐色を呈し、内面は暗褐色である。

4は青灰色を呈する黒色頁岩15のナイフ形石器である。横方向に軸とほぼ直角に折れた2片が接合したもので、縦長剥片を素材とし、右側縁に調整加工痕がある。5は黒褐色を呈する黒色緻密質安山岩21の小型のナイフ形石器である。左側縁に調整加工を施す。右側縁側は素材の剥片を縦に折り取っている。

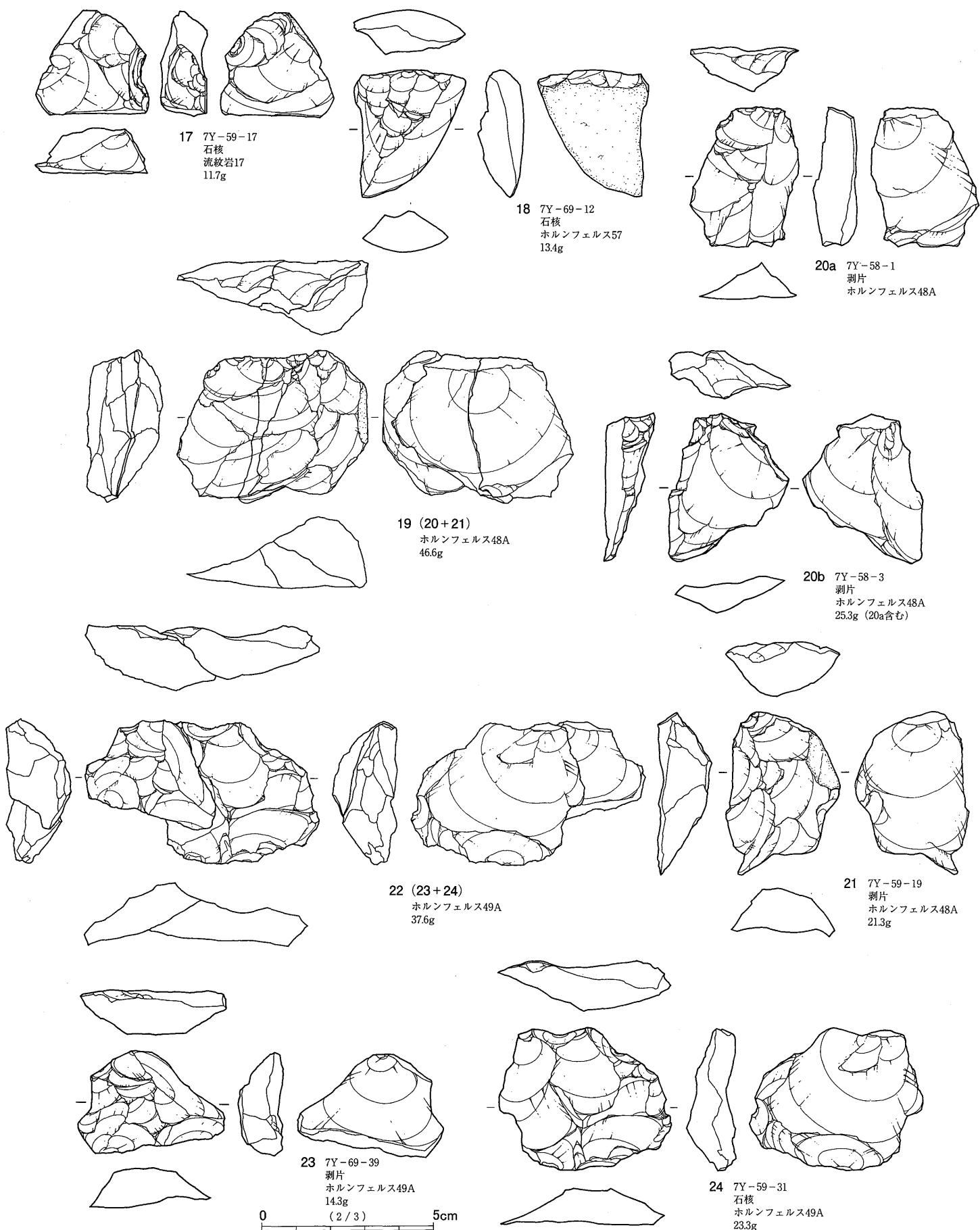
6～8は二次加工剥片である。6は暗青灰色を呈する凝灰岩11の剥片を分割し、両側縁に急角度の剥離を加えている。7は褐灰色を呈する黒色頁岩14の剥片で、右側縁に裏面からの調整加工が見られる。8は暗灰色を呈するホルンフェルス53の剥片で、端部に裏面からの調整加工が加えられている。

第15表 第15ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	ナイフ形石器	台形石器	削器	二次加工剥片	石核	剥片	碎片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒色緻密質安山岩18						2			2	8.5	1.9%	3.0%
黒色緻密質安山岩19						1			1	1.0	1.0%	0.3%
黒色緻密質安山岩21	1								1	1.2	1.0%	0.4%
トロトロ石7						2			2	10.8	1.9%	3.8%
トロトロ石8						1			1	0.6	1.0%	0.2%
流紋岩16						1			1	0.9	1.0%	0.3%
流紋岩17					1				1	11.7	1.0%	4.1%
流紋岩							2		2	0.8	1.9%	0.3%
凝灰岩11				1					1	3.6	1.0%	1.3%
凝灰岩12						1	1		2	2.0	1.9%	0.7%
凝灰岩13						1	2		3	1.2	2.9%	0.4%
凝灰岩							5		5	0.5	4.8%	0.2%
頁岩2						1			1	1.0	1.0%	0.3%
頁岩							2		2	0.9	1.9%	0.3%
珪質頁岩40		1							1	5.0	1.0%	1.7%
珪質頁岩41						1			1	0.7	1.0%	0.2%
硬質頁岩22		1							1	2.6	1.0%	0.9%
黒色頁岩13						4	1		5	23.1	4.8%	8.1%
黒色頁岩14				1		1			2	10.6	1.9%	3.7%
黒色頁岩15	2					1			3	9.8	2.9%	3.4%
黒色頁岩16						1			1	16.5	1.0%	5.8%
黒色頁岩17						2	1		3	3.0	2.9%	1.0%
黒色頁岩18						1			1	1.0	1.0%	0.3%
黒色頁岩							8		8	1.6	7.7%	0.6%
ホルンフェルス48						3			3	46.6	2.9%	16.3%
ホルンフェルス49					1	1			2	37.6	1.9%	13.1%
ホルンフェルス50						3	1		4	10.4	3.8%	3.6%
ホルンフェルス51						1			1	6.2	1.0%	2.2%
ホルンフェルス52						4	1		5	11.4	4.8%	4.0%
ホルンフェルス53				1		1			2	7.2	1.9%	2.5%
ホルンフェルス54						1			1	2.4	1.0%	0.8%
ホルンフェルス55						1			1	1.1	1.0%	0.4%
ホルンフェルス56						1			1	6.1	1.0%	2.1%
ホルンフェルス57					1	4			5	25.7	4.8%	9.0%
ホルンフェルス58						2			2	2.8	1.9%	1.0%
ホルンフェルス59						1	1		2	2.0	1.9%	0.7%
ホルンフェルス63						1			1	1.4	1.0%	0.5%
ホルンフェルス						1	18		19	3.9	18.3%	1.4%
玉髓14						1			1	0.7	1.0%	0.2%
玉髓26		1							1	2.3	1.0%	0.8%
流紋岩R4								1	1	156.0	1.0%	54.5%
流紋岩R5								1	1	44.7	1.0%	15.6%
合計	3	2	1	3	3	47	43	2	104	286.4	100.0%	100.0%



第77図 第15ブロック出土石器（1）



第78図 第15ブロック出土石器（2）

9～16は剥片である。9a、bは素材の礫の自然面が多く残る黄灰色を呈する黒色緻密質安山岩18の剥片である。2片が接合した。10は灰色を呈する黒色頁岩16の厚手の剥片で、断面が三角形を呈し、表面には打点を周回して剥離を行った剥離痕が残り、端部は折れている。11、12は裏面と同方向の剥離痕が表面に残る剥片である。石材は11が暗灰色を呈するホルンフェルス63、12が青灰色を呈する黒色頁岩13である。13は暗青灰色を呈するホルンフェルス52の剥片で、表面には裏面と直角方向の剥離痕が残る。14は青灰色を呈する黒色頁岩14の剥片である。15、16は灰色を呈する黒色頁岩13の剥片である。15は端部が折れて欠損している。

17、18は石核である。17は色調が自然面が淡黄色で内面が灰白色を呈する流紋岩17の剥片素材の石核である。打点、打面を変えて不定型な剥片を剥がした痕が残る。18は一面に自然面を残す剥片素材の灰色を呈するホルンフェルス57の石核である。一端に打面を設定し、剥片を剥離している。

19(20+21)は剥片3片の接合資料である。暗青灰色を呈するホルンフェルス48を素材とする。

22(23+24)は同一打面から連続した剥離作業により剥離されたものである。23は下端が節理面で折れている。24は剥片素材の石核で、裏面側の端部と側縁に剥離痕が見られ、ホルンフェルス49を素材とする。

第16ブロック（第79～83図、第16表、図版21～23）

概要 大金沢支谷と大金沢支谷から分岐して北へ延びる坂崎谷津に挟まれた南西へ向かって延びる尾根状の台地上の7Yグリッドに位置する。台地上には5つのブロックが台地平坦部に楕円形を描くように検出され、第16ブロックは坂崎谷津側の支谷に面した台地上、第14ブロックの5m南に位置する。4m×2mほどの南北に長い石器の出土の集中する範囲を中心に、6m×6mの範囲に分布している。南北の中央付近で密に出土する範囲がさらに二分され、その南北で剥片の接合が見られる。

ブロックの内容は、楔形石器1点、二次加工剥片4点、微細剥離剥片6点、石核2点、剥片56点、碎片5点、礫3点の総計77点である。石材は流紋岩1点、黒曜石4点、珪質頁岩1点、黒色頁岩3点、ホルンフェルス14点、玉髓51点、礫石材はホルンフェルス2点、砂岩1点である。

出土遺物 1は暗灰色を呈する黒色頁岩19の楔形石器である。礫面を一部に残した厚手の剥片の端部に調整加工を行っている。

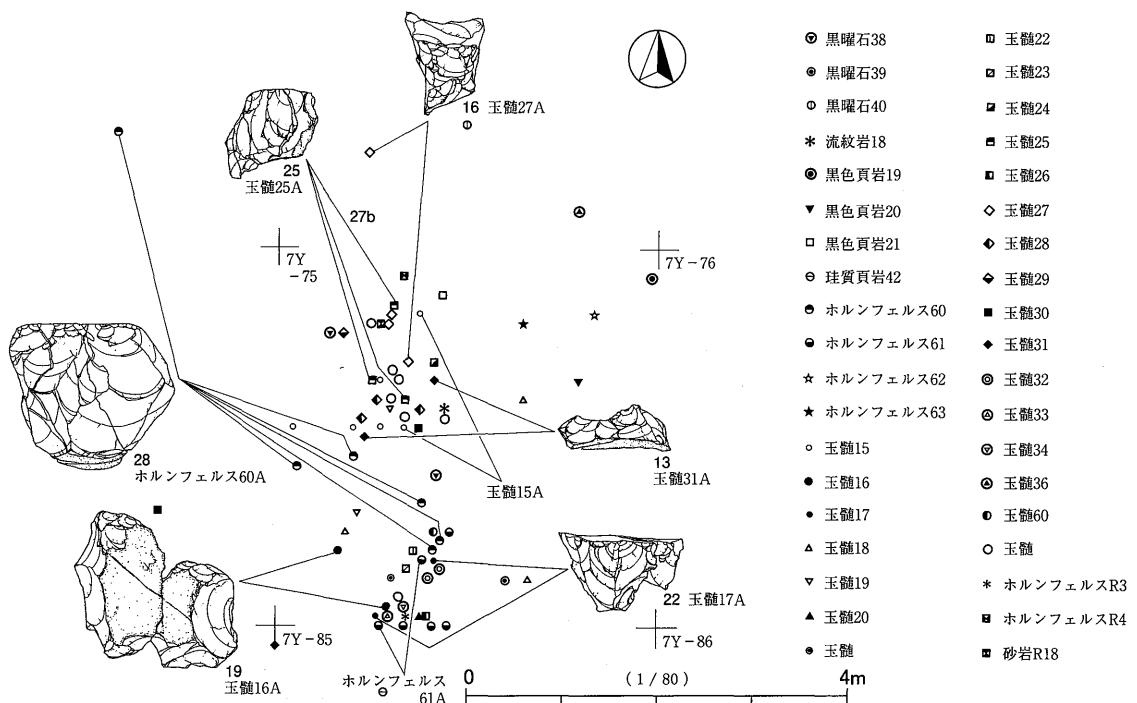
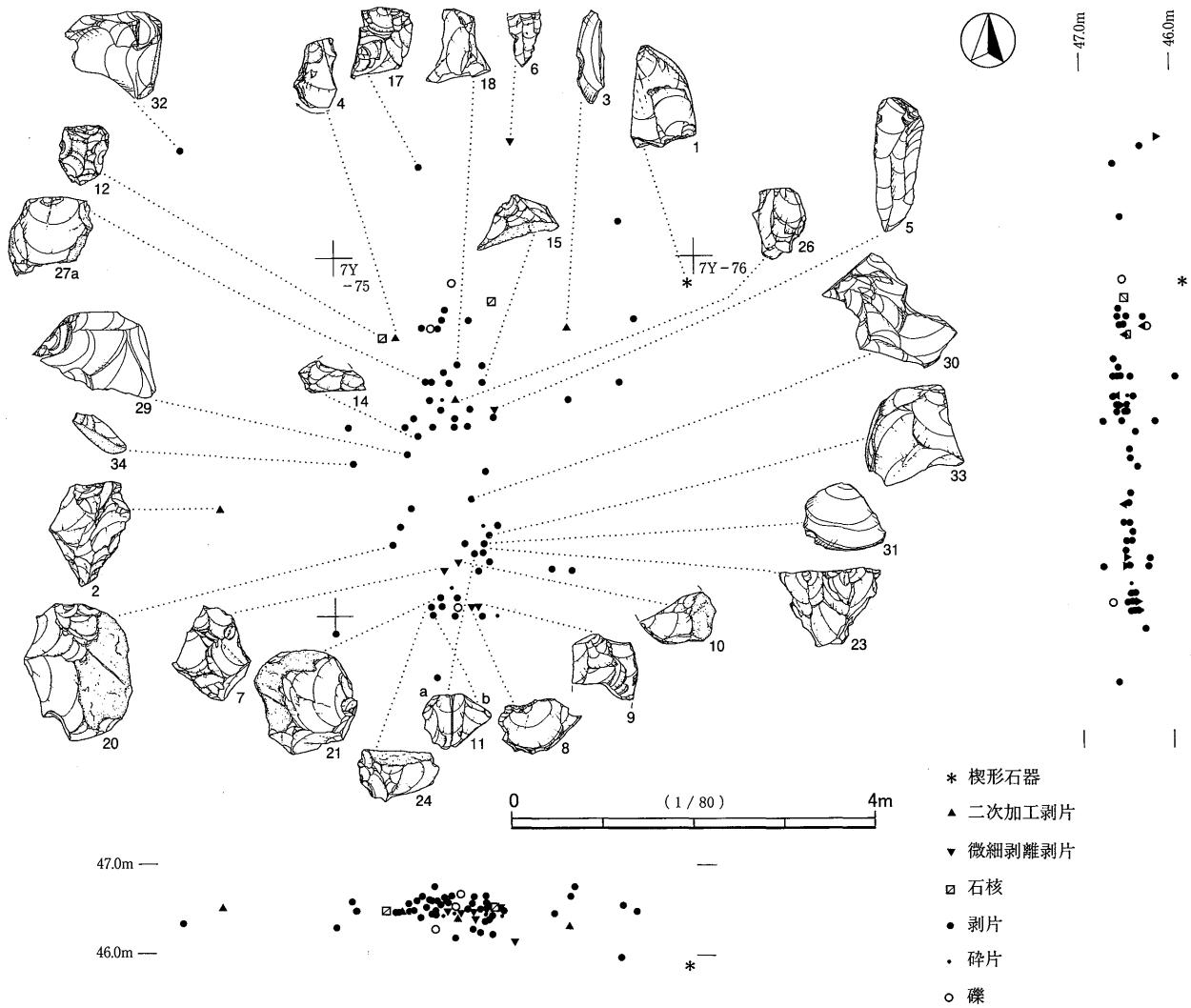
2～4は二次加工剥片である。2は半透明の明赤褐色から灰白色を呈し不規則に混じりあう玉髓30の厚手の縦長剥片を素材とし、右側縁の端部に裏面側から急角度の剥離を加える。3は暗灰色を呈するホルンフェルス63を素材として、左側縁に裏面側からノッチ状の加工を加えている。4は半透明の灰白色を呈する玉髓29の縦長剥片を素材として、右側縁の基部と左側縁の端部に細かな加工を加える。

5～10は微細剥離剥片である。5は灰色を呈する流紋岩18の縦長剥片を用いて、左側縁の基部側に裏面側から、右側縁の端部には表面からの細かな剥離痕が見られる。6は透明感のある灰色がかった黒曜石40の剥片で基部側は折れて欠損しているが、端部に近い両側縁に微細な刃こぼれ状の剥離痕が見られる。7は淡黄色を呈する玉髓21の厚手の剥片で、右側縁の表面側に刃こぼれ状の微細な剥離痕が見られる。8は浅黄色を呈する玉髓20の横長剥片で、同一打面から連続して横長剥片を剥がした痕が残る剥片である。表裏両面の周縁には微細な剥離痕が見られる。9は灰白色を呈する玉髓26の剥片で、端部は折れていて不明であるが、右側縁の表面側と左側縁の裏面側に微細な刃こぼれ状の剥離痕が見られる。10は灰白色を呈する玉髓23の剥片で、左側縁の端部に微細な剥離痕が見られる。

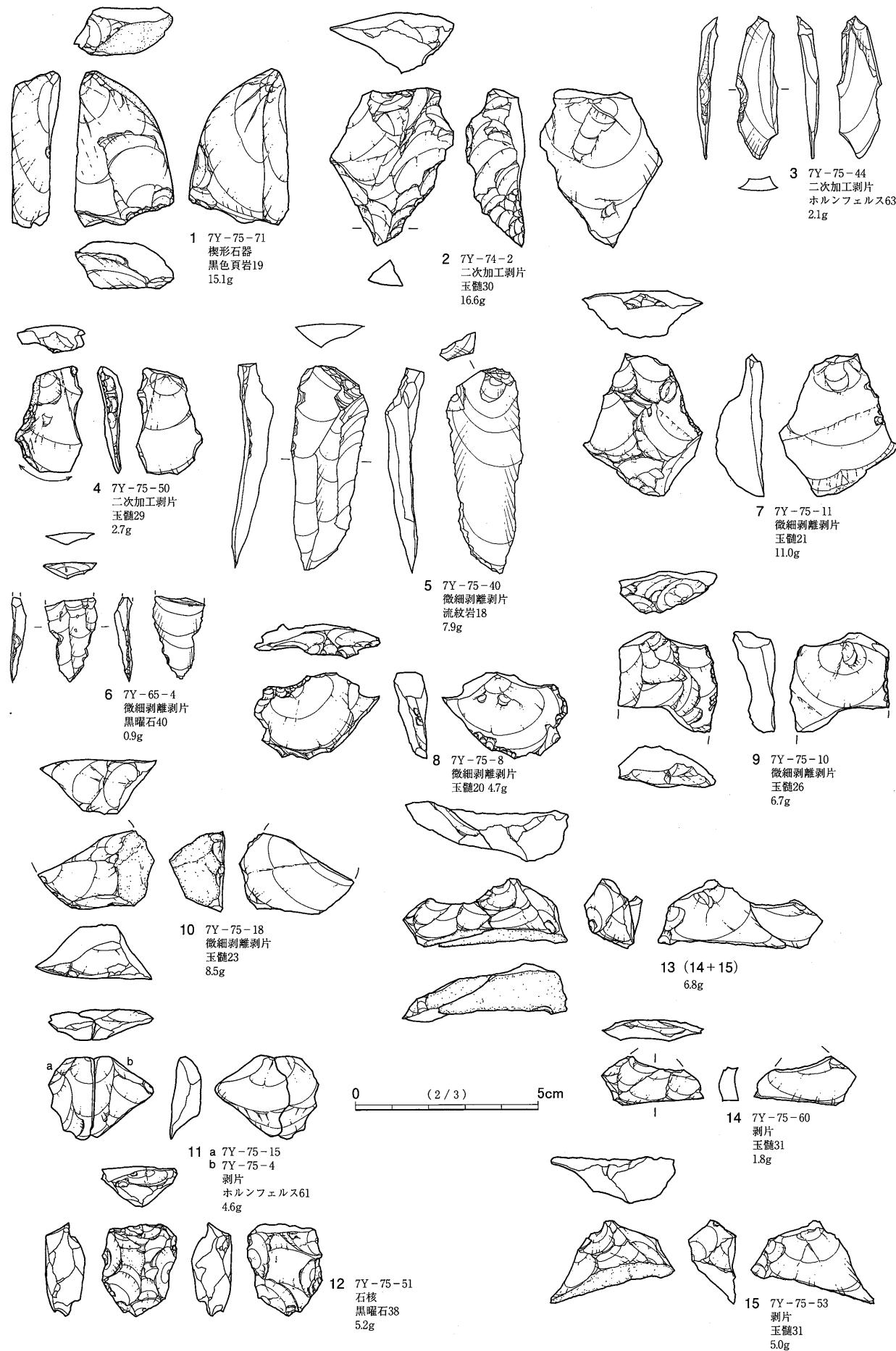
- 11 (a、b) は灰色を呈するホルンフェルス61の剥片で、打点付近から縦に割れた剥片が接合した。
- 12は黒曜石38の剥片素材の石核で、表裏に打点を周回させながら不定型な剥片を剥いだ剥離痕が残る。
- 13 (14+15) は表面が暗赤色で内面が浅黄褐色を呈する玉髓31を素材とする厚手の横長剥片が接合した。
- 16 (17+18) は半透明の灰白色を呈する玉髓27の不定型な剥片である。17を剥離した後に約90度打面を回転して18が剥離されている。
- 19 (20+21) は剥片2点が接合した資料で玉髓16を素材とする。石灰化したような灰白色の礫の自然面を残す。自然面を除去するように周辺から数次の剥離を加えた後に20を剥離し、その後に21を剥離している。20と21とは90度以上の角度で接合する。
- 22 (23+24) は灰白色を呈する玉髓17の大型で厚手の不定型な剥片の接合資料である。礫の自然面を打面として、剥離作業を行っている。
- 25 (26+27a、b) は灰白色と赤褐色が混在する玉髓25の接合資料で、礫の平坦な自然面を作業面として剥離を行っている。26は二次加工剥片で右側縁の表面側に細かな加工痕が見られる。

第16表 第16ブロック出土石器組成表

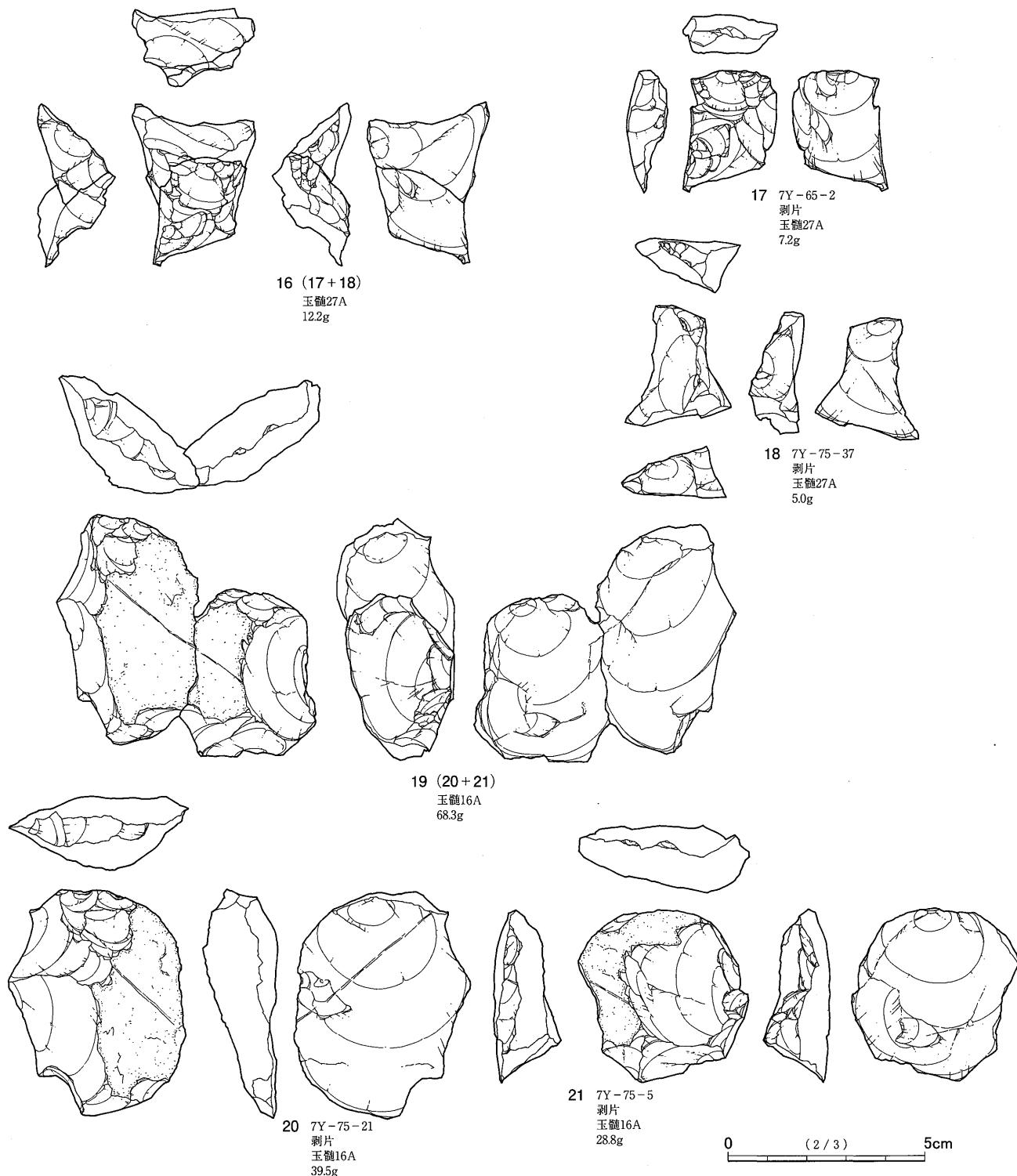
母岩名/器種	楔形石器	二次加工剥片	微細剥離剥片	石核	剥片	碎片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比
流紋岩18			1					1	7.9	1.3%	0.8%
黒曜石38				1	1			2	6.4	2.6%	0.7%
黒曜石39					1			1	0.6	1.3%	0.1%
黒曜石40			1					1	0.9	1.3%	0.1%
珪質頁岩42						1		1	2.8	1.3%	0.3%
黒色頁岩19	1							1	15.1	1.3%	1.6%
黒色頁岩20						1		1	2.6	1.3%	0.3%
黒色頁岩21				1				1	499.1	1.3%	53.1%
ホルンフェルス60					6			6	74.8	7.8%	8.0%
ホルンフェルス61					5	1		6	11.6	7.8%	1.2%
ホルンフェルス62					1			1	3.5	1.3%	0.4%
ホルンフェルス63		1						1	2.1	1.3%	0.2%
玉髓15					6			6	35.8	7.8%	3.8%
玉髓16					2			2	68.3	2.6%	7.3%
玉髓17					2			2	29.2	2.6%	3.1%
玉髓18					3			3	11.8	3.9%	1.3%
玉髓19					2			2	16.7	2.6%	1.8%
玉髓20			1					1	4.7	1.3%	0.5%
玉髓21			1					1	11.0	1.3%	1.2%
玉髓22				1				1	2.9	1.3%	0.3%
玉髓23			1					1	8.5	1.3%	0.9%
玉髓24					1			1	7.8	1.3%	0.8%
玉髓25		1			2			3	21.3	3.9%	2.3%
玉髓26				1				1	6.7	1.3%	0.7%
玉髓27					4			4	21.7	5.2%	2.3%
玉髓28					3			3	7.9	3.9%	0.8%
玉髓29			1					1	2.7	1.3%	0.3%
玉髓30			1			1		2	22.2	2.6%	2.4%
玉髓31					3			3	14.1	3.9%	1.5%
玉髓32					2			2	6.2	2.6%	0.7%
玉髓33					1			1	2.3	1.3%	0.2%
玉髓34					1			1	4.2	1.3%	0.4%
玉髓36					1			1	0.6	1.3%	0.1%
玉髓60						1		1	0.5	1.3%	0.1%
玉髓					5	3		8	6.1	10.4%	0.6%
ホルンフェルスR3							1	1	277.2	1.3%	29.5%
ホルンフェルスR4							1	1	317.7	1.3%	33.8%
砂岩R18							1	1	353.3	1.3%	37.6%
合計		1	4	6	2	56	5	3	77	940.6	100.0%
											100.0%



第79図 第16ブロック遺物分布

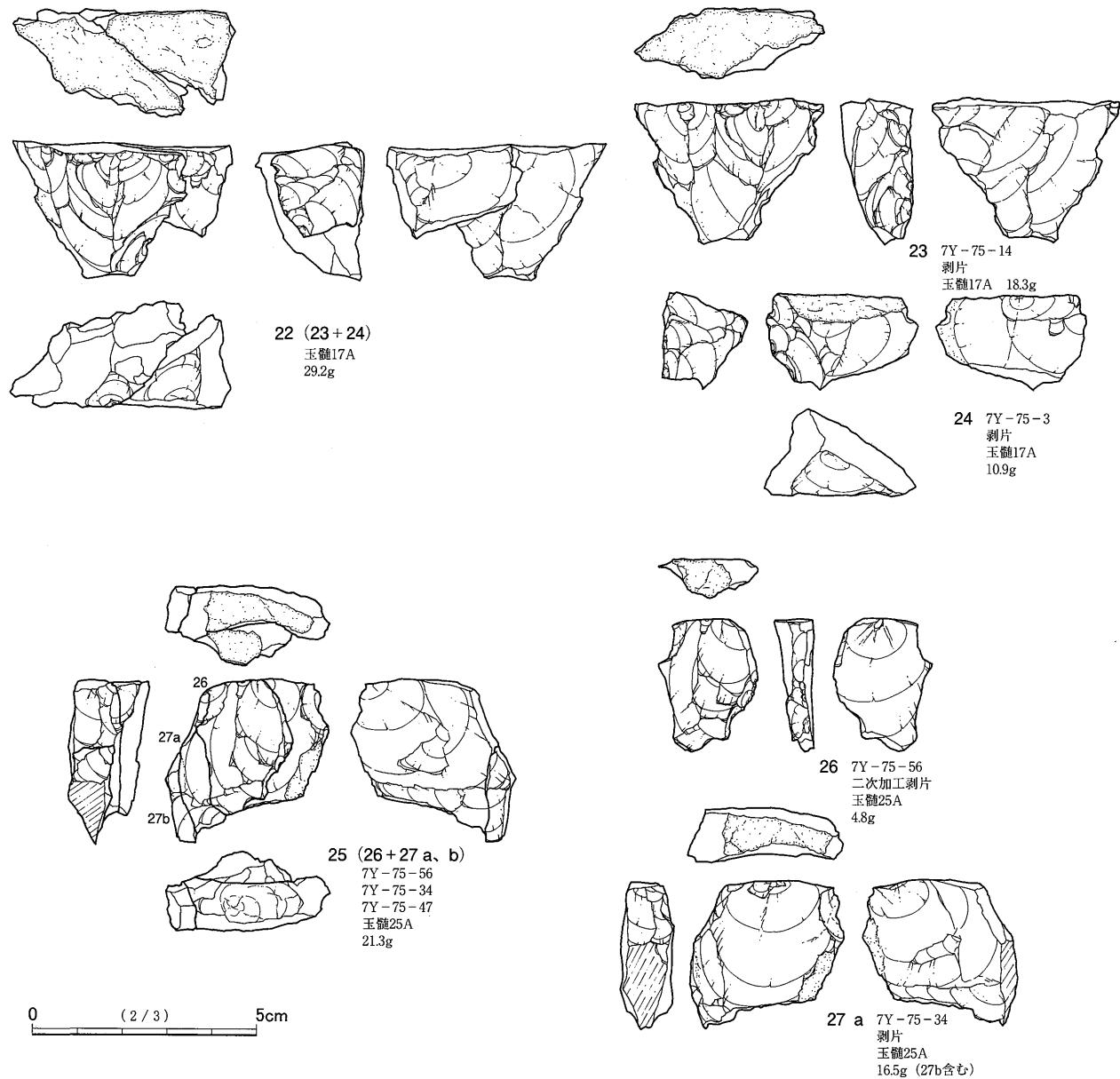


第80図 第16ブロック出土石器（1）

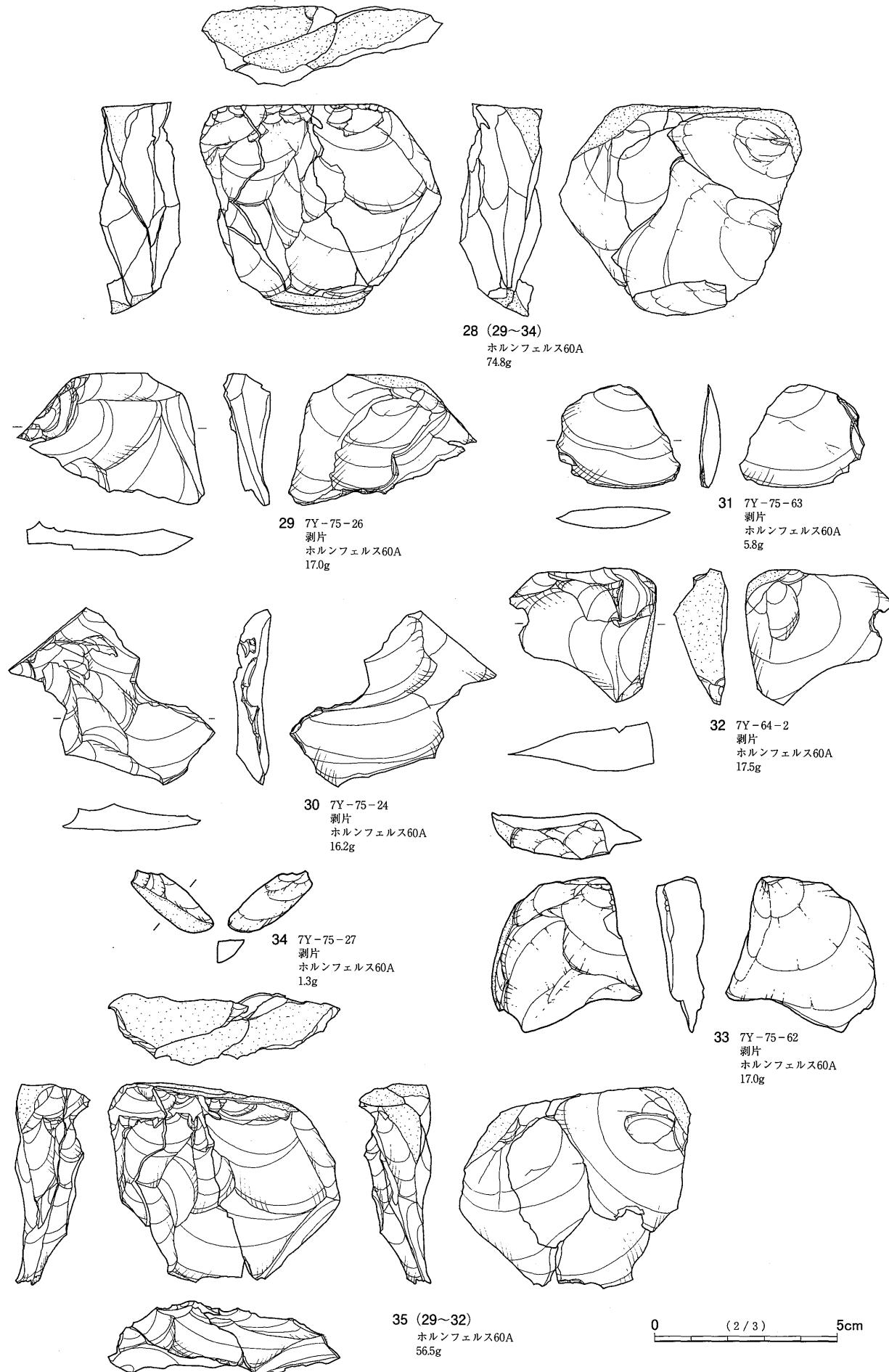


第81図 第16ブロック出土石器（2）

28 (29~34) は6点が接合した暗灰色を呈するホルンフェルス60の資料である。上下両端に礫の自然面を残す。打面、打点を周回させながら不定型な剥片剥離作業を行っている。29~33は不定型な剥片である。35は29~32の接合資料である。剥離は自然面を打面として29→30→31→32の順で行われ、31は29と30の剥離の課程で碎け飛んだものと思われる。



第82図 第16ブロック出土石器（3）



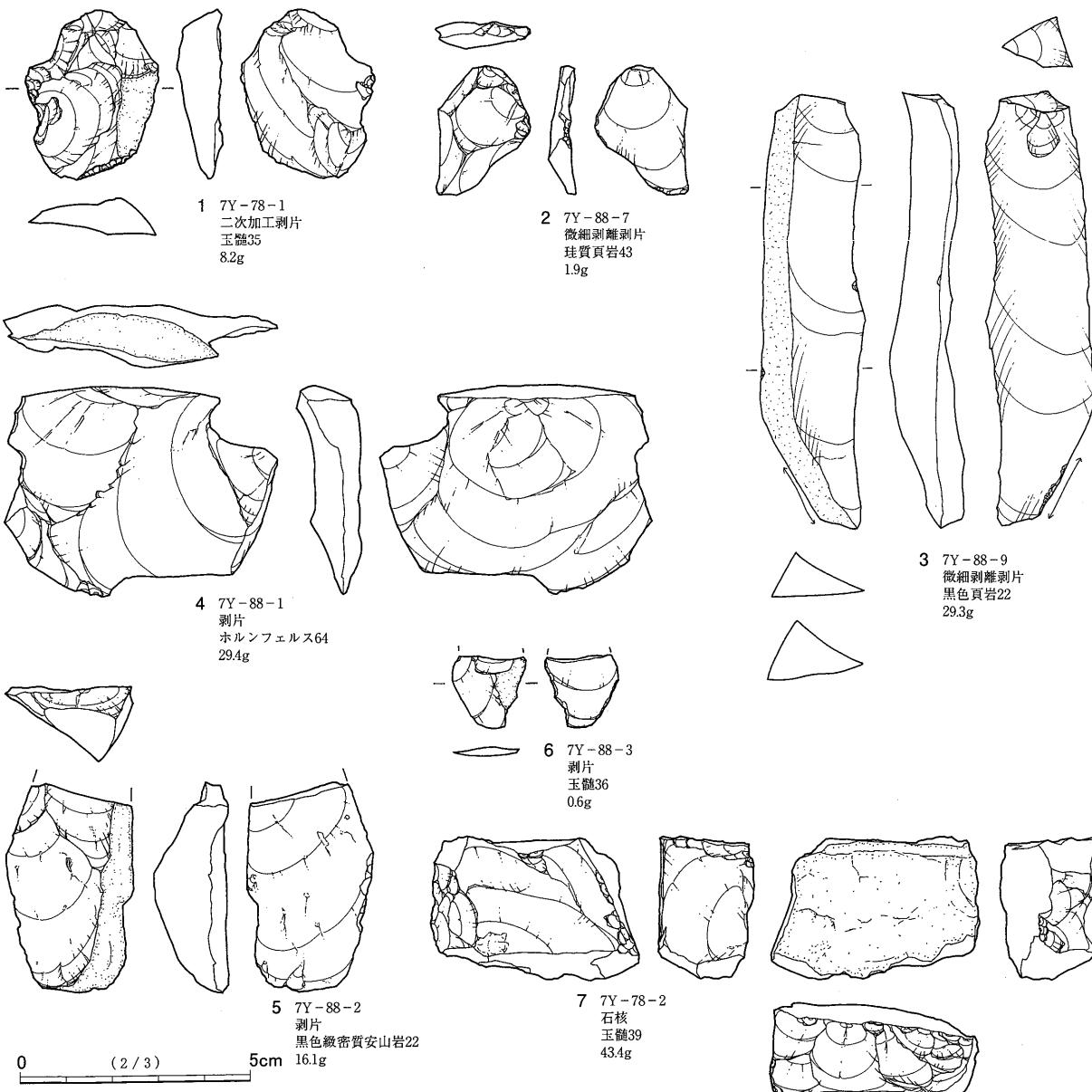
第83図 第16ブロック出土石器 (4)

第17ブロック（第84・85図、第17表、図版25）

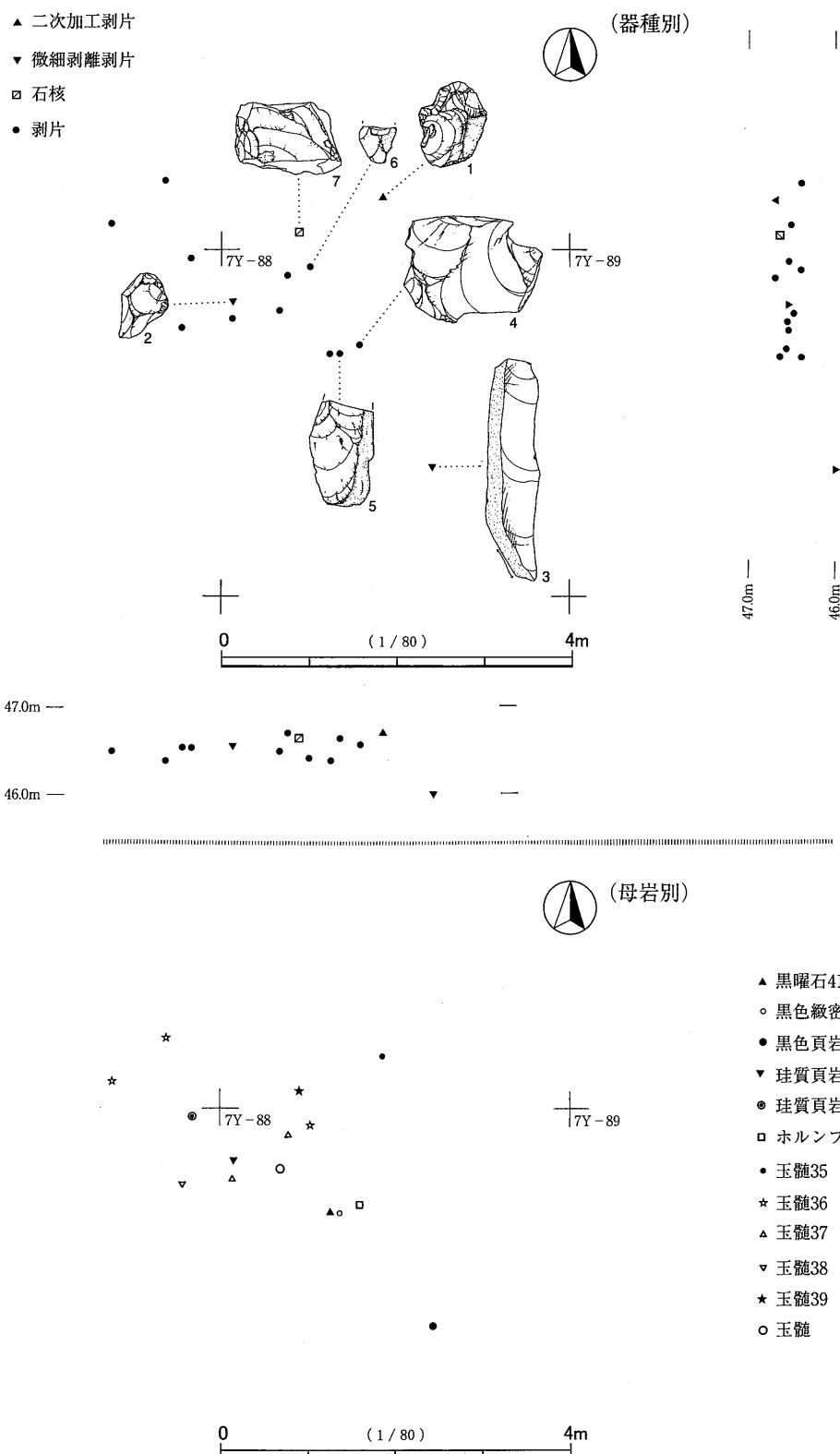
概要 大金沢支谷と大金沢支谷から分岐して北へ延びる坂崎谷津に挟まれた南西へ向かって延びる尾根状の台地上の7Yグリッド、第15ブロックの5mほど南に位置する。石器は5m×3mの範囲に、北西から南東方向にやや細長く分布している。

ブロックの内容は、二次加工剥片1点、微細剥離剥片2点、石核1点、剥片11点の計15点で構成され、石材は黒色緻密質安山岩1点、黒曜石1点、珪質頁岩2点、黒色頁岩1点、ホルンフェルス1点、玉髓9点である。

出土遺物 1は表面が淡い橙色で内面は灰白色である玉髓35の二次加工剥片である。縦長剥片を素材とし、右側縁に礫の自然面を残す。右側縁の端部及び自然面の一部には表面側に微細な剥離痕が見られる。



第84図 第17ブロック出土石器



第85図 第17ブロック 遺物分布

2、3は微細剥離剥片で、ともに縦長剥片を素材とする。2は黄褐色と灰褐色が混じる珪質頁岩43で、右側縁の中央部に微細な剥離痕が見られる。3は灰色を呈する黑色頁岩22の剥片で、表面に礫の自然面を残し、断面が三角形を呈する。端部の左側縁の両面側に微細な剥離痕が見られる。裏面はガジリの可能性もある。

4は暗灰色を呈するホルンフェルスの大型の不定型な剥片である。礫の自然面を打面として剥離している。5はオリーブ黒色を呈する黑色緻密質安山岩22の剥片である。断面が三角形を呈する縦長剥片で、礫の自然面を右側縁に残す。左側縁の裏面側の剥離痕はガジリである。基部側には欠損がある。6は半透明で橙色を呈する玉髓36の小型の剥片である。一部に礫の自然面が残る。右側縁の裏面側には細かな刃こぼれ状の欠損が見られる。

7は表皮はにぶい橙色で内面は淡黄色を呈する玉髓39の石核である。角張った面を持つ礫を素材とし、立方体を呈する石核の自然面を作業面として小型の剥片を剥離している痕跡が残る。この原石には節理面が発達しており、石器製作の石材には不適と思われる。

第17表 第17ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	二次加工剥片	微細剥離剥片	石核	剥片	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒色緻密質安山岩22				1	1	16.1	6.7%	10.6%
黒曜石41				1	1	1.1	6.7%	0.7%
珪質頁岩43		1			1	1.9	6.7%	1.3%
珪質頁岩44				1	1	5.2	6.7%	3.4%
黒色頁岩22		1			1	29.3	6.7%	19.4%
ホルンフェルス64				1	1	29.4	6.7%	19.4%
玉髓35		1			1	8.2	6.7%	5.4%
玉髓36				3	3	5.8	20.0%	3.8%
玉髓37				2	2	8.8	13.3%	5.8%
玉髓38				1	1	1.5	6.7%	1.0%
玉髓39			1		1	43.4	6.7%	28.7%
玉髓				1	1	0.7	6.7%	0.5%
合計		1	2	11	15	151.4	100.0%	100.0%

第18ブロック（第86図、第18表）

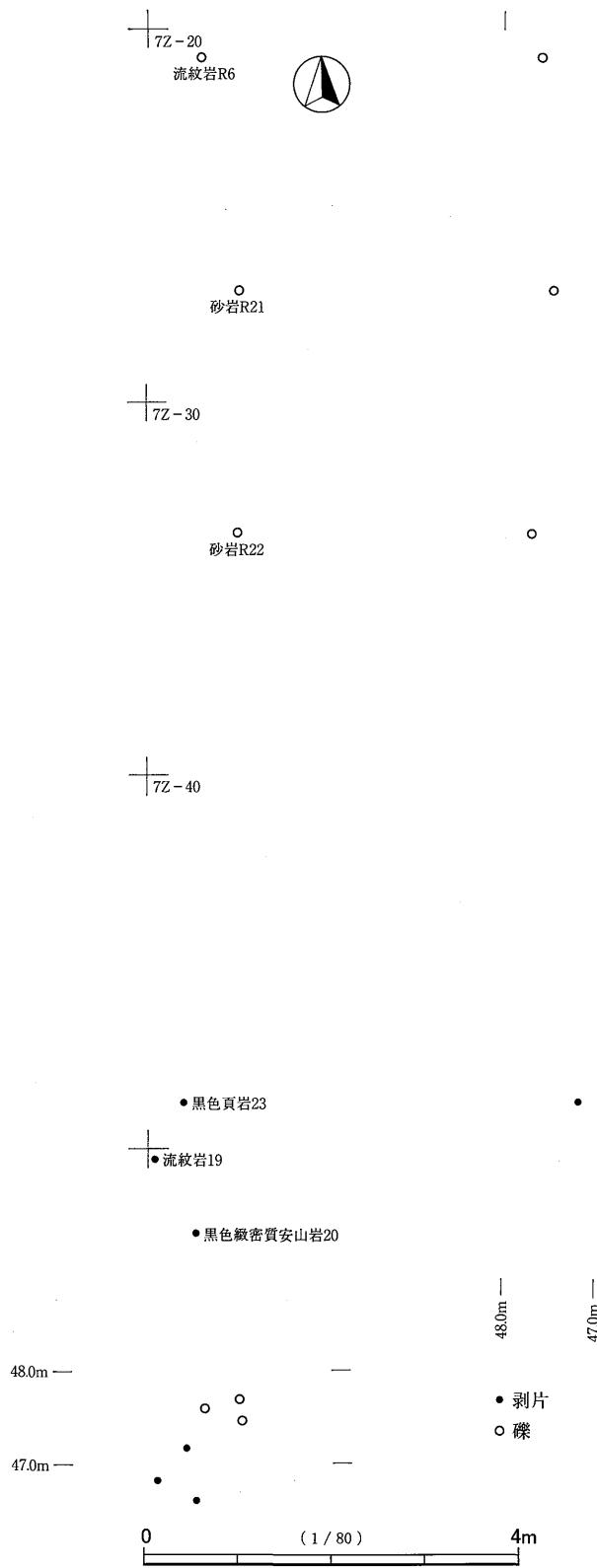
概要 大金沢支谷と大金沢支谷から分岐して北へ延びる坂崎谷津に挟まれた南西へ向かって延びる尾根状の台地上の7Yグリッドに位置する。近接して第14～17ブロックが位置する。

ブロックの内容は、剥片3点、礫5点の計8点で、南北方向に礫が約2m間隔で3点、剥片は礫から南へ約6m離れて3点が1mの間隔をあけて出土した。石材は黒色緻密質安山岩1点、流紋岩1点、黒色頁岩1点、礫石材は流紋岩1点、砂岩4点である。

出土遺物 図示できる資料はなかった。

第18表 第18ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	剥片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒色緻密質安山岩20	1		1	1.5	12.5%	0.2%
流紋岩19		1	1	1.2	12.5%	0.1%
黒色頁岩23		1	1	0.8	12.5%	0.1%
流紋岩R6		1	1	155.2	12.5%	18.6%
砂岩R19		1	1	113.4	12.5%	13.6%
砂岩R20		1	1	355.0	12.5%	42.5%
砂岩R21		1	1	162.7	12.5%	19.5%
砂岩R22		1	1	45.6	12.5%	5.5%
合計	3	5	8	835.4	100.0%	100.0%



第86図 第18ブロック遺物分布

第19ブロック（第87～92図、第19表、図版7・24・25）

概要 第1文化層のブロック群と同じ大金沢支谷に面した舌状台地上の、西側に大金沢支谷から浸入する支谷に臨む台地平坦部に位置する。ブロックは9C-18グリッドを中心とするブロックと9C-27、28グリッドを中心とするブロックに大きく二分され、北側に遺物が集中する傾向がある。さらにその集中して出土した箇所から3m～6m離れた周囲からも散漫に出土した。また、ブロックの北側からは石器製作時に派生したと思われる碎片が多数出土している。

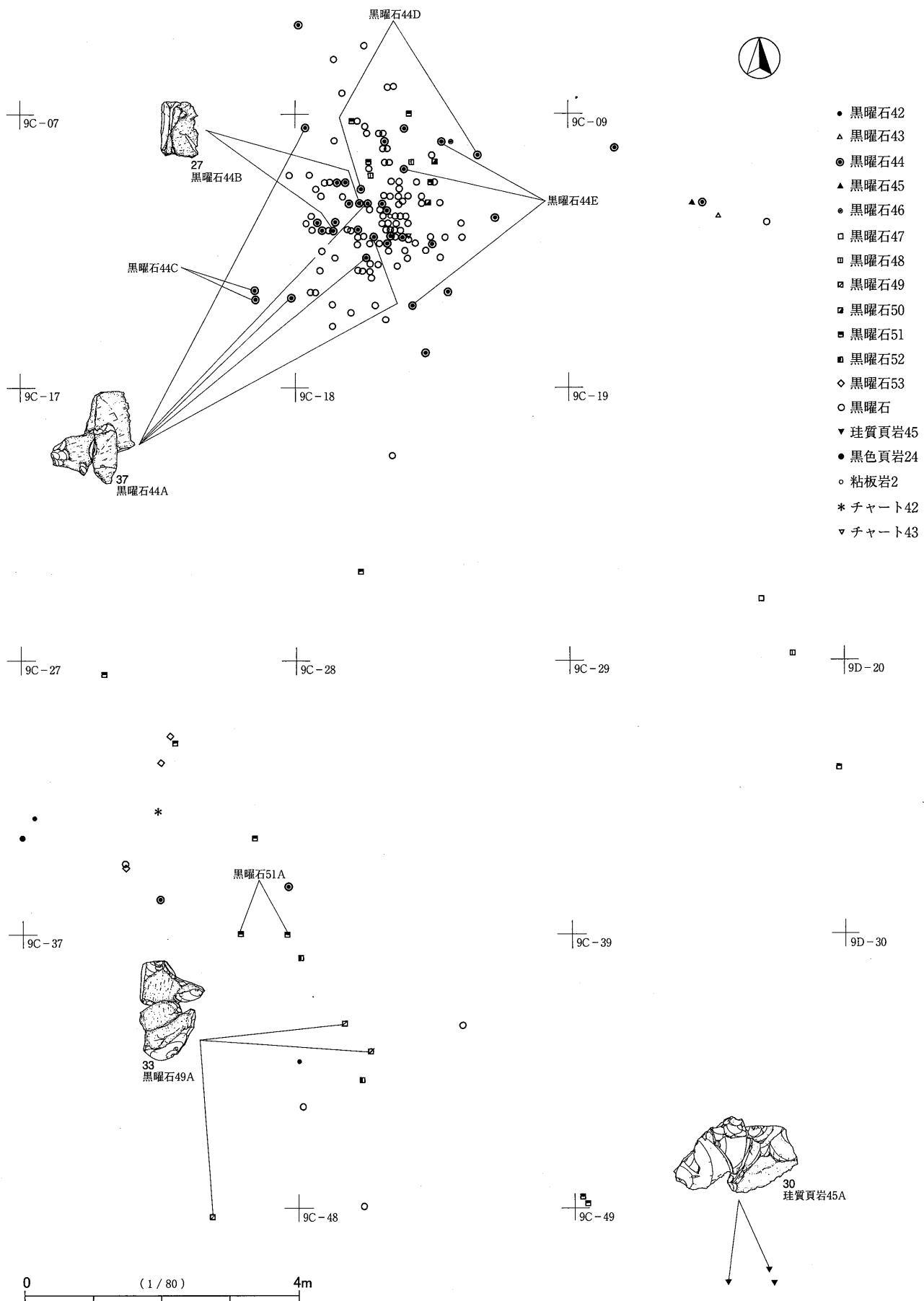
ブロックの内容は、二次加工剥片2点、微細剥離剥片5点、石核3点、剥片60点、碎片118点の総計188点である。石材は粘板岩1点、黒曜石181点、珪質頁岩3点、黒色頁岩1点、チャート2点が含まれる。黒曜石を主体とするブロックである。

出土遺物 1～5は微細剥離剥片である。1は礫の自然面を残し、自然面の残る側縁とは反対側の左側縁の表裏に微細な刃潰し状の剥離痕が残る。2は端部の表面側に刃こぼれ状の剥離痕が見える。3は端部が欠損した剥片で、右側縁に微細な剥離痕が見られ、中央が裏面側から抉れている。2、3、6は透明感があり黒色の縞が入る黒曜石51である。4は珪質頁岩45の微細剥離剥片である。右側縁の基部側と、左側縁の側縁中央には両面側微細な剥離痕と、端部の裏面に刃潰し状の剥離痕が見られる。石材の色調は暗褐色を呈する。5は礫の自然面が残る左側縁の表裏と、右側縁の中間部の表面に微細な剥離痕が見られる。1、5の石材は透明度の低い黒色を呈し、灰褐色の夾雜物が入る黒曜石44である。

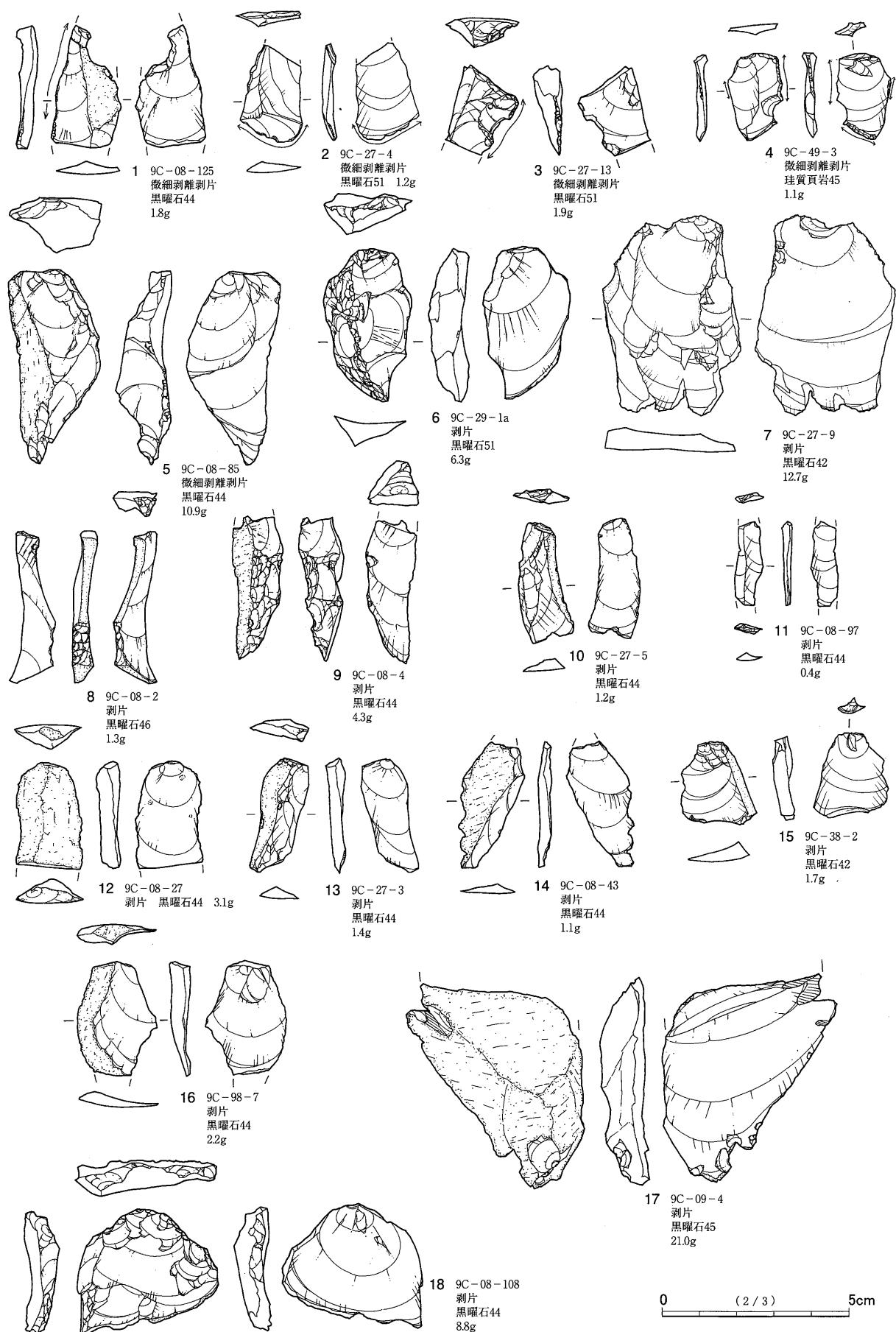
6～25は剥片で、6～18、21、22は黒曜石の剥片である。6は断面が三角形を呈する剥片で、左側縁には中央の稜を打面として左側縁に向かって剥離作業を行った痕跡が残り、さらに打撃の方向を180度変えて中央の稜から右側縁方向へも打撃を加えた痕跡が残る。黒曜石51を素材とする。7は大型で扁平な剥片で、左右側縁の基部側の裏面側に微細な剥離痕が残る。8は右側縁の一部に細かな打撃痕の残る黒曜石46の細長い剥片で、表裏で剥離の方向が180度反対を向いている。打面にも連続した細かな剥離痕が残る。9は断面三角形を呈し、左側辺に礫の自然面を残す剥片である。自然面を打面として右側縁に向かって剥離作業を行っている。10は右側縁に礫の自然面を残す縦長剥片である。11は基部と端部を欠損する縦長剥片である。12は端部を欠損するが、表面と打面に礫の自然面を全面的に残す縦長剥片で、断面は三角形を呈する。13、14は左側縁側に礫の自然面を残す縦長剥片である。15は右側辺に礫の自然面を残す剥片である。7、15は透明度が高く、不純物をほとんど含まない黒曜石42である。16は礫の自然面を左側縁に残す黒曜石の縦長剥片である。打面にも自然面が残り、その自然面を打面として連続的に縦長の剥片が剥がされている。17は角張った礫の自然面が表面の全面に残る黒曜石45の大型の剥片である。打点側が蝶番状に折れており、左側縁と折れた上端部の側縁には細かな刃こぼれ状の剥離がある。18は打点付近に打面調整痕と思われる打撃痕が残る。19は打面の表面側に細かな剥離痕が残る黒色頁岩24の剥片である。色調は灰色である。20は断面が三角形を呈する縦長の粘板岩2の剥片である。端部を欠損する。表面には裏面と反対方向からの剥離の痕跡が残る。石材の色調は暗灰色を呈する。21は透明感があり、暗赤褐色の縞が入る黒曜石47の剥片である。22は素材礫の自然面を多く残す厚手で縦長の暗灰色を呈する黒曜石48の剥片である。左側縁の基部側には打面調整痕と思われる横方向、縦方向の剥離痕が残る。23a、b、24a、bは剥離された剥片が打撃方向に対して横方向に折られたような形状を呈する剥片である。25a、b、cは礫の自然面を残す不定型の剥片である。aとbは同一の打面（自然面）から剥離されている。9～14、16、18、23～25は径2mmほどの灰白色の夾雜物が入る黒曜石44である。



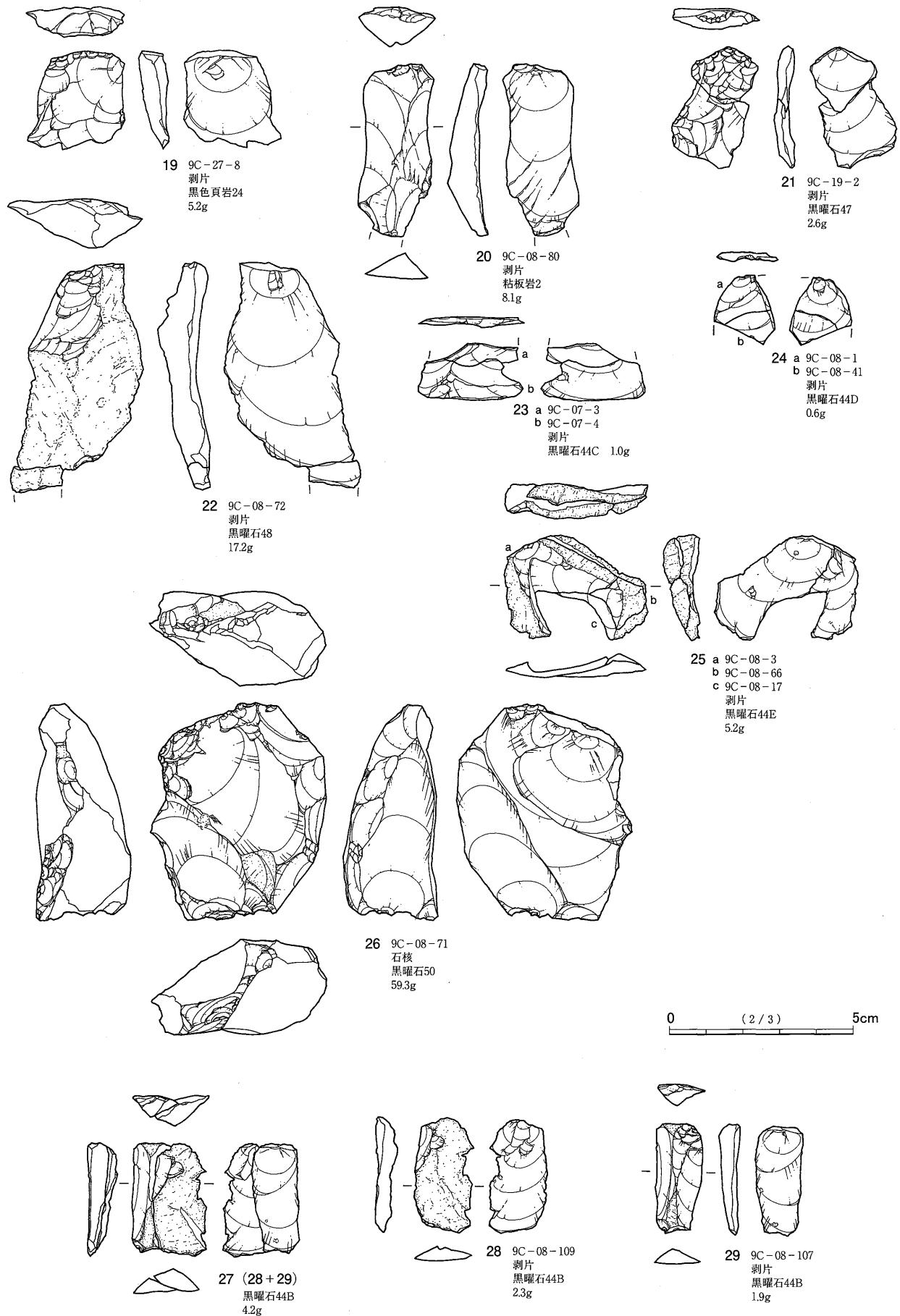
第87図 第19ブロック 器種別分布



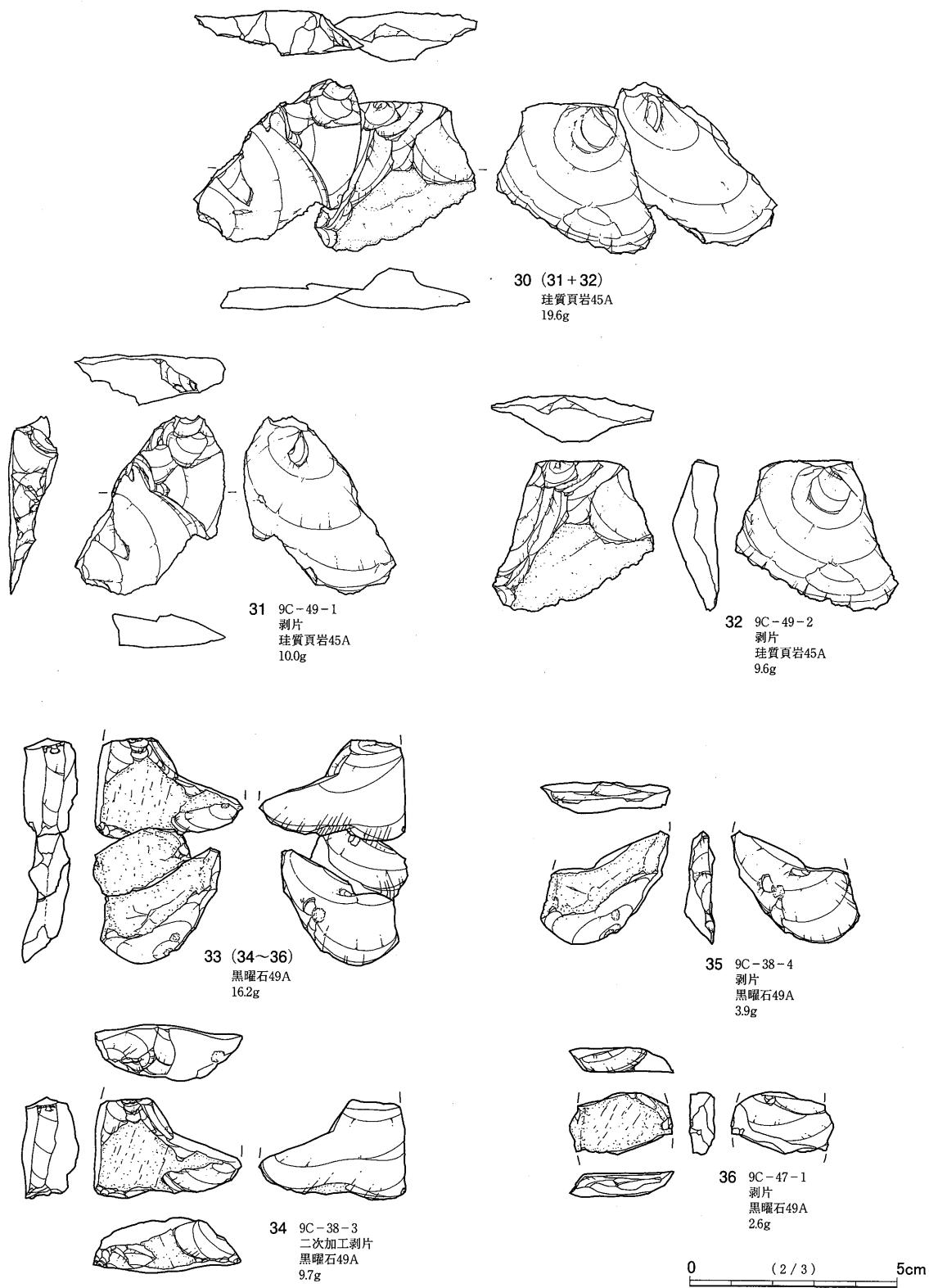
第88図 第19ブロック母岩別分布



第89図 第19ブロック出土石器（1）



第90図 第19ブロック出土石器（2）



第91図 第19ブロック出土石器（3）

26は漆黒を呈する黒曜石50の石核である。打点を周回させながら剥離作業を行っている。接合資料がブロック内からは検出されていないが、不定型な横長、縦長の剥片が剥離されている。

27（28+29）は黒曜石44の剥片の接合資料である。礫の自然面を打面とし、連続して縦長の剥片を剥離している。28は礫の自然面を多く残す縦長の剥片である。

30（31+32）は色調が暗褐色を呈する珪質頁岩45で、31の右側縁と32の左側縁の一部が接合した。

33（34～36）は黒曜石49の接合資料である。透明感のあり、径3mm～4mmの灰白色の夾雜物が入る。表面に礫の自然面を残している。34は二次加工剥片で、左側縁に樋状の剥離が入り、左右の下端部には細かな剥離痕が見られる。35、36は剥片である。

37（38a、b、c、39、40）は透明感のある黒曜石44の接合資料で、剥片の表面に礫の自然面を残す扁平な形を呈している。38を剥ぎ取った後に打点を90度回転させて39と40を剥離している。

41（a、b）は透明感があり、薄墨を流したような黒曜石51の石核である。横に割れた2片（41a、b）が接合した。断面三角形を呈する側面には細かな剥離痕が残る。何らかのトラブルで石核が割れてしまい、作業が中断されたものと思われる。

第19表 第19ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	二次加工剥片	微細剥離剥片	石核	剥片	碎片	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒曜石42				2		2	14.4	1.1%	3.7%
黒曜石43				1		1	3.4	0.5%	0.9%
黒曜石44		2	31	5	38	59.5	20.2%	15.4%	
黒曜石45				1		1	21.0	0.5%	5.4%
黒曜石46				1		1	1.3	0.5%	0.3%
黒曜石47				1		1	2.6	0.5%	0.7%
黒曜石48				2	1	3	20.4	1.6%	5.3%
黒曜石49	1			2		3	16.2	1.6%	4.2%
黒曜石50			1	1		2	108.3	1.1%	28.0%
黒曜石51		2	2	5	4	13	58.0	6.9%	15.0%
黒曜石52				1	1	2	1.7	1.1%	0.4%
黒曜石53				3		3	6.3	1.6%	1.6%
黒曜石	1			3	107	111	13.4	59.0%	3.5%
粘板岩2				1		1	8.1	0.5%	2.1%
珪質頁岩45		1		2		3	20.7	1.6%	5.4%
黒色頁岩24				1		1	5.2	0.5%	1.3%
チャート42				1		1	5.9	0.5%	1.5%
チャート43				1		1	20.5	0.5%	5.3%
合計	2	5	3	60	118	188	386.9	100.0%	100.0%

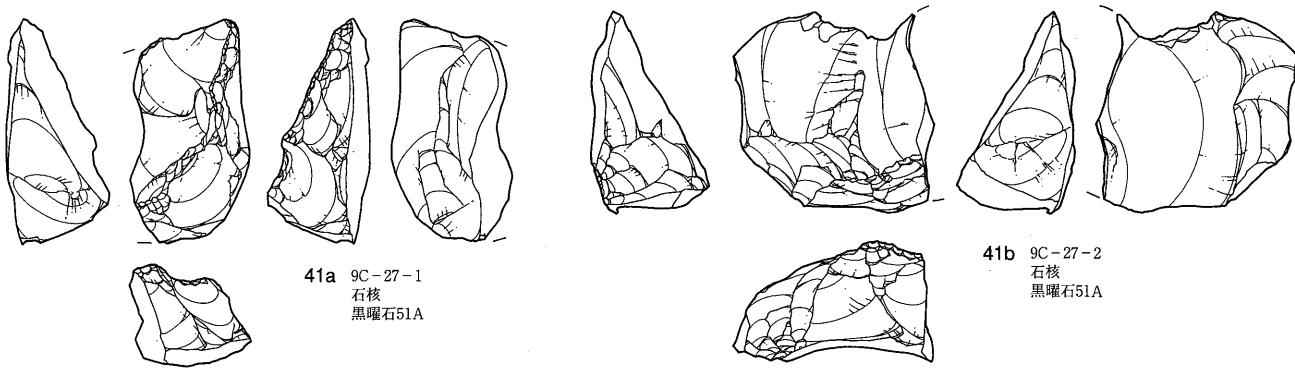
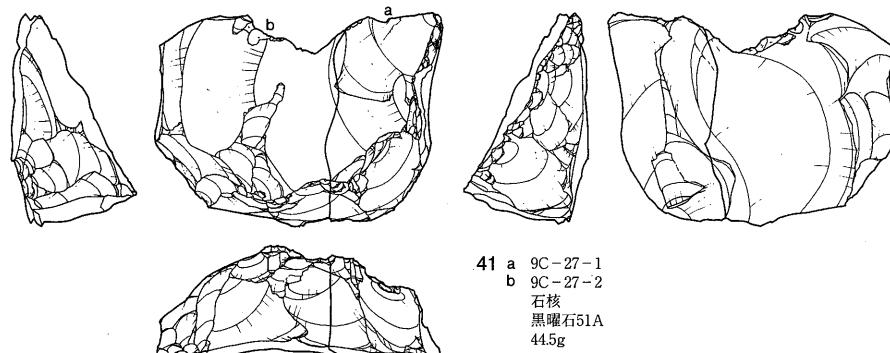
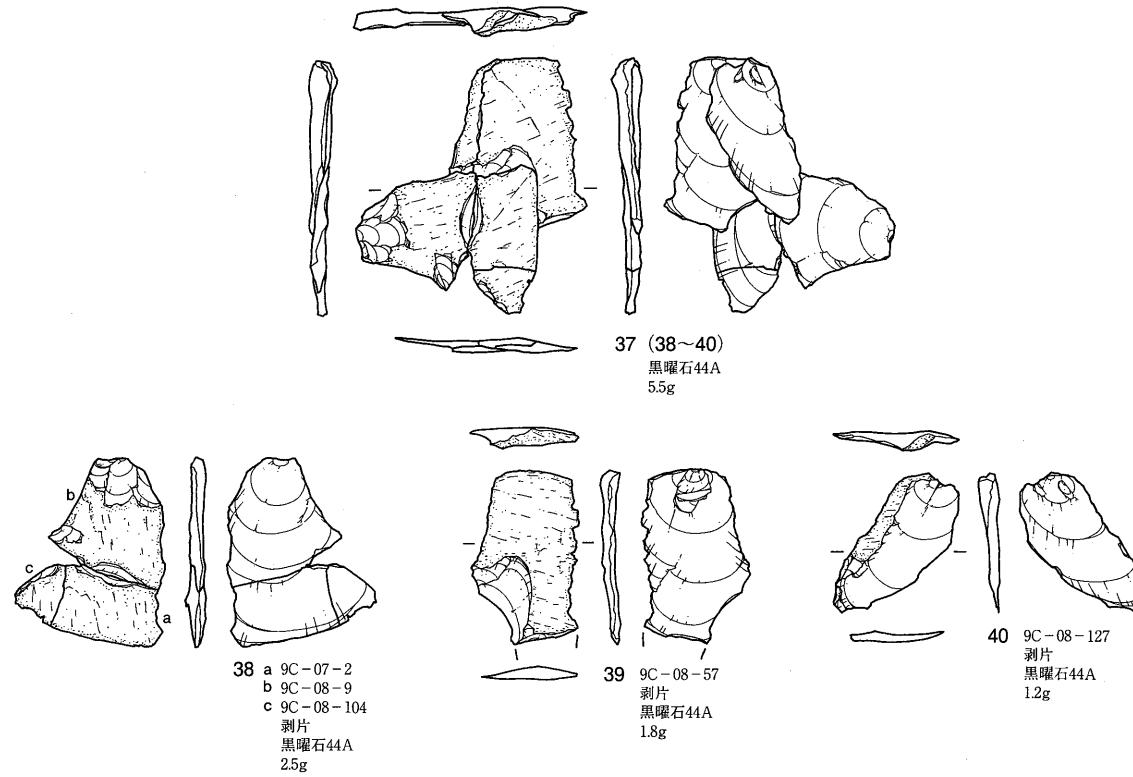
第20ブロック（第93図、第20表、図版25）

概要 第1文化層のブロック群と同じ大金沢支谷に面した舌状台地上の、西側に大金沢支谷から湾入する支谷に臨む台地平坦部の9Cグリッドに位置する。東側に約10m離れて第19ブロックが位置する。ブロックは等高線に沿うように8m×2mの範囲に南北に細長い弧を描いたような出土状況を呈する。

ブロックの内容は、楔形石器1点、剥片5点の計6点である。石材は黒曜石3点、嶺岡頁岩2点、チャ

第20表 第20ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	楔形石器	剥片	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒曜石		3	3	2.6	50.0%	21.8%
嶺岡頁岩64	1		1	4.4	16.7%	37.0%
嶺岡頁岩65		1	1	4.2	16.7%	35.3%
チャート44		1	1	0.7	16.7%	5.9%
合計	1	5	6	11.9	100.0%	100.0%

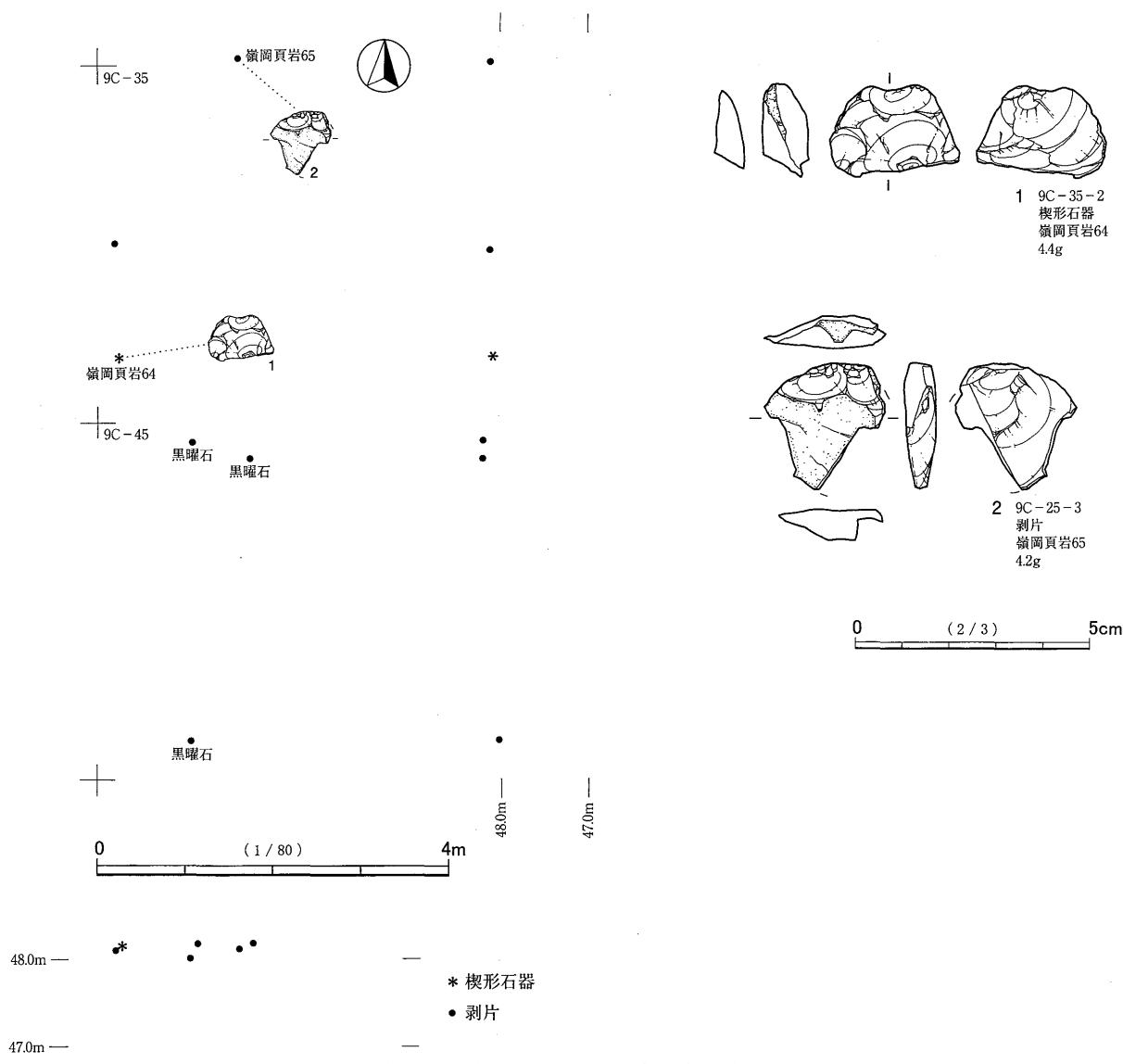


0 (2 / 3) 5cm

第92図 第19ブロック出土石器 (4)

ート1点である。

出土遺物 1は暗灰色を呈する嶺岡頁岩64を素材とする楔形石器である。2は暗灰色を呈する嶺岡頁岩65の剥片である。表面には礫の自然面が残り、打面調整と思われる剥離痕が見られる。剥片は両側縁が斜めに折れている。



第93図 第20ブロック遺物分布・出土石器

3. 第3文化層

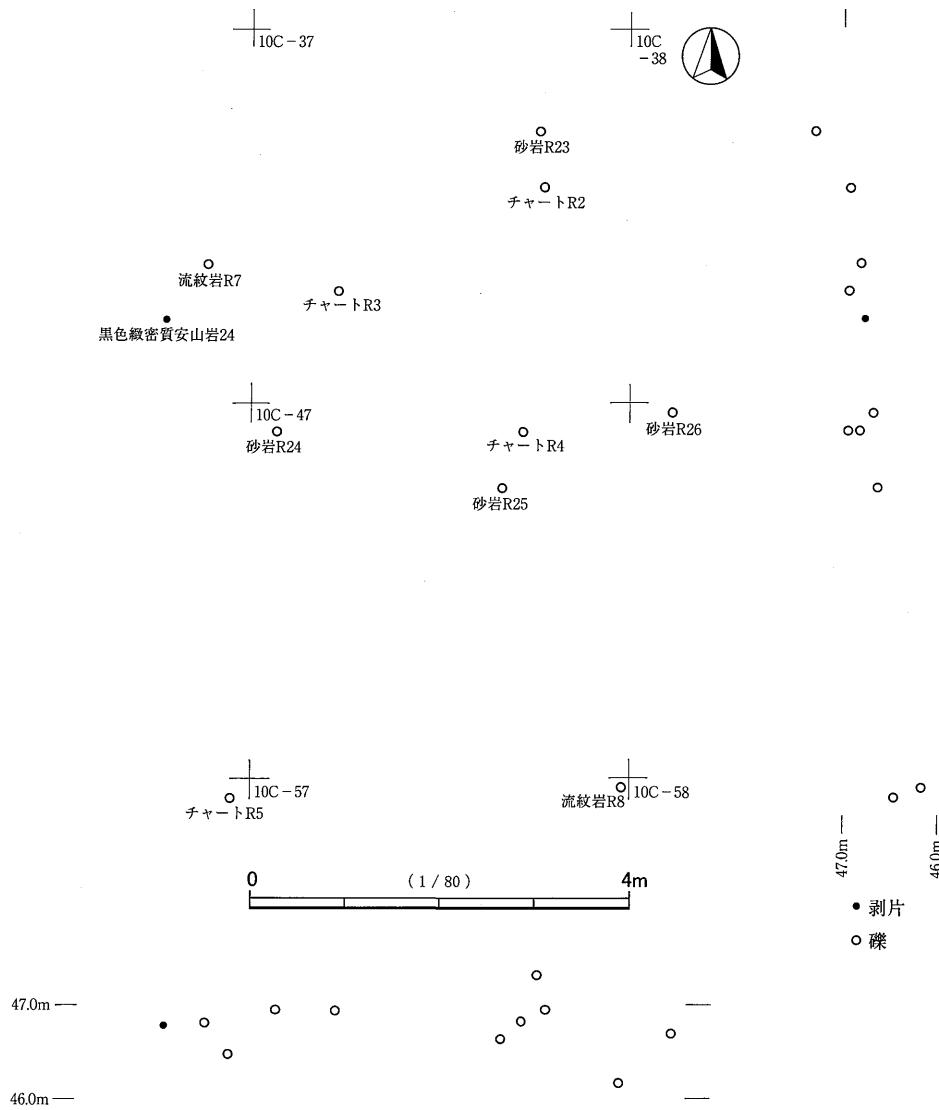
第3文化層は、ソフトローム層の上面での検出されたブロックである。当遺跡では第21ブロックのみが検出された。

第21ブロック（第94図、第21表、図版7・26）

概要 第1文化層のブロック群と同じ大金沢支谷に面した舌状台地上の、大金沢支谷に臨む台地先端部の緩傾斜部の10Cグリッドに位置する。ブロックは7 m × 6 mの範囲にひろがる。

ブロックの内容は、剥片1点、礫10点の計11点である。石材は黒色緻密質安山岩1点、礫石材はチャート4点、流紋岩2点、砂岩4点である。

出土遺物 図示できるものはなかった。



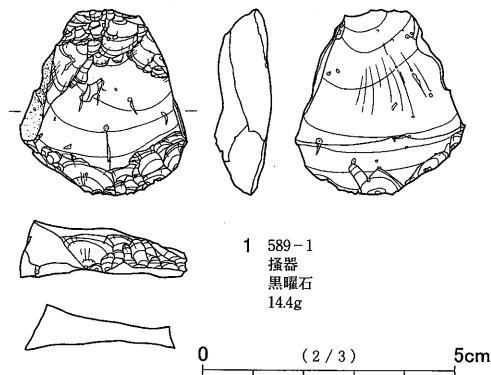
第94図 第21ブロック 遺物分布

第21表 第21ブロック出土石器組成表

母岩名/器種	剥片	礫	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒色緻密質安山岩24	1		1	1.3	9.09%	0.50%
流紋岩R7		1	1	7.8	9.09%	3.01%
流紋岩R8		1	1	14.2	9.09%	5.48%
砂岩R23		1	1	10.0	9.09%	3.86%
砂岩R24		1	1	36.9	9.09%	14.23%
砂岩R25		1	1	25.6	9.09%	9.87%
砂岩R26		1	1	105.0	9.09%	40.49%
チャートR2		1	1	9.2	9.09%	3.55%
チャートR3		1	1	20.2	9.09%	7.79%
チャートR4		1	1	9.3	9.09%	3.59%
チャートR5		1	1	19.8	9.09%	7.64%
合計	1	10	11	259.3	100.00%	100.00%

4. 上層出土石器（第95図、第22表）

出土遺物 1は上層出土の搔器である。589遺構から出土した。黒曜石の厚手の剥片を素材とし、基部の表裏両面に剥離を加えている。



第95図 上層出土石器

第22表 上層出土石器組成表

母岩名/器種	搔器	点数	重量(g)	点数比	重量比
黒曜石	1	1	14.4	100.00%	100.00%
合計	1	1	14.4	100.00%	100.00%

なお、第2文化層、第18ブロックの25mほど北東、6~7Zグリッドから石器群が出土している。石材は黒曜石を主体とし、計934点である。出土層位は不明で、剥片、碎片を主体とするが、石鏃の未製品の可能性のある石器が出土しており、さらに同遺物集中地点から早期・前期・中期の縄文土器が混在して出土していることから、旧石器時代のブロックとして扱うことに難点があり、掲載を見送った。

第3章　まとめ

本遺跡では単体出土の地点を含めて21地点から石器を検出し、合計2,048点の旧石器が出土した。石器群は調査区の全体に散在するが、調査区南側の大金沢支谷に面する大地平坦部から緩斜面にかけてと、大金沢支谷から北へ枝分かれして北東へ延びる坂崎谷津側にかけて集中して検出された。出土層位から文化層を3枚として捉えた。ここでは、調査によって明らかになったことを述べてまとめにかえたい。

第1文化層は、立川ローム層第2黒色帯上半部のⅦ層からAT（始良丹沢火山灰）を含むⅥ層に相当し、7つのブロックが検出された。いずれのブロックも大金沢支谷に臨む同一の台地上に分布している。

第1文化層の石器は、第1、第5ブロックでナイフ形石器が各1点と第4ブロックで楔形石器が1点出土したのみである。石材にはナイフ形石器、楔形石器ともに黒曜石が用いられ、各ブロックの石材組成にも第6ブロックを除く各ブロックに黒曜石が含まれている。

黒曜石以外の石材では第1ブロックにホルンフェルスと珪質頁岩が、第2ブロックにチャートが、第3ブロックに黒色緻密質安山岩が、第4ブロックに安山岩が、第5ブロックに硬質頁岩が、第6ブロックに硬質頁岩とチャートがそれぞれ含まれ、第1ブロックでは黒曜石とホルンフェルスが重量比で卓越する。また、第3、第4ブロックでは黒曜石が主体を占め、第5ブロックでは硬質頁岩が主体を占める。このように第1文化層では各ブロック間の石材の組成に偏りが認められた。

第2文化層は立川ローム層Ⅳ～Ⅴ層を中心とする層で、立川ローム層第1黒色帯に相当する。第2文化層からは13のブロックが検出された。本文化層がブロック数、石器出土点数からみて、本遺跡の主体をなす文化層である。分布は第1文化層と同じ台地上に近接して2ブロック、第1文化層を載せた台地基部の坂崎谷津側の支谷に臨む箇所に5ブロックとその反対側の大金沢支谷を臨む台地上に離れて1ブロック、さらにその台地から南西へ延びる台地上に近接して5ブロックが検出された。大きく分けると3地点に分布域が偏っているが、ナイフ形石器が17点で点数的に最も多い。石材には黒曜石、硬質頁岩、珪質頁岩、安山岩、黒色緻密質安山岩、チャート、凝灰岩、黒色頁岩、ホルンフェルス、嶺岡頁岩、玉髓、砂岩、流紋岩などが含まれ、第1文化層と比較して石材の種類が豊富となり、第8ブロックでは房総半島南部の嶺岡頁岩が多量に含まれている。嶺岡頁岩は他のブロックでは第12ブロックと第20ブロックに含まれているが、第12ブロックでは剥片2点が客体的に含まれているのみである。第20ブロックでは楔形石器1点、剥片1点の計2点が嶺岡頁岩である。

黒曜石は第2文化層の17のブロック中の5つのブロックから検出されている。黒曜石の各ブロック内の占有率は、第9ブロック（点数比8%、重量比6%）、第12ブロック（点数比62%、重量比61%）、第16ブロック（点数比5%、重量比0.8%）、第19ブロック（点数比96%、重量比84%）、第20ブロック（点数比50%、重量比22%）である。第12ブロックと第19ブロック中の占有率が高く、第19ブロックでは主体的である。

第3文化層は、立川ローム層のⅢ層に相当し、大金沢支谷に臨む台地の先端部から第21ブロックが検出された。検出されたブロックの中では台地最南端に位置する。第21ブロックは立川ローム最上層のソフトローム層からの検出で、図示はしなかったが黒色緻密質安山岩の剥片1点と礫10点の計11点で構成されるブロックである。礫の石材は流紋岩2点、砂岩4点、チャート4点である。

写 真 図 版



太田法師遺跡



太田法師遺跡周辺航空写真（平成18年撮影）



第1ブロック

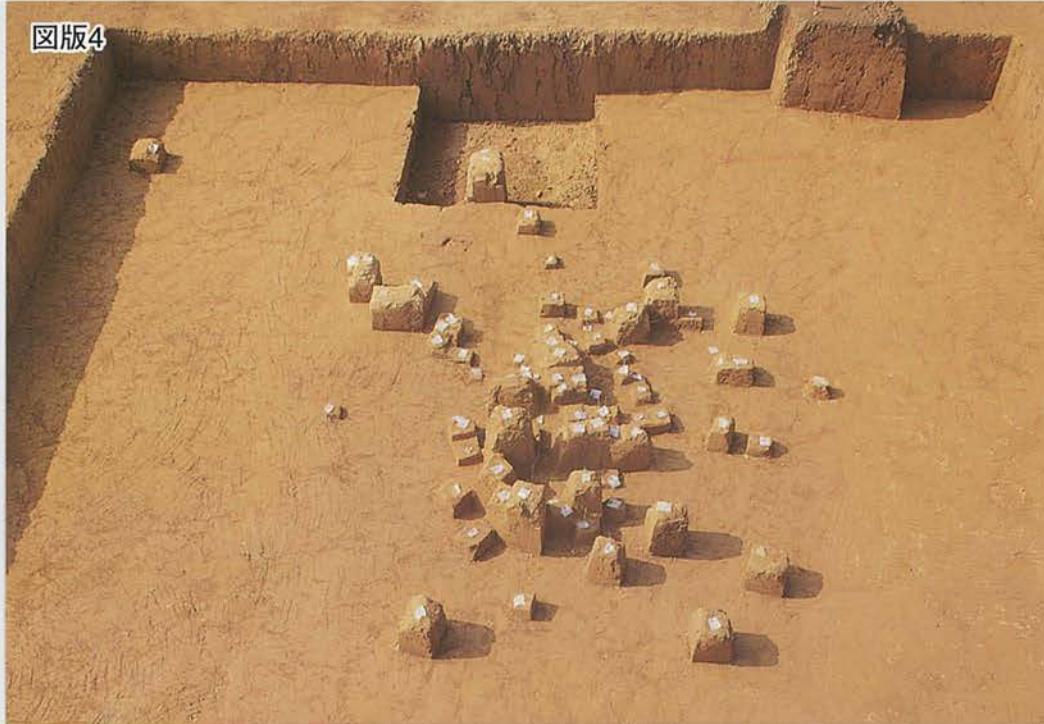


第2ブロック

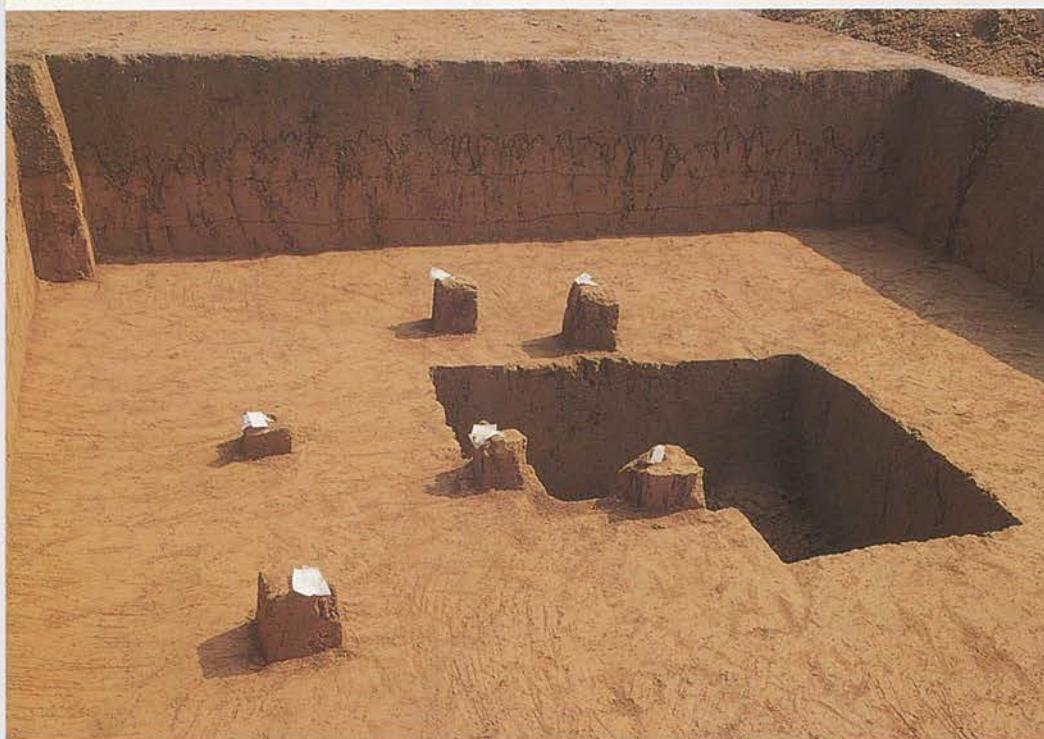


第3ブロック

図版4

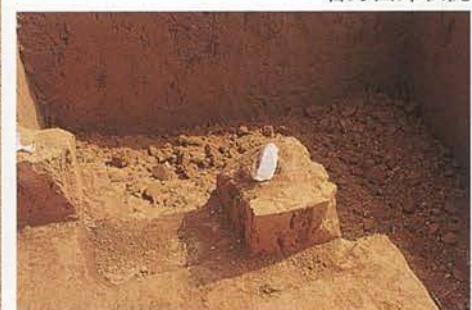


第4ブロック



第5ブロック

石刃出片状況



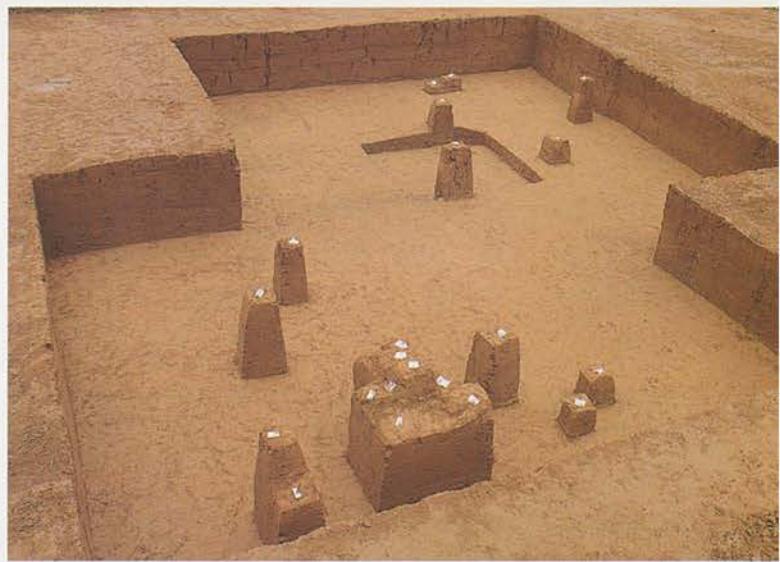
第6ブロック

第7ブロック





第8ブロック



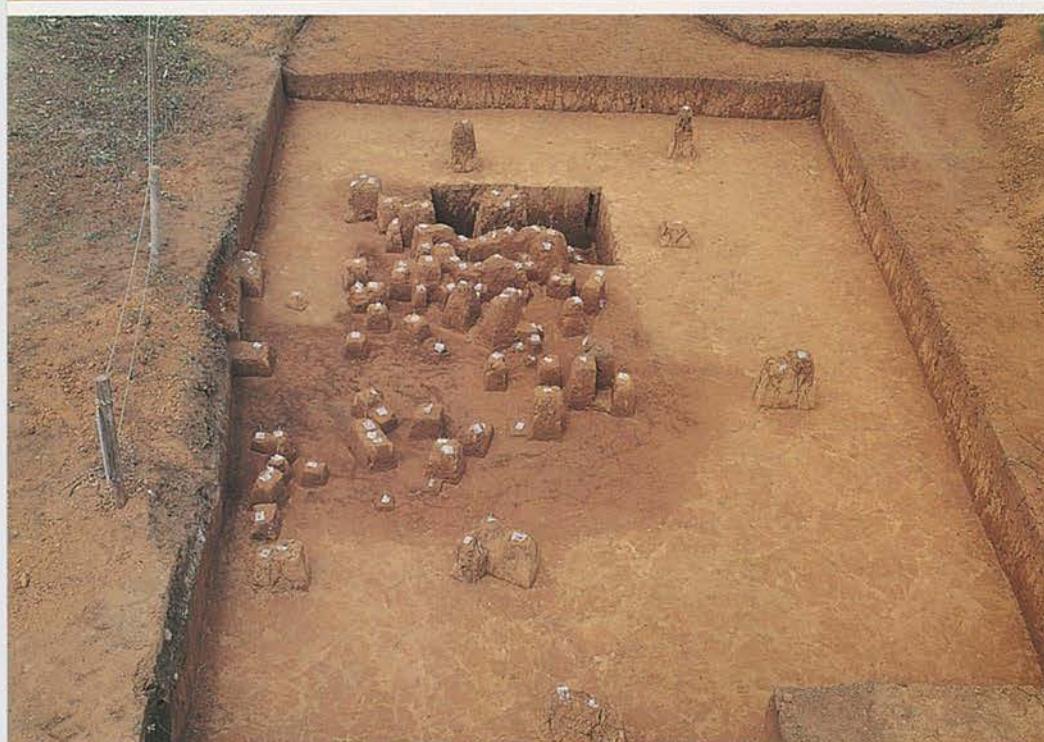
第9ブロック



第10ブロック



第11ブロック



第12ブロック



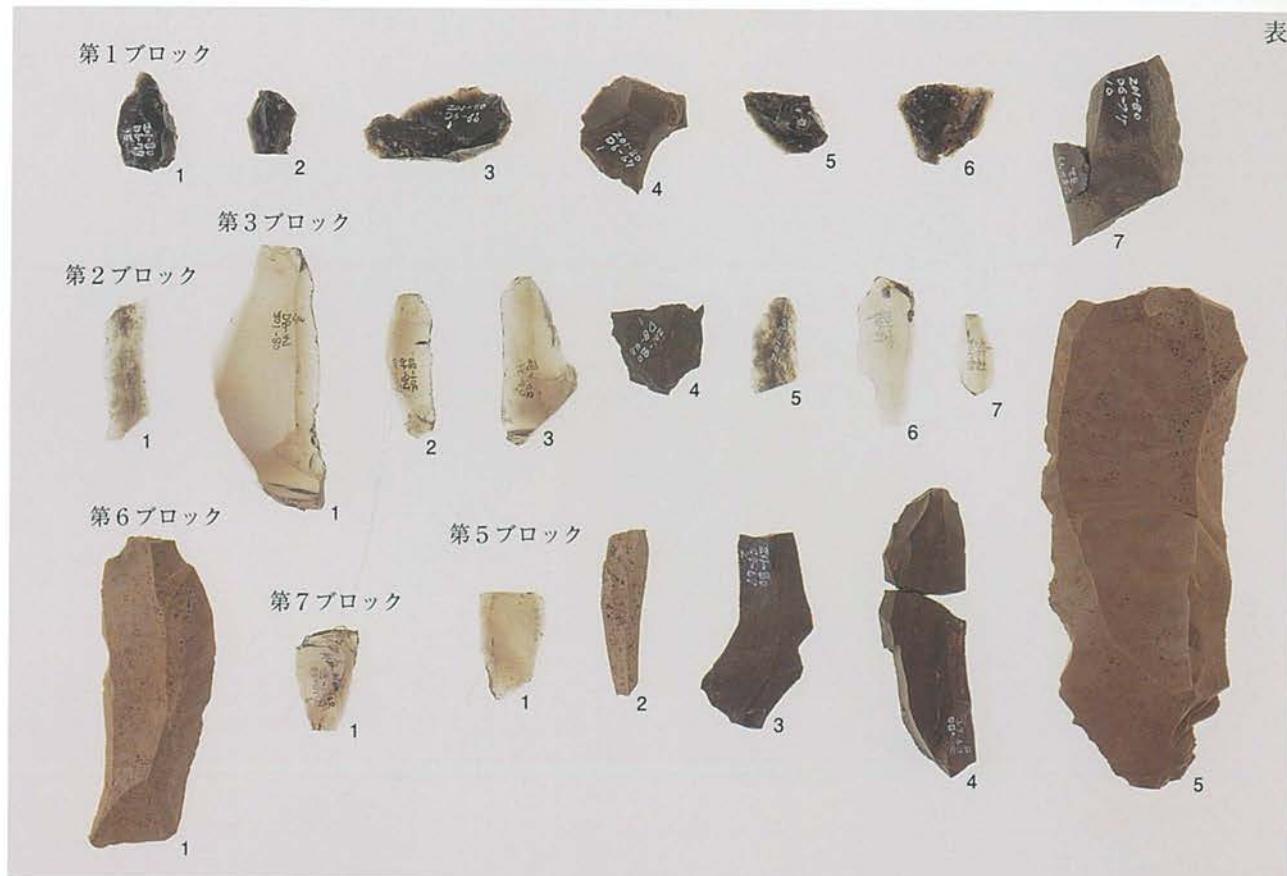
第13ブロック



第19ブロック



第21ブロック



第1～3、5～7ブロック出土石器



第4ブロック出土石器（1）

表



第4ブロック出土石器（2）



第4ブロック出土石器（3）



第8ブロック出土石器（1）



第8ブロック出土石器（2）

表



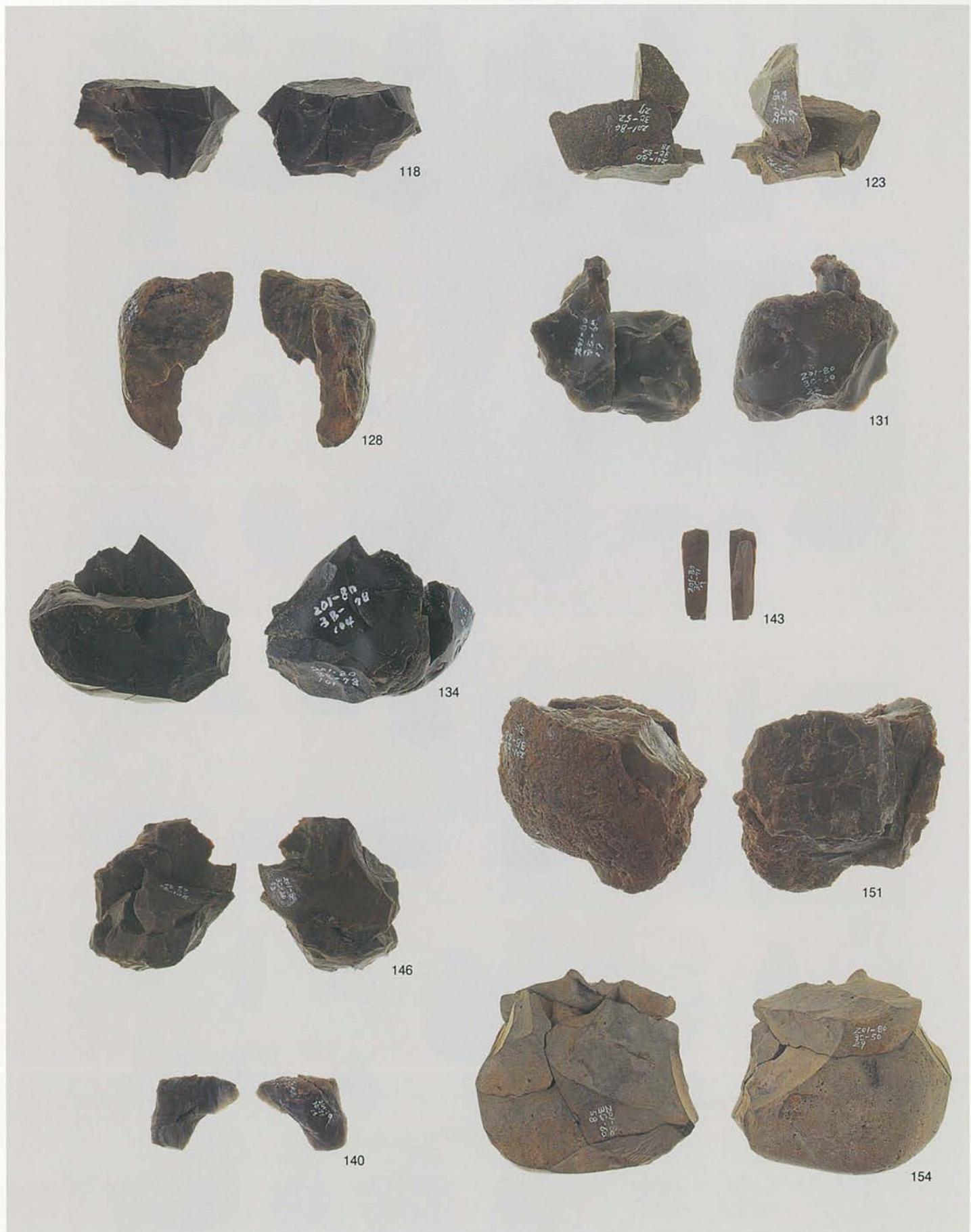
第8ブロック出土石器（3）



第8ブロック出土石器（4）



第8ブロック出土石器（5）



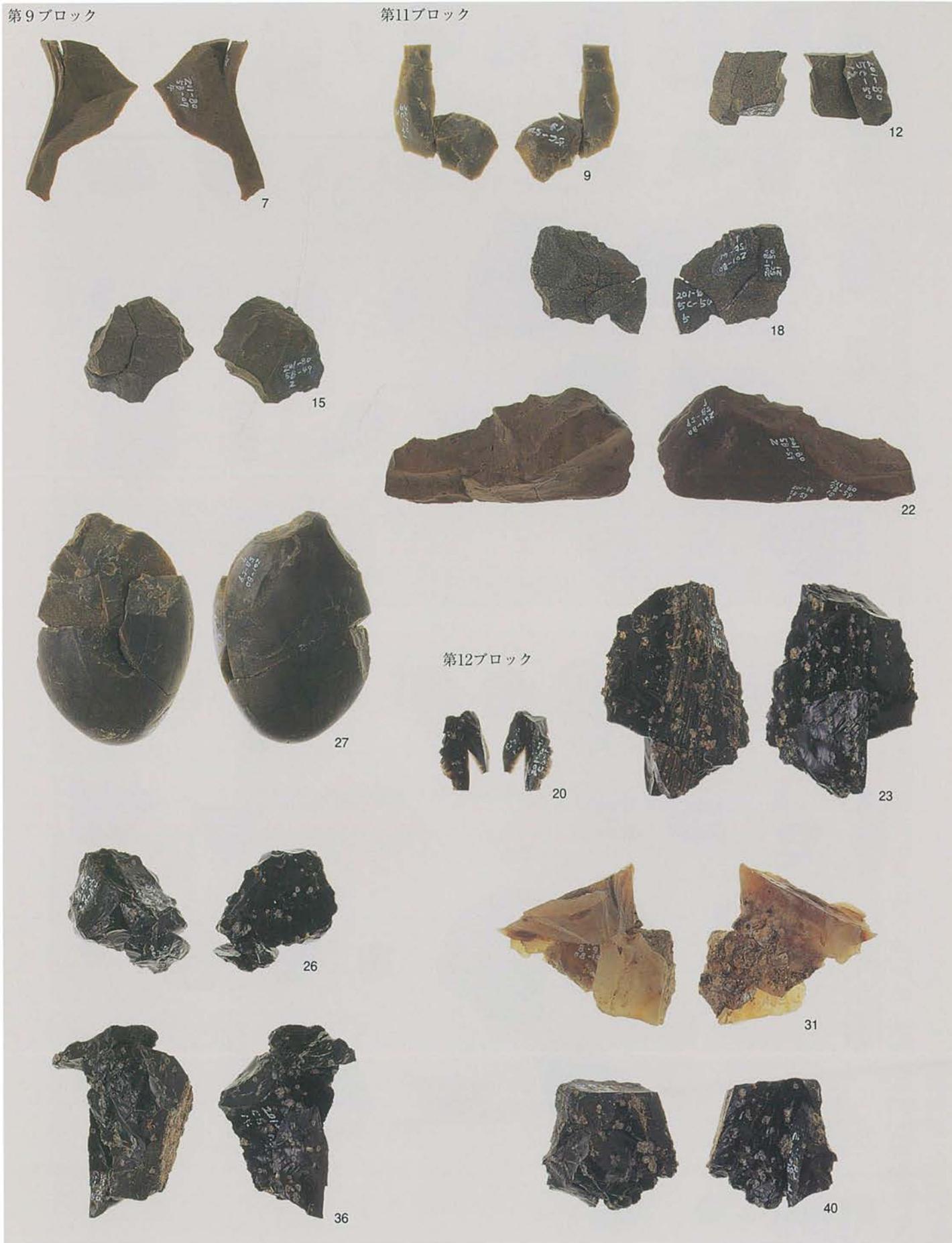
第8ブロック出土石器（6）



第9～11ブロック出土石器

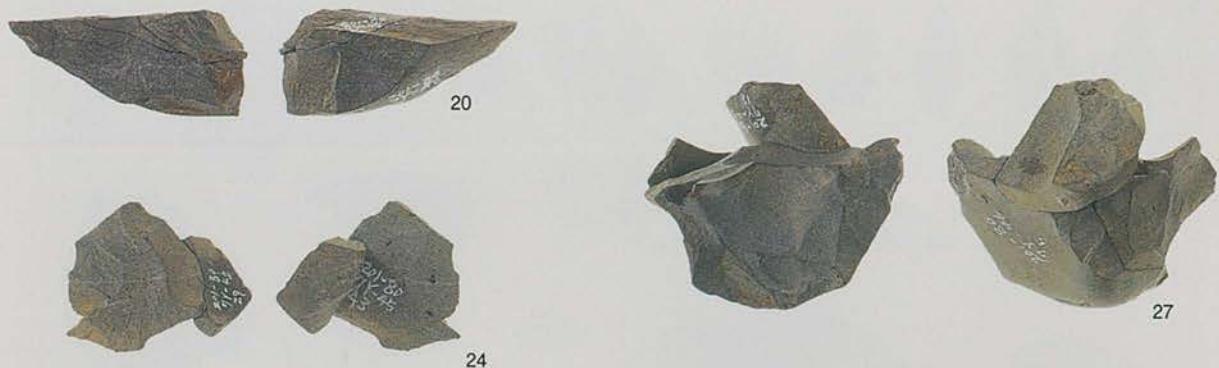


第12、13ブロック出土石器



第9、11、12ブロック出土石器

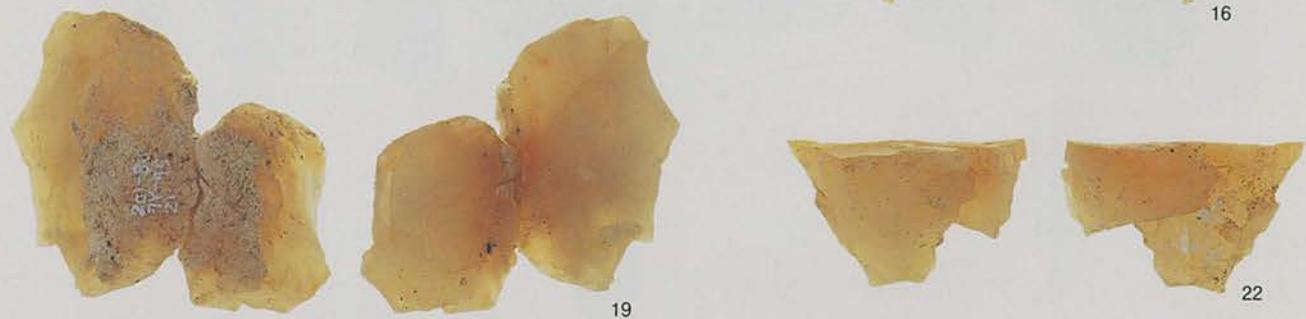
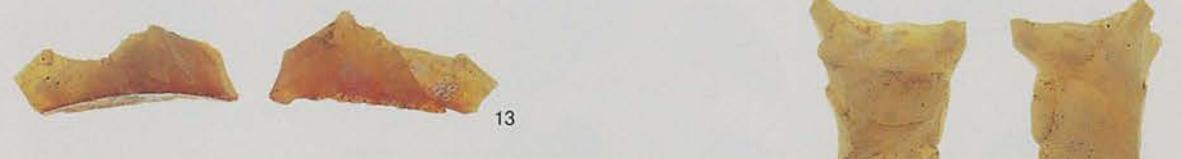
第14ブロック



第15ブロック



第16ブロック



第14～16ブロック出土石器（1）



第14～16ブロック出土石器（2）

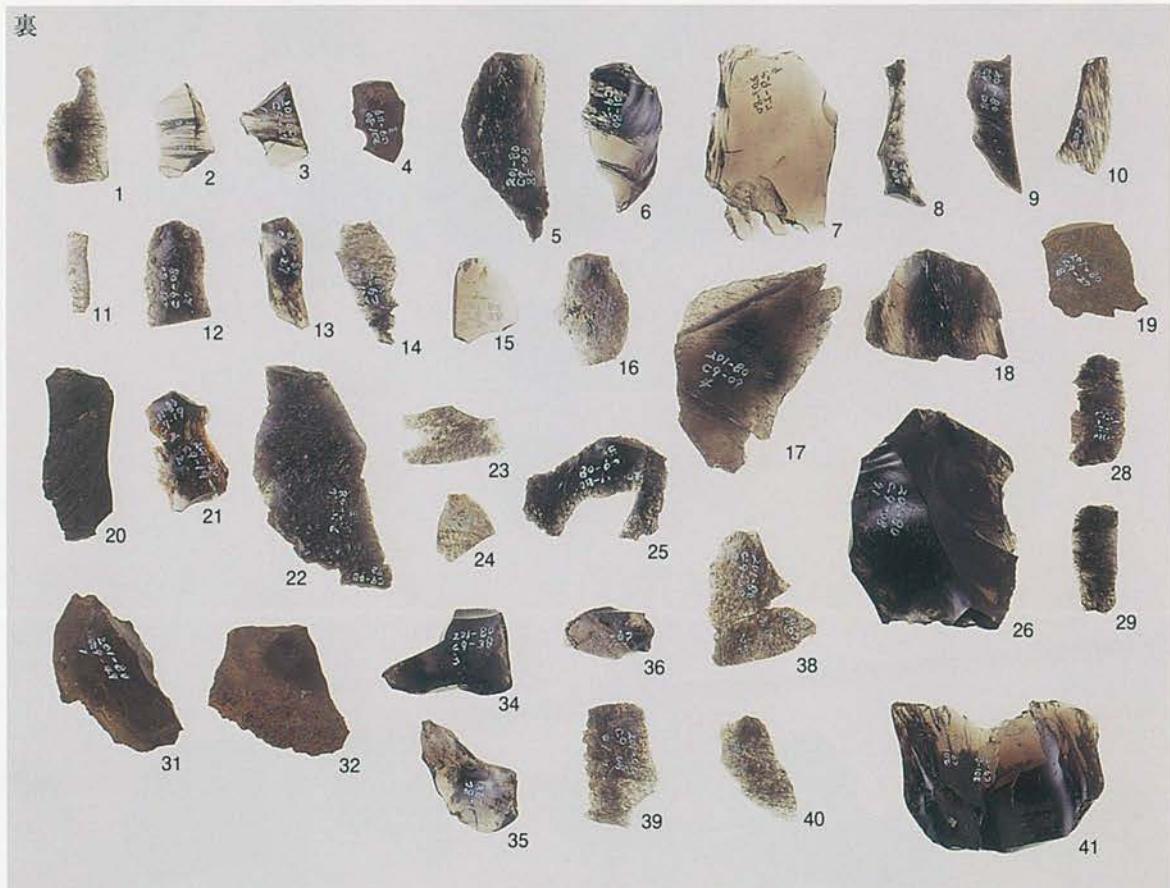


第14～16ブロック出土石器（3）

表

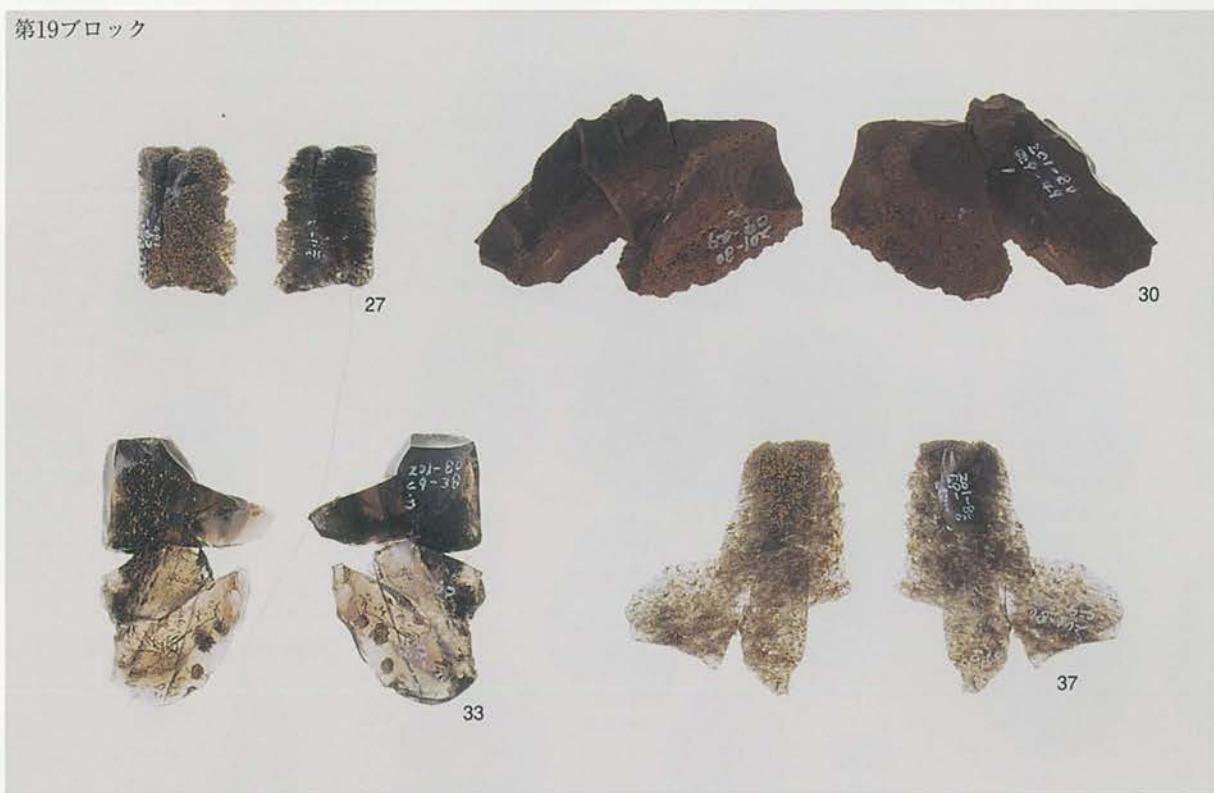


裏



第19ブロック出土石器

第19ブロック

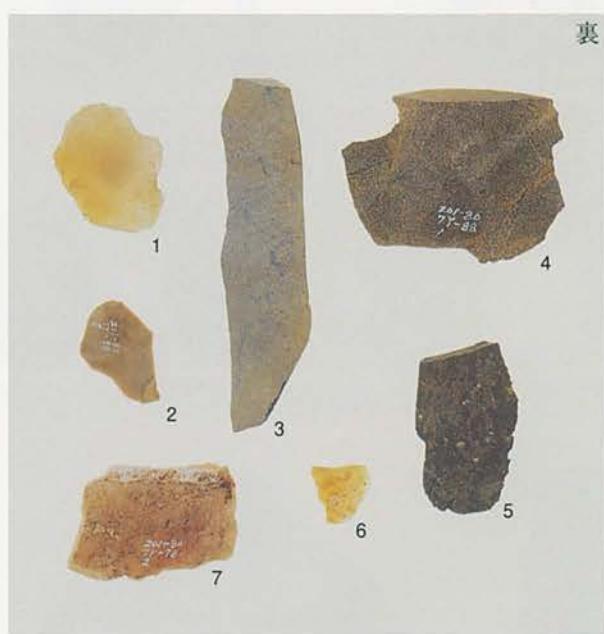


第17ブロック

表



裏



第20ブロック

表

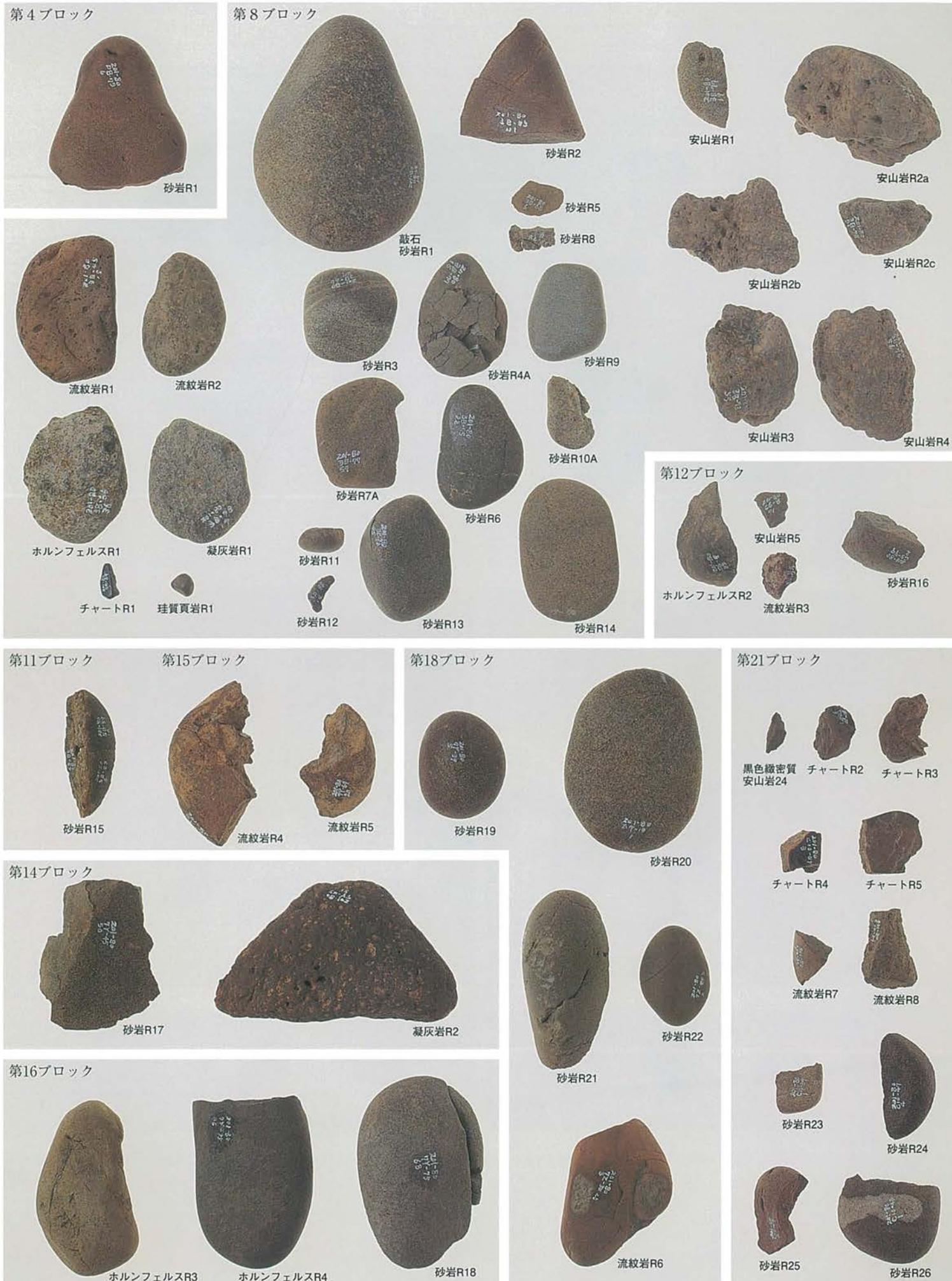


裏



第17、19、20ブロック出土石器

図版26



報告書抄録

ふりがな	ちばとうなんぶにゅーたうん
書名	千葉東南部ニュータウン
副書名	千葉市太田法師遺跡1(旧石器時代)
卷次	39
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第600集
編著者名	岡田誠造
編集機関	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL 043-424-4848
発行年月日	西暦2008年3月25日

所収遺跡名	所 在 地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
太田法師遺跡	千葉県千葉市 緑区おゆみ野 南6丁目12番 地ほか	12201	080	35度 32分 20秒	140度 11分 14秒	19881205～ 19890331 19890401～ 19900330 19900402～ 19900912	37,000m ²	千葉東南部地区土地区画整理事業に伴う 発掘調査

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
太田法師遺跡	包蔵地	旧石器時代	21ブロック	ナイフ形石器 二次加工剥片 削器 楔形石器 石核 石刃 剥片 碓	Ⅲ層からⅦ層にかけて21ブロック、計2,048点の石器類が出土した。これらの石器類は3つの文化層に区分できる。

要 約	遺跡は、千葉市と市原市の境を流れ、東京湾に流入する村田川の下流域右岸に位置する。出土層位から文化層を3枚として捉えた。第1文化層は、立川ローム層第2黒色帶上半部のⅦ層からAT(始良丹沢火山灰)を含むⅥ層に相当し、7つのブロックが検出された。石器はナイフ形石器と楔形石器が出土した。第1文化層の石材は第6ブロックを除く各ブロックに黒曜石が含まれるが、各ブロック間の石材の組成には偏りが認められた。第2文化層は立川ローム層Ⅳ層～V層を主体とする層で、立川ローム層第1黒色帶に相当し、13のブロックが検出された。本文化層がブロック数、石器出土数からみて本遺跡の主体をなす文化層である。石器はナイフ形石器が点数的には多く出土した。石材的には黒曜石、硬質頁岩、珪質頁岩、安山岩、チャート、凝灰岩、ホルンフェルス、嶺岡頁岩、玉隨、砂岩、流紋岩などが含まれ、第1文化層と比較して石材の種類が豊富となる。第3文化層は立川ローム層Ⅲ層に相当する。立川ローム層最上層のソフトローム層からの出土で、第3文化層は1ブロックのみの検出である。
-----	--

千葉県教育振興財団調査報告第600集

千葉東南部ニュータウン39

—千葉市太田法師遺跡1(旧石器時代)一

平成20年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県教育振興財団
文化財センター

発 行 独立行政法人都市再生機構千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1-3

財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 株式会社 正文社
千葉市中央区都町1-10-6
